

インテリジェントパーク整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

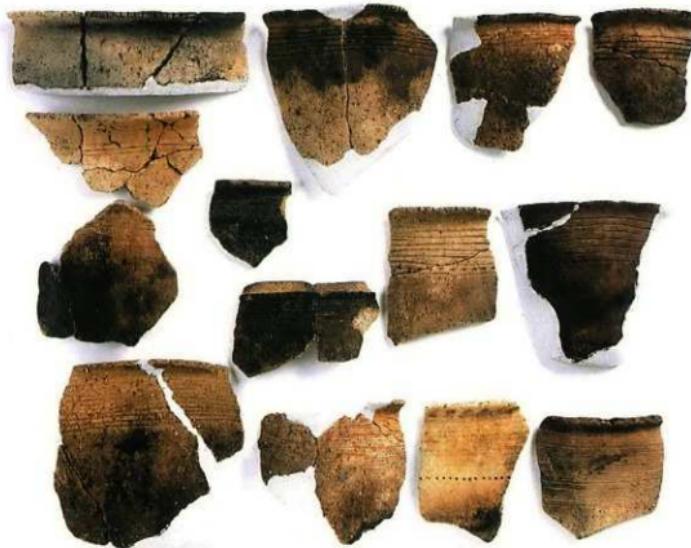
## 空港跡地遺跡 (K地区)

2003年10月

香川県教育委員会  
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター  
香川県土地開発公社



SRk01（下層）出土遺物



SRk01（下層）出土遺物（甕）



SDk03 出土遺物



SKk11 出土遺物

## 序 文

平成元年12月の新高松空港の開港に伴って高松市林町の高松空港跡地は再開発が実施され、研究情報機能および文化機能を有する技術・情報・文化の複合拠点となる香川インテリジェントパークとして生まれ変わりました。

高松空港跡地の整備事業に伴い、当センターでは平成2年度より香川県教育委員会から委託を受け、用地内の埋蔵文化財の発掘調査を実施いたしました。また、これと並行して平成6年度から出土文化財の整理業務を行い、その成果につきましては、平成8年度から発掘調査報告書として順次刊行いたしております。

このたび、「インテリジェントパーク整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 空港跡地遺跡（K地区）」として刊行いたしますのは、空港跡地遺跡の西半部で、香川大学工学部建設予定地の調査についてであります。この地域は奈良時代の絵図である重要文化財『弘福寺領讃岐国山田郡田園』の比定地の一部とされていますが、発掘調査では弥生時代前期後半～中期初頭の土器が多く出土した自然河川を始め、弥生時代後期後半の周溝墓などの注目される遺構を検出しました。

本報告書が本県の歴史研究の資料として広く活用されますとともに、埋蔵文化財に対する理解と关心をいっそう深める一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から出土文化財の整理・報告にいたるまでの間、土地所有者である香川県土地開発公社、委託者である香川県教育委員会、その他関係機関および地元関係各位には多大なご協力とご指導をいただきました。ここに深く感謝の意を表しますとともに、今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。

平成15年10月

財團法人香川県埋蔵文化財調査センター

所長 中村 仁

## 例　　言

1. 本報告書は、インテリジェントパーク整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書であり、香川県高松市林町に所在する空港跡地遺跡（くうこうあとちいせき）K地区の報告を収録した。
2. 発掘調査は、香川県教育委員会が香川県土地開発公社から委託され、香川県教育委員会が調査主体、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが調査担当者として実施した。
3. 発掘調査は、予備調査を平成2年4月から同年9月まで実施し、本調査を平成2年12月から平成9年11月まで実施した。本報告書に収録したK地区については、平成8年10月～平成9年11月まで調査を実施した。
4. 調査に当たっては下記の関係諸機関の協力を得た。記して謝意を表したい。(順不同、敬称略)  
プロジェクト推進室、林地区開発協議会、地元各自治会、地元各水利組合
5. 報告書の作成は、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが実施した。本報告書の編集は同センター文化財専門員山元素子が担当した。
6. 本報告書で用いる方位は国土座標系第IV系の北であり、挿図中の北は国土座標第IV系の北を指す。標高は東京湾平均海面（T.P.）を基準としている。
7. 遺構の略号は以下のとおりである。  
SD 溝 SK 土坑 SR 自然河川 ST 墳墓 SX 性格不明遺構
8. 挿図中の石器の図面のうち、網目のスクリーントーンは磨滅痕、矢印は潰れ・蔽打痕、黒塗りは新しい折損を示す。
9. 観察表の土器の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖1989年版』に従った。
10. 挿図の一部に国土交通省国土地理院1/25,000地形図「高松南部」を使用した。

## 本文目次

第1章 調査の経緯と経過	
1. 発掘調査に至る経緯と経過.....	1
2. 整理作業の経過.....	5
第2章 立地と環境.....	8
第3章 調査の成果	
第1節 調査の概要と各調査区の概要.....	12
第2節 土層序.....	17
第3節 遺構・遺物について	
1. 弥生時代前期～中期の遺構・遺物.....	29
2. 弥生時代後期～古墳時代初頭の遺構・遺物.....	30
3. 古代の遺構・遺物.....	49
4. 中世の遺構・遺物.....	53
5. 自然河川の遺構・遺物.....	64
6. 近世以降の遺構・遺物 .....	117
7. 包含層、その他の遺物 .....	123
第4章 自然科学調査の成果 .....	129
第5章 まとめ .....	134

## 挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図 (1/50,000) .....	1	第31図 SDk05平・断面図 (1/40) .....	41
第2図 調査区割り図 (1/8,000) .....	2	第32図 SDk05遺物出土状況 (1/20)、 STa05・SDa44平面図 (1/100) .....	42
第3図 報告書地区割 (1/4,000) .....	3, 4	第33図 SDk05出土遺物 (1/4) (1/2) .....	43
第4図 周辺の主な遺跡 (1) (1/10,000) .....	9, 10	第34図 SKk07平・断面図・出土遺物 (1/40) (1/4) .....	44
第5図 周辺の主な遺跡 (2) (1/4,000) .....	11	第35図 SDk06平・断面図 (1/40) .....	45, 46
第6図 主要遺構配置図 (1/1,000) .....	13, 14	第36図 SDk06出土遺物 (1/4) (1/2) .....	47
第7図 土層位置図 (1/1,000) .....	16	第37図 SDk04・13・SDa23平面図 (1/200) .....	48
第8図 調査区中央部南北土層図 (I-23~27)① (1/80) .....	18	第38図 SDk04断面図 (1/40) .....	49
第9図 調査区中央部南北土層図 (I-23~27)② (1/80) .....	19	第39図 SDk11断面図・出土遺物 (1/40) (1/4) .....	49
第10図 調査区北壁土層図 (I-25~27) ① (1/80) .....	20	第40図 SDk12断面図 (1/40) .....	51
第11図 調査区北壁土層図 (I-25~27) ② (1/80) .....	21	第41図 SDk12出土遺物① (1/4) .....	52
第12図 調査区中央部東西土層図 (I-25~26) (1/80) .....	22	第42図 SDk12出土遺物② (1/4) (1/2) .....	53
第13図 調査区南壁土層図 (I-23~28) ① (1/80) .....	24	第43図 SDk13断面図・出土遺物 (1/40) (1/4) .....	54
第14図 調査区南壁土層図 (I-23~28) ② (1/80) .....	25	第44図 SDk14~18断面図・出土遺物 (1/40) (1/4) .....	54
第15図 調査区東壁土層図 (I-26) (1/80) .....	26	第45図 SKk11平・断面図 (1/20) .....	56
第16図 調査区東壁土層図 (I-28) (1/80) .....	27	第46図 SKk11出土遺物① (1/4) .....	57
第17図 I-24区 トレーン1~3土層図 (1/80) .....	28	第47図 SKk11出土遺物② (1/4) (1/2) (1/3) .....	58
第18図 SKk04平・断面図 (1/20) .....	29	第48図 SKk12平・断面図・出土遺物 (1/40) (1/4) .....	59
第19図 SKk05平・断面図・出土遺物① (1/20) (1/4) .....	30	第49図 SXk11断面図・出土遺物 (1/40) (1/4) (1/2) .....	59
第20図 SKk05出土遺物② (1/3) .....	31	第50図 SXk12平・断面図・出土遺物 (1/40) (1/4) .....	60
第21図 SKk06平・断面図・出土遺物 (1/20) (1/4) .....	32	第51図 SDk19・20断面図 (1/40) .....	61
第22図 SKk01平・断面図・出土遺物 (1/40) (1/4) .....	33	第52図 SDk21断面図・出土遺物 (1/40) (1/4) .....	62
第23図 SKk02平・断面図・出土遺物 (1/40) (1/4) .....	33	第53図 SDk22断面図・出土遺物 (1/40) (1/4) .....	63
第24図 SDk01断面図 (1/40) .....	34	第54図 SDk23断面図・出土遺物 (1/40) (1/4) .....	64
第25図 SDk01出土遺物 (1/4) .....	34	第55図 SRk01断面図 (1/40) .....	65, 66
第26図 SDk02断面図 (1/40) .....	34	第56図 SRk01上層出土遺物① (1/4) .....	67
第27図 SDk03・周溝墓平・断面図 (1/40) .....	35	第57図 SRk01上層出土遺物② (1/4) .....	68
第28図 SDk03・周溝墓遺物出土状況 (1/20) .....	36	第58図 SRk01上層出土遺物③ (1/4) (1/2) .....	70
第29図 SDk03・周溝墓出土遺物① (1/4) .....	37	第59図 SRk01下層 (I-25) 出土遺物① (1/4) .....	71
第30図 SDk03・STk01・周溝墓出土遺物② (1/4)、 STk01・02平面図 (1/100) .....	38	第60図 SRk01下層 (I-25) 出土遺物② (1/4) .....	72
		第61図 SRk01下層 (I-25) 出土遺物③ (1/4) .....	73
		第62図 SRk01下層 (I-25) 出土遺物④ (1/4) .....	75
		第63図 SRk01下層 (I-25) 出土遺物⑤ (1/4) .....	76
		第64図 SRk01下層 (I-25) 出土遺物⑥ (1/4) .....	77
		第65図 SRk01下層 (I-25) 出土遺物⑦ (1/4) .....	78
		第66図 SRk01下層 (I-25) 出土遺物⑧ (1/4) .....	79
		第67図 SRk01下層 (I-25) 出土遺物⑨ (1/2) .....	80

第68図	SRk01下層（I-25）出土遺物①（1/2）	81
第69図	SRk01下層（I-27）出土遺物①（1/4）	82
第70図	SRk01下層（I-27）出土遺物②（1/4）	83
第71図	SRk01下層（I-27）出土遺物③（1/4）	84
第72図	SRk01下層（I-27）出土遺物④（1/4）	85
第73図	SRk01下層（I-27）出土遺物⑤（1/4） ・（1/2）	86
第74図	SRk01下層（I-26）出土遺物①（1/4）	88
第75図	SRk01下層（I-26）出土遺物②（1/4）	89
第76図	SRk01下層（I-26）出土遺物③（1/4）	90
第77図	SRk01下層（I-26）出土遺物④（1/4）	91
第78図	SRk01下層（I-26）出土遺物⑤（1/4）	92
第79図	SRk01下層（I-26）出土遺物⑥（1/4） ・（1/2）	93
第80図	SRk01その他（I-25）出土遺物①（1/4）	95
第81図	SRk01その他（I-25）出土遺物②（1/4）	96
第82図	SRk01その他（I-25）出土遺物③（1/4）	97
第83図	SRk01その他（I-25）出土遺物④（1/2）	98
第84図	SRk01その他（I-27）出土遺物（1/4） ・（1/2）	99
第85図	SRk01その他（I-26）出土遺物（1/4）	100
第86図	SRk02・03断面図①（1/40）	101. 102
第87図	SRk02・03断面図（I-26東壁部分）② （1/40）	103. 104
第88図	SRk02出土遺物（1/4）	105
第89図	SRk03上層出土遺物（1/4）	106
第90図	SRk03中層出土遺物①（1/4）	108
第91図	SRk03中層出土遺物②（1/4）・（1/2）	109
第92図	SRk03下層（I-23）出土遺物①（1/4）	110
第93図	SRk03下層（I-23）出土遺物②（1/4）	111
第94図	SRk03下層（I-23）出土遺物③（1/4） ・（1/2）	112
第95図	SRk03下層（I-26）出土遺物①（1/4）	114
第96図	SRk03下層（I-26）出土遺物②（1/4） ・（1/2）	115
第97図	SRk03下層（I-28）出土遺物（1/4） ・（1/2）	116
第98図	SRk03その他（I-23・26・28）出土遺物 （1/4）・（1/2）	117
第99図	池台池堤防断面図（I-25南壁部分） （1/80）	118
第100図	池台池堤防断面図（I-27北壁部分） （1/40）	119. 120
第101図	暗渠模式図・底ユル平面図（1/50）	121
第102図	トレンチ2（I-24）出土遺物（1/4） ・（1/2）	122
第103図	旧水路（I-27）出土遺物（1/4）	123
第104図	包含層出土遺物①（1/4）・（1/2）	124
第105図	包含層出土遺物②（1/4）・（1/2）	125
第106図	包含層その他出土遺物①（1/4）	127
第107図	包含層その他出土遺物③（1/4）	128
第108図	空港跡地遺跡K地区周辺弥生時代 前期～中期初頭遺構配置図（1/4,000）	134
第109図	遺構変遷図①②（1/1,600）	135. 136
第110図	遺構変遷図③④（1/1,600）	137. 138
第111図	遺構変遷図⑤⑥（1/1,600）	139. 140
第112図	A地区・K地区周溝墓群平面図（1/500）	145
第113図	弘福寺領田園南地区比定地位置図 (1/5,000)	147
第114図	SKk11出土器法量分布	148

## 図版目次

- 図版1 I-23航測写真（上が北）  
図版2 I-25・27航測写真（左が北）  
図版3 I-26航測写真（上が北）  
図版4 I-28航測写真（上が北）  
図版5 I-23全景（北から）  
I-25全景（北から）  
図版6 I-26北部全景（東から）  
I-26南部全景（南から）  
図版7 I-27全景（西から）  
I-28全景（東から）  
図版8 I-26SKk04遺物出土状況（西から）  
I-26SKk05遺物出土状況（北東から）  
I-28SKk06土層断面（北西から）  
I-28SKk06遺物出土状況（北西から）  
I-23SKk01土層断面（西から）  
I-23SKk01遺物出土状況（西から）  
I-23SKk02土層断面（西から）  
I-23SDk04遺物出土状況（北から）  
図版9 I-23SDk03遺物出土状況（東から）  
I-23SDk03完掘（東から）  
図版10 I-23SDk03遺物出土状況（南から）  
I-28SKk07炭出土状況（南から）  
I-28SDk05遺物出土状況（南から）  
I-28SDk05土層断面（南から）  
I-28SDk06石出土状況（東から）  
図版11 I-28SDk06完掘（東から）  
I-28SDk06土層断面（西から）  
I-28SDk06土層断面（東から）  
I-24SDk13完掘（北から）  
I-24SDk13土層断面（西から）  
図版12 I-28SDk12土層断面（東から）  
I-28SDk12土層断面（東から）  
I-28SDk12土層断面（西から）  
I-27SKk11土層断面（南から）  
I-27SKk11石出土状況（西から）  
図版13 I-27SXk12石出土状況（北から）  
I-26SRk01（上層）遺物出土状況（東から）  
I-26SRk01（上層）遺物出土状況（北から）  
I-26SRk01（下層）遺物出土状況（南から）  
I-27SRk01（下層）遺物出土状況（西から）  
図版14 I-27SRk01（下層）遺物出土状況（南から）  
I-27SRk01（下層）遺物出土状況（東から）  
I-27SRk01（下層）遺物出土状況（南西から）  
I-27SRk01（下層）遺物出土状況（西から）  
I-27SRk01（下層）遺物出土状況（南西から）  
I-27SRk01（下層）遺物出土状況（南西から）  
I-28SRk03（下層）遺物出土状況（西から）  
I-26SRk03（下層）遺物出土状況（西から）  
図版15 I-25SRk01アゼa土層断面（東から）  
図版16 I-25SRk02アゼa土層断面（東から）  
図版17 I-26SRk01土層断面（南から）  
I-23東壁土層断面（西から）  
図版18 I-23SRk03土層断面（東から）  
I-25木柵（東から）  
I-25木柵（北西から）  
I-25木柵（東から）  
I-25木柵（北から）  
図版19 SKk05出土遺物  
SKk06出土遺物  
図版20 SKk01・02出土遺物  
図版21 SDk01出土遺物  
SDk03出土遺物①  
図版22 SDk03出土遺物②  
図版23 SDk03・05・06・SKk07出土遺物  
図版24 SDk06・11・12出土遺物  
図版25 SDk12出土遺物①  
図版26 SDk12出土遺物②  
図版27 SDk13・14・16出土遺物  
SKk11出土遺物①  
図版28 SKk11出土遺物②  
図版29 SKk11出土遺物③  
SXk11出土遺物①  
図版30 SXk11出土遺物②  
SXk12出土遺物  
SDK21出土遺物①  
図版31 SDK21出土遺物②

SRk01（上層）出土遺物①	図版50 SRk01その他（I-26）出土遺物
図版32 SRk01（上層）出土遺物②	SRk01その他（I-27）出土遺物
図版33 SRk01（上層）出土遺物③	図版51 SRk02出土遺物
図版34 SRk01（上層）出土遺物④	SRk03（上層）出土遺物①
SRk01（下層）（I-25）出土遺物①	図版52 SRk03（上層）出土遺物②
図版35 SRk01下層（I-25）出土遺物②	SRk03（中層）出土遺物
図版36 SRk01下層（I-25）出土遺物③	図版53 SRk03下層（I-23）出土遺物①
図版37 SRk01下層（I-25）出土遺物④	図版54 SRk03下層（I-23）出土遺物②
図版38 SRk01下層（I-25）出土遺物⑤	図版55 SRk03下層（I-23）出土遺物③
図版39 SRk01下層（I-25）出土遺物⑥	SRk03下層（I-26）出土遺物
図版40 SRk01下層（I-25）出土遺物⑦	図版56 SRk03下層（I-28）出土遺物
SRk01下層（I-27）出土遺物①	SRk03（その他）出土遺物
図版41 SRk01下層（I-27）出土遺物②	図版57 トレンチ2（I-24）出土遺物
図版42 SRk01下層（I-27）出土遺物③	包含層出土遺物①
図版43 SRk01下層（I-27）出土遺物④	図版58 包含層出土遺物②
図版44 SRk01下層（I-27）出土遺物⑤	図版59 包含層その他出土遺物
図版45 SRk01下層（I-26）出土遺物①	図版60 樹種同定の結果（1）
図版46 SRk01下層（I-26）出土遺物②	図版61 樹種同定の結果（2）
図版47 SRk01下層（I-26）出土遺物③	図版62 種実同定の結果（1）
図版48 SRk01その他（I-25）出土遺物①	図版63 種実同定の結果（2）
図版49 SRk01その他（I-25）出土遺物②	図版64 種実同定の結果（3）

## 表 目 次

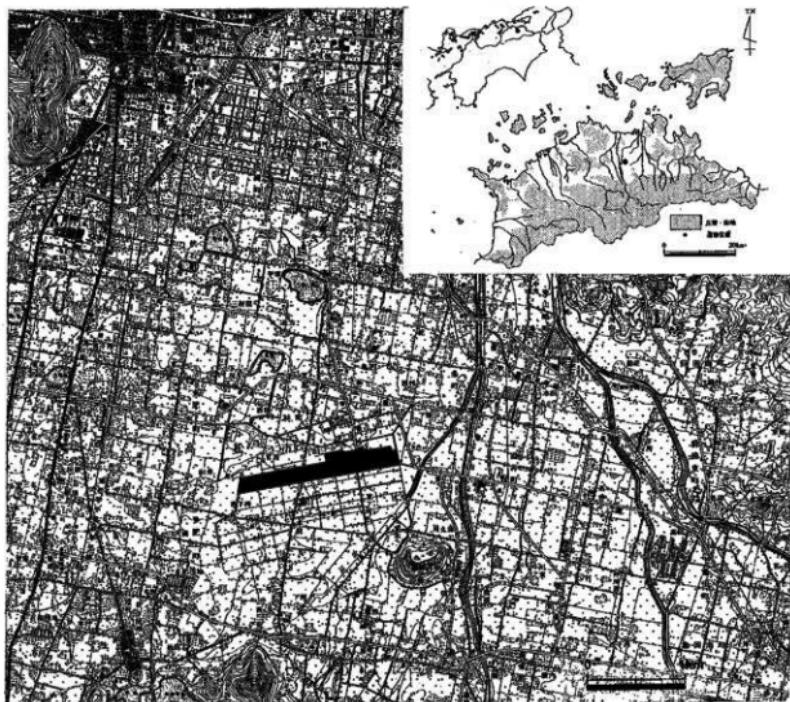
第1表 発掘調査および整理調査の体制	6
第2表 空港跡地遺跡各調査区の概要	7
第3表 K地区各調査区の概要	15
第4表 樹種同定の結果	133
第5表 種実同定の結果	133
第6表 SRk01～03壺文様構成一覧表	141
第7表 SRk01壺文様構成一覧表	142
第8表 SRk02・03壺文様構成一覧表	143
第9表 A地区・K地区周溝墓一覧表	146
第10表 SKk11器種一覧表	148

# 第1章 調査の経緯と経過

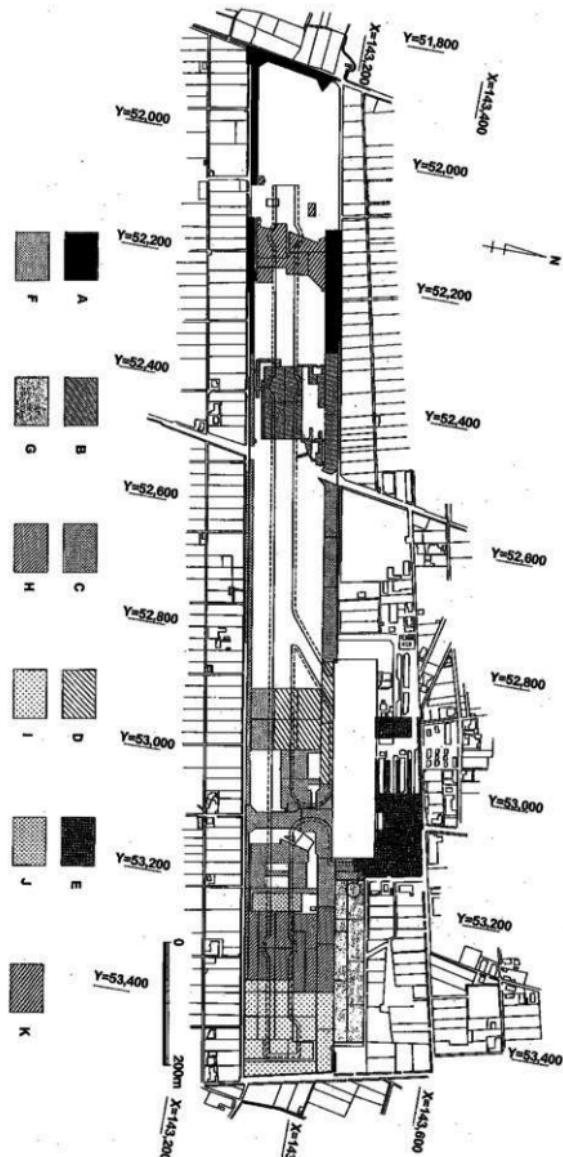
## 1. 発掘調査に至る経緯と経過

空港跡地遺跡は高松市林町に所在し、高松平野の中央部に位置する。第2次世界大戦の末期、昭和19年に陸軍の軍用飛行場として建設が進められ、戦後その一部が高松空港として供用された。しかし、路線の拡大やジェット化などに対応しきれなくなったため、香川郡香南町に移転することとなり、平成元年12月に新空港が開港した。林町の高松空港の廃止に伴って生じた約32万m<sup>2</sup>の跡地利用について、香川県は空港跡地開発整備事業計画を策定した。香川県教育委員会ではこのような経過を受け、空港跡地の埋蔵文化財の包蔵状況やその取り扱いについて検討を進め、遺跡の所在が確認された範囲については財団法人香川県埋蔵文化財調査センターに発掘調査を委託することとなった。この空港跡地整備事業に伴う発掘調査は平成2年度から平成6年度に実施している。この詳細な経緯・経過については、本報告書シリーズ第1冊に詳述しているため、本報告書では省略する。

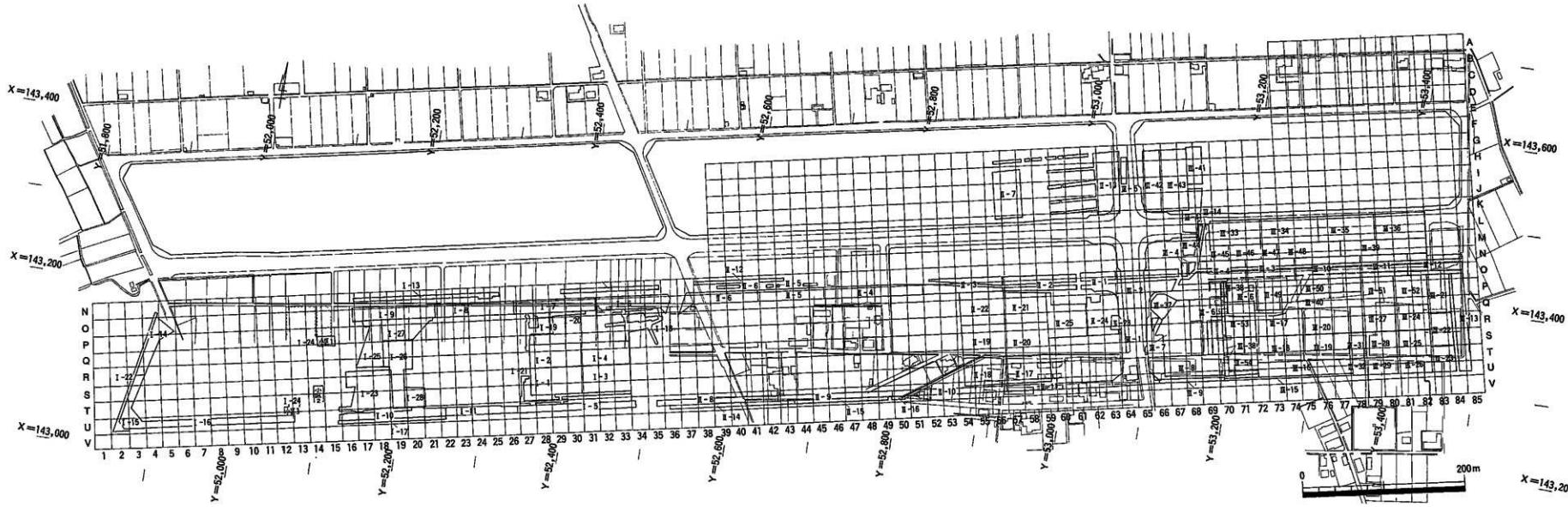
今回報告するインテリジェントパーク整備事業に伴う発掘調査は、その後新たに図書館・文書館の西側に香川大学工学部が新設されることになったため、関係諸機関の協議の結果、平成8・9年度に事前の埋蔵文化財調査を行うことになったものである。以下、本報告書に所収する香川大学工学部建設予定



第1図 遺跡位置図 (1/50,000)



第2図 調査区割り図 (1/8,000)



第3図 報告書地区割 (1/4,000)

地（K地区）の調査（平成8・9年度）の経緯を記す。

#### 平成8年度

平成6年度をもって一段落した空港跡地遺跡の調査であったが、図書館・文書館の西側にあらたに香川大学工学部が新設されるのに伴い事前調査が必要となった。関係諸機関との協議の結果、建物や環境整備施工部分などが確定している範囲のうち、平成8年10月1日～平成9年3月31日まで5,700m<sup>2</sup>を対象として発掘調査を実施し、残りは平成9年度に調査を実施することになった。なお、対象地のうち西側一部は空港の造成に伴って埋め立てられた池台池に当たっており、その内部は遺構が破壊されていることが想定されることから、その部分については3ヶ所の小区を設定して遺構の遺存状況を確認し、必要があれば小区を拡張して調査を実施することとした。調査は直営方式で実施した。

#### 平成9年度

平成8年度に引き続き香川大学工学部用地の調査を実施した。期間は平成9年4月1日～11月30日までで、当初は6,000m<sup>2</sup>を調査対象として着手し、最終的には6,500m<sup>2</sup>の発掘調査を行った。調査区はI-25～28までを設定し、池台池の範囲と重なることが想定されるI-25の南・北側をトレンチ調査により、池台池の範囲を確定し、遺構の残存状況の確認を行った。池台池の浚渫により遺構が破壊されていると思われる個所については調査を行わなかった。調査は工事請負方式により実施した。

## 2. 整理作業の経過

空港跡地遺跡の整理作業は平成6年度より開始し、これまでにC地区、J地区、E地区、I地区、F地区、A地区、G地区的報告書が刊行された（地区割は第2図参照）。本報告書に掲載する香川大学工学部建設予定地については、空港跡地遺跡の整理作業の開始より後に発掘調査を行っているため、当初この地区をさす呼称がなかったが、これまでの空港跡地遺跡の呼称に倣ってK地区として報告することとする。

K地区的整理作業は平成14年4月1日から平成15年3月31日まで実施した。発掘調査および整理作業に係わる体制は第1表に示すとおりである。

整理作業に携わった方々は以下のとおりである。

整理員 猪木原美恵子

整理補助員 長谷川郁子、青垣真理

整理作業員 松崎千春、松本恭子、森川理恵、地崎裕子、木崎直子

発掘調査		整理作業			
香川県教育委員会					
平成8年度		平成9年度		平成14年度	
総務	課長	鹿原豊夫 高木一義 北原和利 渡部明夫 山崎隆 星加宏明 岡方秀子 (~5.31) 打越和美 (6.1~)	課長 課長補佐 副主幹 係長 主査 主事 主事 文化財専門員 技術	鶴原良弘 渡部明夫 山崎隆 星加宏明 (~5.31) 松村尚史 (6.1~) 打越和美 木下晴一 塙崎誠司	課長 課長補佐 副主幹 係長 主査 主事 文化財専門員 技師
	課長補佐		課長補佐	北原和利 渡部明夫 山崎隆	課長 主任 副主任幹
	課長補佐		副主幹		主任 副主任幹
	副主幹		係長		副主任幹
	係長		主査		副主任幹
	主査		主事		主任
	主事		文化財専門員		文化財専門員
埋蔵文化財	文化財専門員	木下晴一	木下晴一	文化財専門員	文化財専門員
	技術	塙崎誠司	塙崎誠司	塙崎誠司	佐藤竜馬
	所長	大森忠彦	大森忠彦	所長	小原克己
	次長	小野善範	小野善範	次長	渡部明夫
	係長	前田和也	前田和也	副主幹	野保昌弘
	主査	西村厚二 (~5.31)	西村厚二 (~5.31)	係長	多田敏弘
	主任主事	西川大	西川大	主事	山本和代
調査	主事	佐々木隆 (6.1~)	近藤和史	副主任幹	高木康晴
	参事	佐々木隆	佐々木隆	主任	主任文化財専門員
	主任文化財専門員	廣瀬常雄	大山真充	副主任文化財専門員	眞鍋昌宏
	主任文化財専門員	大山真充	大山真充	文化財専門員	山元泰子
	文化財専門員	宮崎哲治	池田道達	文化財専門員	調査技術員
	主任技師	多田 慎	山元泰子	調査技術員	調査技術員
	調査技術員	森澤千尋	森澤正則		

第1表 発掘調査および整理調査の体制

地区名	面積(m <sup>2</sup> )	主要遺構	主要遺物	報告書
A地区	12,200	弥生時代 墓穴住居、溝、土坑、自然河川 古墳時代 墓穴住居、前方後円形、前方後方形、方形周溝墓 古代 溝、土坑、水田 中世 溝、土坑、水田 近世 溝、土坑	銅劍軸用銅鐵	『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第5冊 空港跡地遺跡V』2002.3
B地区	16,033	弥生時代 墓穴住居、掘立柱建物、溝、土坑 古墳時代 墓穴住居 古代 掘立柱建物、溝、土塁墓 中世 掘立柱建物、溝、土坑、井戸 近世 溝、土坑		未刊
C地区	11,890	弥生時代 墓穴住居、掘立柱建物、溝、土坑 古墳時代 墓穴住居、掘立柱建物、土坑 古代 掘立柱建物、溝、井戸、土坑 中世 掘立柱建物、溝、土坑、井戸、自然河川 近世 掘立柱建物、溝、土坑	二彩陶器	『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第1冊 空港跡地遺跡I』1996.12
D地区	12,567	弥生時代 掘立柱建物、溝 古代 溝 中～近世 掘立柱建物、溝、土坑		未刊
E地区	14,599	弥生時代 掘立柱建物、溝、土坑 古墳時代 溝 中世 掘立柱建物？ 近世 溝、土坑、井戸、出土状遺構	人形土製品	『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第2冊 空港跡地遺跡II』1997.9
F地区	27,836	弥生時代 墓穴住居、掘立柱建物、溝 古代 溝 中世 掘立柱建物、溝、土坑、井戸、出土状遺構 近世 掘立柱建物？、溝、土坑、井戸		『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第4冊 空港跡地遺跡IV』2000.3
G地区	13,280	弥生時代 墓穴住居、溝、粘土探掘土坑群 中世 掘立柱建物、溝、土坑、井戸 近世 溝、土坑		『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第6冊 空港跡地遺跡VI』2003.3
H地区	19,375	弥生時代 墓穴住居、掘立柱建物、溝、土坑、出土状遺構 古代 溝 中世 掘立柱建物、溝 近世 溝、土坑、井戸	鐵形木製品	未刊
I地区	20,205	弥生時代 掘立柱建物、溝、自然河川 中世 掘立柱建物、溝、土坑 近世 掘立柱建物、溝、土坑		『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第3冊 空港跡地遺跡III』1998.10
J地区	2,780	古代 掘立柱建物、溝 中世 掘立柱建物、土坑 近世 掘立柱建物、土坑		『四國工業技術研究所増築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 空港跡地遺跡』1997.3
K地区	12,200	弥生時代 円形周溝墓、溝、土坑、自然河川 古代 溝 中世 溝、土坑 近世 ため池、木棧		本書

第2表 空港跡地遺跡各調査区の概要

## 第2章 立地と環境

空港跡地遺跡の立地と環境については『空港跡地遺跡Ⅰ～VI』に詳しいので、ここでは今回の調査区付近に限定して記述する。

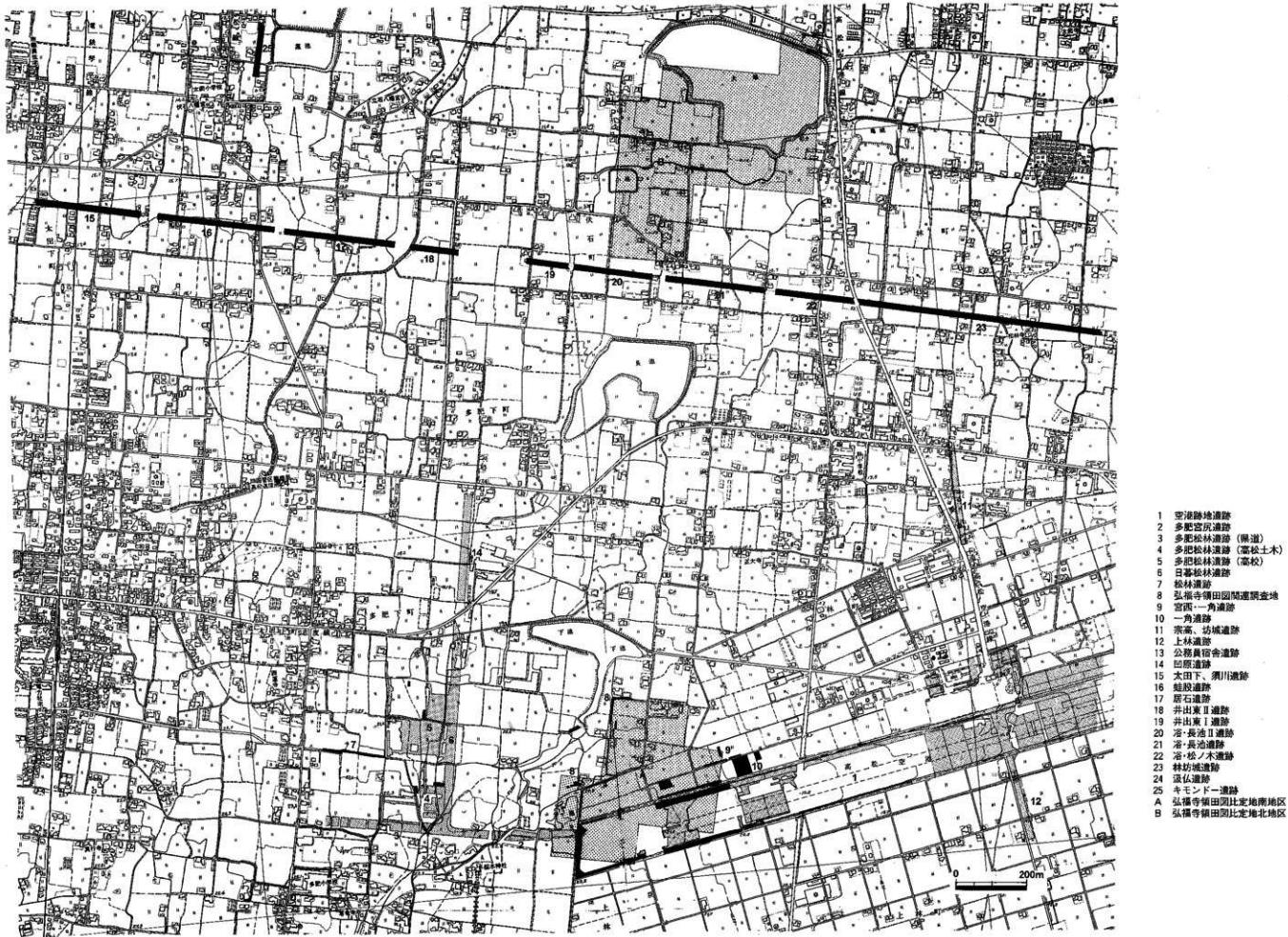
### (1) 地理的環境

今回報告するK地区は空港跡地遺跡の西部に当たり、空港として造成する以前は池台池があった場所を西側に含む。江戸時代に描かれた順道図絵ではおおむね下田～中田が分布する部分であるが、この付近の中田・下田の部分を辿っていけば帯状に旧河道が想定でき、かなり古い時代には旧河道であったことが想定できる。調査区の西側である池台池の西側には池台池・下池・大池と続く明瞭な地割の乱れが見て取れ、旧河道が想定できる。先述の順道図絵に拠ればそれぞれの池の間は下々田や下田が分布し、水はけの悪い土地であった場所と想定できる。K地区の中央部から北部にかけては、前者の古い旧河道上と2条の旧河道の間の微高地上に位置する。K地区の南部は池台池の南東部に相当するが、順道図絵に記載はないものの、明治21年地籍図には池台池の南から西側の堤防が描かれておらず、池のラインも入り組んでいる。のことから、K地区の南部・池台池の南西部は微高地上であったと考えられる。

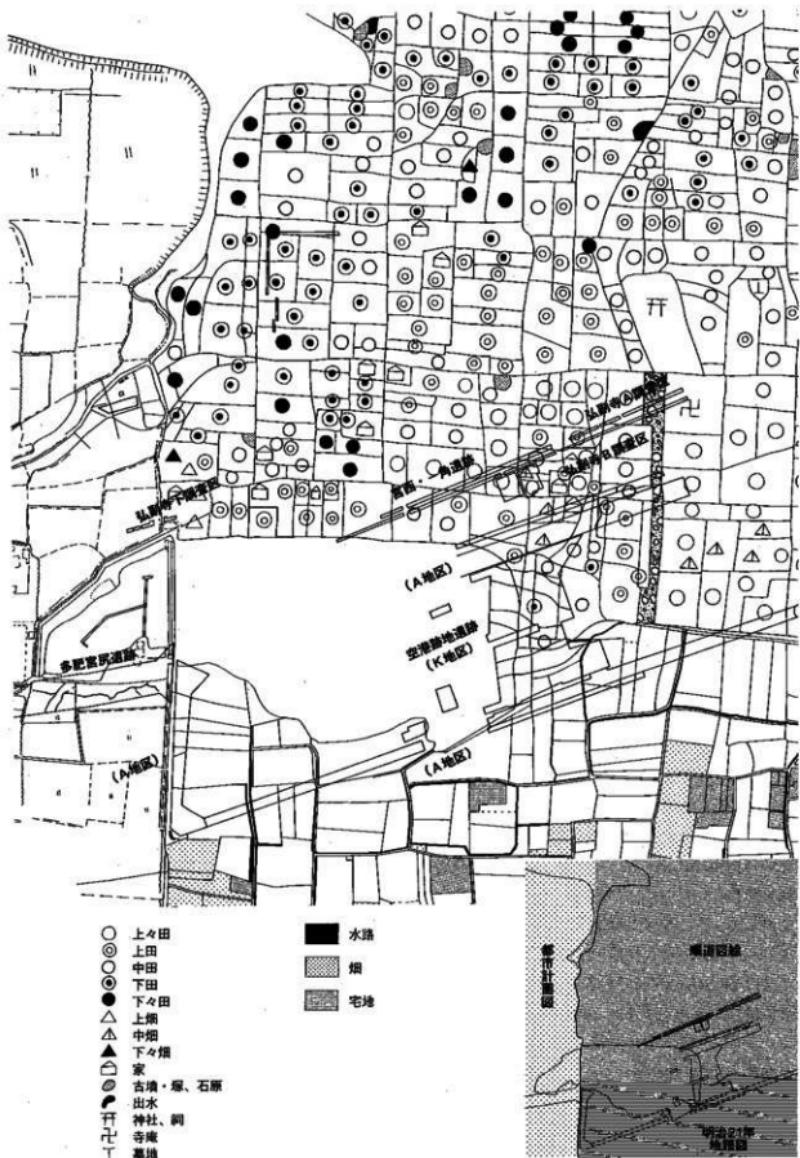
### (2) 歴史的環境

今回の調査区の周辺では、空港跡地遺跡のほかにその北側で弘福寺領田園南地区関連の調査、市道の調査、西側では県道事業や県立桜井高校・高松土木事務所建設に伴う調査（多肥松林遺跡群）などが行われている。

この周辺で遺跡が出現するのは弥生時代前期に入ってからである。汲仏遺跡では弥生時代前期前半～後半にかけての二重環濠と同時期の土坑群を検出し、さらに3km北側に位置する天満・宮西遺跡で同時期の環濠を検出している。弥生時代前中期～中期初頭では空港跡地遺跡A地区北地区やその50m北側に位置する宮西・一角遺跡で土坑群が検出され、浴・長池遺跡では小区画水田が検出されている。また浴・松ノ木遺跡や空港跡地遺跡A地区北地区、宮西・一角遺跡、多肥宮尻遺跡などで旧河道が検出されている。後期には空港跡地遺跡図書館・文書館地区で集落が営まれ、A地区南地区で検出された周溝墓群と集落との関連性が注目されている。古代においては本調査区は弘福寺領の南地区の一部に比定されており、周辺高松市教育委員会によって、関連調査が行われた。しかし、田図に関連するような遺構は検出されなかったようである。空港跡地遺跡A地区においては旧河道の上面で水田を検出したほか、条里型地割に沿う溝も数条検出しているが、中世に比べるとまだ溝は少ないようである。一方、西北側に位置する多肥松林遺跡群では掘立柱建物群が検出されたほか、自然河川からは24点もの墨書き器が出土した。また、汲仏遺跡では大型の掘立柱建物が検出されたほか、「大」の字を12個線刻した石材が出土している。中世に入ると、空港跡地遺跡のF地区で堀を持つ居館が検出された。また、図書館・文書館地区でも中世の集落が検出されている。その他条里型地割に沿う溝も増加している。近世では空港跡地遺跡の東端部付近I地区で集落が検出された。本調査区付近で池台池が築造されたのも近世と考えられる。また文化十五年頃の様子を示した順道図絵が残されており、当時の地形環境や景観を知る手掛かりとなる。



第4図 周辺の主な遺跡（1）(1/10,000)



第5図 周辺の主な遺跡（2）(1/4,000)

# 第3章 調査の成果

## 第1節 調査の概要と各調査区の概要

### 1. 調査の方法

空港跡地遺跡全体を通しての調査の方法については『空港跡地遺跡I～VI』に詳述されているので参照されたい。K地区の調査についても、空港跡地遺跡の一部であるので、これまでの調査の方法に準じて行った。

#### ①調査区および区画の設定

基準杭については、これまで空港跡地遺跡の調査の際に使用したグリットをそのまま使用した。当時使用していた基準杭自体は残っていなかったので、座標値から位置を復元して杭を打設した。

調査区の設定は、調査範囲・面積と調査期間を勘案しながら、おおむね1ヶ月に1,000m<sup>2</sup>程度調査が実施できるよう設定し、特に基準杭を基準にすることはなかった。

#### ②記録の作成

記録作成の方法についてもこれまでの空港跡地遺跡の方法に準じて行った。詳細は『空港跡地遺跡I～VI』を参照されたい。

検出した遺構については調査区全体の実測図と遺構個別の平面・断面図および調査区壁面の断面図を作成した。

調査区全体の実測図については専門業者に航空測量を委託して作成した。これは対象地が広大であるため、航空測量により実測作業の手間を省いて時間の短縮を図るとともに、国土座標により各調査区間の図面の整合を容易にさせるためであった。航空測量による作図は1/50および1/100とし、特に詳細な図面が必要と考えられた場合は1/20による図化も行った。特に遺構内容が重要である場合は、調査担当者が割り付け作業を行い、手書きにより平面図を作成した。

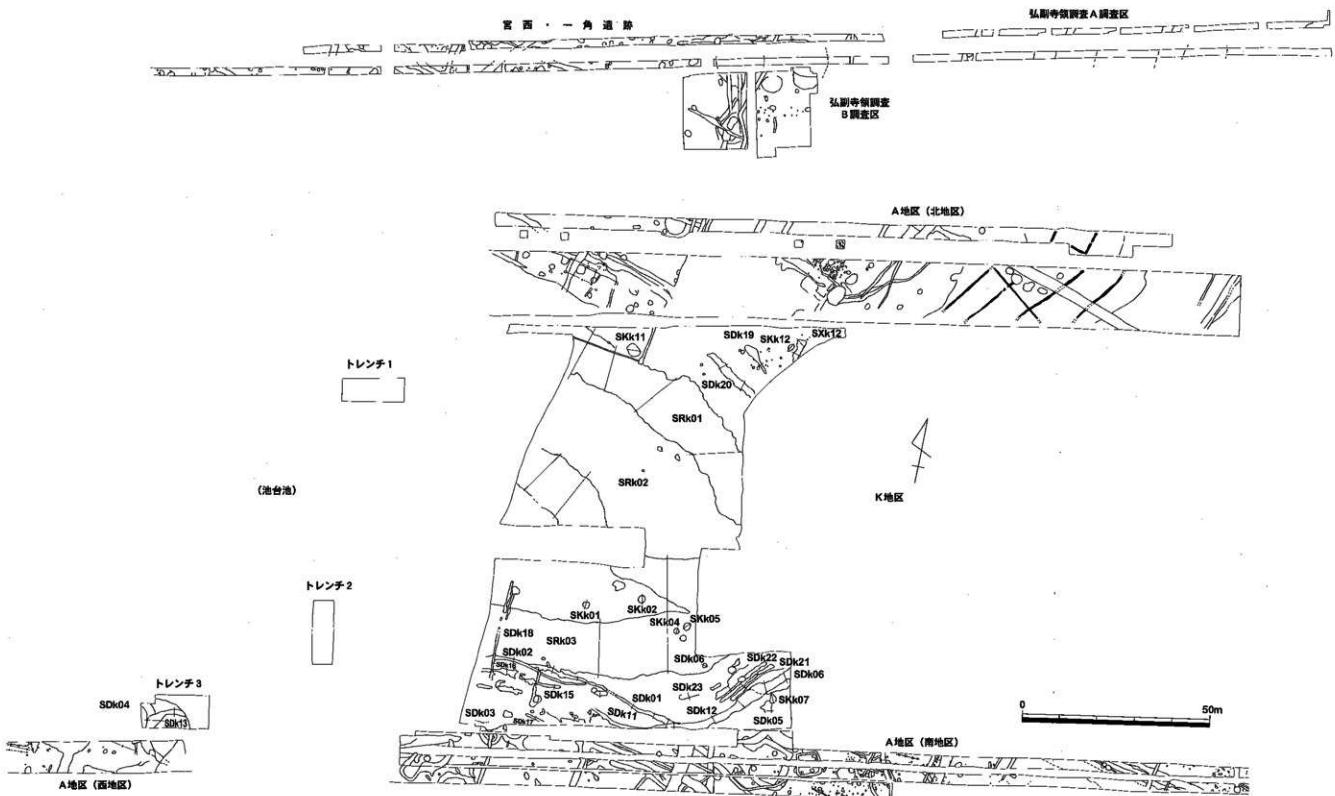
遺構と土層の断面図は1/20により作成した。調査区壁面の断面図については、おおむね1調査区につき東西方向で1ヶ所、南北方向で1ヶ所の断面図を作成した。また、調査地と調査地外の境界に当たる壁面は西側の池台池部分を除いて作成するようにした。

### 2. 調査区の概要

I-23 K地区の南西部に当たる。その西半部は池台池の浚渫により遺構は残らないと考えられる。調査区の北側2/3～3/4程度は弥生時代前期末～中期初頭の自然河川に当たり、自然河川埋没後も低地を形成していた。この自然河川はA地区北地区で検出した水田層の下部に堆積する自然河川の延長部であるが、この地区では水田層は認められなかった。自然河川の南側は急激に遺構面が高くなっている、その部分に弥生時代後期～中世の遺構がある。そこではA地区で検出した周溝墓群の延長部も検出した。

I-24 池台池の内部であることが想定される地区であり、3ヶ所にトレンチを設定して調査を行った。その結果、トレンチ1・2は池台池の内部で、遺構は検出されず、遺構面は削平されていると考えられる。トレンチ1・2とも深さ1～2mの埋立土と厚さ40cm程度の濁灰綠色～灰色粘土の池台池の堆積土を検出しただけであった。トレンチ3では池台池の外側になる南西部で、円弧状に回る溝を検出した。この溝は北側では2条であったものが、南側では合流し、A地区西地区で検出した溝へ続く。西側への延長部は調査対象範囲外であり確認はできなかった。

I-25 K地区北西部、I-23の北側に位置する調査区である。調査区の西半分は池台池の内部であることが想定されたため、調査区の北側と南側で東西方向のトレンチを設定して池台池の範囲、遺構の遺存



第6図 主要構造配置図(1/1,000)

状況を確認した後、遺構の遺存していない池台池は調査地から除き、池台池の外側の部分を調査した。I-25もI-23北側から続く低地であり、弥生時代前期末～中期初頭の自然河川を2条検出した。そのうちの北側の1条からは当該期の多量の土器が出土した。また、この地区的北西隅からは池台池の底ユルを検出した。

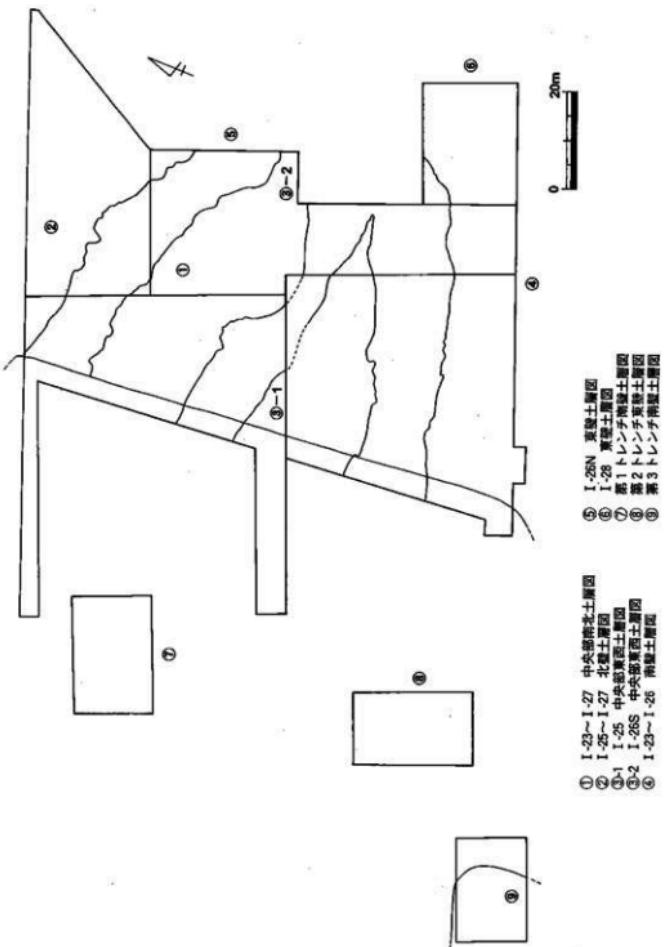
I-26 I-23の東側～北東側に設定した調査区である。I-23同様南側の一部を除いて低地となっており、弥生時代前期末～中期初頭の自然河川を3条検出した。このうちの最も南側の1条はI-23からの延長部であり、前述のA地区北地区の、上部に水田層を検出した自然河川へ続くものであるが、ここでも水田層は検出できなかった。調査区南側の微高地では、I-23から続く弥生時代後期後半の溝の延長部を検出している。

I-27 I-25の東側、I-26の北側で設定した調査区である。調査区の南西部でI-25から続く弥生時代前期末～中期初頭の自然河川を1条検出した。北東側は微高地となっている。ベースの上面には、自然河川の上面に広く堆積する包含層が及ぶ。遺構が形成されるのは中世以降で、遺構密度も低い。

I-28 I-26の南半東側に設定した調査区で、調査期間中に追加された調査区である。調査区全体がおおむね微高地になるが、北側部分は空港造成時の擾乱のため遺構面はほとんど残っていない。この調査区ではI-23・26南側から続く弥生時代後期や古代・中世の溝群を検出したほか、埋土中から多量の躰が出土した円形に巡る溝を検出している。この溝は遺構の切り合い関係や弥生時代後半頃の遺物が出土していることから周溝墓の可能性が高いと考えられ、隣接するA地区南地区から広がる墳墓群の一部と考えられる。

地区名	調査年度	面積(m <sup>2</sup> )	担 当	遺 物 量
I-23	平成8年度	5,700	宮崎 哲治・多田 慶・森澤 千尋	コンテナ25箱
I-24				コンテナ5箱
I-25				コンテナ34箱
I-26	平成9年度	6,500	山元 素子・池田 道雄・藤澤 正則	コンテナ28箱
I-27				コンテナ28箱
I-28				コンテナ16箱
合 計		12,200		コンテナ126箱

第3表 K地区 各調査区の概要



第7図 土層位置図 (1/1,000)

## 第2節 土層序（第7図）

空港跡地K地区の地形はおおまかに捉えれば南端部と北東隅が微高地、西端が旧池台池、その他の大部分が弥生時代まで自然流路であった低地である。したがって、地形は南西側から北東側へ傾斜している。土層位置図は現在の地割りに沿うラインで南北方向に3ヶ所、東西方向に3ヶ所、旧池台池部分で3ヶ所を掲載した。

### ① I-23～I-27調査区中央部南北土層図（第8・9図）

調査区の中央部を南北に継続する土層である。北からI-27、I-26、I-23の土層に当たる。調査区北側約9m分では上部に池台池堤防盛土が観察できる。

調査地は、空港の造成時に全体にL=20.20～20.40m程度の高さになるよう造成されており、調査時にはさらに高さ1mの盛土が成されていた。池台池の堤防がかかっている場所については空港造成時に盛土はほとんど行っていない。

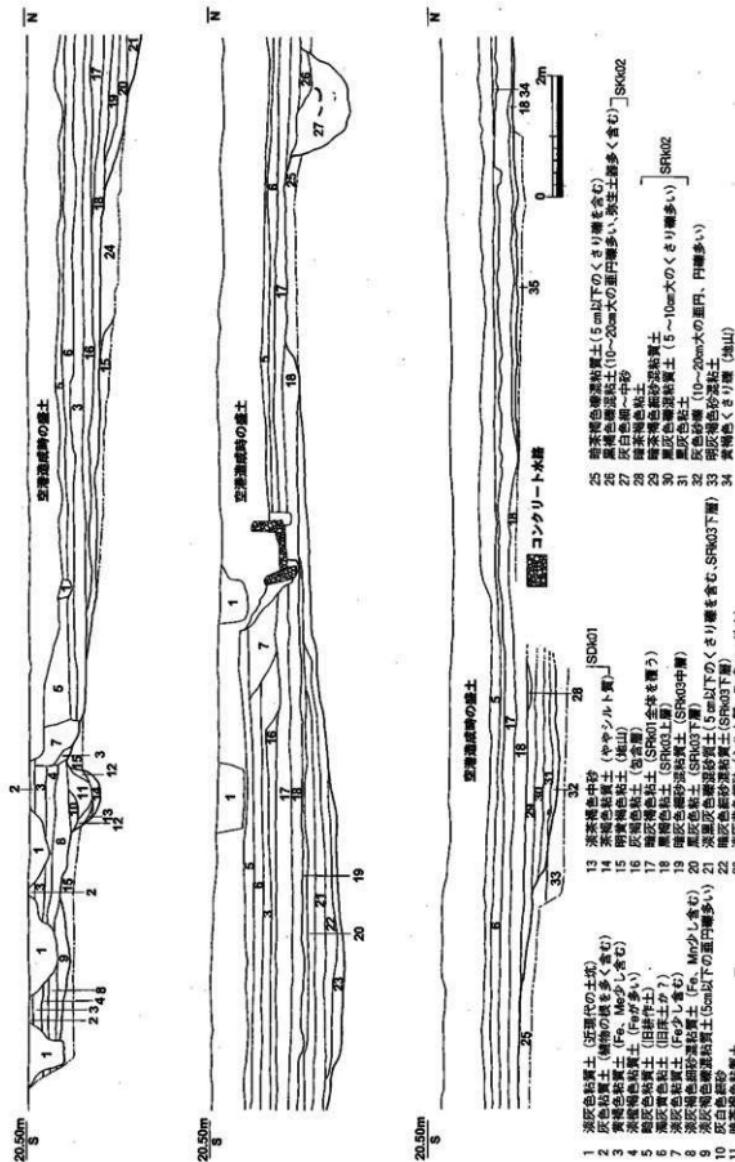
空港造成以前は調査地の南から約5.5mの地点から北側では水田面が低くなり、南側の水田面が約40cm高い。この部分が南側の微高地に当たる。ここでは近世以降の耕作土と考えられる厚さ約30cmの黄褐色・淡橙褐色粘質土層の下部に、調査区南部ほぼ全体を覆い、一部はSRk03の南岸に広がる不定形の遺構群の埋土となっている淡灰褐色細砂・礫混粘質土層が30cm程度堆積し、その下部に明黄褐色粘土の比較的安定したベースがある。遺構面のレベルは19.90mである。水田面が1段下がった場所から北側は自然河川が埋没したあの低地であり、土層序は、おむね旧耕作土の下部に灰褐色粘土層、暗灰褐色粘土層が厚さ20～30cm程度堆積する。これらの層は古代～中世の遺物を含み、弥生時代に自然河川であった低地をほぼ全体に覆う。これらの包含層の形成時期は、出土遺物の下限の年代により13世紀代と考えられる。『空港跡地遺跡V』ではSRk03（『空港跡地遺跡V』ではSRa01）の上面で水田面があったことが報告されており、この包含層の層位がそれに相当すると考えられるが、今回の調査では包含層をA地区のように細分することはできず、水田層も検出することはできなかった。これらの包含層はSRk01～03までの上部を覆い、壁面北端にまで及ぶ。包含層の下部では3条の自然河川を検出した。自然河川の下部のベースは灰色～黄褐色砂礫、自然河川の北岸では黄色シルトであった。

### ② I-25～27調査区北壁土層図（第10・11図）

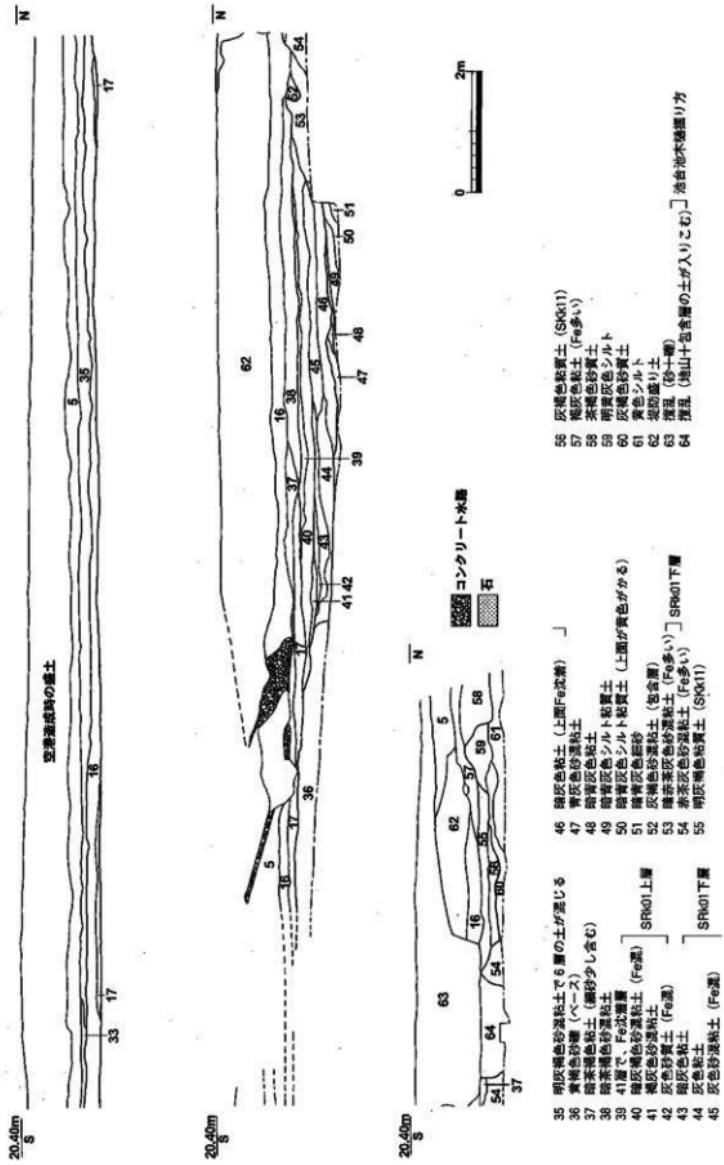
調査区の北端の東西方向の土層図である。基本的な層序は、耕作土・床土の下部にベースが広がり、包含層の堆積はほとんど認められない。この壁面では、I-25西半部分は池台池部分、I-25東半部分～I-27西部は池台池堤防で占められる。池台池埋立土の下部にはわずかにSRk01の埋土が残る。堤防部および池台池の東側については堤防盛り土または耕作土・旧耕土直下に褐色・灰色砂礫のベースが見られる。SRk01部分を除くベース面のレベルは19.90m程度で、東西方向の傾斜はほとんど認められない。壁面の東端付近では砂礫の上部に砂層やシルト層が堆積し、ベースを形成している。

### ③ I-25・26調査区南壁土層図（第12図）

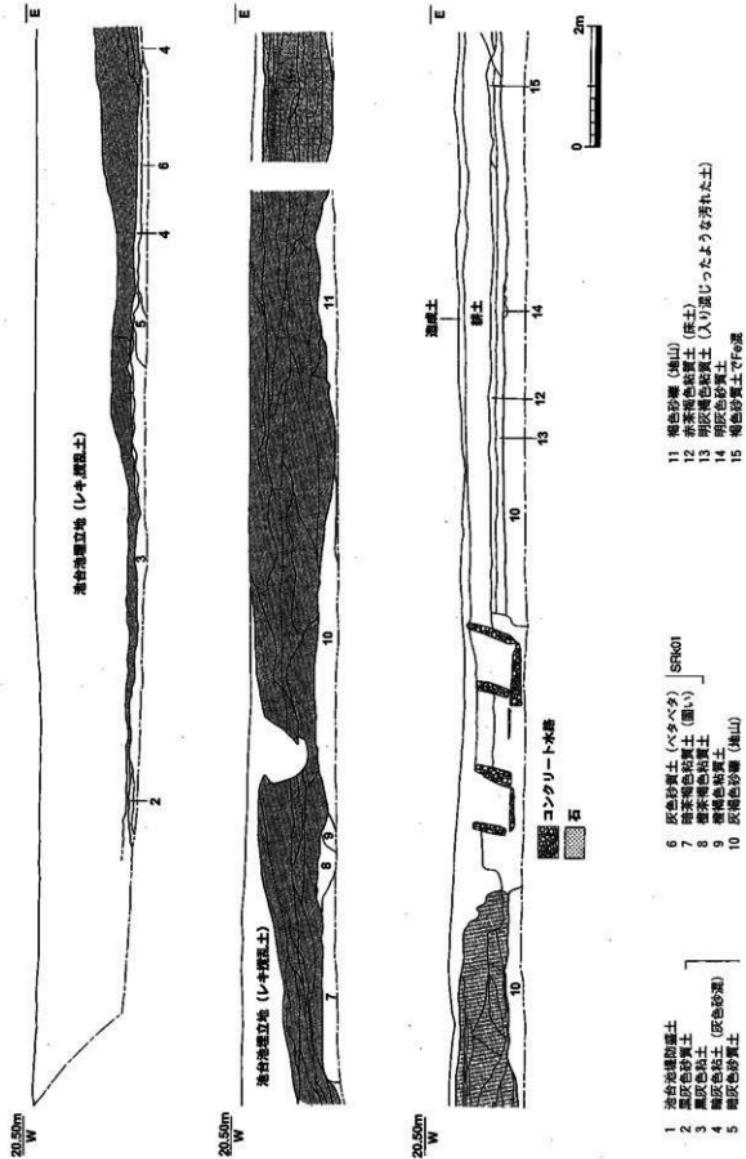
調査区のはば中央部を東西方向で作成した土層図である。③-1はI-25南壁土層断面図で、調査区全体のはば中央部の東西方向の西半の断面図に当たる。③-1の基本層序は耕作土・床土の下部に旧耕作土と考えられる明黄灰色砂質土・明褐色砂質土層を挟んで、灰褐色・暗灰褐色粘土の古代～中世の遺物を含む包含層が堆積し、その下部に厚さ10cmほどの明褐色砂層を挟んでSRk02の断面が観察できる。包含層は、SRk02の西岸に位置する場所では堆積は薄くなり、池台池にかかる付近で消失していく。遺構面のレベルは西側が若干高く、SRk02の東側（L=約19.80m）との比高差は約10cmである。包含層は池台池の浚渫による削平ではなく、遺構面が高かったためともとなかったと思われる。この部分では池の内部より堤防部および池台池の外側のほうが池浚渫前までは遺構面のレベルは高かったと思われる。ペー



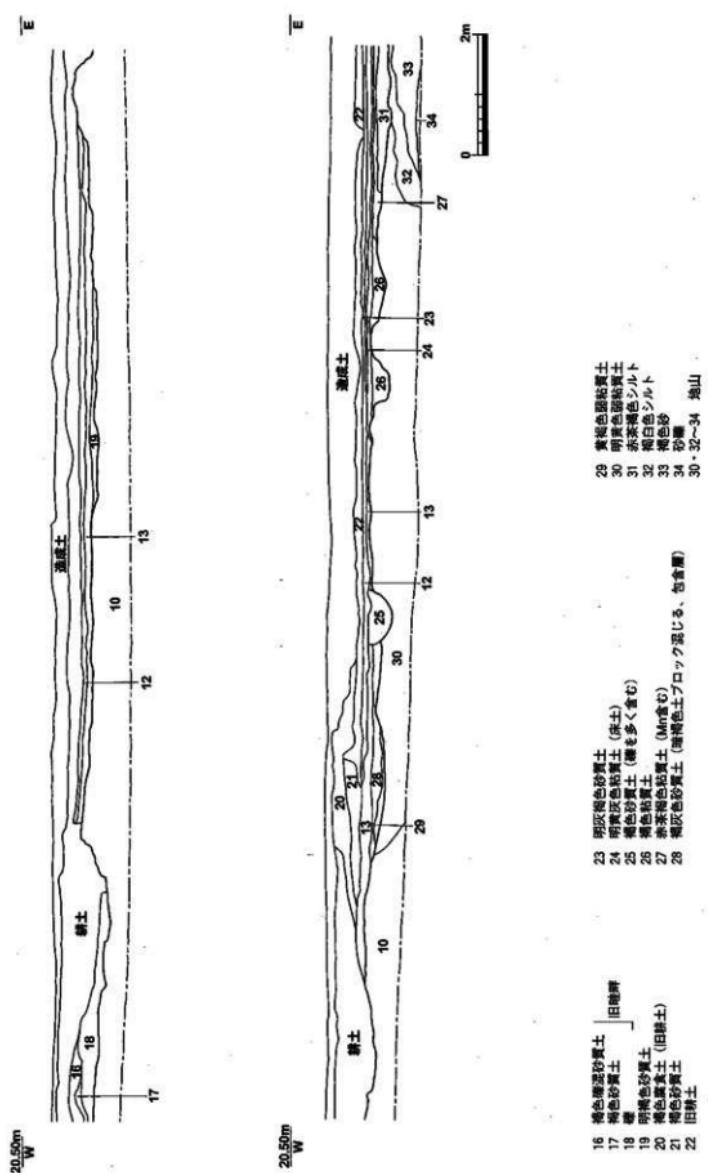
第8図 調査区中央部南北土層図 (I-23~27) ① (1/80)



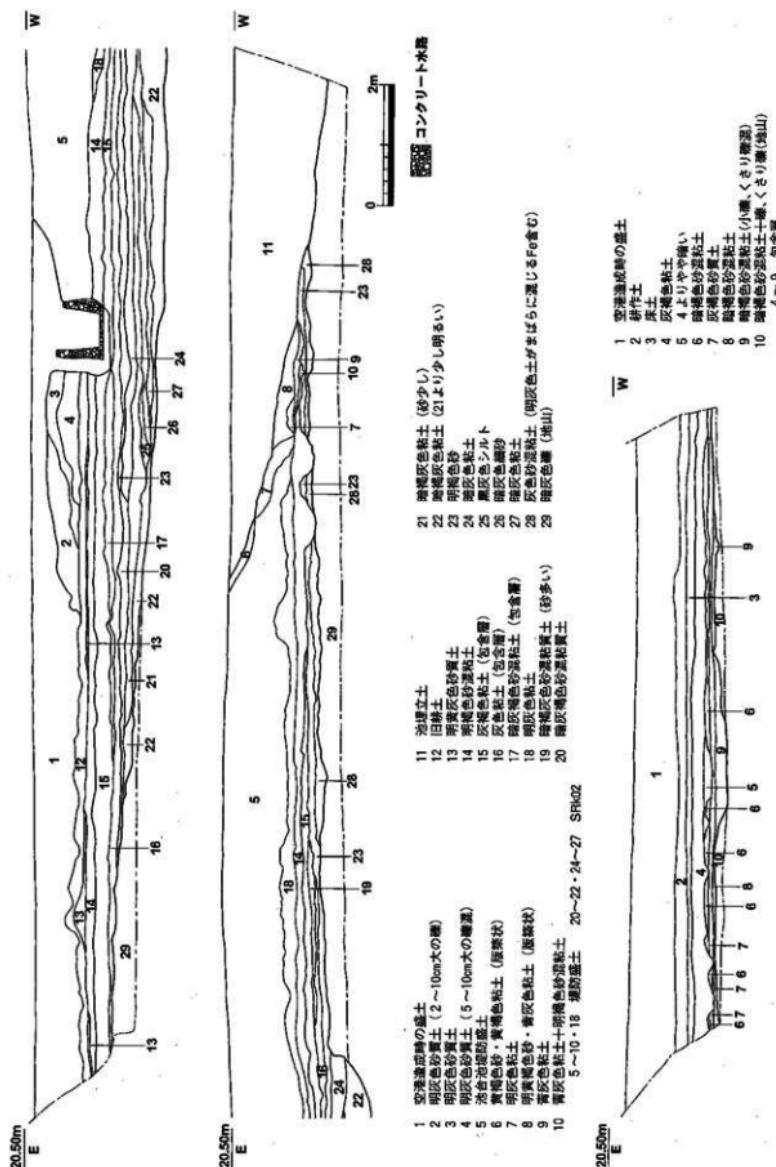
第9図 調査区中央部南北土壌圖 (1-23~27) ② (1/80)



第10図 調査区北縁土層図 (I-25~27) ① (1980)



第11図 調査区北壁土層図 (I-25~27) ② (1/80)



第12図 調査区中央部東西土層図 (I-25・26) (180)

スは暗灰色礫で、安定しない低地であったらしい。この断面の中央付近から西側にかけては池台堤防および池内部に当たる。包含層や明褐色砂質土（旧耕作土）の上部にはほぼ堤防盛土全体にわたって明灰色粘土が約20cm堆積し、その上部に堤防の盛土がみられる。この明灰色粘土は他の壁面では観察できない層であり、堤防に伴うものと考えられる。

③-2でも基本的な層序は③-1と同様で、耕作土・床土の直下に灰褐色粘土層を主体とする古代～中世遺物包含層が厚さ約30cm堆積する。ベースは暗褐色砂混粘土に礫やくさり礫が混じる層である。遺構面のレベルは約19.70mで、やはり地形がやや西から東へ向けて傾斜する様子が窺える。

#### ④ I-23～I-28南壁土層図（第13・14図）

調査区の南端部を東西方向に作成した土層図である。西からI-23・I-26・I-28区に当たる。現地表ではわずかに西が東より高い地形になっているが、遺構面のレベルは東端が若干高く、中央付近でやや低くなり、I-23西端付近、周溝基の付近で急激に遺構面が上がる。

I-28では耕作土・床土直下で遺構面が認められるが、ベースは茶褐色・褐色砂質土などで、あまり安定しない。I-26～I-23東半にかけてはややベースが低く、耕作土と遺構面の間に包含層が堆積する。旧地表面のレベルは東端より若干上がっているが、I-26では耕作土の下部には厚さ約20cmのシルト層、その下部には厚さ10cm程度の砂層が複雜に堆積し、遺構面はI-28部分より約25cm下がる。ここで見られた砂層はI-28で検出したSDK21・22と埋土が類似しており、溝とした部分はその層の一部、深く抉れたところであった可能性がある。この付近はSDK11・12の土層断面が壁面に現れている部分とほぼ重なるが、遺構面の上面も砂層やシルト層が複雜な堆積を見せており、ベースは黄褐色や白灰色のシルト層である。

I-23東半ではシルト層・砂層は消失していくが、遺構面の上部には淡灰褐色粘質土の中世の遺物を含む包含層が厚さ10～20cm程堆積する。I-23南端部分では同じ埋土を持つ不定形の遺構群や溝群があるが、この埋土がおおむねこの層位と類似しており、この層の堆積は凹凸があったと思われる。これらの包含層は調査区の西端では見られなくなり、遺構面は急激に高くなる。ベースはI-23部分では明黄色粘土や濁黃褐色粘質土層で安定した層であった

#### ⑤ I-26東壁土層図（第15図）

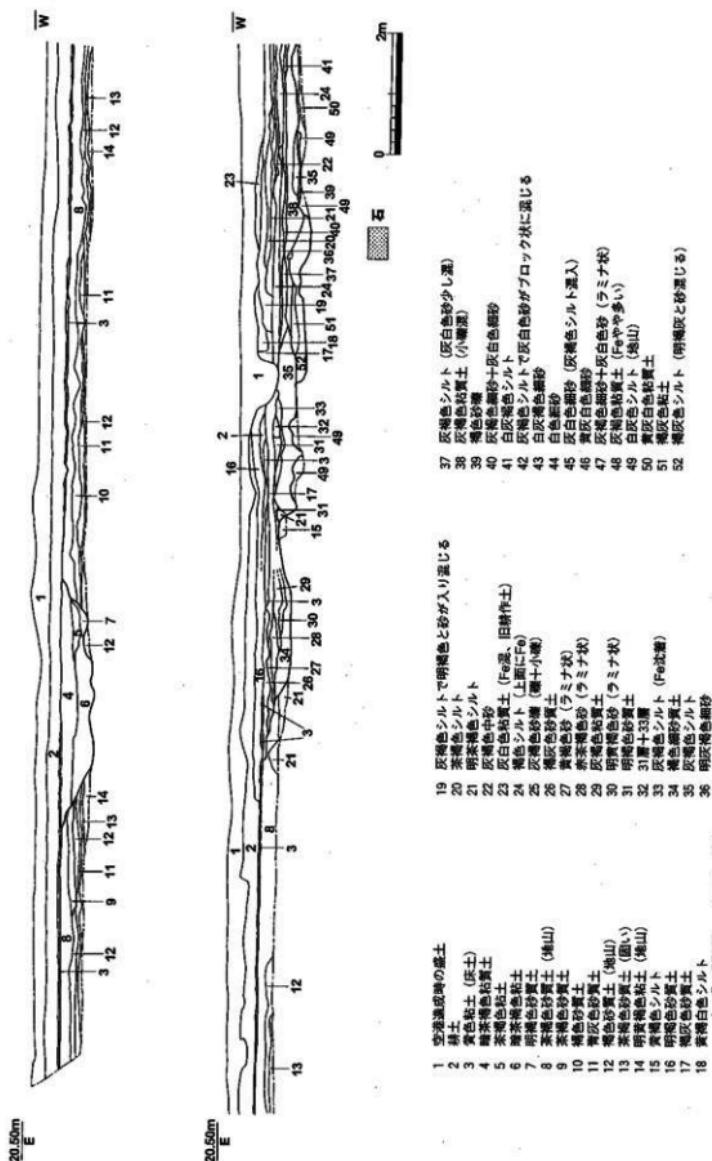
I-26北部の東壁土層図である。南半部ではSRk01が土層断面にかかる。基本層序は耕作土・床土の下部に古代～中世の遺物を包含する包含層が堆積し、北・南部ではベースが、中央部分ではSRk01がかかる。ベースは調査区の北部では褐色砂質土、その下部で黄色砂礫であるが、南部のSRk01南肩から南側では暗褐色砂混粘土で礫・くさり礫が混ざる層で、自然河川の肩は上がるものの、一帯が湿地であったことが窺える。中世包含層はSRk01の北肩のやや北側から堆積を始め、厚さ40cm程度で南端まで堆積する。包含層は灰褐色粘土層が主体であるが、下部のほうでは暗褐色砂混粘土が堆積する。

#### ⑥ I-28東壁土層図（第16図）

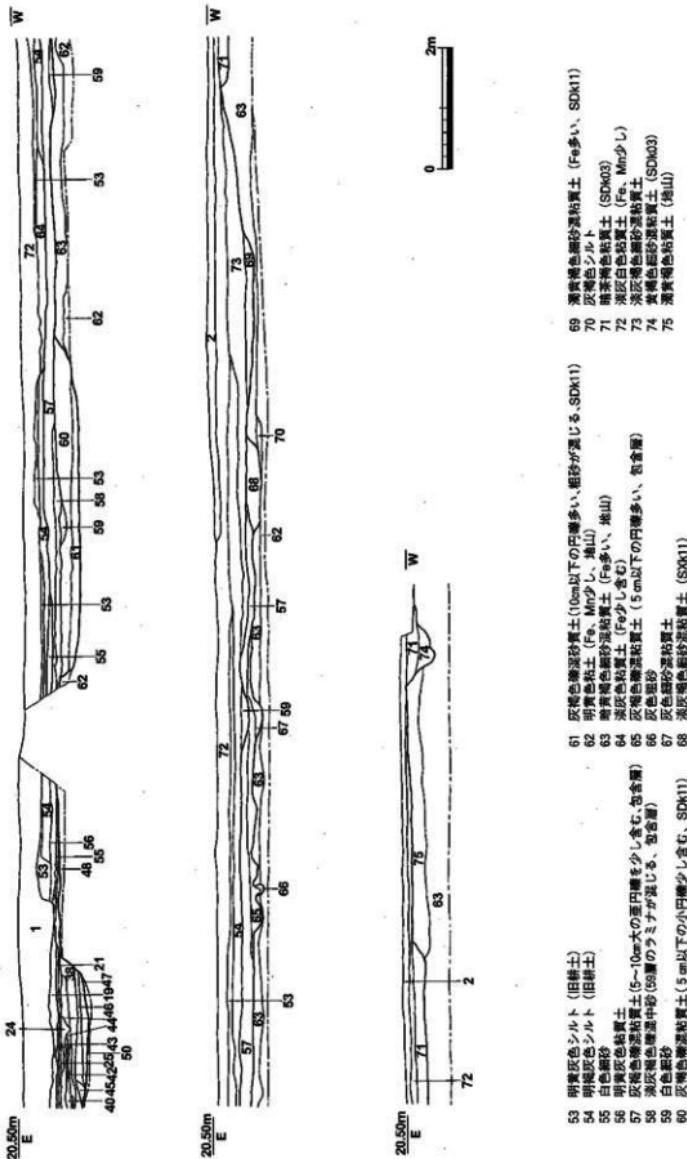
I-28東壁土層図で、調査区の南東隅の土層図に当たる。基本的な層序は造成土・耕作土・床土の直下で厚さ約20cmの茶褐色砂質土のやや不安定なベースが認められ、その下部に褐色砂質土、明黄灰褐色粘質土が堆積する。遺構面の高さは19.9m～19.8mで、わずかに北側へ傾斜している。基本的な層序はほとんど変わらないが、調査区北部、SDK06・12が壁断面にかかっている場所ではベースは安定した黄色粘土である。なお、調査区の北側は空港造成時の深い搅乱により残っていない。

#### ⑦・⑧・⑨ I-24トレンチ1～3土層図（第17図）

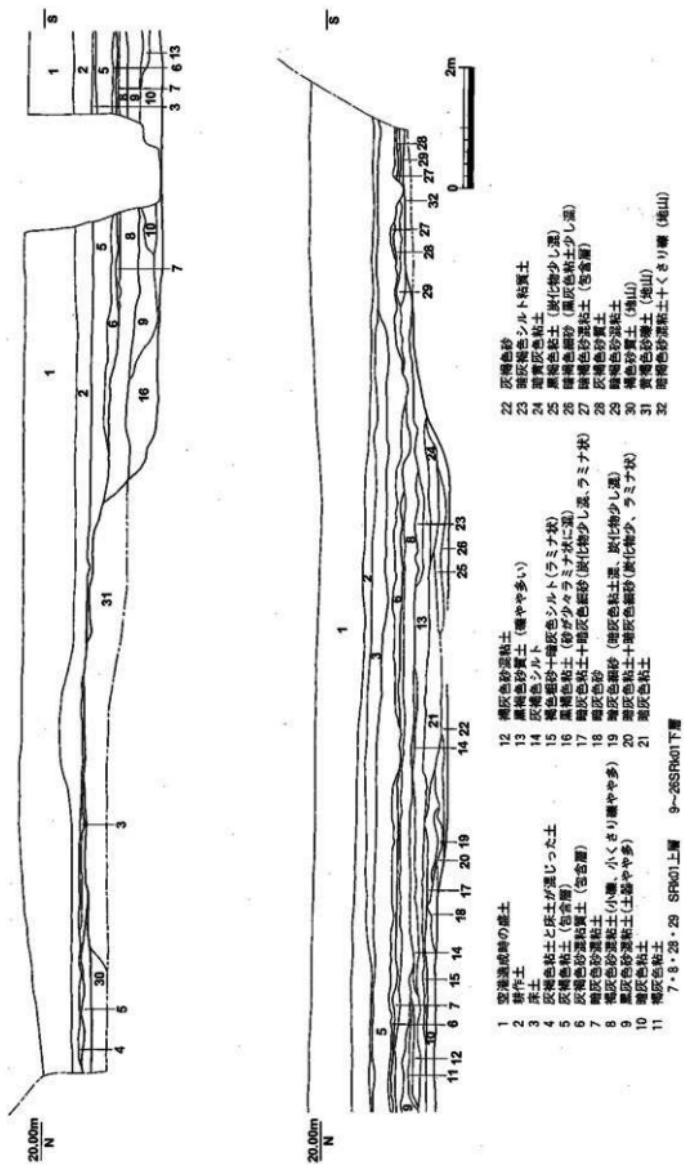
⑦はトレンチ1の南壁土層図である。トレンチ1は池台池の中央やや北東寄りに位置する。ベースは暗灰色砂礫層で安定していない。底にはヘドロが固まったような暗灰緑色粘質土が堆積し、菱の実が混じる層と、その下部に灰色細砂混（シルト質）粘質土層が堆積する。これは池台池の堆積土である。そ



第13図 調査区南壁土層図 (I-23~28) ① (1/80)



第14図 調査区南壁土層図 (I-23~28) ② (1/80)

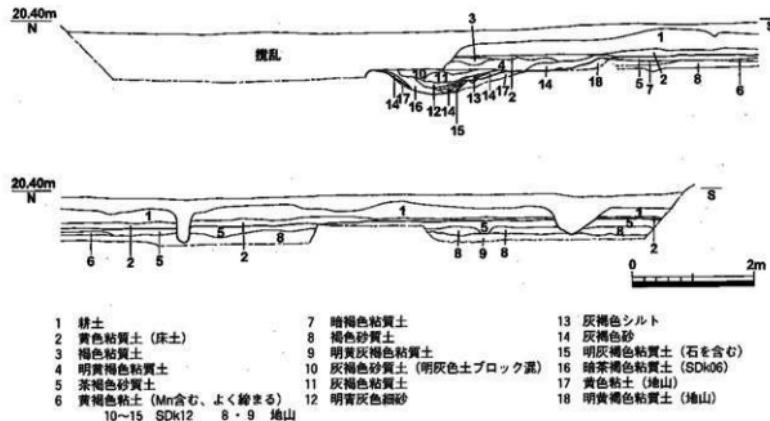


第15図 調査区東壁土層図 (I-26) (1/80)

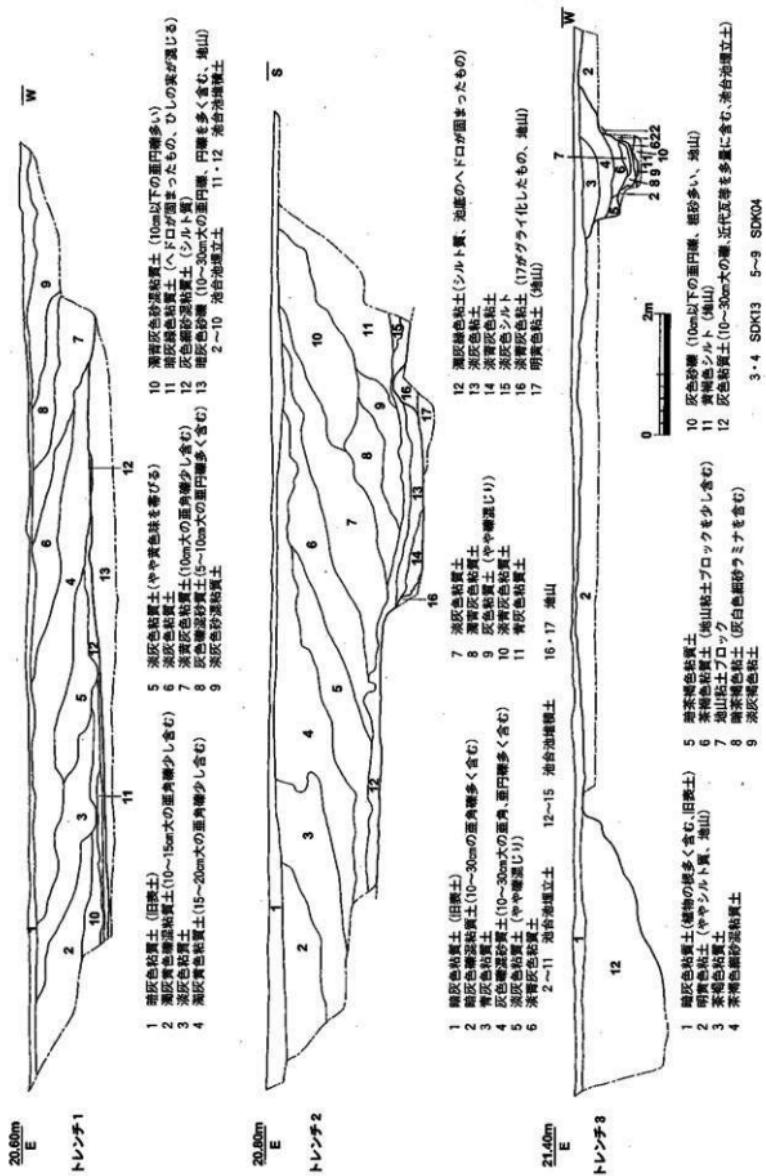
の上部はすべて空港造成時の埋め立て土で、その堆積状況から、東側から土を入れて埋め立てていった様子が窺える。埋め立ては粘質土と礫混じりの粘質土層を混ぜ合わせた土で行っている。埋め立て土の厚さは1.2m、堆積土の厚さは約10cmで、池台池の底のレベルは約19.20mである。

⑧はトレンチ2の東壁土層図である。トレンチ2は池台池の南部中央付近である。ベースは明黄色粘土またはこの層がグライ化した淡青灰色粘土層である。池の底には濁灰緑色粘土層、淡灰色粘土層がそれぞれ約20cmずつ堆積している。これらの層はトレンチ1の層とそれぞれ対応する。その上部はすべて空港造成時の埋め立て土で、厚さ約2.0mに及ぶ。埋め立て土は淡灰色～淡青灰色粘質土～砂質土で、中には礫を多く含む層位もある。堆積状況から南側から土を入れて埋め立てた様子がわかる。池の底のレベルは18.60mである。なお、トレンチ2出土遺物の項で記述するように、池台池埋立土のうち、淡灰色粘土層から12世紀頃の、比較的磨滅の少ない遺物がまとまって出土している。

⑨はトレンチ3の南壁土層図である。トレンチ3は池台池南西隅部分にあたる。トレンチ3では池台池の南西隅が検出された他、円弧状に回る溝が検出されている。池台池の西外側の部分では空港造成時の表土の直下は安定した明黄色粘土層のベースがある。池台池内部はすべて埋め立て土によって構成され、埋め立て土には礫のほか瓦などの廃棄物も含まれている。遺構面の高さは21.00mである。



第16図 調査区東壁土層図 (I-28) (1/80)



第17図 I-24区 Trench 1 ~ 3 土層図 (180)

### 第3節 遺構・遺物について

#### 1. 弥生時代前期～中期の遺構・遺物

SKk04 (第18図、図版8)

I-26区SRk03の内部、SKk05の約1m西側で検出した土坑である。規模・形状ともSKk05に類似し、おおむね同じ時期に掘削された可能性が高い。検出したのはSRk03の掘り下げ後であるが、SKk05と同様、SRk03が埋没を始めた後、ある時点で掘り込まれた可能性が強い。やや歪つな隅丸方形で、一辺1.2m、深さ26cm、埋土はおおむね暗灰色～暗褐色粘土で、上層には砂が少し混じる。断面形状は逆台形である。埋土中からは桃核、ウリ類、ヒヨウタン類の種子が出土している。これらはいずれも栽培植物である（第4章参照）。埋土や出土遺物の類似性からSKk05と関連する遺構の可能性が高い。遺構の時期が明らかになるような出土遺物はなかったものの、SKk05との類似性から、時期はSKk05同様弥生時代中期後半頃と考えられる。

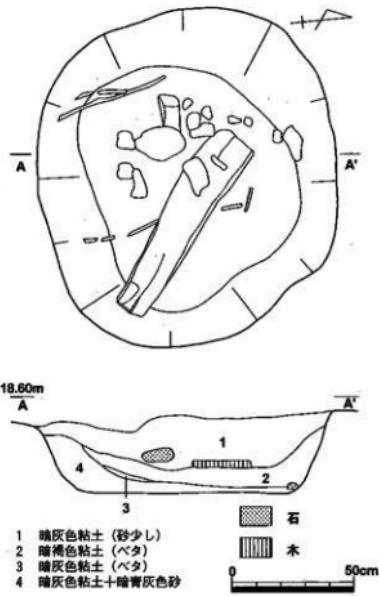
SKk05 (第19・20図、図版8・19)

I-26区SRk03の内部で検出した土坑である。SKk04の東側約1mに位置する。検出したのはSRk03の掘り下げ後であるが、埋土中からは弥生時代中期後半頃の遺物が含まれており、SRk03が埋没を始めた後、ある時点で掘り込まれた可能性が強い。平面形状は梢円形で、長径2.2m、短径1.5m、深さ31cm、埋土は暗灰色砂混粘土で、断面形状は浅い皿状である。埋土中からは他になすび型膝柄又鍬をはじめとする加工木や桃核、クリの果実、木葉などが出土した。木葉は損傷が著しく、広葉樹であるということしかわからなかった（第4章）。

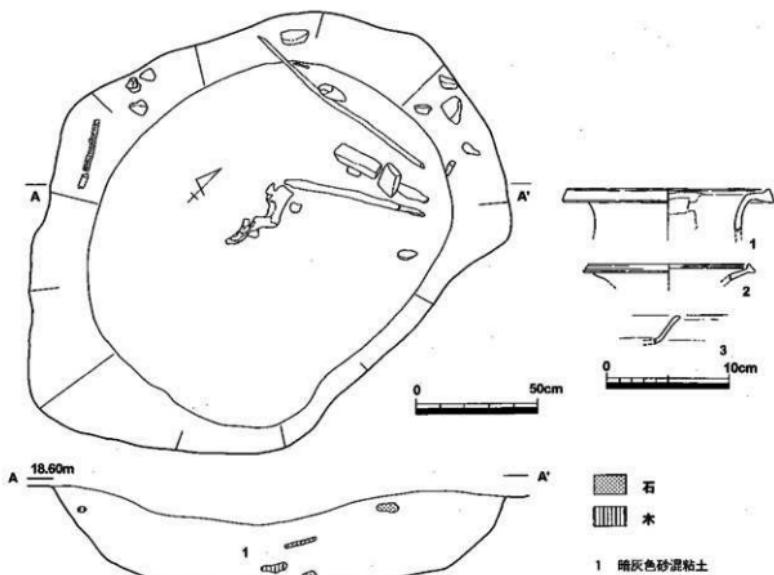
1・2は弥生土器壺。とともに下川津B類。1は直立する長い頸部を持ち、口縁端部を上下にやや拡張させる。弥生時代中期後半頃。3は土師器坏小片。混入。4は加工木。上部は折損、下部は若干尖らせる。コナラ属クヌギ属。I-23区SRk03から同種の自然木が出土している。5はなすび型膝柄又鍬。上部と片刃が欠損。着柄部には鈍い三角形の張り出しがある。材質はコナラ属アカガシ亜属で、SKk06から出土した自然木にも同種のものがあった。

SKk06 (第21図、図版8)

I-28区SRk03の内部、SRk03の肩付近で検出した土坑である。円形で直径1.2m、深さ約90cm、埋土は黒褐色粘土で、断面形状は逆台形である。埋土中からは弥生時代前期の土器とともにヒヨウタン類の果皮や種子、木葉などが出土している。やや離れた場所にあり、土器の時期も整合しないが、遺構の性格は、SRk03の内部にあり木製品や種子・木葉が出土すること、形状や埋土の類似性から、SKk04・05と同様のものと考えられ、時期も同様の時期としたい。出土土器はSRk03からの紛れ込みと考えられる。なお、ここで出土した自然木および枝は樹種同定の結果コナラ属アカガシ亜属であったことが判明して



第18図 SKk04平・断面図 (1/20)



第19図 SKk05平・断面図・出土遺物① (1/20)・(1/4)

おり、これはSKk05で出土したなすび型膝柄又鉢と同じである。

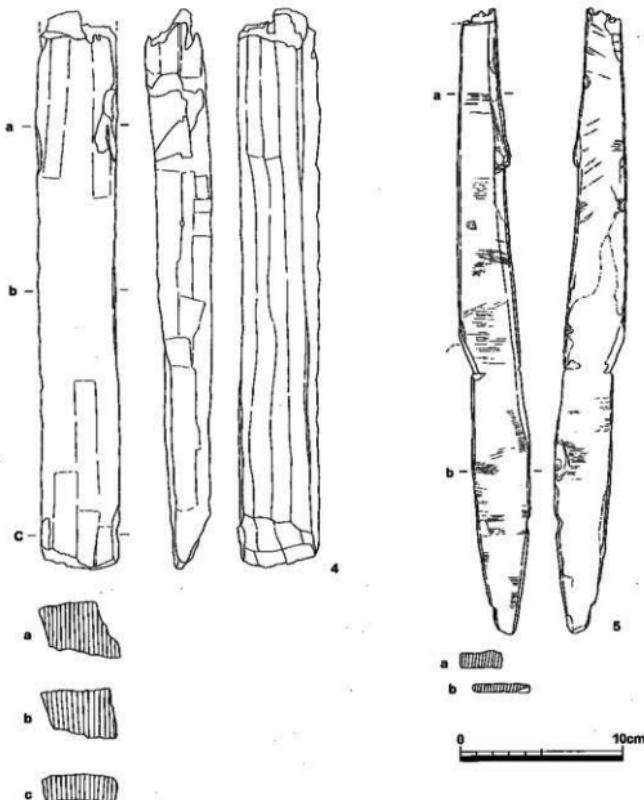
出土したのはすべて弥生土器である。6は壺。口縁部内面に2段の刺突文を施し、頸部外面には7条の構造沈線を施す。7・8は甕。7は如意状口縁に構造沈線を施す。6・7は摩滅が著しい。8は逆し字型口縁を持ち、外面はハケメ調整で仕上げる。いずれも弥生時代前期末頃。9は甕底部。外面は密にヘラ磨きし、内面はヘラ削りして薄くする。胎土中に角閃石を含む。弥生時代中期後半頃。

## 2. 弥生時代後期～古墳時代初頭の遺構・遺物

### SKk01 (第22図、図版8・20)

I-23区北東部で検出した円形の土坑である。東側がやや突出したような形状である。長径1.9m、短径1.7m、深さ30cmで、埋土は上層が暗茶褐色混粘土質（礫多い）、下層が黒褐色粘土、断面形状は浅い皿状である。土坑の底付近で、礫とともに多量の弥生土器が出土した。廐棄土坑と考えられる。土器は破片が小さく、摩滅の進んだものが多かった。

出土したのはすべて弥生土器である。10・11は壺。10は直立する頸部に開口口縁部を持つ。11は口縁部の開いた部分しか残っていないが、10のようなほぼ直立した頸部が付くと考えられる。10は下川津B類土器。12-16は甕。12は摩滅が著しいものの、口縁部が鋭く屈曲し、体部内面は指押さえが顕著である。外面下半部にはヘラ磨きが密に残る。上半部と下半部は直接接合はしないが、胎土や調整などの類似性から同一個体と考えられる。下川津B類。13は口縁部が欠けているものの、体部外間にハケメ、内面には指押え痕と板ナデ痕が残る。17は大型の鉢。胎土中に角閃石をわずかに含む。18・19は底部遺



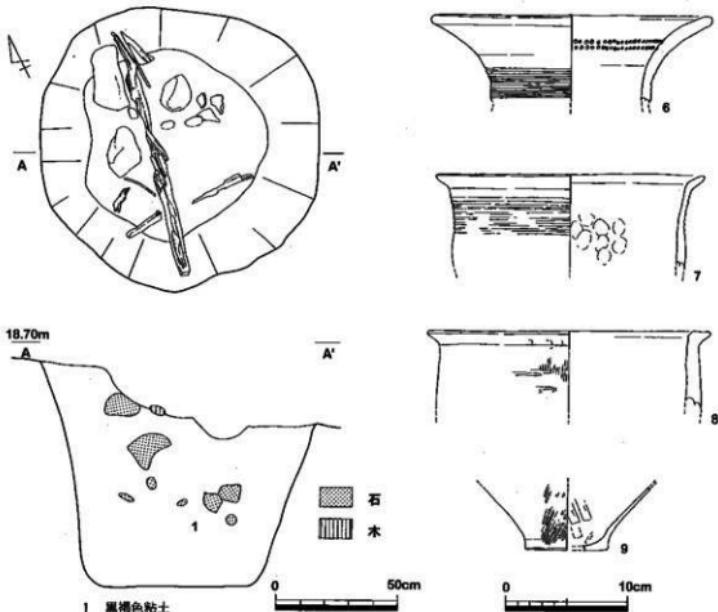
第20図 SKk05出土遺物② (1/3)

構の時期はおおむね弥生時代後期後半 (V-4期) 頃と考えられる。

SKk02 (第23図、図版8・20)

I-23区北東端付近で検出した土坑である。一部はI-26区へ跨っている。平面形はおおむね円形で、直径1.8m、深さ87cm、埋土は上層が暗茶褐色疊混粘土、下層が黒褐色疊混粘土で、断面形状はボウル状である。下層から弥生土器が出土しているが、SKk01と同様、土器は摩滅するものが多い。廃棄土坑と思われる。

出土したのはすべて弥生土器である。20・21は壺。長い頸部に緩やかに開く口縁部を持つと思われる。22は壺。口縁部は鋭く屈曲し、外面にはハケメ、内面上半には指押さえ痕、下半にはヘラ削り痕が残る。下川津B類土器。23~25は高坏。いずれも下川津B類。23・24は坏部。いずれも内外面とも4方向の分割ヘラミガキを施す。23は充填していた底部が剥離して、底部は欠損する。26・27は底部。26は大型の壺になると思われ、外面はヘラミガキで仕上げる。27は壺の底部。平底で外面にはヘラミガキを施す。



第21図 SKk06平・断面図・出土遺物 (1/20)・(1/4)

下川津B類。遺構の時期はおおむね弥生時代後期後半 (V-4) ~終末期1頃と考えられる。

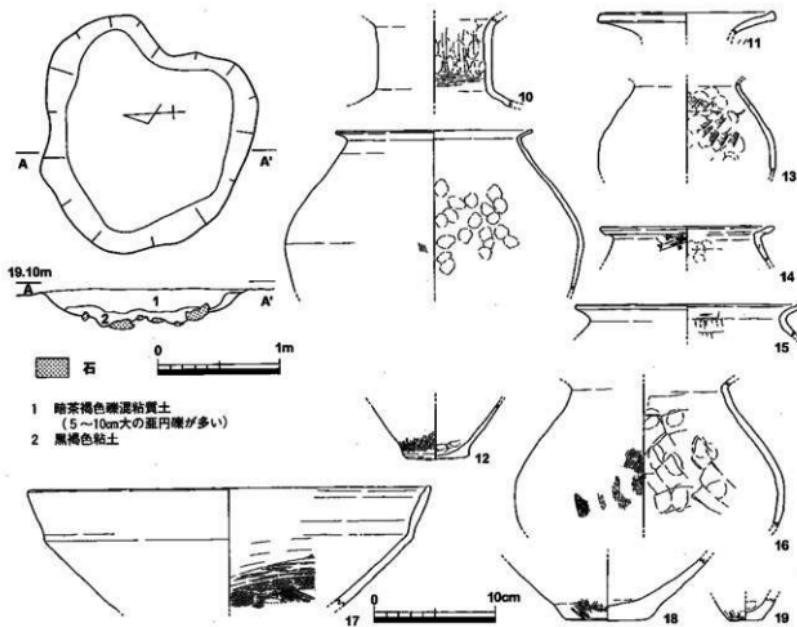
#### SDK01 (第24・25図、図版21)

I-23区からI-26区へ続く、北西から南東方向へ向く溝である。この溝はSDa39へと続く (『空港跡地遺跡V』)。幅は0.7m~1.5m、深さ約50cmで、断面形はおおむね逆台形~U字状である。I-23区ではSDk02に切られ、SRk03を切る。断面観察から1度掘り直しが行われたようである。埋土は上層が暗茶褐色粘質土、暗灰褐色粘土、下層が淡茶褐色粘質土、明灰褐色礫混砂質土などである。埋土中からは弥生土器がコンテナ1箱程度出土した。遺物量はI-23区部分の方がI-26区部分より多いようである。土器は摩滅の進んだ、比較的小さいものが多い。

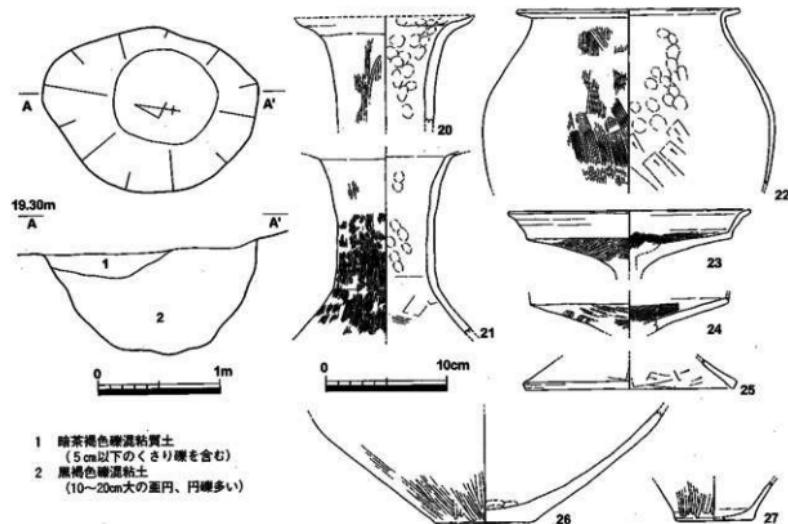
出土遺物はすべて弥生土器である。28~31は壺。31以外はいずれも小破片であるが、いずれも大きく開く口縁部に直立する頸部を持つと思われる。28・29・30は下川津B類。32~35は壺。いずれも下川津B類。摩滅が著しく、調整は不明。36・37は高杯。36は杯部。内面は調整不明だが、外面には4方向の分割ヘラミガキを施す。充填していた底部は剥離している。37は脚部。いずれも下川津B類。38は鉢底部。外面にタタキ目が残る。溝の時期はおおむね弥生時代終末期1~2と考えられる。

#### SDK02 (第26図)

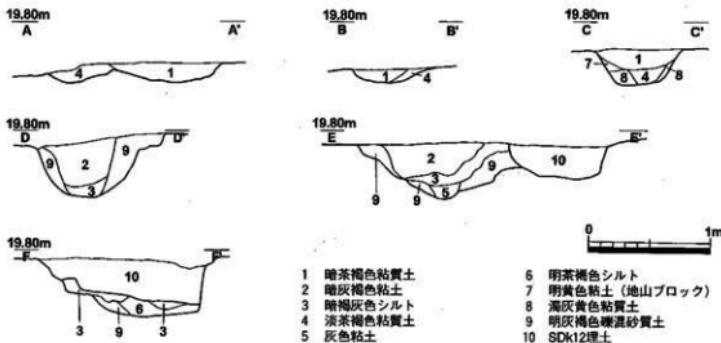
I-23区中央付近を北西から南東方向へ向く溝である。幅45cm、深さ16cm、埋土は暗茶褐色粘質土で、断面形状は逆台形である。この溝はSDk01に切られるが、埋土はSDk01とよく似る。埋土中からは弥生土器小破片が出土したが、図化できるような遺物はない。時期は出土遺物と埋土・遺構の切り合い関係から弥生時代終末期としておく。



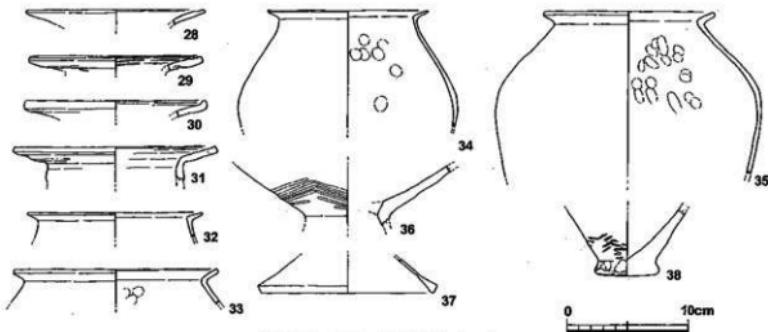
第22図 SKk01平・断面図・出土遺物 (1/40)・(1/4)



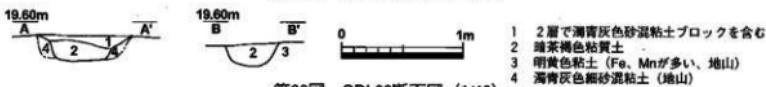
第23図 SKk02平・断面図・出土遺物 (1/40)・(1/4)



第24図 SDk01断面図 (1/40)



第25図 SDk01出土遺物 (1/4)



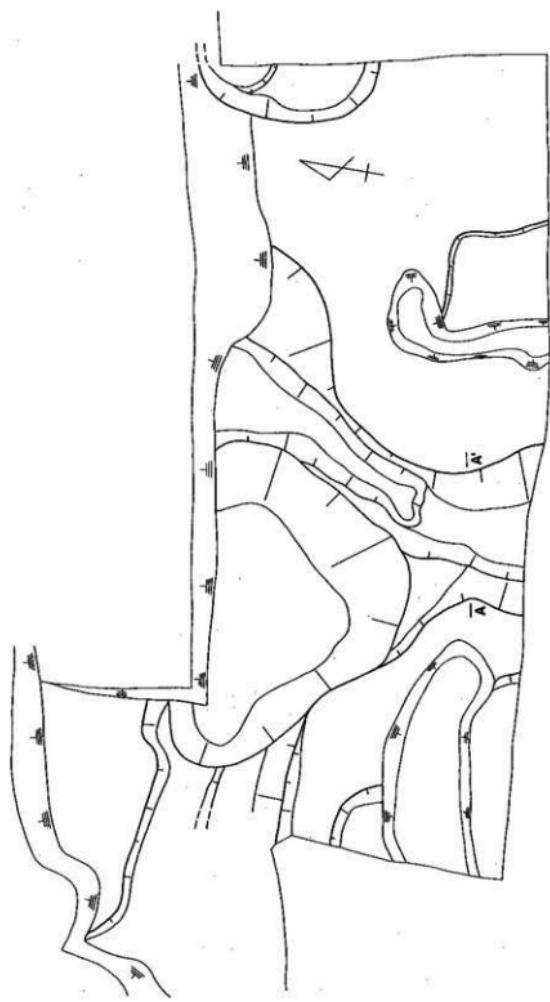
第26図 SDk02断面図 (1/40)

### SDk03 (第27~30図、図版 9・10・21~23)

1-23区南西端部で検出した溝である。調査区の南端から北へ向き、約1.5mの位置で東西2方向へ分岐する。溝の規模は調査区の南端付近で幅1.03m、深さ12cm程度で、底のレベルは20.27m、西側へ伸びる溝は幅1.1m、深さ10~20cm、底のレベルは20.22m、東側へ伸びる溝は幅不明、深さは30~38cm程度、底のレベルは20.18~20.08mである。東側へ伸びる溝は溝の肩に緩い稜を持ち、中央部分が深くなっている。その深い部分は北東方向へ向いている。埋土は暗茶褐色粘質土、断面形状は南端部付近では浅い皿状である。溝が東方向と西方向へ分岐する付近には土坑状の落ち込みがある。落ち込みは橢円形状を呈し、長軸2.7m、短軸2.0m、断面形状は皿状で、深さは遺構面から約30cmを測る。出土遺物の大半はこの落ち込みからのものである。

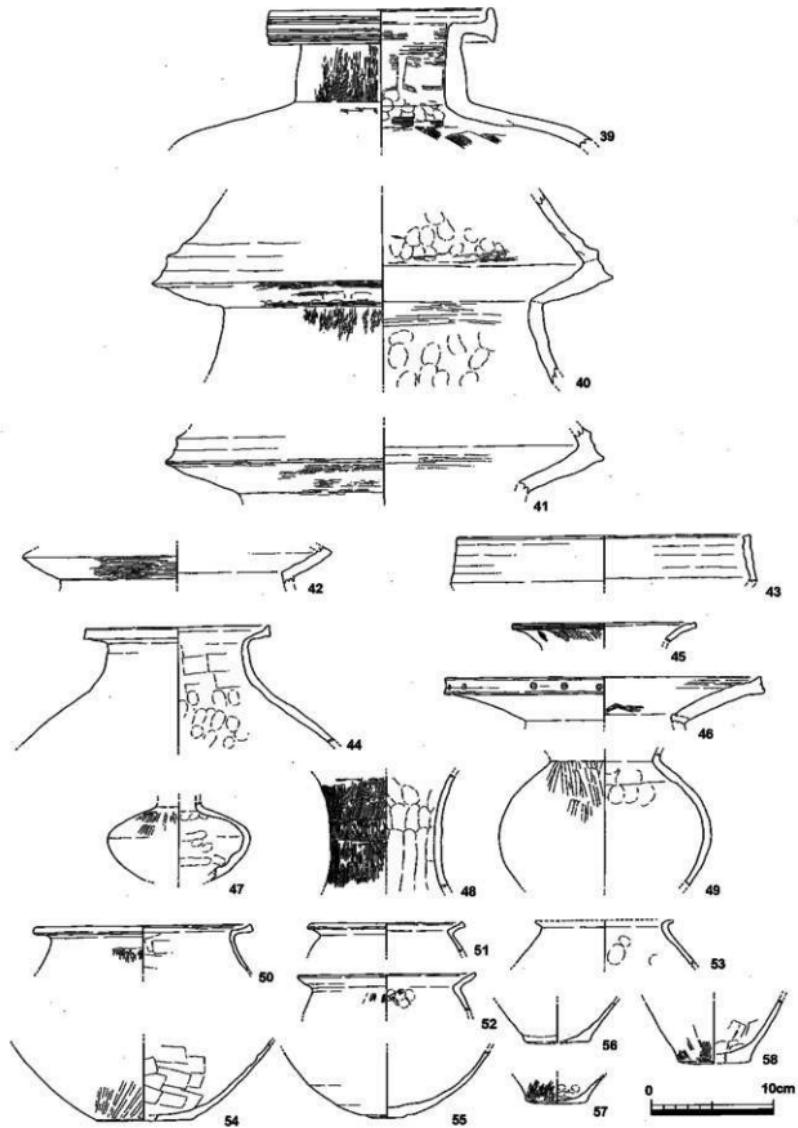
この二又に分岐する溝は平成8・9年度の概報の時点ではA地区南地区から続く円形周溝墓STA03・04の北半部として報告をし、両者を航測図面で合成した場合形状が歪むのは、調査年度に5年の隔たり

第27図 SDK03・周溝蓋平・断面図 (1/40)

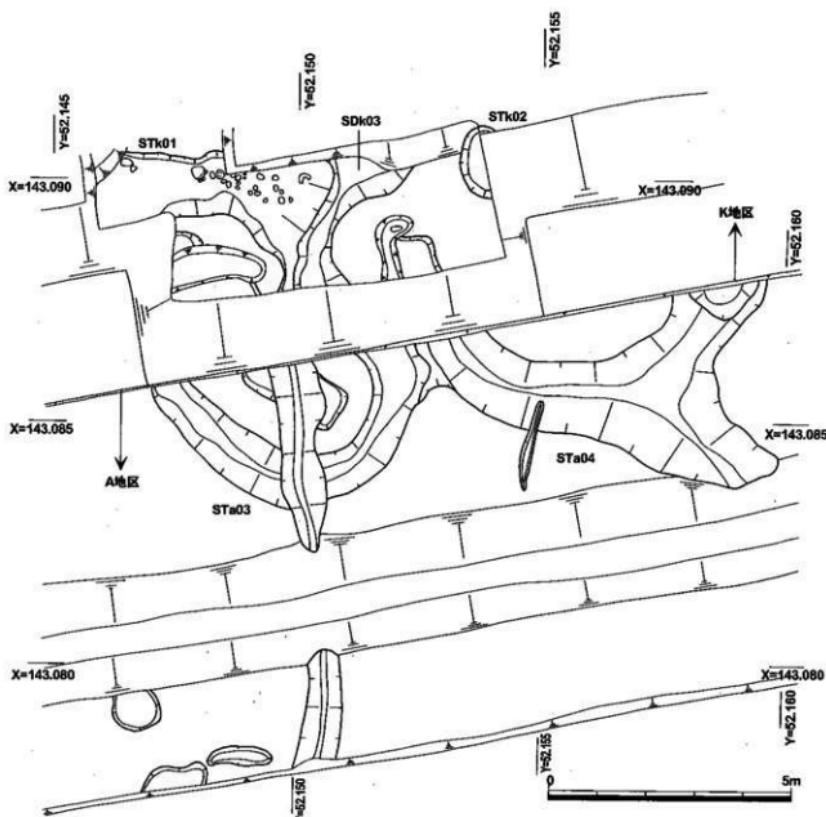
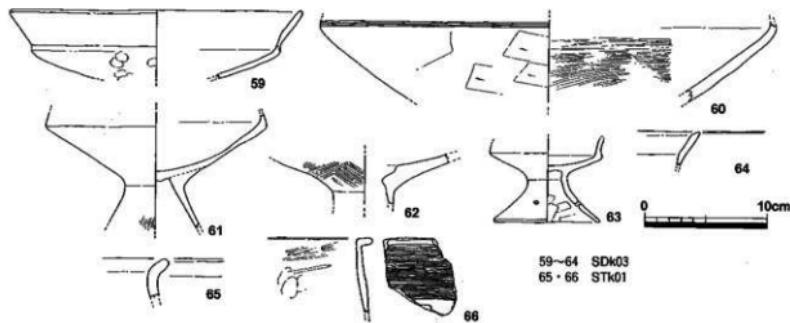




第28図 SDk03・周清墓遺物出土状況 (1/20)



第29図 SDk03・周清墓出土遺物① (1/4)



第30図 SDk03・STk01・周溝墓出土遺物② (1/4)、STk01・02平面図 (1/100)

があるため座標にそれが生じたためとした。今回報告書の作成に当たり改めて図面を合成してみたところ、①両地区的溝の分岐部分を連続させようとすると1.7~2.0mものずれが生じるにも拘らず、他の遺構の連続性には特に不自然な点がないこと。

②西側の周溝墓の形状が南半部と北半部とでは異なること。

③SDa37から連続する弥生時代後期の溝が検出されておらず、航測図面を座標どおりに合成すればSDk03はSDa37の位置に近いこと。

を考え合わせれば、SDk03は円形周溝墓の一部ではなくSDa37の延長部の可能性も考えられよう。

しかし、SDk03から出土した遺物の中には大型の二重口縁の壺が数個体みられるなど、SDa37から出土したとするには不自然な感も否めない。SDk03のうち東へ向く溝がSDa37の延長部で、西へ向くものがSTa03の延長部である、という可能性もあろう。なお、SDa37の出土遺物はSTa04と重複している部分が多い平成3年度調査部分からしかなく、平成4年度調査部分からの出土遺物はなかった。

遺物の大半は溝の分岐点付近の落ち込み状の部分から出土したものであり、出土地点が判明しているものでSDk03の西側へ曲がった溝(STa03側)から出土したのは47と61だけであった。この落ち込みはSDk03の他の部分よりさらに30cm程低く、遺構面からは深さ35~40cm程度を測る。

出土遺物の大半は弥生土器であるが、わずかに土器師が混じっていた。39~49は壺。39は二重口縁壺。拡張した口縁部には多条の沈線が巡る。頸部は直立する。下川津B類。40~42は大型の二重口縁壺。40では頸部はやや内傾気味に立ち上がり、口縁部は斜め上方に大きく開き、さらに内傾する立ち上がりを持つ。41・42も同様の形態を持つと思われる。すべて胎土中に角閃石を含むが、40・41は角閃石の量が少ない。43は二重口縁壺の口縁の立ち上がり部分。下川津B類。46は口縁部に3個1対の竹管文を施す。47は算盤形の体部で、外面にはヘラ磨きを施す。下川津B類。48は長頸壺の頸部。頸部中程付近に2条の沈線が入る。下川津B類。49は丸い体部外面を丁寧に磨き上げる。土器器壺で、古墳時代前期まで下る。50~53は壺。50・53は下川津B類。いずれも内面の指揮えは目立たない。54~58は底部。54・55は壺、残りは壺と思われる。54・56・58は下川津B類。59~64は高坏。すべて下川津B類。摩滅が著しいものが多い。62は外面に4分割と思われるヘラミガキを施し、充填していた底部が剥離してなくなっている。60は大型品。底部と立ち上がり部の境のやや上側に浅い沈線状の窪みが2条巡る。

出土土器はおおむね弥生時代後期中葉～後半であるが、終末期と見られる大型の二重口縁壺(40~42)や、古墳時代前期と思われる土器器壺(49)が出土しており、時期幅を持つ。

STk01(STa03)・STk02(STa04)

A地区南地区から連続することが想定される円形周溝墓の北半部である。西側をSTk01、東側をSTk02とした。A地区ではSTa03を楕円形の周溝墓で、規模を周溝の内側で長径4m、短径2.7mに復元し、楕円の軸と同方向の主体部を検出している。今回の調査区ではSTa03の延長部の可能性として考えられるのは、SDk03のうち溝が西側へ屈曲する部分があげられる。この場合、SDk03の南端部、溝が二又に分かれる前の部分のラインはSDa37からの延長部とし、切り合い関係は見つけることはできなかったが、これに切られるSTa03周溝の延長部を想定することもできよう。この場合STa03は長径6.3m、短径2.7mの楕円形の周溝墓に復元できる。SDk03(西側)の南西部で検出は、深さ約10cmの淡茶褐色粘質土の落ち込み認められるが、一部搅乱で破壊されていて形状が不明確であるものの、図面を合成したときに不自然さがあり、出土遺物の時期も合わないことで周溝墓の延長部である可能性は低いと考えられる。

STa04はA地区では溝の内側で直径4.4mを測る円形周溝墓に復元されている。今回の調査区では拡張部部分の北東隅で検出した落ち込みとSDk03の東側で検出した落ち込みがそれぞれ連続するのではないか。その想定が正しければ、A地区で想定したとおりの規模・形状で復元でき、北西部に陸橋部を持つ構造になる。この方向はSTa03の主体部と方向が揃う。周溝の底のレベルがA地区側の北端で20.25mに

対し、K地区の南端では20.38m程度まで上がるという不自然さが残るが、陸橋部に近いことを勘案すればあり得ないことではないであろう。STa04は上記のように復元したい。

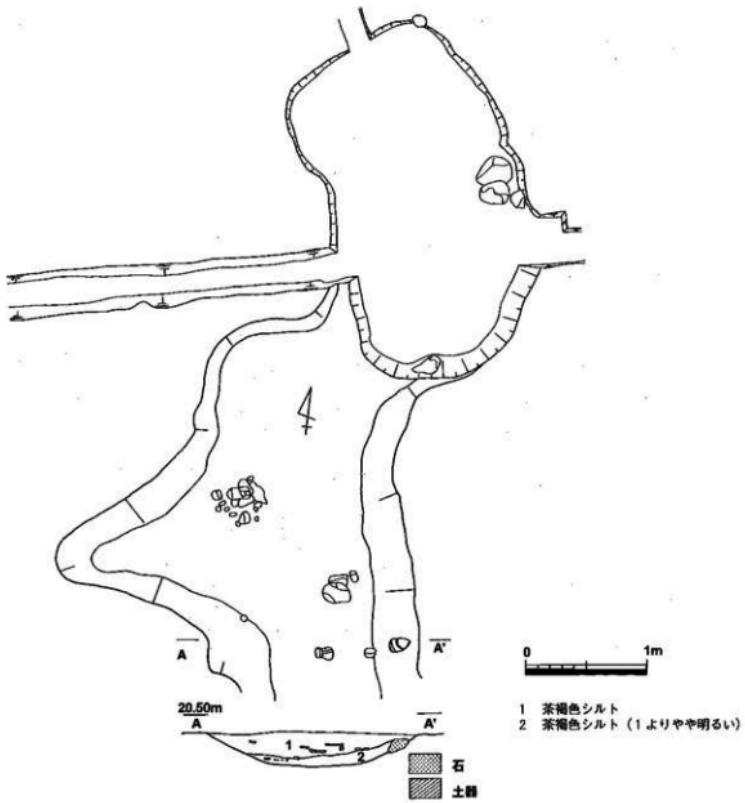
65・66はSTA03の北側の土坑状落ち込み内から出土したものである。ともに弥生土器壺の小片。65は如意状口縁を持つ。66は逆L字型口縁をもち、外面に櫛描沈線を施す。ともに弥生時代前期末～中期初頭。

#### SDk05（第31～33図、図版10・23）

I-28区南東部で検出した溝状遺構である。南半分は後世の削平により消失している。調査区南端部では、南壁土層の観察から、幅4.1m、深さ48cmであったものが、約4.5m北側へ寄った位置では幅1.76m、深さ30cmまで規模が縮小し、SDk06の手前で消失する。埋土はおおむね茶褐色シルトである。この溝は南辺道路で検出しているSDa44へ連続するものと考えられ、SDk05は、断面図の比較からSDa44の上部半分程度の埋土が堆積していると思われる。SDk05の中央部付近からは弥生土器壺がほぼ完形で出土した。SDk05の北端付近で焼土が多く堆積するSKk07を検出し、SDk05はそこで途絶えている。なお南辺道路部分SDa44では須恵器が出土していることから、溝の時期は古墳時代中期としている。また、この溝は周溝墓STA05を切っている。SDk05で出土した土器はおおむね弥生時代後期後半に位置づけられようが、これらの溝の所属時期は慎重に検討する必要がある。なお、SDk05/SDa44を円形周溝墓の一部と見た場合、その直径は溝の内側でおおよそ14m程度となる。

67～87は弥生土器。67～71は壺。67～69は広口壺でいずれもやや内傾気味に立ち上がる頸部に大きく開く口縁部が付く。67・68・69は胎土中に角閃石を含む。67は頸部から口縁部にかけてはほぼ完形に復元できる。71は胴部中央付近に摩滅した突帯が付く。72～81は壺。72～74・76・77・80は逆L字型の口縁部を、78は如意状口縁を持つ。77には体部に5条1単位の櫛描沈線を施し、他は無文である。80は口縁部直下に穿孔が1孔残る。75は丸みを持つ体部が残り、体部は櫛描沈線（3条1単位）+波状文（2条1単位）+櫛描沈線（3条1単位）で飾る。79・81は小破片。胎土中に角閃石を少し含む。82～85は底部。しっかりとした平底を持ち、84は横方向に丁寧に磨く。86・87は高杯。86は内外面を4分割でラミガキし、充填していた底部は剥離している。下川津B類。87は脚部。下川津B類。88は須恵器。壺頸部小破片。2条の突帯の間に波状文を配する。89～92は打製石器。いずれもサヌカイト製。89・90は石鎌。いずれも凹基式。91は楔形石器。上部・下部ともに潰れ痕があり、稜線部がわずかに磨滅する。92は石斧か。上部は折損。

71～78・80・82～85は弥生時代前期後半～中期初頭の遺物で、SDk05の北側を流れるSRk03からの流れ込みと思われる。88はSDa44で出土した須恵器壺と同時期のものと思われる。これらを除けば、おおむね弥生時代終末期1項と考えられるが、遺構の時期については88のような須恵器が出土していること、A地区南地区へ連続するSDa44が古墳時代中期の年代観が与えられ、しかもこの溝に切られる前方後円形の周溝墓が弥生時代終末期～古墳時代初頭に比せられていることから、弥生時代終末期とすると矛盾が生じる。出土した土器の量や破片の大きさ、出土状況から、溝の時期は弥生時代終末期へ置きたいが、A地区的成果と重大な齟齬が生じることとなり、結論は留保したい。可能性としては遺構の切り合い関係の誤認（SDk05で弥生時代終末期の土器がやや集中して出土したのが溝がやや膨らんでいる場所なので、別遺構があった、SDa44の二又の溝には実は切り合い関係があり、2時期の溝がある、など。）を考えられよう。

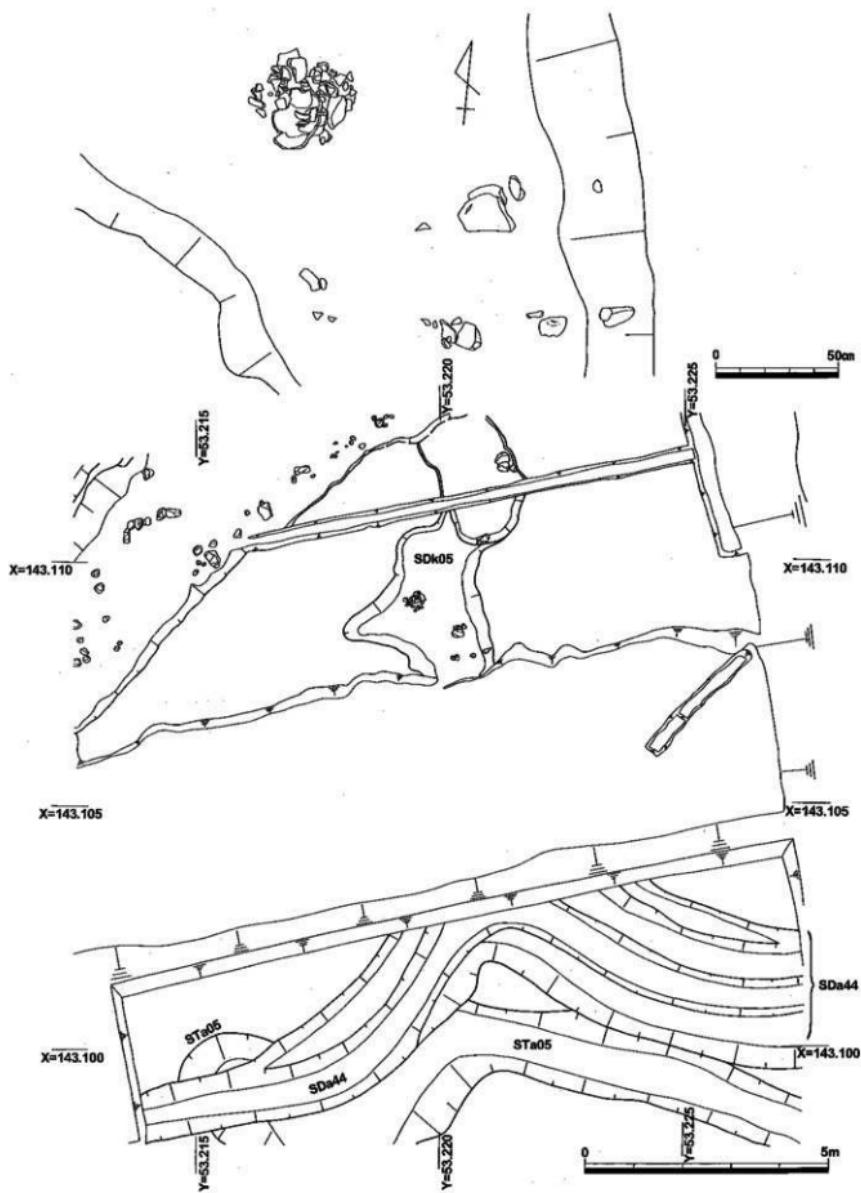


第31図 SDk05平・断面図 (1/40)

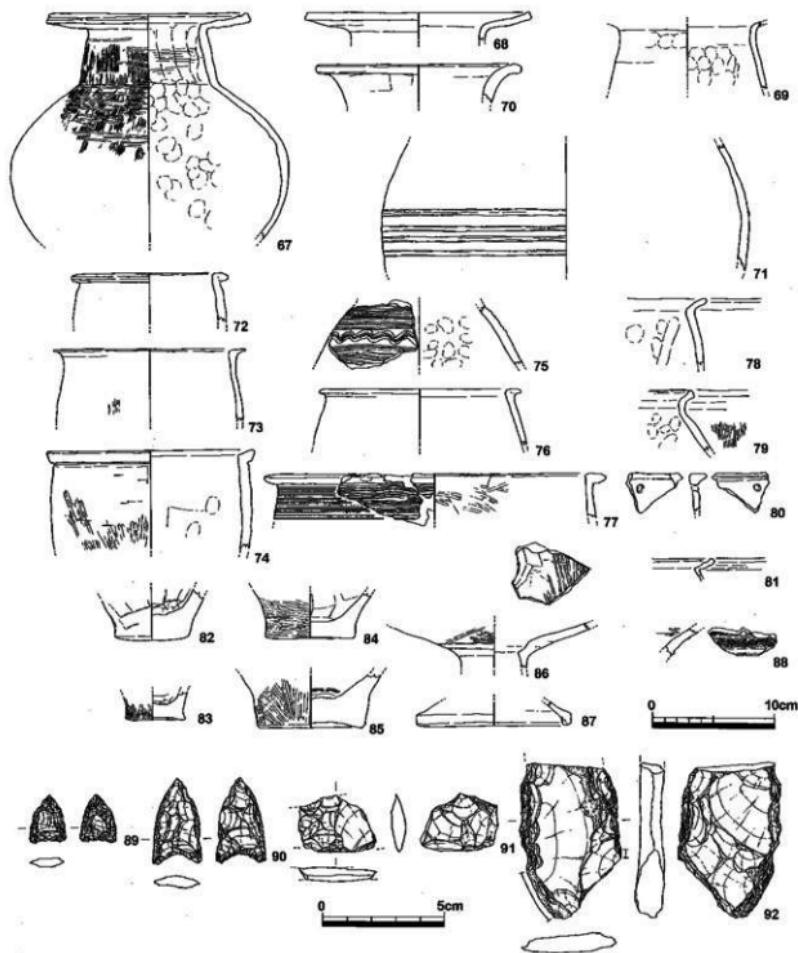
SKk07 (第34図、図版10)

I-28区東部で検出した土坑である。SDk05の北端部分を掘り下げた後に検出した。SDk05はSKk07の手前で途切れしており、両者は関連する遺構である可能性もある。平面形状は楕円形で、長径2.9m、短径1.6m、深さは21cmで、断面形状は浅い皿状である。埋土中には多量の焼土・炭が含まれていた。特に土坑の北半部で焼土ブロックの堆積がみられ、南半部では土坑の周縁で焼土が集中して出土した他、10~30cm程度の疊も土坑の周縁で検出した。また、土坑の中央付近では炭がやや集中して出土している。土坑の南半部でも焼土を除去後に炭を集中して検出している。炭の上部では土坑の南半部を除いては灰褐色~黄褐色~明褐色粘質土層が堆積している。したがって、埋土の堆積順序としては土坑の周縁部で焼土・疊が堆積した後に中央付近で炭が堆積し、その後自然堆積により埋没したと思われる。火を焚いた痕であろうと考えられるが、それ以上のことは不明である。位置関係からSDk05・06と関連する可能性はある。埋土中からは出土遺物はほとんどなかった。

93は弥生土器壺。口縁部小破片。94は黒色土器A碗。小破片。9世紀後半頃。94はSDk12からの紛れ



第32図 SDk05遺物出土状況 (1/20)、STa05・SDa44平面図 (1/100)

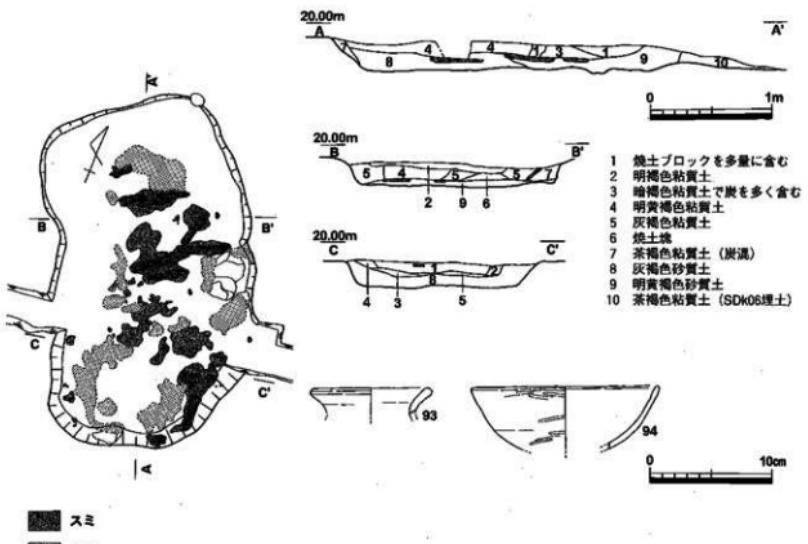


第33図 SDk05出土遺物 (1/4) (1/2)

込みと考えられる。

SDk06 (第35・36図、図版10・11・23・24)

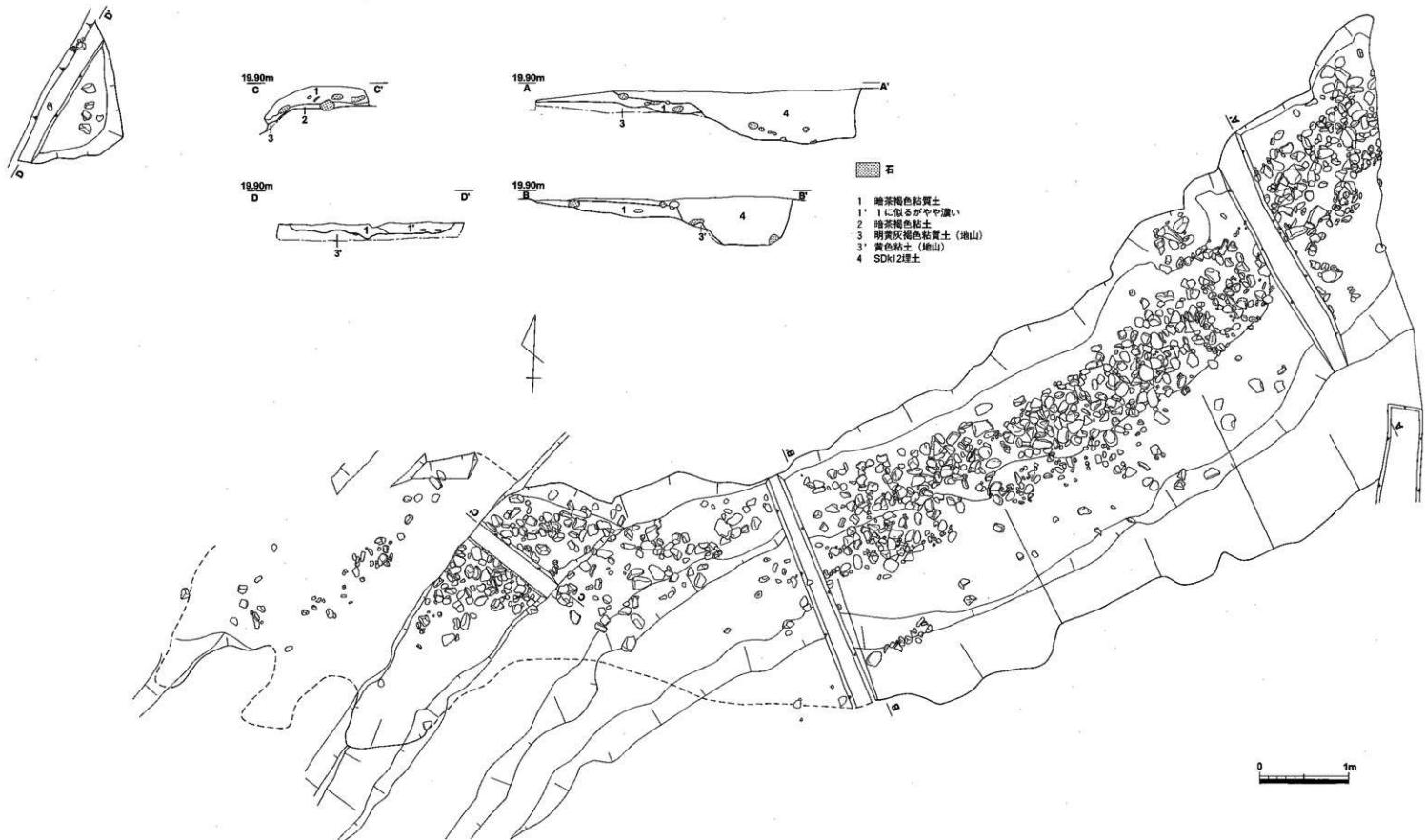
I-28区で検出した円弧状の溝である。おおむねSDk12の東半部にラップして検出し、湾曲して北側へ向きを変える部分ではSDk21・SDk22に分断されて、溝の全体の形状・規模はつかみにくい。しかし、SDk12東半部の底付近からは5~50cm大の礫がほぼ一面に検出された。この礫はSDk12の底のラインとはわずかに異なって緩やかに弧を描いており、この礫集中部はSDk12の中央付近からSDk12と分かれて北へ方向を変えること、SDk12東半部で作成した土層断面や調査区東壁の土層断面からも時期の異なる遺構の埋土が検出されたことから、SDk12の東半部で、それに先行する溝がラップして存在し、この溝



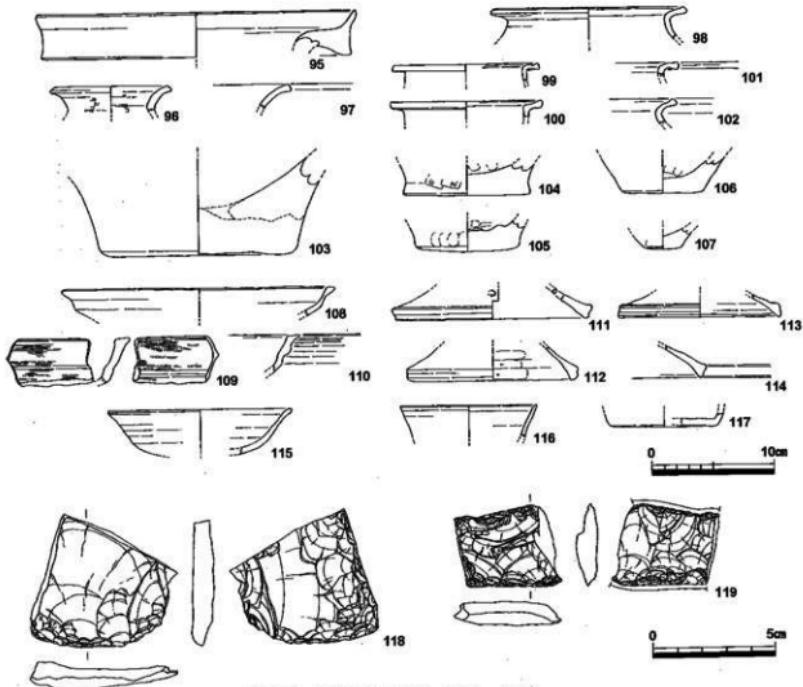
第34図 SKk07平・断面図・出土遺物 (1/40)・(1/4)

は緩く弧を描いて北へ向くことが想定される。この礫集中部はSDK12の西半部ではほとんど検出できていないことから、溝の底付近で検出した礫はこの古いほうの溝に伴うと考えられる。おおむね幅3.0m、深さ20~40cmで、断面形状は後世の造構に破壊されて不明であるが、土層観察用の畦や調査区東壁の断面にわずかに残されている埋土から、周溝の内側はなだらかな逆台形状、外側は非常に緩やかに立ち上がる。SDK12と分離する付近から溝の底は急激に40cm程度浅くなり、礫の集中もSDK12の北脇を駆け上がるようにして検出している。急激に溝が浅くなるあたりから約4.5m北西で一旦溝は途切れる。1.5m~4.5mの間隔を開けて、同構造と思われる造構を約1m検出しているが、その北側延長部は空港造成時の搅乱のために消失している。この溝は規模・形状から円形周溝墓の周溝である可能性が高いと考えられる。現存していた溝の平面の形状は梢円形で、欠けている部分が多く規模の復元はむずかしいが、長径15.0m程度、短径12.0m程度で、周辺の周溝墓により若干大きく復元される。礫は10cm大程度のものは溝の内側におおむね底に接して検出したものの、それ以上の礫については溝の底付近でやや底から浮いた状態で検出しており、大部分は落ち込んだ状態であったと考えられる。また、溝が途切れる部分は、後世の洪水砂によると考えられる削平により、ベースのレベルがSDK06の深い部分の底のレベルより低いため溝がなかったとは断言できず、陸橋部の役割を担っていたかどうかは不明である。溝の埋土中からはおおむね弥生時代終末期と考えられる土器が出土したが、大半は破片が小さく摩滅の進んだものであった。なおSDK06に重複するSDK12から碧玉製の勾玉が出土したが、もともとはSDK06に由来するものと考えられる。

98~102以外はSDK12と重複する部分の最下部から出土した。95~97は壺。95は口縁部が長く上方へ立ち上がり、二重口縁に近い形態である。いずれも下川津B類。98~102は壺。いずれも頸部の屈曲がきつく、口縁部はほとんど上を向いている。いずれも下川津B類。103~107は底部。103は大型で底が厚い。底部と底部から体部へ立ち上がる部分がきれいに剥離していて、剥離面には指押さえと考えられる凹凸が顕著に残る。103~106はしっかりした平底を持つ。107は小振りなもの。108~114は高杯。108



第35図 SDk06平・断面図 (1/40)



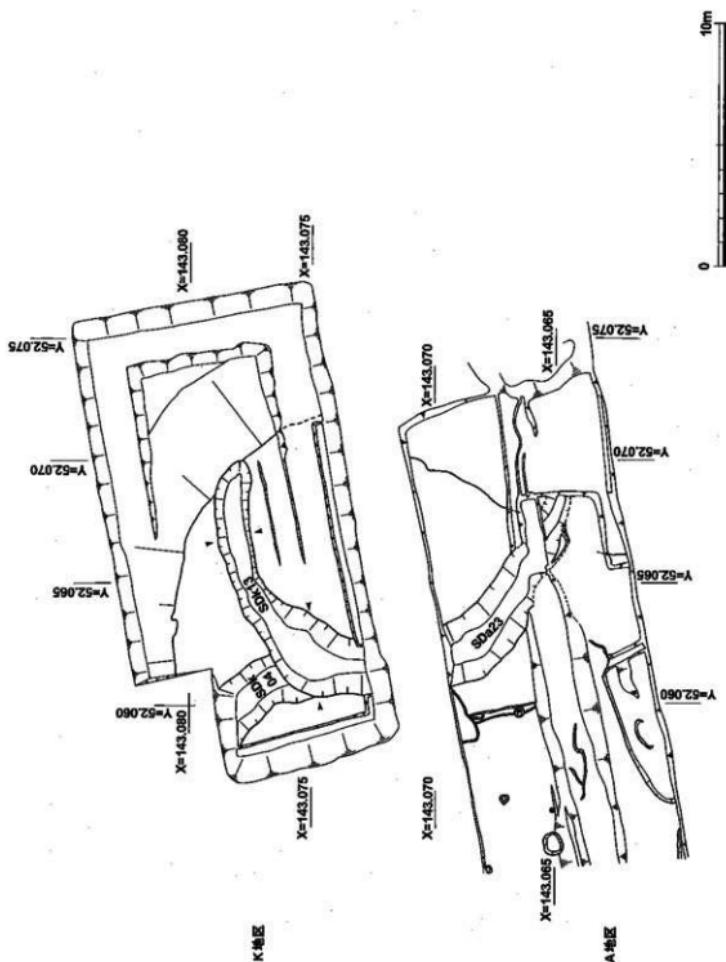
第36図 SDk06出土遺物（1/4）・（1/2）

～110は坏部。いずれも口縁端部上面を平らにし、口縁端部は外側へ延びる。111～114は脚部。111には1ヶ所に穿孔が認められる。端部はまっすぐに立ち上がるものとやや外側へ立ち上がるものがある。111・112以外は下川津B類。115～117は須恵器。115は碗。西村産のもので、体部の輪轂目がはっきりしている。116・117は坏。116は焼成が極めて堅硬で、体部にゴマ状降灰が見られる。117は底部。115は13世紀前半、116・117は8～9世紀代のもので、取り上げ時にあやまってSDk12、SDk21のものが紛れ込んだものと思われる。118・119は打製石器。いずれもサスカイト製。118はスクレイパー。119は上・下部ともに刃を漬している。楔形石器。

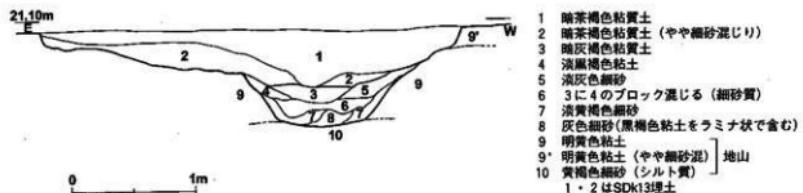
出土遺物の時期は紛れ込みを除けば、弥生時代後期中葉頃～終末期2と考えられる。

#### SDk04（第37・38図）

I-24区トレチ3で検出した溝である。トレチ3は池台池の南西部に当たり、A地区西地区の南東端に北接する。トレチの北東部は池台池の浚渫で造構面は削平されている。SDk04は調査区の南側から北方向へ向かい、緩やかに北西方向へ向く。途中でSDk13と枝分かれする平面形状であるが、断面観察により、SDk04の方が古い。SDk04は幅3.4m、深さ78cm、埋土は暗灰褐色粘質土、淡黒褐色粘土などで、下部には地山ブロック・細砂の堆積層がみられ、一定量の流量があったことが窺える。断面形状は逆台形を示す。A地区西地区ではSDk04・SDk13に連続する溝はSDa23しかなく、この溝の断面形状や土層の堆積状況から、2条の溝は重複したままSDa23へ続くと考えられる。遺物はいずれもSDk04とSDk13部分の重なっている部分から出土したが、取り上げ時の絵符の注記の埋土からいずれもSDk13に



第37図 SDk04 • 13 • SDa23平面図 (1/200)



第38図 SDk04断面図 (1/40)

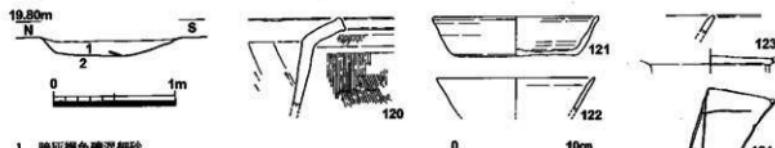
よるものと考えられる。なおSDa23では弥生時代後期の土器の細片が出土しており、溝の時期もその時期におかれているが、今回は明らかにSDk04の埋土から出土したと考えられる遺物はなかった。

### 3. 古代の構造・遺物

SDk11 (第39図、図版24)

I-23区南東隅で検出した北西から南東方向へ向く溝である。幅1.1m、深さ10cm、底のレベルは19.56m、埋土は暗灰褐色疊混細砂である。埋土中からは土器壺小片、須恵器壺などが出た。この溝の延長部分がA地区南地区で検出されていないこと、I-26、I-28で検出したSDk12の延長部もまた同地区で検出されず、両者の規模や埋土、出土遺物の時期が類似することから、両者は屈曲する同一の溝の可能性が高い。SDk11は連続するSDk12とは直交していない。この溝の時期は出土遺物から8世紀後半～9世紀前半頃と考えられる。

120は土器壺。胴部は丸みを持たず、口縁端部は四角くする。121～124は須恵器。121は壺A。焼成は悪く、底部には時計回りのヘラ切り痕を残す。122は口縁端部に重ね焼き痕跡を残し、内面にはゴマ状降灰がみられる。123は口縁端部小片。124は高台壺底部。細い高台痕跡がみられるが、大半は欠けている。底部には十字のヘラ書きがみられる。



第39図 SDk11断面図・出土遺物 (1/40)・(1/4)

SDk12 (第40～42図、図版12・24～26)

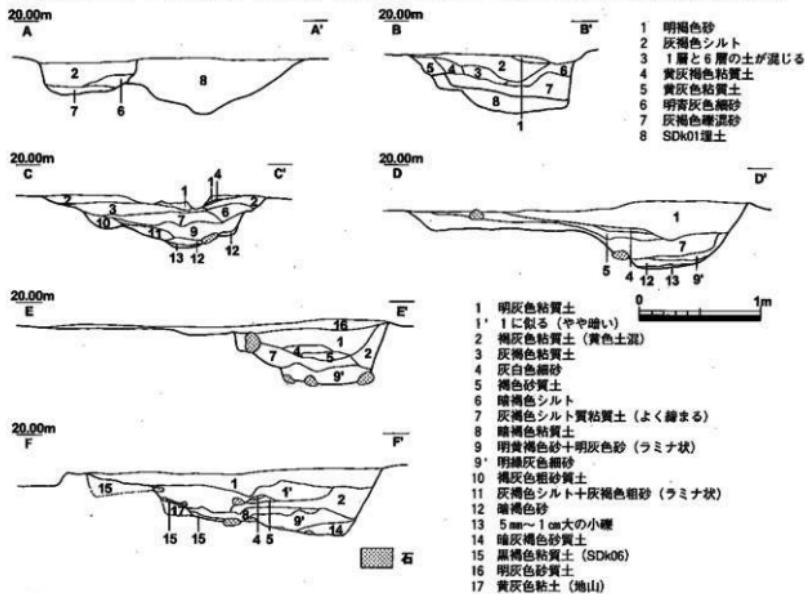
I-26・28区の南端部付近で検出した溝である。I-26区南端部中央付近から北東方向へ延びる溝で、幅1.2m前後、深さ45～50cm、断面形状は逆台形である。埋土は大まかに言えば上層に褐灰色～灰褐色粘質土、中層によく締まった灰褐色シルト質粘質土、下層は砂層を中心とする層で、最底部に小礫が混じる部分もある。この溝はSDk11が屈曲して延長していく溝で、SDk11の土層はおおむねこの中では下層の砂層を中心とする層に該当する。溝は当初一定量の流量を持っていたものが、徐々に流れが悪くなり、埋没していくと考えられる。SDk11は周囲の条理型地割とほぼ方向が同じであるが、SDk12へは直角には曲がらず、SDk11からSDk12へ続く溝のラインはSRK03の南肩とほぼ同方向である。この溝の方向は当時の地形に傾斜に規制されたと考えられ、同様の地割りは明治21年の地籍図にまで認められる。

この溝はI-26区でSDk01を切り、I-28区東半部分でSDk06とほぼ全体に重複する。断面観察によりSDk12のほうが新しい。

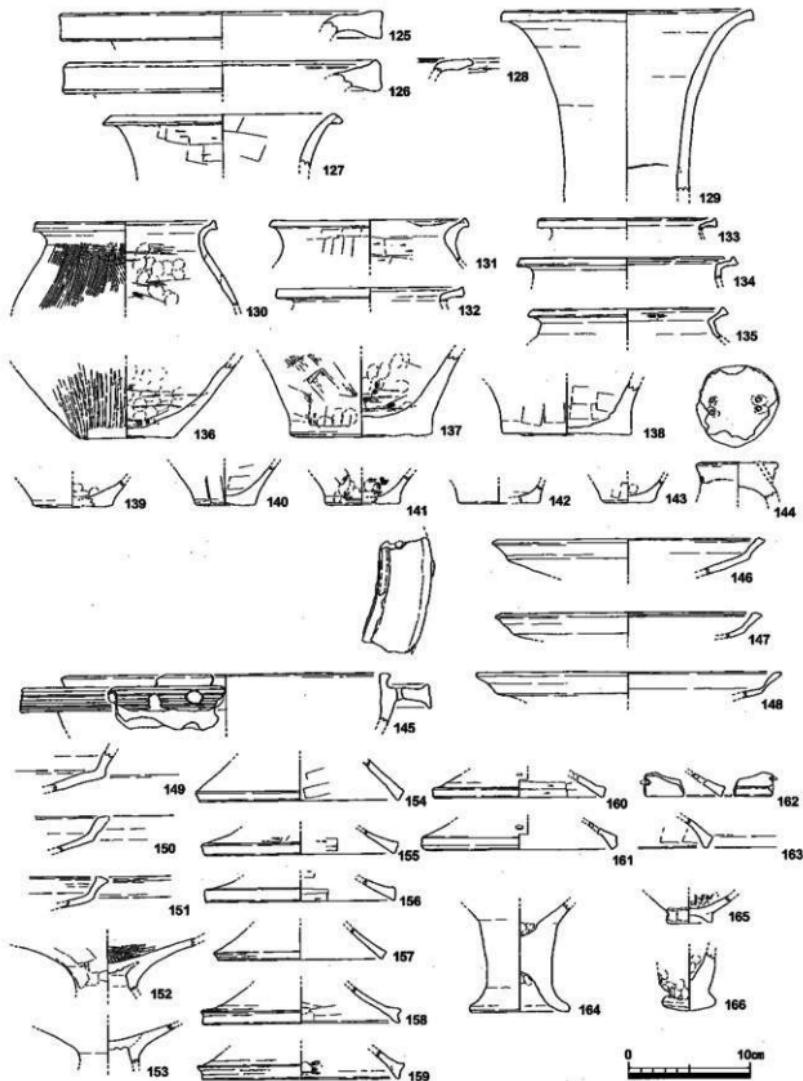
遺物の大半はその種類を問わずSDk06と重複する部分から出土した。

125~166は弥生土器。125~129は壺。125・126は大型の広口壺。127・129は長い頸部を持つもの。130~135は壺。131以外は下川津B類。134・135は頸部と胴部の間にやや直立する部分がある。136~143は底部。136は壺の、その他は壺の底部。136・141は下川津B類。144は蓋。対角線上に2孔1対の穿孔がある。145~163は高杯。145・162以外は胎土中に角閃石を含む。145~153は坏部。145は口縁部下部に突帯を貼り付け、そこに凹線を施した後、円形浮文を貼り付ける。突帯部には1ヶ所穿孔が残る。他の坏部は、口縁端部が四角いものと(146・147・150・151)と丸いもの(148)がある。152・153は坏部と脚部の接合部。152は内面に4方向のヘラミガキが観察できる。153は底部に接合痕跡がみられ、底部を充填した様子がみられる。154~163は脚部。端部を四角く收めるもの(154・155・157・160・162)、やや下方に拡張させるもの(156・161)、端部に緩い凹線があるもの(158・159)がある。内面はおおむねヘラ削りまたは板ナデである。160~162は脚部に穿孔が見られる。164は支脚。165・166は鉢底部。165は碗状で底部を高台風に作っている。166は指押さえ痕を顯著に残し、底部は押し潰したようにして作っている。遺物の時期は一部弥生時代中期のものも含むが、おおむね弥生時代後期前半頃で、これはSDk06の時期を示していると考えられる。

167~169は土師質土器。167は小皿。168は碗。底部小破片。169は鍋。体部はまっすぐで口縁端部は四角くする。170~187は須恵器。170・171は坏口縁部小破片。172・173は坏底部。174~176は坏B底部。177~180は皿A。178は底部に、179は内面に火拂が掛かる。177は焼成状況が悪く、一部土師質のような焼成状況になっている。181~183は蓋。181は外面上半部をヘラ削りで調整する。焼成状況は悪く、

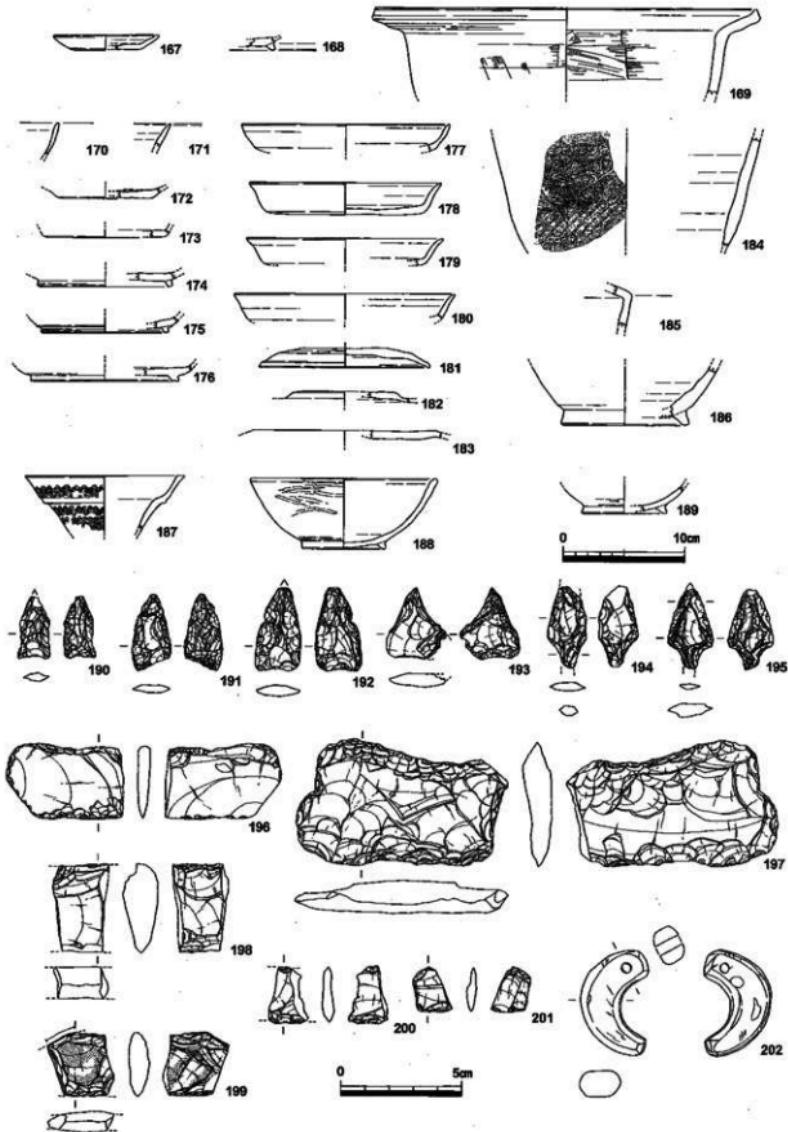


第40図 SDk12断面図 (1/40)



第41図 SDk12出土遺物① (1/4)

土師質のような色合いになっている。これはSDk11、I-26区・I-28区SDk12の接合資料で、SDk11とSDk12が同時併存であることが裏付けられる。182も頂部にヘラ削りをする。184は壺体部。外面に右上がりの格子タタキを施す。上半部はナデにより消されている。185は壺肩部。肩部が稜線を持って屈曲する。186は壺底部。187は縫口縁部。縁部に3段の波状文を施す。SDa44で出土したものとほぼ同時期



第42図 SDK12出土遺物② (1/4) • (1/2)

のもの。188・189は黒色土器A碗。188では外面に横方向のヘラミガキが、189では外面高台の外側に横方向のヘラ削りが観察できる。190~201は打製石器。サヌカイト製。190~195は石鎌。190~193は凹基式。193は未製品。194・195は有茎式。いずれも上部と下部がやや欠損。196はスクレイパー。下部にわずかに刃を作る。197は石廻丁。1ヶ所に抉りが残る。198・199は楔形石器。199は上部に敲打痕があり、両面とも磨滅痕がある。200・201は調整痕のある剥片。202は勾玉。碧玉製。勾玉はSDk06からの混入と考えられる。

混入と考えられる遺物を除けばおおむね9世紀前半頃の遺物が出土しており、遺構の時期はその頃と考えられる。

#### SDk13（第37・43図、図版11・27）

I-24区トレント3で検出した2条の溝のうちの1条である。調査区の南側から北方向へ向かい、すぐ東方向へカーブするが、大半は池台池の浚渫により失われる。幅1.32m、深さ42cm、断面形状はボウル型を呈する。埋土はおおむね暗茶褐色砂質土または粘質土で、間層に灰白色細砂のラミナ層が堆積する。この2つの溝は土層断面からSDk13が新しく、その下部にSDk04が堆積する。この2つに溝は南部で重なってSDa23へ続くと考えられる。

203・204はSDk04との重複部分から、205・206は重複していない部分から出土した。203・204は出土した層位からSDk13から出土したと判断した。

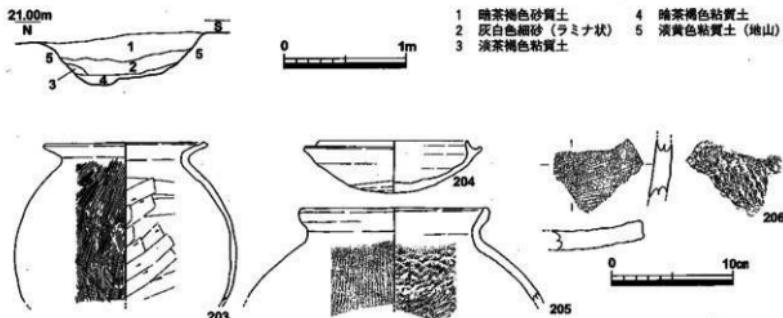
203は土師器壺、丸みを持つ体部で、外面はハケメ、内面はヘラ削りする。204は須恵器壺身。退化した返りを持ち、底部をヘラ削りする。205は須恵器壺。外面は格子タタキを施した後、カキ目を施す。内面には青海波文が残る。206は平瓦。須恵質で凹面に布目痕、凸面に繩タタキ目が残る。

溝の時期は、平瓦の時期より下がるもの、埋土中からは遺存状態のよい6世紀末頃の遺物が多く出土しており、溝の時期もその頃としたい。延長部であるSDa23からはコンテナ1/8ほどの弥生時代後期の土器細片が出土しており、溝の時期もその時期とされていたが、この溝はSDk04・13が重なっていることから、SDk04部分を弥生時代後期の、SDk13部分を6世紀末頃の所産としたい。

#### 4. 中世の遺構・遺物

##### SDk14（第44図、図版27）

I-23区東部やや南寄り、SRk03の南側の低地部分で検出した東西方向の溝状遺構である。溝のラインは不定形で、幅1.2m、深さ20cm、埋土は淡灰褐色細砂混粘質土（地山粘土ブロック少し含む）である。SDk15・16とは同一のライン上に並び、別遺構として報告したが、同一遺構の可能性が高い。また、



第43図 SDk13断面図・出土遺物 (1/40)・(1/4)

I-23区南壁土層では遺構面の上部に遺構の埋土と同様の土層が堆積しており、深い部分が遺構として残ったと考えられる。溝の時期は出土遺物から13世紀代と考えられる。

207・208は土師器坏。208の底部は、残存部分が少なく明確ではないが、糸切り痕の可能性がある。  
SDK15（第44図）

I-23区中央部南寄り、SDK14とSDK16の中間で検出した。幅40cm、深さ8cm、埋土は淡灰褐色細砂混粘質土（地山ブロックを少し含む）で、SDK14・16と同じである。埋土中からは摩滅した下川津B類の弥生土器が出土しただけであった。

SDK16（第44図、図版27）

I-23区SDK15の東側約1mの位置で検出した溝である。幅1.3m、深さ14cm、埋土は淡灰褐色細砂混粘質土である。SDK14・15とはほぼ同じライン上に位置し、埋土も類似することから、これらとは同一の遺構である可能性が高い。埋土中からは紛れ込みと思われる摩滅した弥生土器のほか、9～13世紀代の須恵器坏、土師器坏などが出土した。遺構廃絶の時期はおおむね13世紀代と考えられるが、掘削の時期は9世紀まで遡れるかどうかは検討を要する。

209は土師器坏。底部には糸切り痕が残る。13世紀中頃。210・211は須恵器坏。210は内外面に火拂が残る。9世紀代。211は底部に粗いヘラ削りがある。6世紀代か。

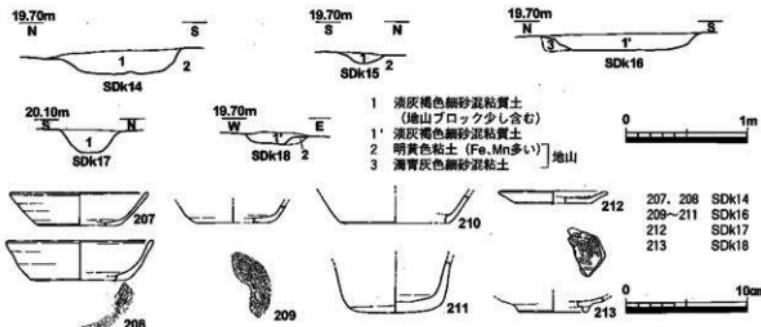
SDK17（第44図）

I-23区南端部で検出した溝である。北西から南東方向を向き、SDK11と方位はほぼ同じで、周辺の条里型地割とはほぼ同方向である。幅52cm、深さ18cm、底のレベルは19.82mで、埋土は淡灰褐色細砂混粘質土（地山粘土ブロック少し含む）である。埋土中からは摩滅した弥生土器のほか、土師質土器小皿、坏底部が出土した。遺構の時期は土師質土器小皿から12世紀後半～13世紀前半と考えられる。A地区南地区SDK47～49と連続する位置にあり、底のレベルがおおむね一致することから、やや規模は小さいものの、その延長部と考えられる。

212は土師質土器小皿。

SDK18（第44図）

I-23区西端部で検出した南から北へ流れる溝である。SRk03、SDK02、SDK16を切る。幅52cm、深さ8cm、埋土は淡灰褐色細砂混粘質土（地山粘土ブロック少し含む）で、SDK16等と類似する。埋土中からは黒色土器A碗が出土している。遺構の切り合い関係から溝の時期は13世紀以降としたい。なお、この溝は池台堤防の下部に当たる。



第44図 SDK14～18断面図・出土遺物 (1/40)・(1/4)

213は黒色土器A碗。内面にヘラミガキ痕跡が残る。

SKkl11（第45~47図、図版12・27~29）

I-25区とI-27区にまたがって検出した円形の土坑である。直径3.0m、深さ75cm、埋土は上層が灰褐色粘土、下層は褐灰色砂混粘土で、中央部直径70cmの範囲で暗褐色粘土が堆積する。埋土中には多量の川原石が投棄されていた。縄は直径1.7mの範囲のおむね縁辺上に集中して検出できたが、組んでいるような痕跡は認められず、井戸などの構造物とは考えにくい。調査時に湧水もあり見られなかつた。縄に混じて土師器壺・小皿・足釜、須恵器壺などの土器が多量に出土したほか、センダンの果実が出土した。センダンは特に中世の集落で多い傾向が見られる（第4章 自然科学調査の成果）。また、底付近からは板状の木片が出土した。

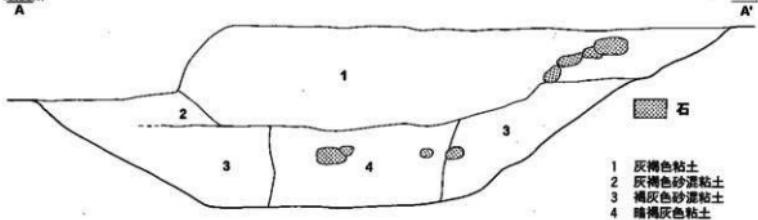
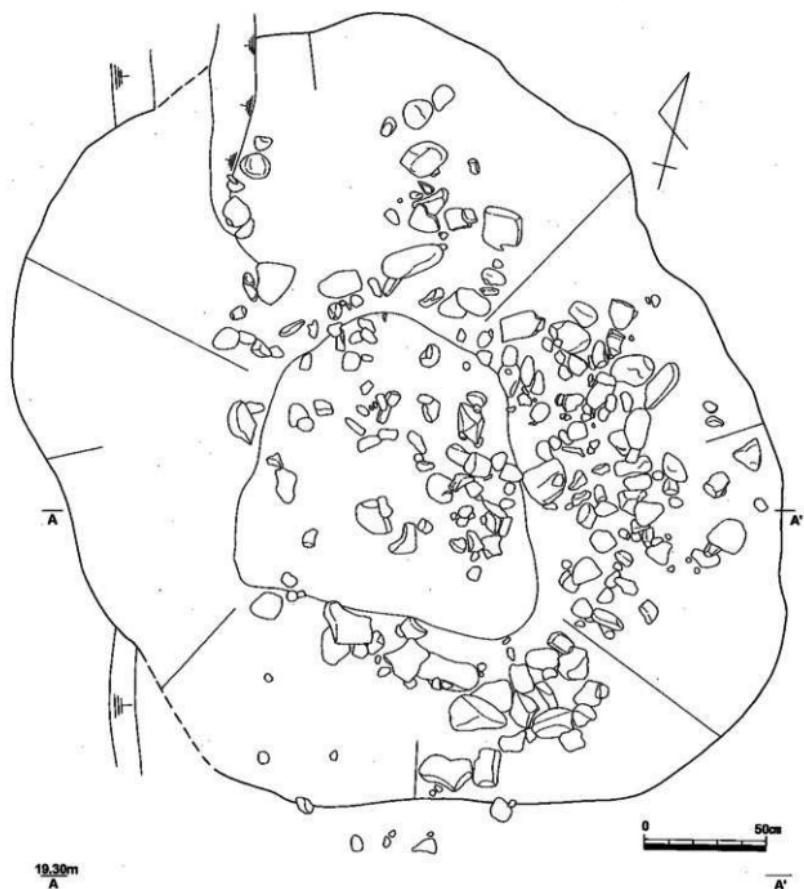
214~216は弥生土器。214・215は壺頸部。214は頸部から胴部にかけて多条のヘラ描き沈線を施し、頸部中ほどには刺突文を施す。215は頸部に12条のヘラ描き沈線が残り、その中ほどには刺突文が残る。214とは同一個体の可能性がある。216は壺底部。しっかりした平底を呈し、外面はていねいにヘラミガキする。いずれも弥生時代前期末頃と考えられ、SRk01からの紛れ込みと考えられる。217~222は土師質土器小皿。いずれも底部にヘラ切り痕を残し、口径は5.7~6.2cm、器高は0.8~1.1cmに収まる。222は底部に板状圧痕を残す。221は口縁端部まで残っていないが、底部径から小皿の可能性が高いと考えられる。ヘラ切り方向は判明するものはいずれも時計回りである。223~249は壺。口径9.4~12.3cmで、底部切り離し痕が残るものはいずれもヘラ切りで、ヘラ切り方向のわかるものはいずれも時計回りである。器壁の薄いものが目立つ。223は轆轤目が顕著に残る。226・231・238は体部に粘土の継ぎ目痕跡が1~2ヶ所に残る。いずれもおおむね坏D II-5~7に当たる。232・238は口縁端部に重ね焼きの痕跡が、233・234は底部に板状圧痕が、231には体部内面と底部外表面の一部に煤が付着する。250~253は鍋。250は外面を板ナデで調整し、口縁端部は上部へ引き上げる。外面には煤が付着する。253は口縁端部を四角くし、体部は丸みを持つ。外面には煤が付着する。251・252は口縁部破片。254~263は足釜。おおむね桶井分類B II形態。254は底部に右上がり、左方向への格子タタキ痕跡が残る。256は外面に縱方向のハケメを施す。内面はいずれも横方向の板ナデを施す。その他は板ナデ、指押さえ以外の調整痕跡はほとんど残さない。いずれも鋤はやや短めで、鋤から上は長め、外面鋤から下側には煤が付着する。鋤の接合方法は258・259でわずかに鋤から口縁にかけてを接合した痕跡を観察できただけで、大半は断面観察ではわからなかった。桶井編年II-1（14世紀前半）。265~267は足釜脚部。268は擂鉢。口縁端部が上方へ大きく引き上げられる形態で、14世紀末~15世紀前半に見られる形態。269は壺の鋤部か。270~277は須恵器。270~273は壺。270・271は底部にいずれも時計回りのヘラ切り痕を残し、轆轤目を頸著に残す。口径は12.1~12.6cm、器高は3.1~3.7cmである。271・273は口縁端部に重ね焼き痕跡を残す。273は外面にわずかにヘラミガキが観察できる。274は壺口縁部。口縁端部に段を持ち、外面は斜め方向のカキ目を施す。275は壺底部。亀山焼。外面は右下がり、右から左への格子タタキ痕跡が見られる。内面は板ナデ。276・277は東播系捏鉢。276は口縁端部を上方へ引き上げる形態、277は端部を丸く收める形態である。277はわずかに片口部分が残る。278は打製石器。スクレイパー。サヌカイト製。279は板状の木製品。半分程度は折損。角は丸くしてある。片面側には斜め方向の擦痕が観察できる。

出土した遺物はおおむね佐藤編年II-5期の時期に収まるもので、遺構の時期はおおむね13世紀後半~14世紀前半頃と考えられる。

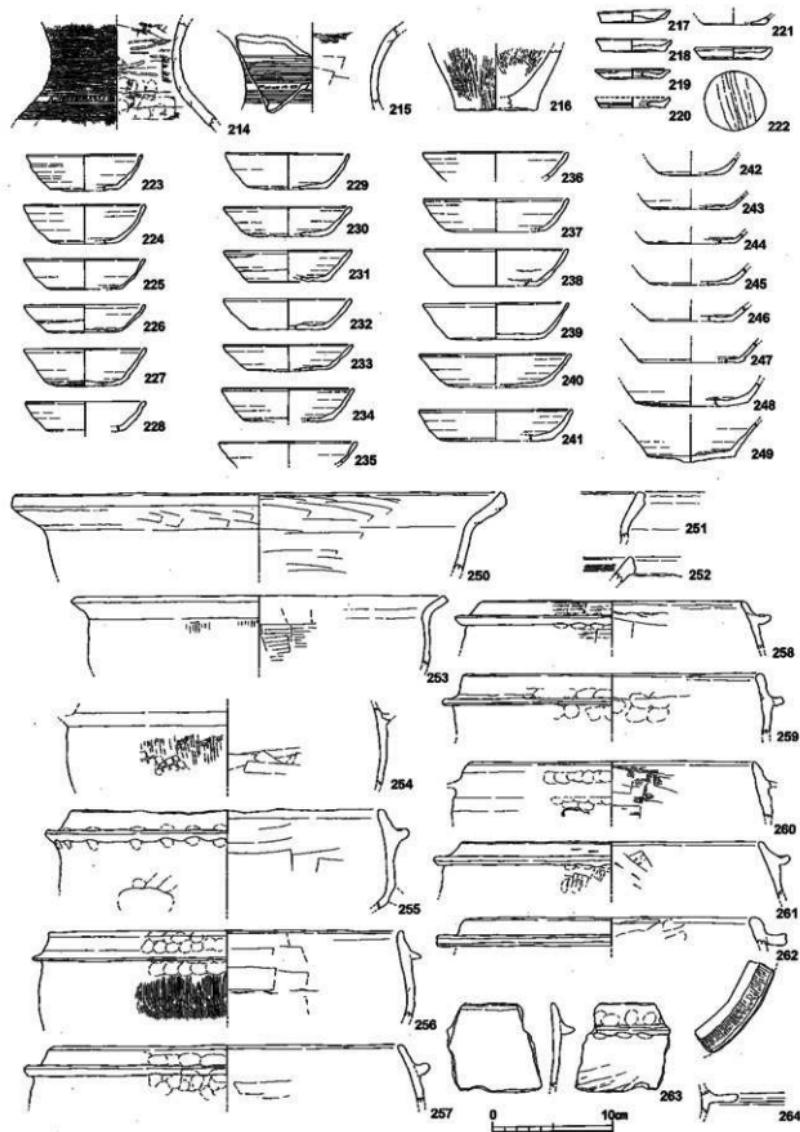
SKkl12（第48図）

I-27区北東部で検出した土坑である。長楕円形で、長径1.8m、短径1.1m、深さ17cm、埋土は褐灰色砂質土である。埋土中からは土師質土器鏡口縁部破片が出土した。

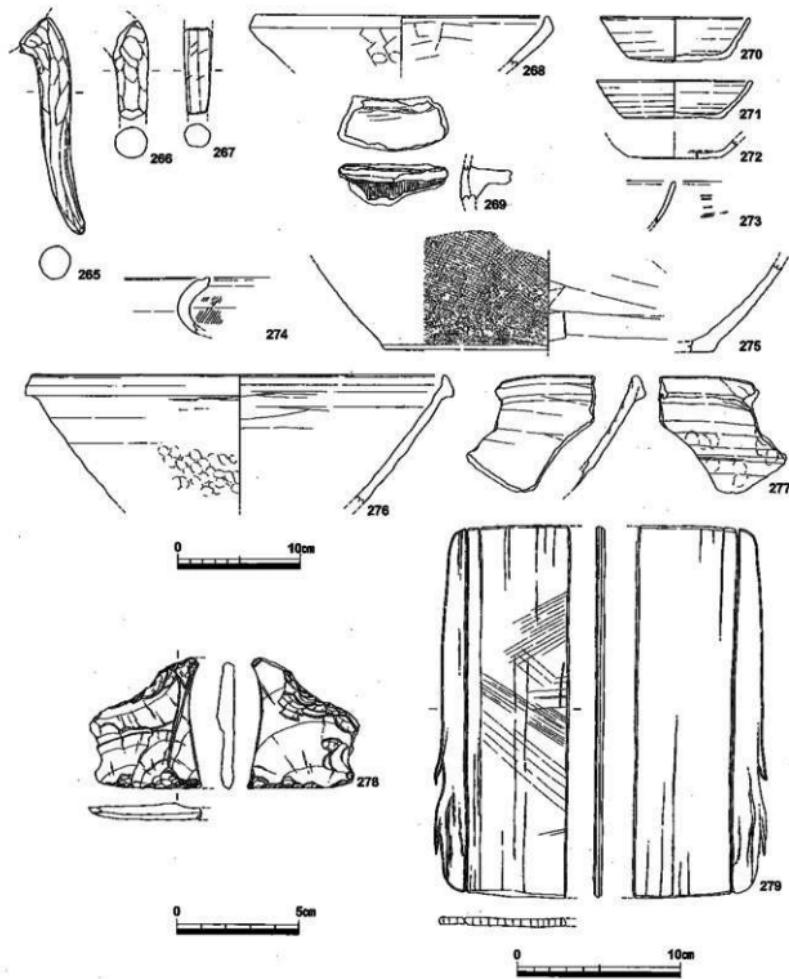
280は土師質土器鏡。口縁端部は四角く、口縁部と体部の境の屈曲が緩い。



第45図 SKk11平・断面図 (1/20)



第46図 SKk11出土遺物① (1/4)

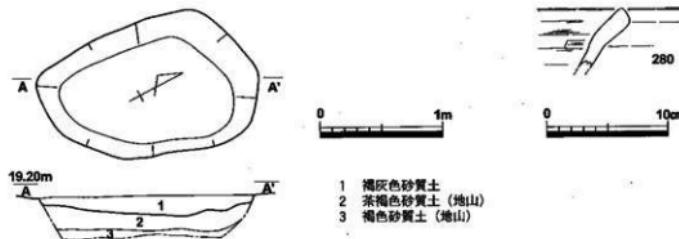


第47図 SKk11出土遺物② (1/4)・(1/2)・(1/3)

SXk11 (第49図、図版29・30)

I-23区南端部、中央付近で検出した不定形の遺構である。深さはおおむね14cmで、埋土は淡灰褐色細砂混粘土質（地山粘土ブロックを少し含む）である。同様な埋土や灰白色細～中砂の埋土を持つ不定形の遺構はSRk03の南側一帯に広がり、いずれも洪水砂層の残骸と考えられる。この洪水砂はI-26・28などでもSRk03の南岸で検出されている。埋土中からは摩滅の進んだ弥生土器のほか、土師質土器壺、小皿、平瓦、須恵器壺などが出土した。

281～283は土師質土器。281は小皿。口径9.8cmを測る。282は壺底部。底部は回転糸切りによる。283



第48図 SKk12平・断面図・出土遺物 (1/40)・(1/4)

は坏D口縁部片。輻轍目が顯著。284は黒色土器A碗。小破片。内面にヘラミガキ痕が残る。285～287は須恵器。285・286は碗。285は底部内面に放射状に広がる板ナデ痕跡が残る。底部外面には時計回りのヘラ切りと板状圧痕を残す。286は内面にヘラミガキをする。287は亀山焼壺部。外面は格子タタキ目、内面にはハケメ痕を残す。小片のため傾きは不確。288は瓦器碗。内外面ともにヘラミガキを施し、外面には指押さえが残る。289は白磁皿。290は丸瓦。須恵質の作りで凸面に横方向の板ナデ痕を残す。291は平瓦。須恵質で、凹面には布目压痕があるが、端部近くはやや広い範囲で布目をなで消している。凸面には繩タタキ目痕を残す。292は全体に磨滅してすべすべしている。石材不明。道具ではなくただの川原石の可能性もある。

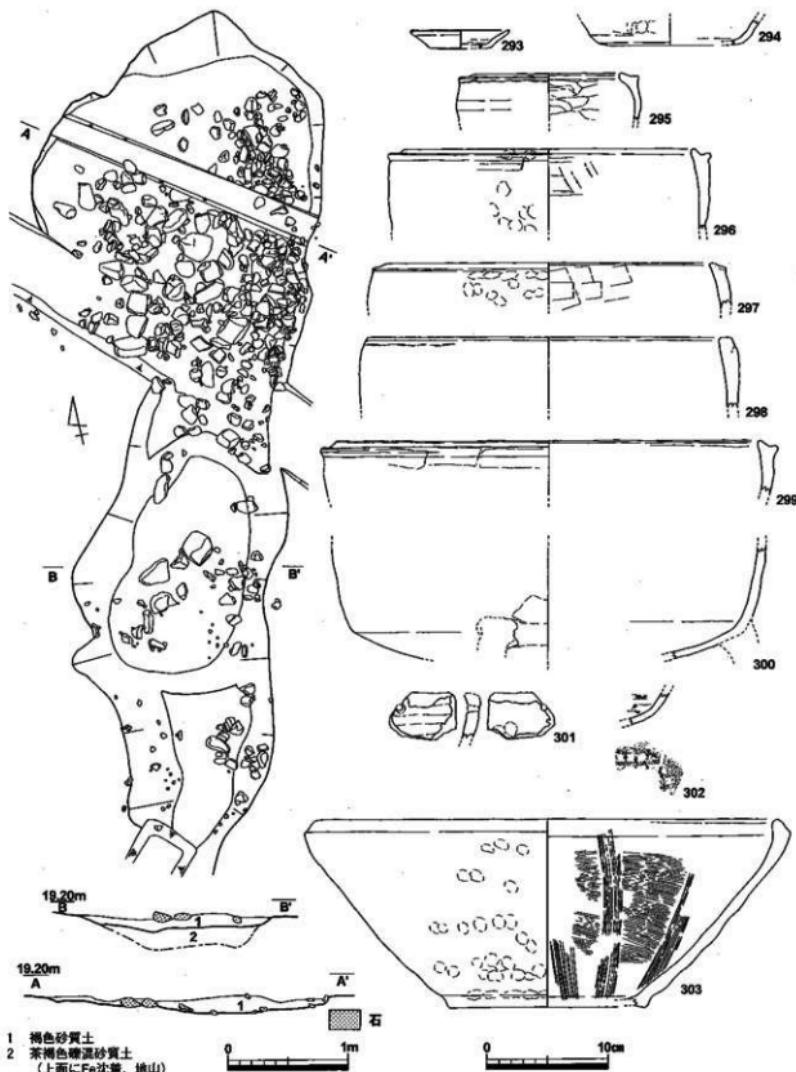
遺構の時期はおおむね12世紀後半～13世紀中頃と考えられる。この砂層は地形に合わせるようにI-26でも点々と残る。SXk11南端では、西側と東側で一部に南側へ溝状に延びる遺構があり、これらはそれぞれA地区南地区SDa47～49へ続くと考えられる。



第49図 SXk11断面図・出土遺物 (1/40)・(1/4)・(1/2)

SXk12 (第50図、図版13. 30)

I-27区北東部で検出した集石遺構である。長椭円形状に礫が広がるが、主に北半部の直径約2.3mの範囲に集中し、残りは疎らである。礫は直径10cm程度～25cmまであり、大きめの礫には一部焼けている



第50図 SXk12平・断面図・出土遺物 (1/40)・(1/4)

ものもある。深さは12cm程度で断面形状は浅い皿型、埋土は褐色砂質土である。疊に混じって土師質土器擂鉢・足釜・壺、備前焼擂鉢、サヌカイト小片などが出土した。疊を集めて盛り上げた、これと類似する遺構はA地区北地区でも2基検出しており、時期もほぼ同時期である。この時は畦道を想定して調査を進めたが、結局性格を明らかにはできなかった。明治21年地籍図の遺存地割にもこれに沿うような地割りはなかった。遺構はI-27に広範に広がる包含層の上面で検出した。

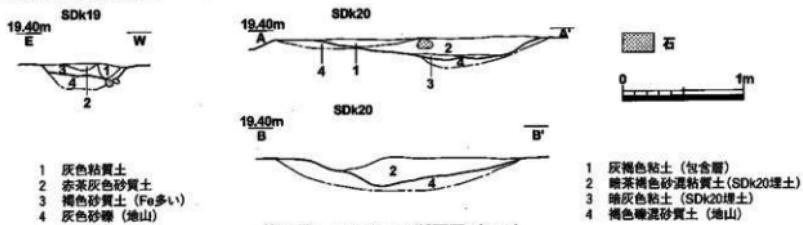
293~303は土師質土器。293は小皿。口径8.2cm、器高1.5cmを測る。294は壺。小破片。295~302は把手付鍋。302は底部に格子タタキ目を持つ。301は体部に1ヶ所穿孔が見られる。303は擂鉢。内面に横~斜め方向のハケメを施した後、6条1単位の卸目を施す。遺構の時期は出土遺物から16世紀頃と考えられる。

#### SDk19（第51図）

I-27区中部付近で検出した南東から北西方向へ向かう溝状遺構である。検出長9.4m、幅65cm、深さ9cm、埋土はおもに褐色砂質土で、上部に赤茶灰色砂質土・灰色粘質土が堆積する。方向はSDk20やSRk01と同じである。埋土中からはサヌカイトの小剥片がわずかに出土しただけであった。この溝は『山田郡下村順道図絵』（文化15年、1819）に現れる地割のラインや明治21年地籍図に記載される溝、またはそれに先行する溝である可能性が高く、やや湾曲しながらA地区北地区SDa05またはSDa12、SDa17へと連続する可能性がある。SDk19の約7m南西方向に、方向を同じくするSDk20があり、相前後して營まれた溝であるか、またはやや幅は広いものの、道状遺構をなす可能性もある。溝の時期は不明であるが、A地区で中世の溝としているSDa05がSDk19またはSDk20に連続すると思われる所以、この溝の時期も中世としておきたい。

#### SDk20（第51図）

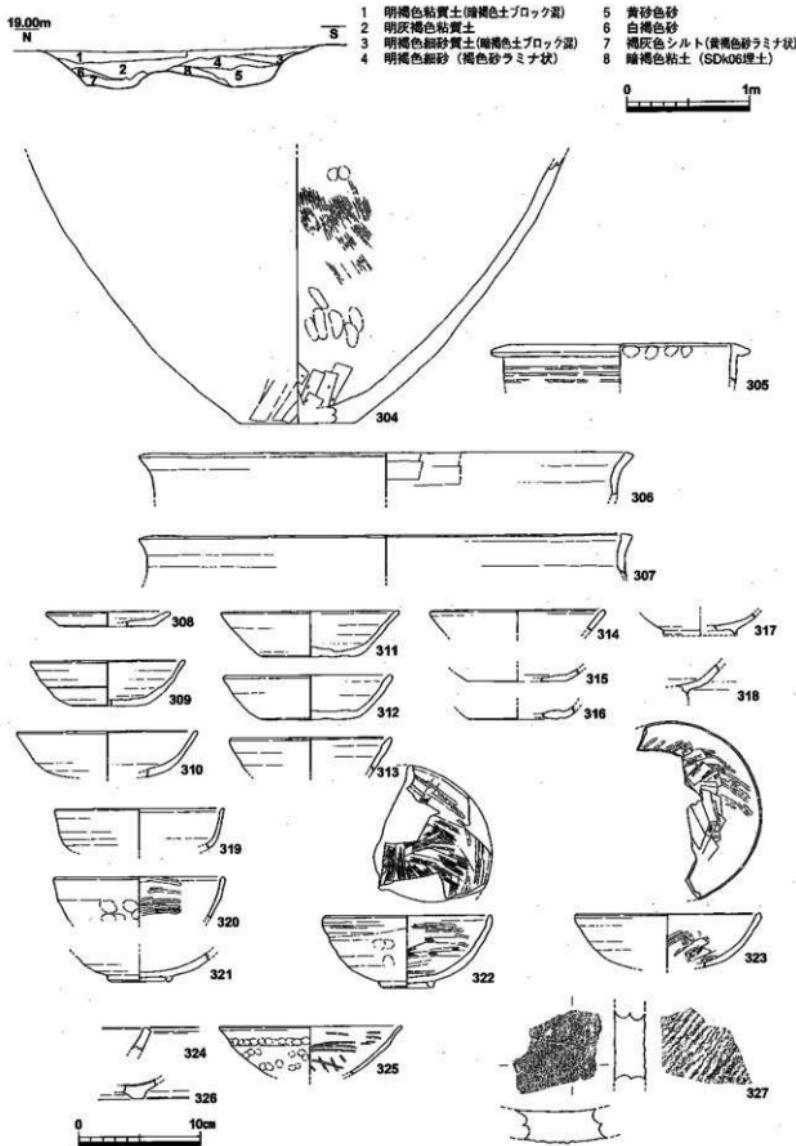
SDk19の南西側約7m離れた位置で検出した溝状遺構である。検出長17m、幅2.1m、深さ22cmで、埋土は暗茶褐色砂混粘質土である。埋土中からは摩滅した弥生土器のほか須恵器壺・壺などが出土した。SDk19と同様、『順道図絵』や明治21年地籍図に記載される溝またはそれに先行する溝である可能性が高い。また、前述したSXk12はこれらの溝に直交する方向を示す。埋土中からは須恵器壺・壺等や土師器小片が出土したが、所属時期を示しているかどうかの決定は難しい。この遺構は灰褐色粘土の中世遺物包含層の下部にある。A地区北地区で、溝の番号は付けられていないが、SDa05の約7m南西側に溝状遺構があり、屈曲しながらA地区北地区へ続いている可能性がある。溝の時期はSDk19と同じ理由で中世としておきたい。



第51図 SDk19・20断面図 (1/40)

#### SDk21（第52図、図版30・31）

SDk12の北側30cm~2.4m、SDk22の南側約50cmの位置に平行して流れる溝である。幅2.3m、深さ30cm、底のレベルは18.5mで、埋土は上層が明褐~明灰褐色粘質土、下層は黄褐色~白褐色砂である。溝の底部は二叉状になっており、2条の溝が1条につながったような形状である。下層部は砂層で、SDk



第52図 SDk21断面図・出土遺物 (1/40)・(1/4)

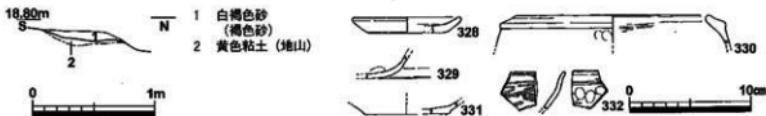
22と同様洪水砂の残りと考えられる。埋土中から紛れ込みと思われる弥生土器のほか、須恵器壺・壺、土師器壺などが出土した。溝の時期はSDk22と同様と考えられ、極めて近接した時期の遺構と考えられる。I-23区でもSRk03の南側に並行する溝SDk14~16が検出されており、これらとも同一の遺構の可能性も考えられる。

304~307は弥生土器。いずれもSDk06またはSRk03からの混入と考えられる。304は壺底部。大型のもの。305は壺。弥生時代前期末頃。逆L字型口縁で、ヘラ描き沈線が3条残る。摩滅が著しい。SRk03からの紛れ込みか。306~307は高壺。いずれも小破片で、口径・傾きは不確か。306は角閃石を含む。304~306~307はSDk06からの紛れ込みと考えられる。308~318は土師質土器。308は小皿。底部はヘラ切りによる。309~316は壺。おおむね口径は12.6cm~14.7cm。器高は3.6cm前後である。底部が残るもののはすべてヘラ切りで、311、312は時計回りのヘラ切り痕跡が確認できる。317~318は碗。319~323は須恵器。319は壺。320~323は碗。320は内面に横方向のヘラミガキを施し、口縁端部から体部外面上半部にかけて重ね焼きの痕跡が残る。321は底部。ヘラミガキの痕跡はみえない。322~323は内面上半を横方向にヘラミガキし、下半を中心から放射状に薄いハケメを施す。外面にはヘラミガキ痕跡はみえない。須恵器碗はいずれも西村産のもの。324は壺または壺の口縁端部。小破片。焼成は瓦質。325は瓦器碗。内面の見込みには格子状の、体部には横方向のヘラミガキを施す。外面には指押さえ痕を顯著に残す。和泉産。326は白磁碗底部。内面は施釉、外面には残存範囲では釉は認められない。327は平瓦。須恵質。外面は斜め方向の綫タタキ痕、凹面は布目压痕を残す。出土遺物から遺構の時期は12世紀後半~13世紀前半頃と考えられる。

#### SDK22 (第53図)

I-28区を南東から北西へ流れる溝である。SRk03の南側縁辺部約5mの場所を同じ方向で流れ、SDk21の北西側に接して流れる。幅1.0~2.0m、深さ20cm、底のレベルは18.6m、北側の肩はSRk03の影響でベースが低く、はっきりとはしない。埋土は白褐色砂、褐色砂である。溝の肩が不明確で、埋土も砂が中心であることから、恒常的な溝ではなくて、洪水砂が及んだものかもしれない。埋土中からは土師器壺、瓦器碗、須恵器壺などが出土した。

328~330は土師質土器。328は小皿。底部はヘラ切り。329は壺。小破片。330は足釜口縁部。口縁端部は退化が著しく、16世紀代のものと考えられる。他の遺物に比べ後出する。331は須恵器壺。底部。9世紀後半頃。332は瓦器碗小片。内面にヘラミガキ、外面には指押さえ痕が残るが、ヘラミガキもわずかに残る。出土遺物の時期に幅があるが、おおむね12世紀後半~13世紀前半頃のものが多く、溝の時期もそのころと考えられる。



第53図 SDk22断面図・出土遺物 (1/40)・(1/4)

#### SDK23 (第54図)

I-26~28区の南部を西北西から東北東へ向けて流れる溝状遺構である。SDk21~22の北西に接して流れるが、SDk22同様溝の肩は不明確で、北側の肩はSRk03の影響でベースが下がっていて検出できまい。埋土は砂層であった。埋土中からは須恵器壺や瓦などが出土した。

333は須恵器壺B。高台の退化が著しい。底部内面にヘラ描きがある。摩滅が著しい。334は平瓦。側端部は横方向の擦痕が残り、凸面側の近くにやや太目のバリ状の痕跡が残る。凹面には布目压痕、凸面



第54図 SDk23断面図・出土遺物 (1/40)・(1/4)

には縄タタキ目痕が残る。

## 5. 自然河川の遺構・遺物

SRk01 (第55図、図版15・17)

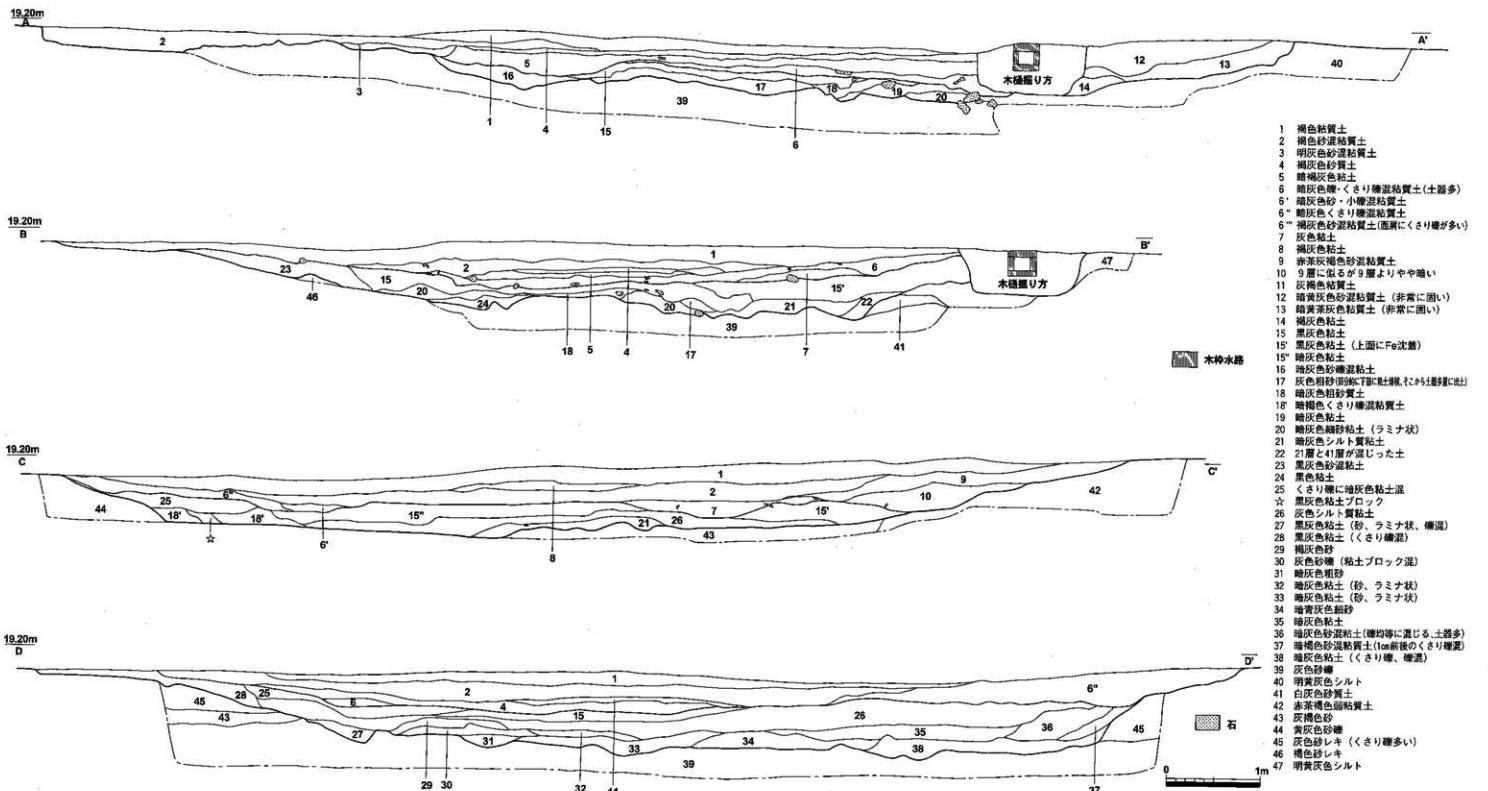
I-25・I-27・I-26に亘って検出した自然河川である。この流路はA地区北地区の池台池の下部で検出したSRa02の延長部である。幅は、一部後世の暗渠水路に破壊されているものの、10.5m～12.4m、深さは67cm～80cmである。底のレベル差は北西側が南東側より40cm程度高いことから、水の流れは北西から南東方向へ流れていると考えられる。断面形状は浅い皿状である。埋土はおおまかに上層と下層に分層し、遺物の取り上げもそれに従った。上層は層厚が37.5cm、埋土は上部が主に灰褐色粘質土・砂混粘質土・砂質土層で、土壤化が進んでいると見られる。下部は暗灰色疊・クサリ疊・粗砂混粘質土層で、この層がおおむね上層の最下部となり、上層では出土遺物の多くがここから出土した。下層は層厚27.5cm程度、埋土は上部が黒灰色粘土層、下部が黒灰色粘土で、部分的にシルト・砂・小疊などが混じる。A地区北地区では下層のうちの上部を上層、下部を下層としており、上層部分は池台池の浚渫により遺存していなかった。滞水状態が長く続いたような堆積状況で、自然河川というより湿地状態が続いたと思われる。下層では底付近から土器がまとまって多量に出土した。埋土中からは28ℓ入りコンテナで、I-25から30箱、I-27から17箱、I-26から17箱分の土器が出土し、3条の自然河川のうちで最も多くの土器が出土した。一部弥生時代中期後半頃まで下がるものも含まれるが、おおむね弥生時代前期後半～中期初頭までのものである。

遺物の掲載は、上層出土のものは各地区を通して器種ごとに掲載したが、下層出土遺物は大量にあるため、地区ごとに掲載し、そのなかで器種ごとに掲載した。出土層位不明の遺物についても地区ごとに掲載した。

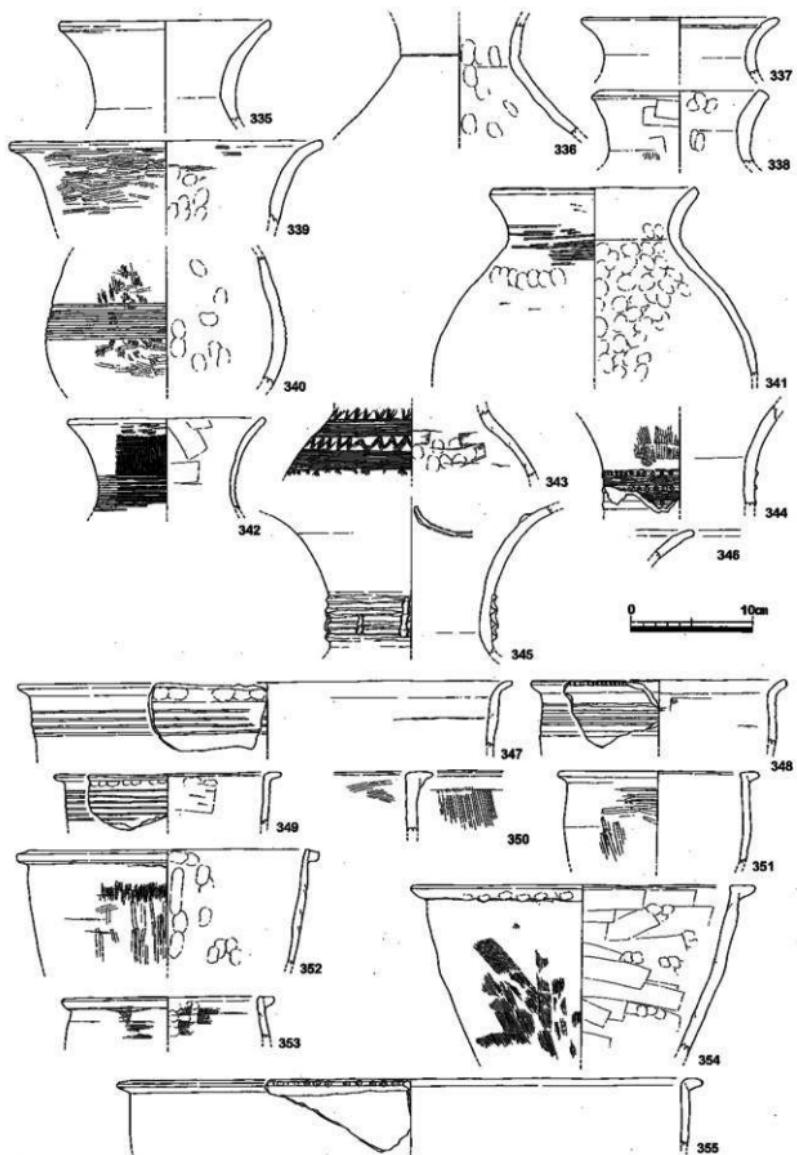
〈上層出土遺物〉 (第56～58図、図版31～34)

335～394は上層から出土した遺物である。335～346は壺。335・337・338は頸部が無文のもの。頸部がやや長めのもの (335) と短めのもの (337・338) がある。337は頸部内面に沈線が1条巡る。336は頸部に段があるもの。340～343は頸部または肩部にヘラ描きまたは櫛描沈線を持つ。340は頸部から上を欠くが、胴部最大径よりやや上に7条のヘラ描き沈線を施す。341・342は頸部に多条の櫛描沈線を施す。341は短めの頸部で体部は丸みを持つ。342はやや長めの頸部を持つ。343は体部上半の破片。櫛描沈線の間に櫛描波状文を施す。344・345は頸部の括れ部に突帯を持つ。344は3条の貼付突帯が残り、貼付突帯の上面に刻目を付ける。突帯と突帯のあいだはヘラミガキをする。345は内面加飾の壺。頸部には4条の貼付突帯を付け、その上から縱方向の棒状の突帯を付ける。棒状の突帯は貼付突帯の最上段から最下段まで及ぶものが1ヶ所、最下段から3条目までしか及ばないものが3ヶ所残る。頸部の残存量は3/8程度であり、長めの棒状突帯は多くて2ヶ所、残りは短めの棒状突帯であろう。貼付突帯は一部剥離している個所があるが、その部分には浅い沈線が残されており、突帯を貼る部分に目印を付けたと考えられる。内面には連弧状に貼り付けた突帯が残る。

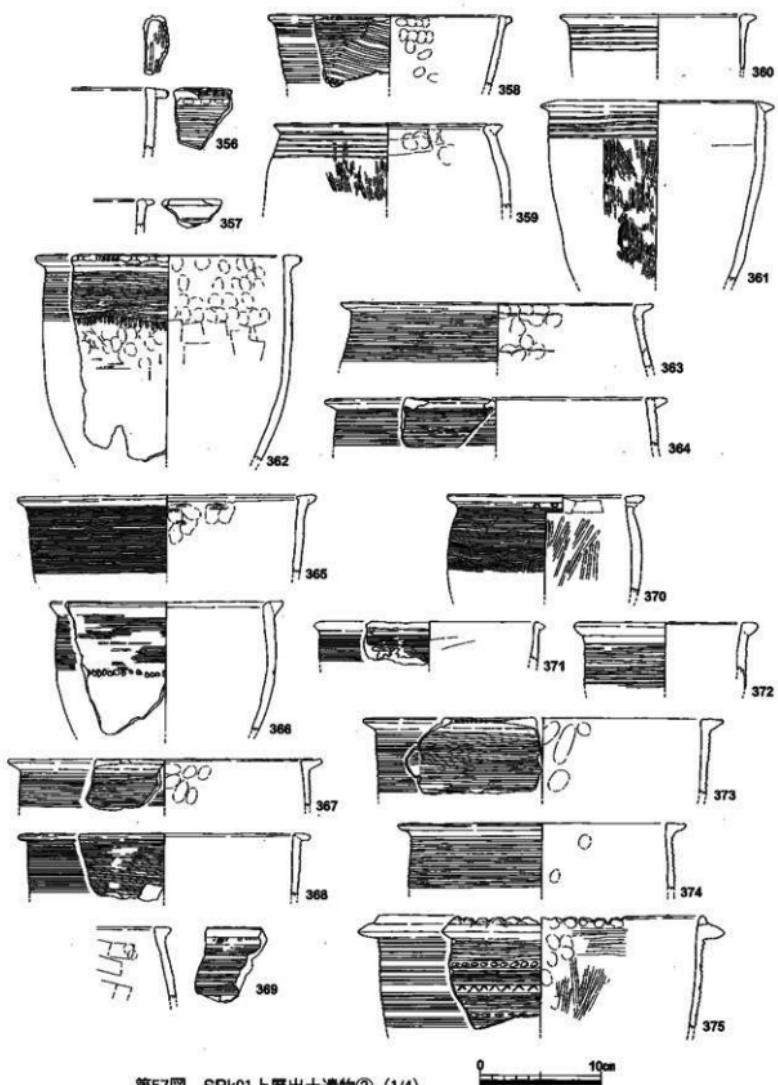
347～375は壺。347～349は如意状口縁を持つ。347・349は口縁部を折り曲げた際の指押さえの痕跡を



第55図 SRk01断面図 (1/40)

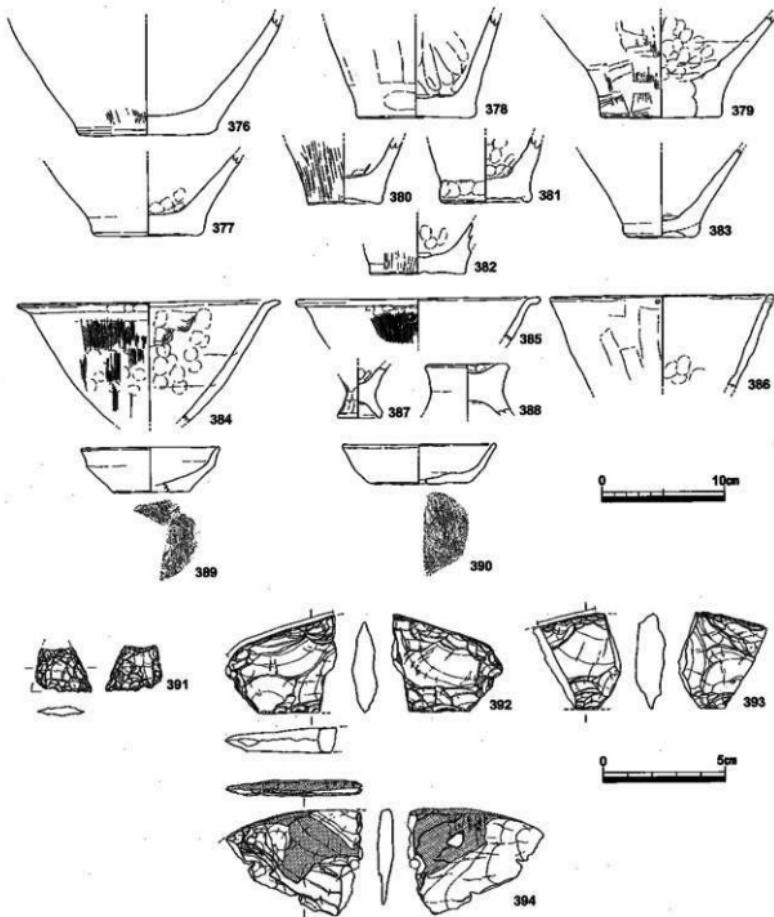


第56図 SRk01上層出土遺物① (1/4)



第57図 SRk01上層出土遺物② (1/4)

頸著に残す。349は逆L字型口縁に近い形状である。いずれも体部にヘラ描き沈線を持ち、347は4条、348は5条以上、349は6条以上の沈線を施す。348は口縁端部に刻目を持つ。350～374は逆L字型口縁部を持つ。350～355は外面が無文のもの。外面にハケメを残すもの（350・354）、ヘラミガキをするものの（351）、両方の調整痕があるもの（352）がある。350のハケメは特に頸著に残る。355は口縁端部に



第58図 SRk01上層出土遺物③ (1/4)・(1/2)

刻目を持つ。356～364は体部にヘラ描き沈線を持つ。356・358・362は口縁端部に刻目を持つ。沈線は4～5条程度のもの（359～361）と8～13条のもの（356・358・362～364）がある。358は沈線の下部に三角形の刺突文を、362は梢円形の刺突文を入れる。359・361は外面にハケメが残る。

365～374は櫛描沈線を施す。373以外は口縁端部に刻目は持たない。366は沈線の下部に三角形の刺突文を持つ。370は口縁部直下に2孔1対の穿孔が1ヶ所に残る。櫛描沈線の下部には押引き風の直線文が施される。375は口縁端部を波状にし、突帯は口縁部よりやや下がった位置に付く。体部は5条ヘラ描き沈線+円形刺突文+5条ヘラ描き沈線+山形刺突文+5条ヘラ描き沈線+梢円形刺突文+ヘラ描き沈線（以下欠損）を施し、内面はヘラミガキをする。逆L字型口縁部の突帯の形態は断面がやや幅広の

四角形のもの（352・353・358）、幅の狭い四角形のもの（351・356・357・367・368）、緩い三角形のもの（354・360・362・364・369・373・374）がある。

376～383は底部。382は先端で剥離痕跡が見える。383は蓋の可能性もある。

384～386は鉢。384・385は口縁端部を外反させ、体部は斜め上方に立ち上がる。386は口縁端部直下に孔が1ヶ所みられる。387は製塙土器である。388は蓋。

389・390は土師質土器坏。底部はともに回転糸切りによる。口径は10.9～12.4cm、器高は3.3～3.7cmである。坏E III-1・4、13世紀前半頃。

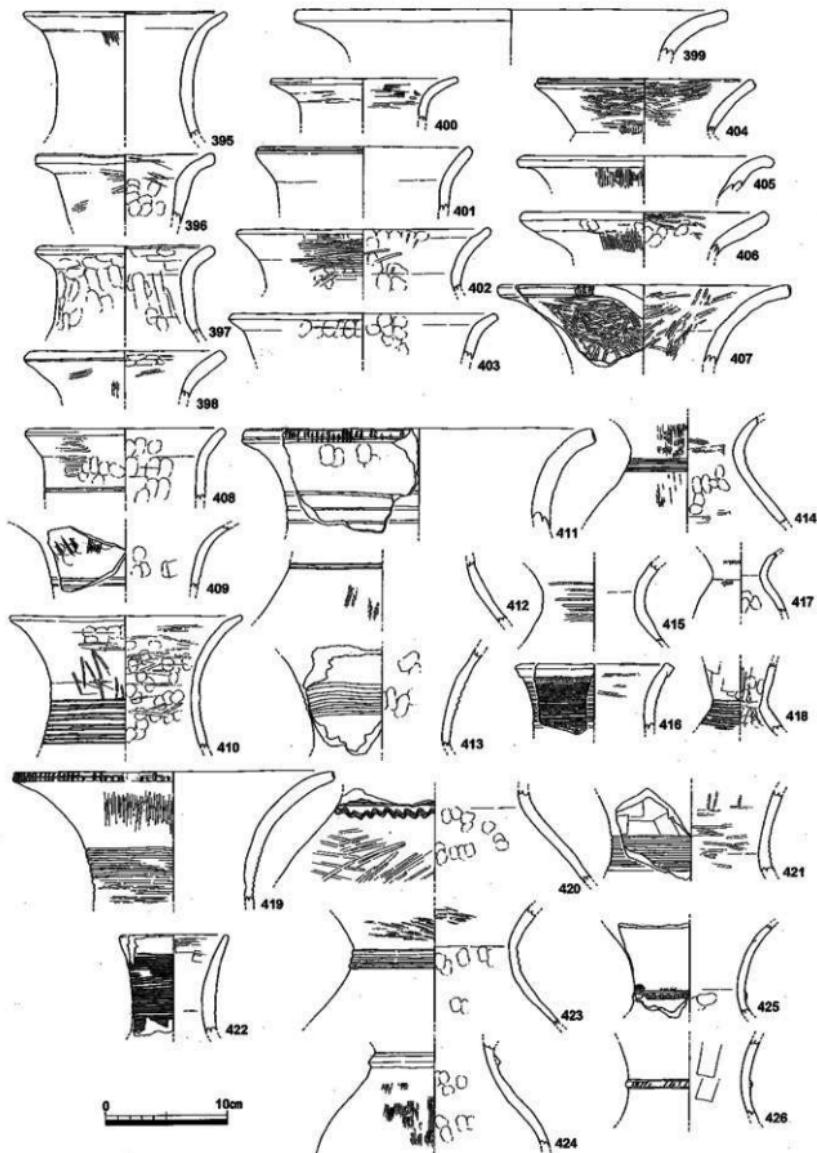
391～393は打製石器。サヌカイト製。391は石鎌。平基式。392は石庖丁。上部は敲打し、側縁にわずかに抉りを持つ。393は楔形石器。上部は敲打する。394は磨製石庖丁の未製品。穿孔が1ヶ所に残り、上部に緩方向の擦痕が残る。千枚岩製。

遺物は、土師質土器坏を除けば、おむね前期II c期～中期初頭と考えられるが、中期初頭のものが多い。

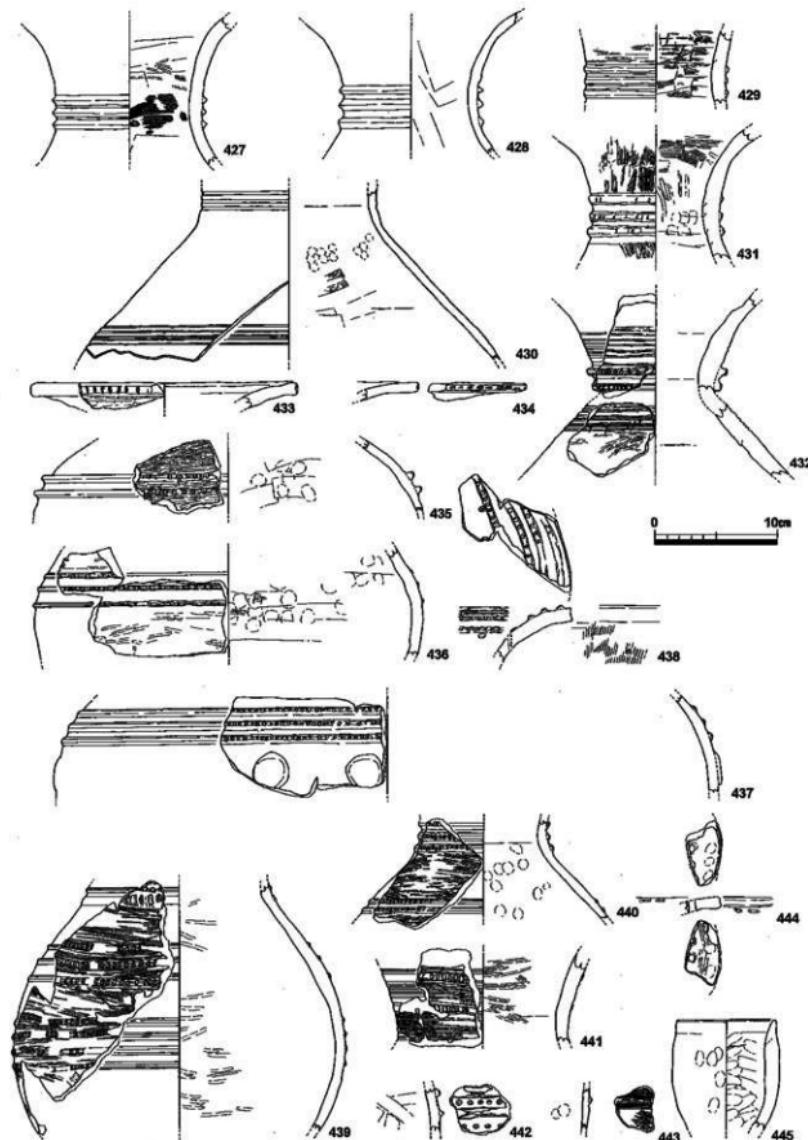
#### （I-25下層出土遺物）（第59～68図、図版34～40）

395～612はI-25部分の下層から出土した。土器はすべて弥生土器。395～445は壺。395～407は沈線や突帯がみられないもの。ただし、頸部まで残っていないものがあるので、この中でも沈線や突帯がめぐるものがある可能性はある。頸部は最も括れた場所から大きく緩やかに開くものと、直立気味に立ち上がる頸部から、口縁端部近くでさらに緩く屈曲して開くものがある。404は口縁端部に沈線を1条巡らせる。407は口縁端部に刻目が3ヶ所に残る。他の残存部分でも刻目のある場所とない場所があり、刻目は全体に施されたわけではない。402・404・407は内外面を横方向にヘラミガキする。408～422は頸部に沈線をめぐらせるもの。頸部はやや直立気味に立ち上がって端部で開くもの、全体に大きく開くものが多いが、416のように、直立気味に上がる頸部で、口縁部があまり開かないものもある。沈線はヘラ描きのもの（408・409・411～413・416・418）、半裁竹管によるもの（410・414）、櫛描きによるもの（420～422）がある。411・419は口縁端部に沈線を1条施した後、緩方向に刻目を入れる。420は頸部の櫛描沈線の下部に波状文が描かれる。422は頸部ほぼ全面に櫛描沈線を施す。423・430は頸部に削出突帯を持つ。430は頸部と体部上半部にヘラ描き沈線を施し、頸部沈線の下端部と体部沈線の上端部に段を持つ。424～429・431・432は頸部に突帯を貼り付ける。頸部は長めで体部と頸部の境が緩やかなものが多い。424は無文の貼付突帯が1条残存するが、その上部にさらに1条はあるようである。425・426は刻目を持つ貼付突帯を頸部に1条巡らせる。427～429・431は頸部に3条の貼付突帯を持つ。431には貼付突帯に刻目が付く。432は頸部に2条の刻目貼付突帯を配し、その上部にヘラ描き沈線を描く。433・434は口縁部小破片。口縁端部は大きく開き、端部に刻目（433）や刺突文（434）を持つ。435～437は体部に刻目の付く貼付突帯が残る壺。体部最大径からやや上部に435は2条、436・437は3条の貼付突帯が残る。435・436は体部に密なヘラミガキが残る。437は突帯の下部に円形浮文を貼り付ける。438は内面加飾の壺口縁部小片。4条の刻目貼付突帯を貼り、その下部に2孔の小孔がある。439～441は器面を多条の沈線で飾るもの。439は刻目貼付突帯が体部に7条、頸部に2条、440は体部に2条、頸部に3条残り、441は頸部に2条の刻目貼付突帯と多条のヘラ描き沈線を組み合わせる。442・443は体部小破片。貼付突帯に442は竹管文、443は押し付けたような刻目を持つ。いずれも439・440のような裝飾性の強い壺の体部とと考えられる。444は口縁部小破片。2ヶ所に穿孔がみられる。445は砲弾型の器形。指押さえ痕を多く残す。

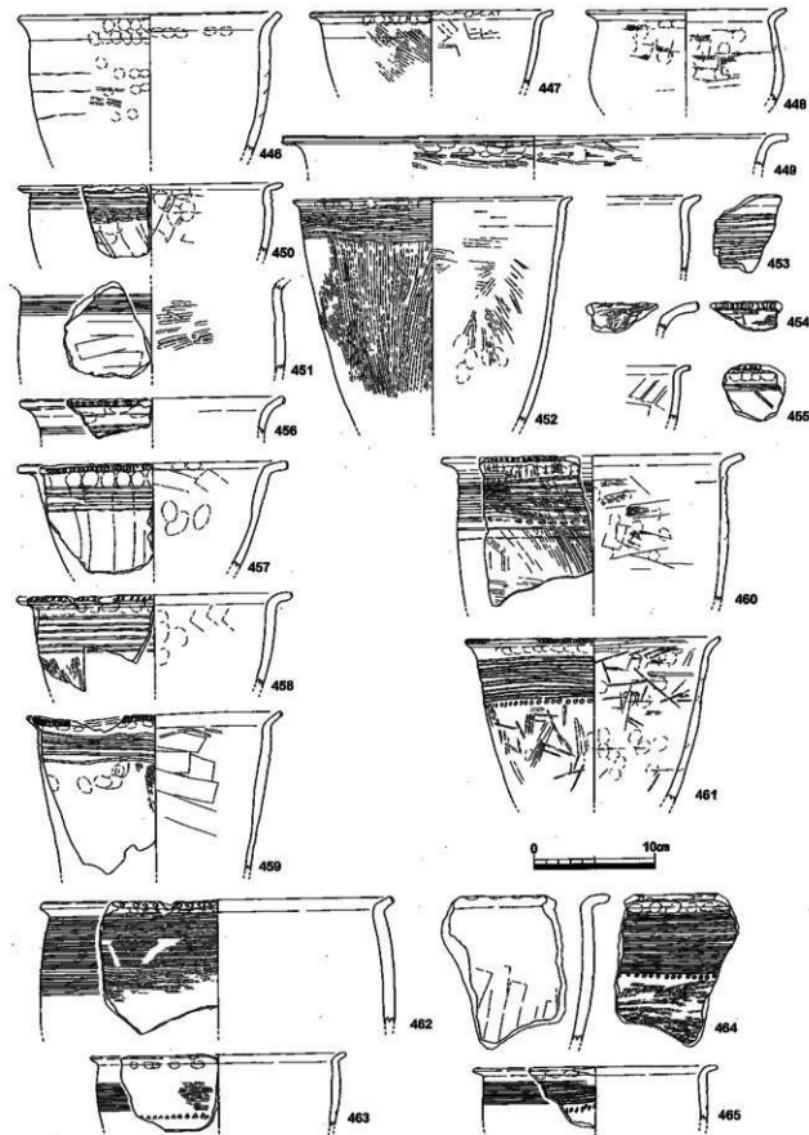
壺はヘラ描き沈線、貼付突帯はともに多条化したものが多く、両者を併用したものもある。時期はおむねII c期～中期初頭に収まるものと考えられる。



第59図 SRK01下層 (I-25) 出土遺物① (1/4)



第60図 SRk01下層 (I-25) 出土遺物② (1/4)



第61図 SRk01下層（I-25）出土遺物③（1/4）

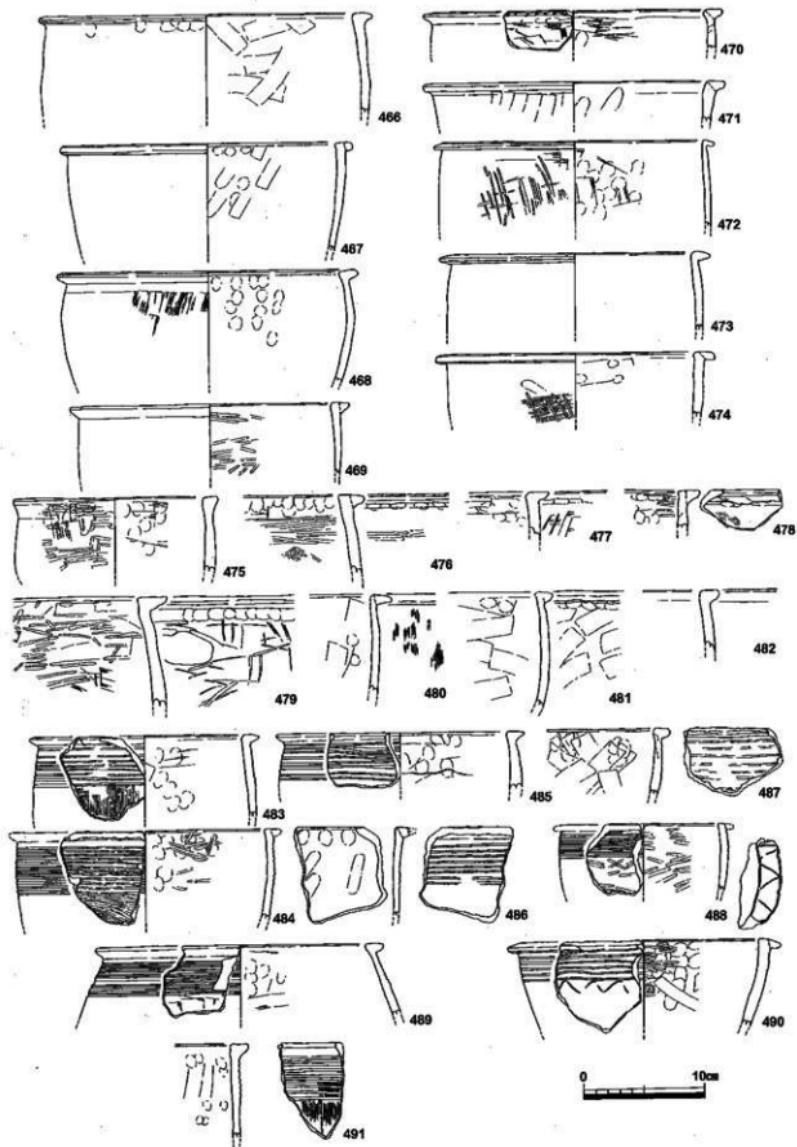
446～529は壺。446～465は如意状口縁を持つもの。446～449は無文。外面はヘラミガキを施す。449は口縁端部が大きく外へ反り、沈線が巡る。内外面は横方向へ密にヘラミガキを施す。450～460はヘラ描き沈線を持つもの。ヘラ描きは5～7条ものが多数を占めるが、453のように10条程度施されるものもある。455～460までは口縁端部に刻目を持つ。454は口縁端部の反り方や胎土、ヘラミガキ調整などが449と類似し、他のものとは若干異質である。460は9条のヘラ描き沈線の下部に左が細い水滴状の楕円形の刺突文を配し、その下部にさらにヘラ描き沈線を描く。461は口縁端部の刻目は一定間隔を開けながら付けられ、体部の沈線は深い沈線と浅い沈線が交互に配される。深い沈線と浅い沈線の1セットが平行して描かれており、細い竹管で施文したと考えられる。最下段には竹管の幅とほぼ同じ直径の円形刺突文が施される。462～465は櫛描沈線を施すもの。462の口縁端部の刻目は太く、指頭圧痕に近い形状。他は刻目を持たない。櫛描沈線の下部には三角形の刺突文（463）、円形刺突文（464）、楕円形の刺突文（465）が施されている。櫛の単位は462・463で6本／単位と考えられる。465は沈線間の間隔が狭く3本／単位で規則性があると思われるが、文様帯が狭くヘラ描き沈線かもしれない。

466～520は逆L字型口縁を持つもの。466～482は無文。479は体部の一部に剥離痕が見え、把手状のものが付いていたと考えられる。外面調整はヘラミガキを施すものとハケメのものがある。口縁端部の刻目は470だけ認められる。483～509・518はヘラ描き沈線を施すもの。483～491・505・510・518は口縁端部に刻目を持たない。ヘラ描きの条数は、全容のわからないものもあるが、8条のものが最も多く、おおむね6条～10条程度で、それ以上のものも含まれる。概して沈線間の幅は狭く、櫛描沈線と判別が付きがたいものもあるが、沈線間の間隔に規則性が見られないものはヘラ描き沈線とした。507は沈線が2条1単位で施されているようで、竹管による施文である可能性が高い。外面はハケメ調整を残すもののとヘラミガキ調整を残すものがある。490は沈線の下部に浅く山形にヘラ描きし、口縁部上面にも同様の浅い山形文を描く。492～509（505は除く）は口縁端部に刻目または刺突文をもつ。492・498・509は棒状の工具で刺突して施文しており、残りは刻目を施す。ただし493・494の刻目は口縁端部摩滅のため、全容は不明。503はヘラ描き沈線の下部に2条で縦取りした山形文が2段分残る。511～520（518以外）は櫛描沈線を施すもの。516・517は口縁端部に刻目を施す。511～513は櫛描き文+波状文。512は沈線文帯の間に波状文を入れる。514は崩れた波状文の下部にさらに三角形の刺突文を加える。515は沈線は確認できないが、器表が非常に摩滅しているので、櫛描沈線が摩滅した可能性がある。下部には円形の刺突文がある。516は沈線文の下部に三角形の刺突文を、517には円形浮文を施す。521は頸部がすぼまって丸い体部を持つ器形。体部には櫛描沈線を施し、その下部には円形の竹管文を配する。頸部に2孔1対の穿孔が1ヶ所認められる。522・523も521と同様の器形である。522は櫛描沈線+波状文、523は波状文を描く。櫛描の単位はわかる範囲では5条／単位（512・518・520）、4条／単位（511・513・514・516）であった。多くは突帯で隠れる部分にまで沈線が及んでいたと思われる。524～526は口縁端部から少し下がった場所で突帯が付く。ヘラ描き沈線を4～6条施し、突帯には刻目が付く。524・526の体部にはハケメが明瞭に残る。526は口縁部を波状にする。527は小型のもの。如意状口縁を持ち、無文、目立った調整痕を残さない。528は突帯部分に穿孔が2ヶ所残る。529は鉢状の器形。ヘラ描き沈線を10条施す。突帯は認められないが、剥離して欠損した可能性もある。

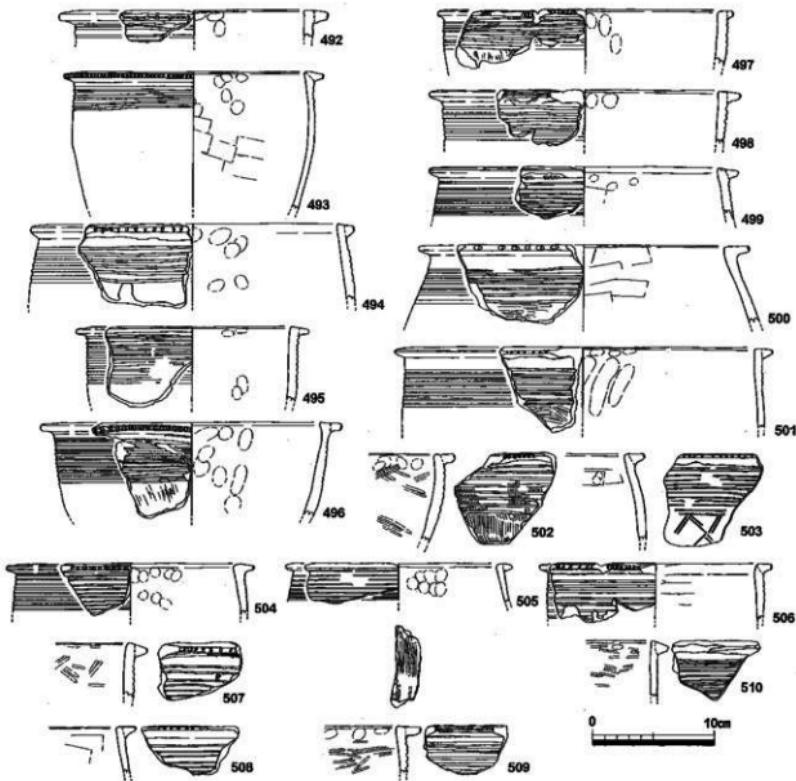
壺の口縁部形態は如意状口縁が26%、逆L字型口縁が70%、その他が4%であった。器表面は無文のものが26%と最も多く、次いでヘラ描き沈線7条以上のもの、櫛描沈線に刺突文や波状文が付くもの、4～6条のヘラ描き沈線のものが多い。

530～558は平底の底部から体部が開き気味に立ち上がるもの。おおむね壺底部になるとされる。

536は断面に粘土を継ぎ合わせた痕跡が見える。外面にはハケメが残るもの、ヘラミガキを施すもの、板ナデするものがある。559～583は平底の底部から体部の立ち上がりが急なもの。おおむね壺の底部に



第62図 SRk01下層（I-25）出土遺物④（1/4）

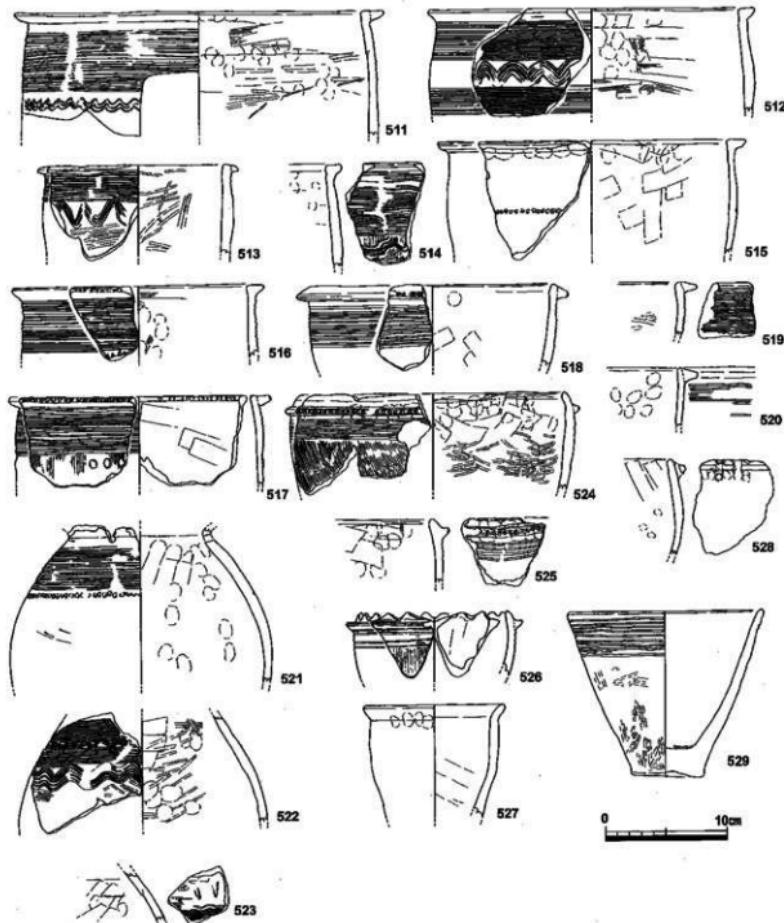


第63図 SRk01下層（I-25）出土遺物⑤（1/4）

なると考えられる。581は小型の壺か。584～588は底部に穿孔したもの。いずれも焼成後に穿孔する。584・586・587には外面にハケメ調整を施す。

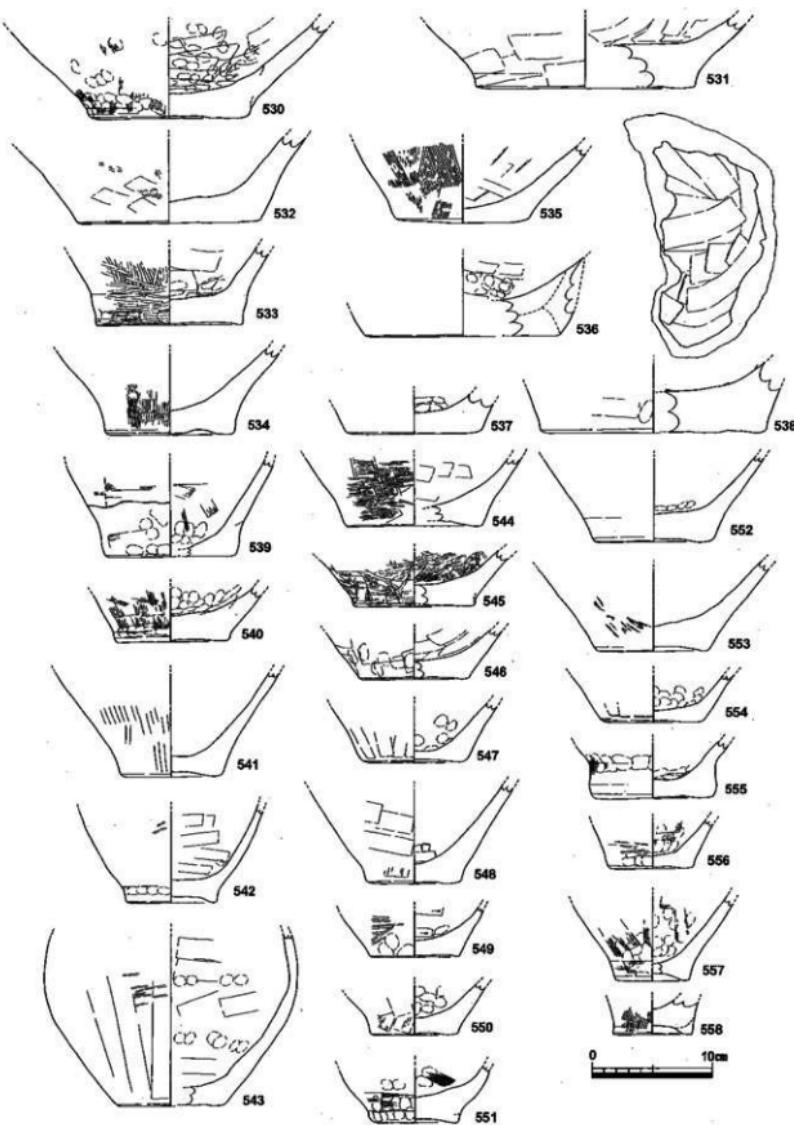
589～595は蓋。589・590・590・595は頂部がやや扁平で薄く、頂部と体部の境のくびれは小さい。591・593・594は頂部径が小さく厚く、頂部と体部の境のくびれが大きい。594は対角線上に1孔ずつ2孔の、595は2孔1対の穿孔が1ヶ所に残る。596～598は鉢。596・597は口縁端部を如意状にし、体部を斜めに立ち上げる。598は口縁端部を平たくし、口縁部の下部に粘土を貼り付ける。599は高坏。脚部と坏部の境部分が残る。600は不明。括れ部分の指押さえ痕が顯著。601は管状土錐。表面にあまり調整痕跡を残さない。

602～608は打製石器。いずれもサヌカイト製。602はスクレイパーか。側縁部の数ヶ所に敲打痕を残すが、ほとんど加工されず刃を作り出すこともない。603～605はスクレイパー。606は打製石斧の基部。上・下部が欠損。607は石錐で全側縁に刃を作り出している。風化が著しい。608は楔形石器。上部に敲打痕、下部には磨滅痕を残し、表面に自然面を残す。

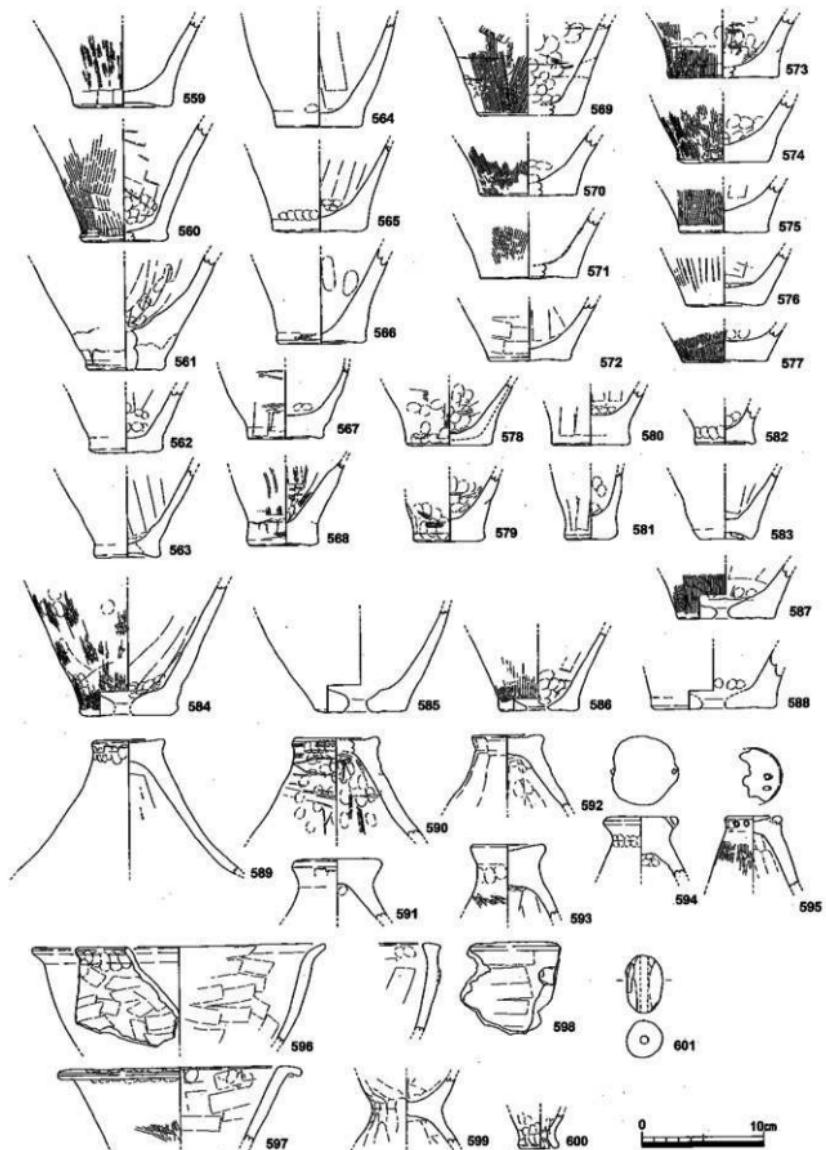


第64図 SRK01下層 (I-25) 出土遺物⑥ (1/4)

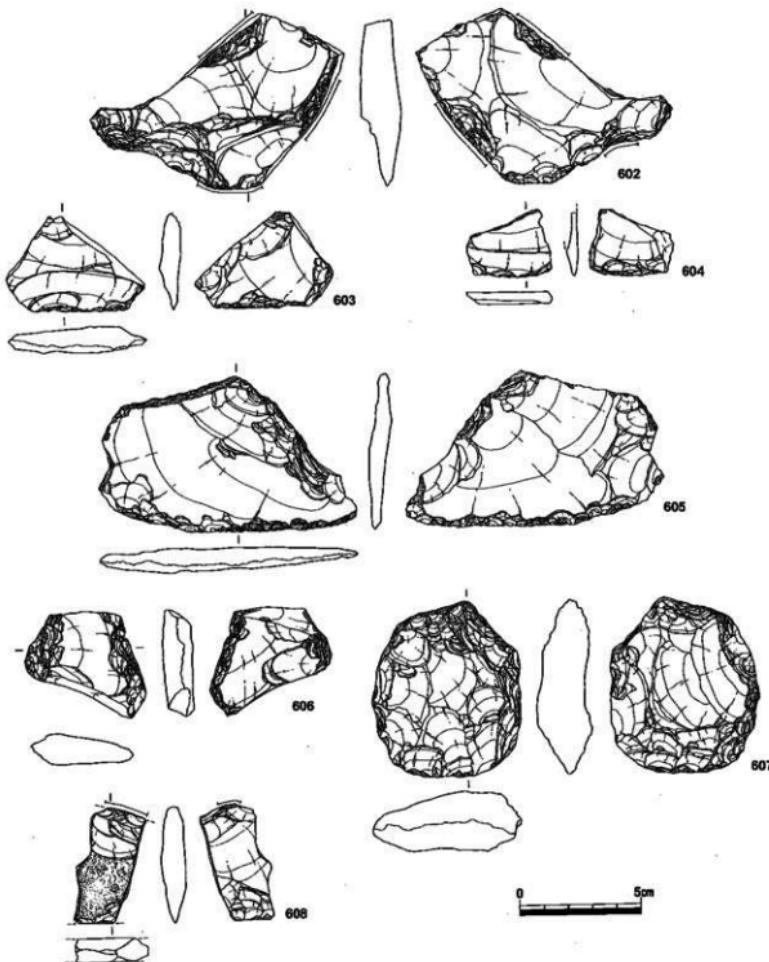
609~612は磨製石器。609・610は石庖丁。609は流紋岩で、上部の一部と表面の一部に敲打痕を残す。穿孔が1ヶ所残る。610は未製品か。表・裏面とも端部分を研磨し、中央部分は未調整である。安山岩。611は環状石斧。側縁に敲打痕を残す。表・裏面ともに擦痕がある。側縁中央付近と上部に抉りを入れている。後に石鎌などに再利用したものか。半深成岩製。612は柱状片刃石斧か。擦痕を残す。石材不明。



第65図 SRk01下層 (I-25) 出土遺物⑦ (1/4)



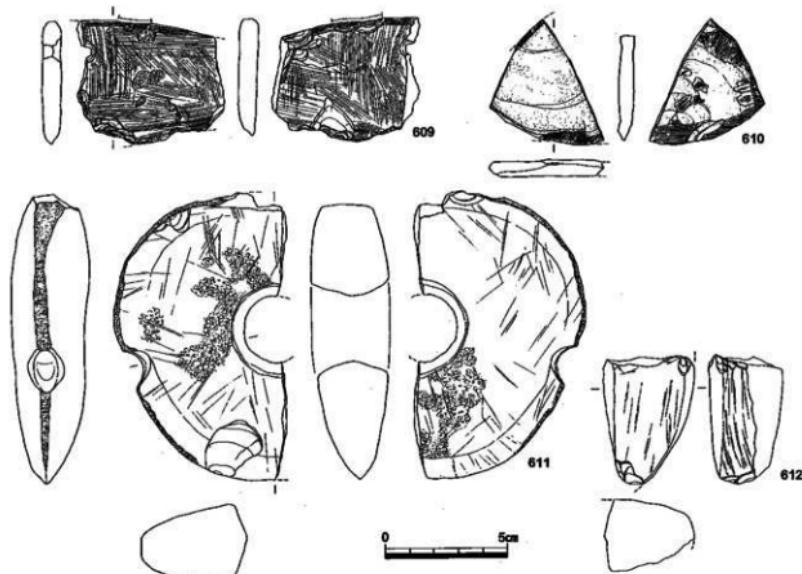
第66図 SRk01下層 (I-25) 出土遺物② (1/4)



第67図 SRk01下層（I-25）出土遺物⑨（1/2）

（I-27下層出土遺物）（第69～73図、図版14、40～44）

613～695はSRk01下層のうちI-27で出土したものである。613～642は壺。613は頸部に1条の沈線を巡らせる。614～621は沈線や貼付突帯が認められないもの。ただし、頸部の下部まで残っていないものも含まれており、必ずしも無文とはいえない。614～617はやや長めの頸部から口縁部が緩く開く。617は口縁端部に沈線を1条巡らせる。619・622も同様の器形と考えられる。621は口縁端部に凹線を巡らせ、その後刻目を付ける。624～631は頸部や体部をヘラ抜き沈線で飾るもの。624・625は頸部と胴部最

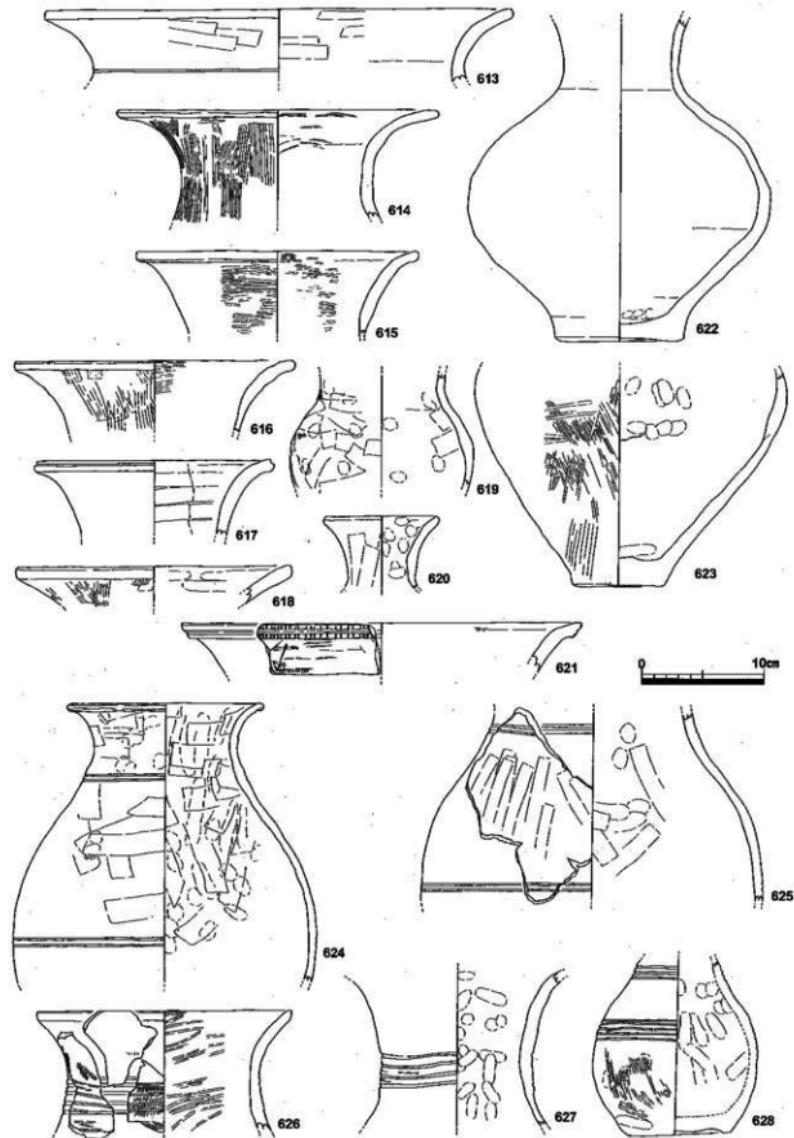


第68図 SRK01下層 (I-25) 出土遺物⑩ (1/2)

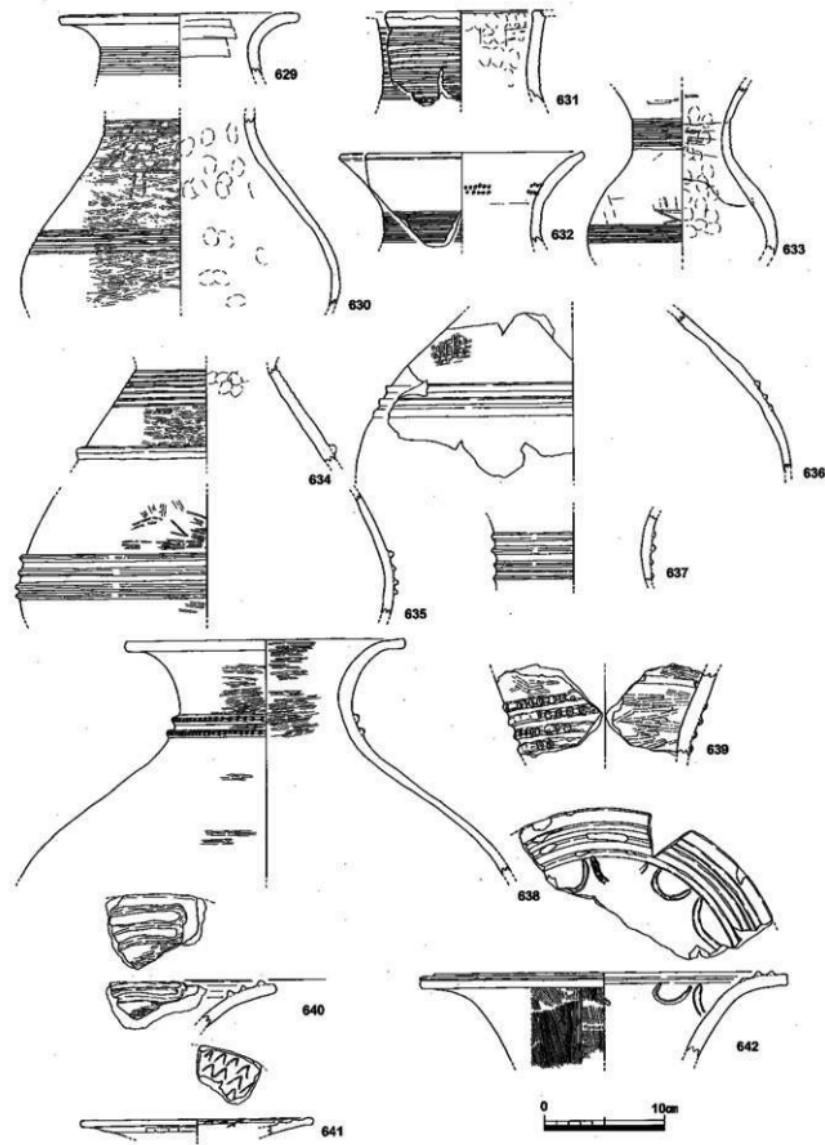
大径部分に2条のヘラ描き沈線を描く。胴部はあまり張らない。両者は同一個体の可能性が高い。626・627・629は頸部に4~5条のヘラ描き沈線を残す。629は口縁端部が大きく開く。628は小型の壺。頸部と胴部中央付近に3条以上+5条の沈線を施す。630も頸部に3条以上、体部やや上部に5条のヘラ描き沈線を施し、外面に横~斜め方向のヘラミガキをする。631はほぼ直立する頸部で14条のヘラ描き沈線を施した後、下部に三角形の刺突文を入れる。632・633はやや長めの頸部に櫛描沈線を施す。632は頸部内面に2段の刺突文を加える。刺突文は全面ではなく間隔をあけながら施している。633は胴部最大径部分にも櫛描文を施す。634~639は頸部または胴部に貼付突帯があるもの。634は頸部直下にヘラ描き沈線を7条描き、体部最大径やや上側に貼付突帯が1条残る。635は胴部最大径の部分に4条の、636は体部最大径やや上側に3条の、637は頸部に少なくとも4条の貼付突帯を付ける。638・639は頸部に刻目貼付突帯を持つ。638は口縁端部が大きく開く器形で、頸部に刻目貼付突帯が2条付く。胴部にも剥離痕跡が見え、もともとは突帯があったと思われる。突帯が剥離して変色している部分の上下2ヶ所には浅い沈線が残され、突帯を貼り付ける目安にしていたと考えられる。640・642は内面加飾の壺。口縁は大きく開き、頸部内面を640は長方形状の、642は3条の直線の下部に連続する連弧文の貼付突帯で飾る。641は浅い三角形の刺突文を連続的に配する。

壺の形態は頸部が長めで発達したものが大半を占め、くびれた頸部に口縁部が大きく開く形態のものは少ない。器面装飾は形態に対応して多条のヘラ描き沈線や櫛描沈線、貼付突帯を施すものが多い。

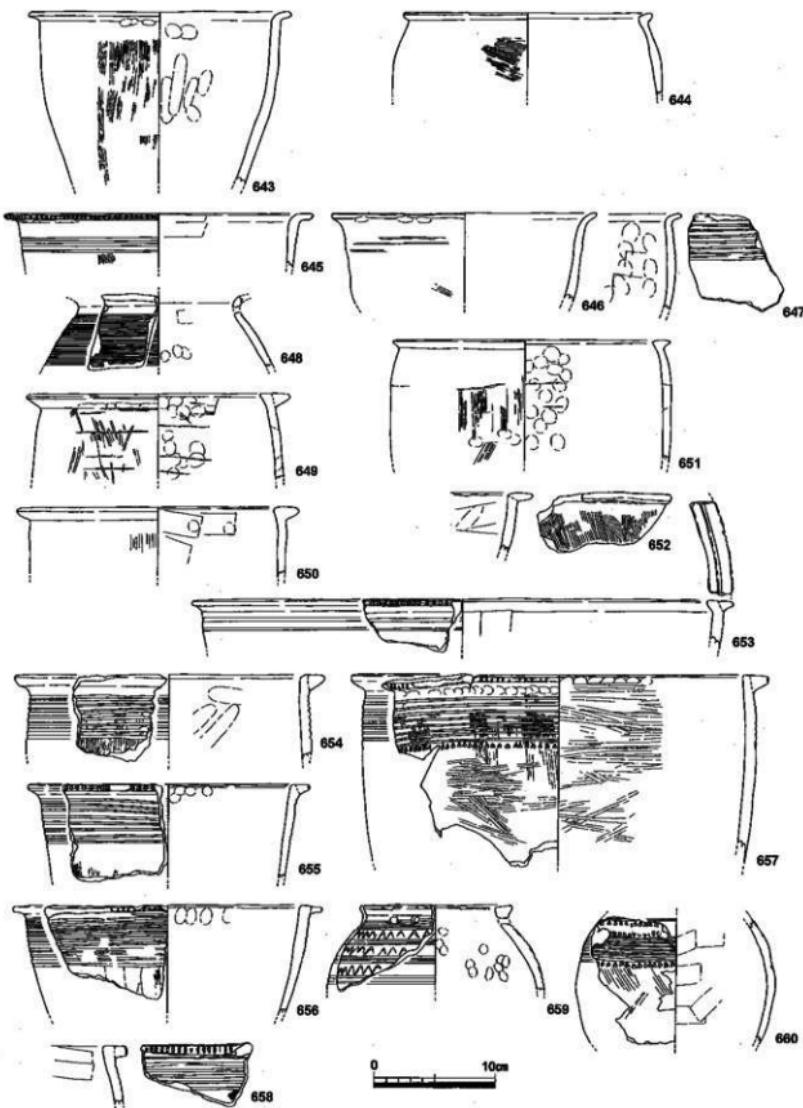
643~668は壺。643~647は如意状口縁のもの。643・644は無文、外面はハケメ調整をする。644は口縁端部は折り曲げているが、形態は逆J字形口縁に近い。645~647はヘラ描き沈線を持つ。645は口縁端部に刻目を残し、3条のヘラ描き沈線を施す。646は沈線が3条確認できるが、器表面の摩滅が著し



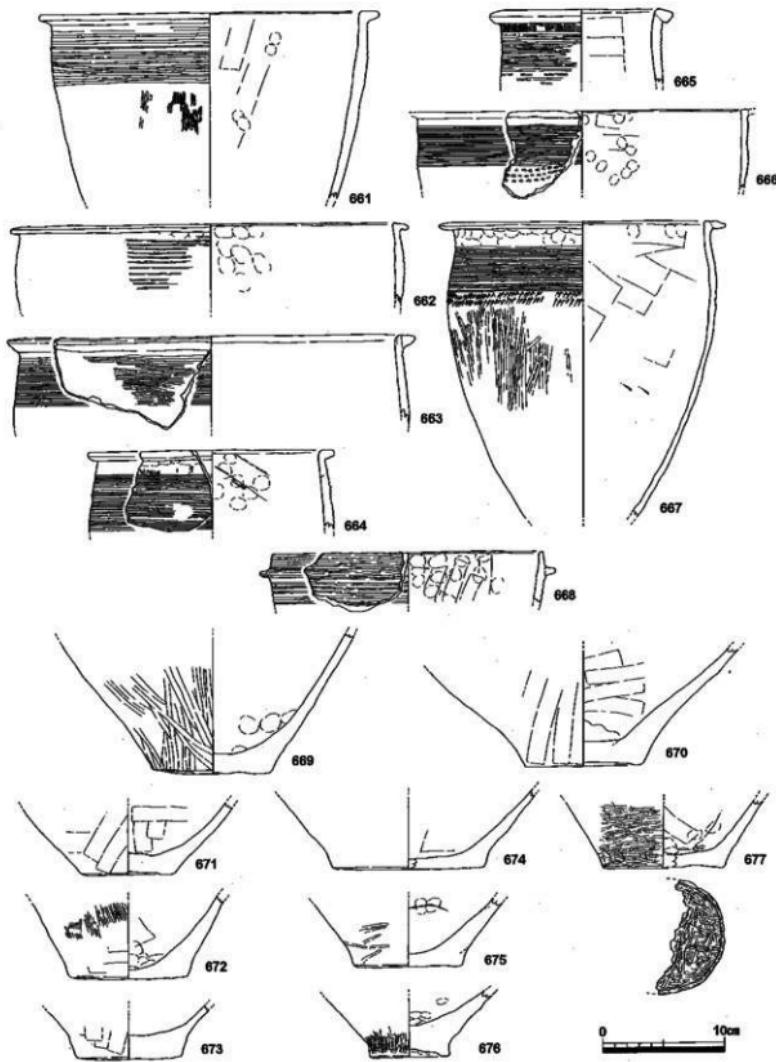
第69図 SRk01下層 (I-27) 出土遺物① (1/4)



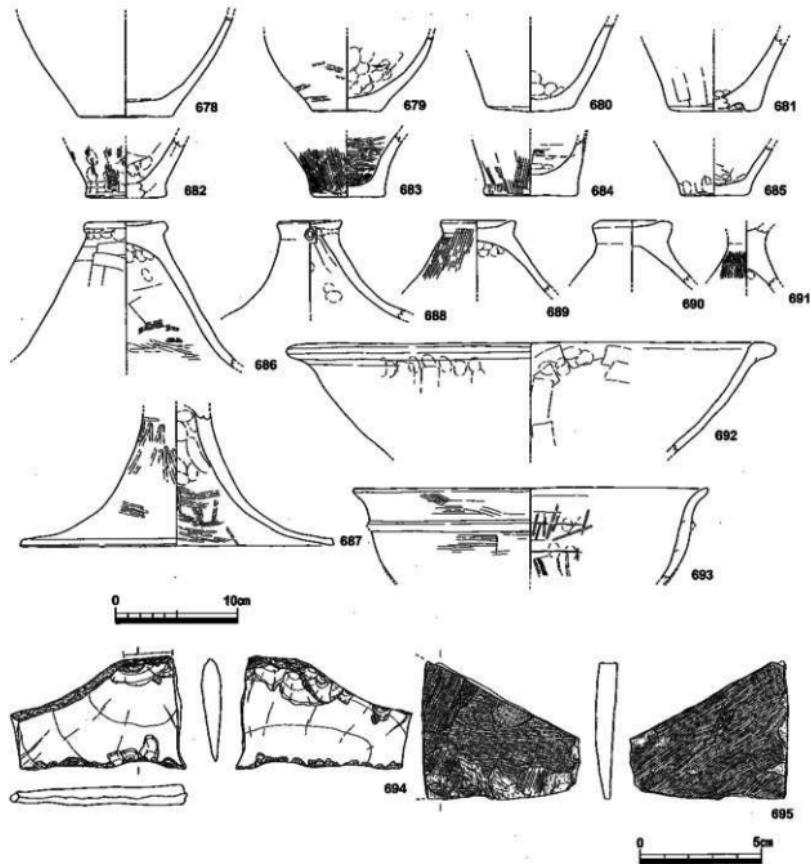
第70図 SRk01下層 (I-27) 出土遺物② (1/4)



第71図 SRk01下層（I-27）出土遺物③（1/4）



第72図 SRk01下層 (I-27) 出土遺物④ (1/4)



第73図 SRK01下層 (I-27) 出土遺物⑤ (1/4)・(1/2)

く、沈線が何条あるかは不明である。647は7条のヘラ描き沈線を残す。648は体部に丸みを持つ器形で、体部は横描沈線で飾る。頸部と体部の境付近に穿孔が1ヶ所残る。649～667（660は除く）は逆L字型口縁を持つものである。649～652は無文のもの。649～651は器面に薄いハケメを残し、649はヘラミガキ痕も残す。652ははっきりとしたハケメが残る。653～663はヘラ描き沈線を施すもの。653は口縁端部の上面に凹線を1条施し、体部にはヘラ描き沈線を2条描く。658は5条の、654・655・657は8条の、656・661～663は10～14条の沈線を描く。655・657・658は口縁端部に刻目を持つ。657は沈線の下部に三角形の刺突文を、666は3段の刺突文を施す。666は口縁端部が剥離している。659・660は体部が丸みを持つ器形。659は頸部に2孔1対の穿孔が見られる。体部の装飾は、659は2～3条のヘラ描き沈線と山形の刺突文を交互に配し、660は三角形の刺突文とヘラ描き沈線を交互に配する。664～668は櫛描沈線を施すと考えられるもの。口縁端部に刻目を持つものはない。664は器表面の摩滅が進み、沈線の残

存状況はよくない。667は櫛描沈線の下部に三角形の刺突文を2段に施す。668は口縁部から少し下がった位置に突帯を貼り付け、その上下全体に櫛描沈線を描く。

甕の口縁形態は1/4程度が如意状口縁で他の大半が逆L字型口縁である。器面装飾は7条以上の多条沈線を施すものと櫛描沈線を施すものとともに30%にのぼり、無文のものがそれに続く。その3者で85%にのぼり、他はきわめて少数である。

669~679は壺底部と考えられる。外面調整はハケメを残すものとヘラミガキを施すものがある。680~685は甕底部。外面調整はおむねハケメである。

686~691は壺。686・688・689は天井部の厚さがやや薄めで、天井部と体部の境のくびれがあまりない。688は天井部側面に対角線上に1対の穿孔がある。690は天井部がやや厚め。691は天井部と体部の境がくびれ、天井部は厚い。天井部の上部は欠損。器面はヘラミガキする。

692・693は鉢。693は口縁部からやや下がった場所に貼付突帯がある。

694は打製石器。スクレイパー。上部に蔽打痕がある。サヌカイト製。695は大型の磨製石庖丁と考えられる。上部はほとんど調整が及ばず、刃部はわずかに細くしている。表・裏面とも多数の擦痕を残し、かなり磨き込んでいる。安山岩製。

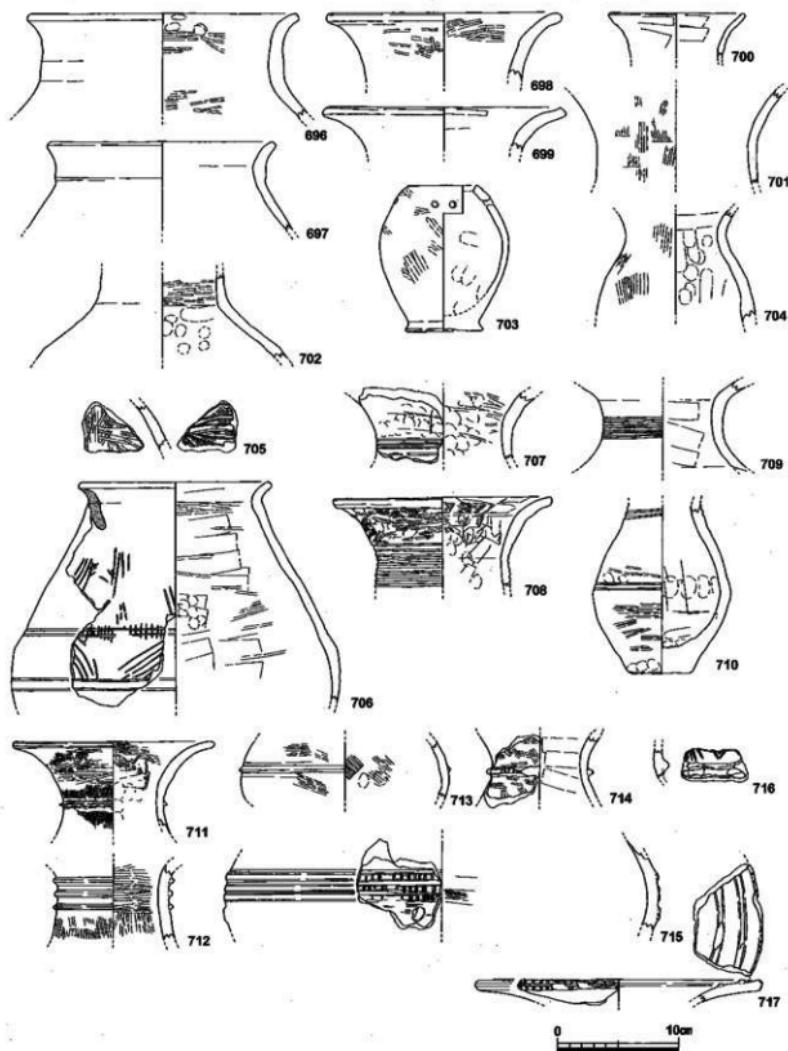
〈I-26下層出土遺物〉(第74~79図、図版13・45~47)

696~813はI-26部分の下層から出土した遺物である。696~717は壺。696~704は無文の壺。ただし698~701は頸部下端部にヘラ描き沈線文や貼付突帯が付くことも考えられる。697は体部がなだらかに立ち上がり、口縁端部が緩く外反する。頸部に段が付く。703は無頸壺。口縁部直下で対角線上に2孔1対の穿孔がある。704は小型の壺。705は体部小破片。器面に木の葉文がある。706~710は体部や頸部にヘラ描き沈線があるもの。706は内傾する頸部から、口縁部が緩く外反し、体部最大径のやや上側に2条の刻目を持つヘラ描き沈線文、体部最大径のやや下側にも2条のヘラ描き沈線を施し、沈線の上部に縱方向のヘラ描き文を、沈線文帯に挟まれた場所には斜線文や連弧状のヘラ描き文を施す。707~709は頸部に4条以上のヘラ描き沈線を施す。頸部はやや長め。710は小型の壺で、頸部と胴部最大径部分に2条ずつのヘラ描き沈線をもつ。711~716は貼付突帯を持つもの。711・714は頸部の最もすさまつた箇所に貼付突帯を1条巡らせる。頸部はあまり発達せず、端部は大きく開く。714の貼付突帯には刻目が付く。713は体部最大径部分に貼付突帯を1条つける。715は体部最大径部分に3条の刻目突帯を貼り付け、その下部には円形浮文が1ヶ所に残る。716は壺の体部と考えられるが、天地・傾きは不明。貼付突帯の上部に斜め方向のヘラ描き文がある。717は内面加飾壺。内面に2条の貼付突帯が残る。この中では697・705・706が古い要素を持つが、頸部はやや長めのものが多く、器面装飾は無文、ヘラ描き沈線(4条以上)、貼付突帯(1~3条)がほぼ同じ程度にある。

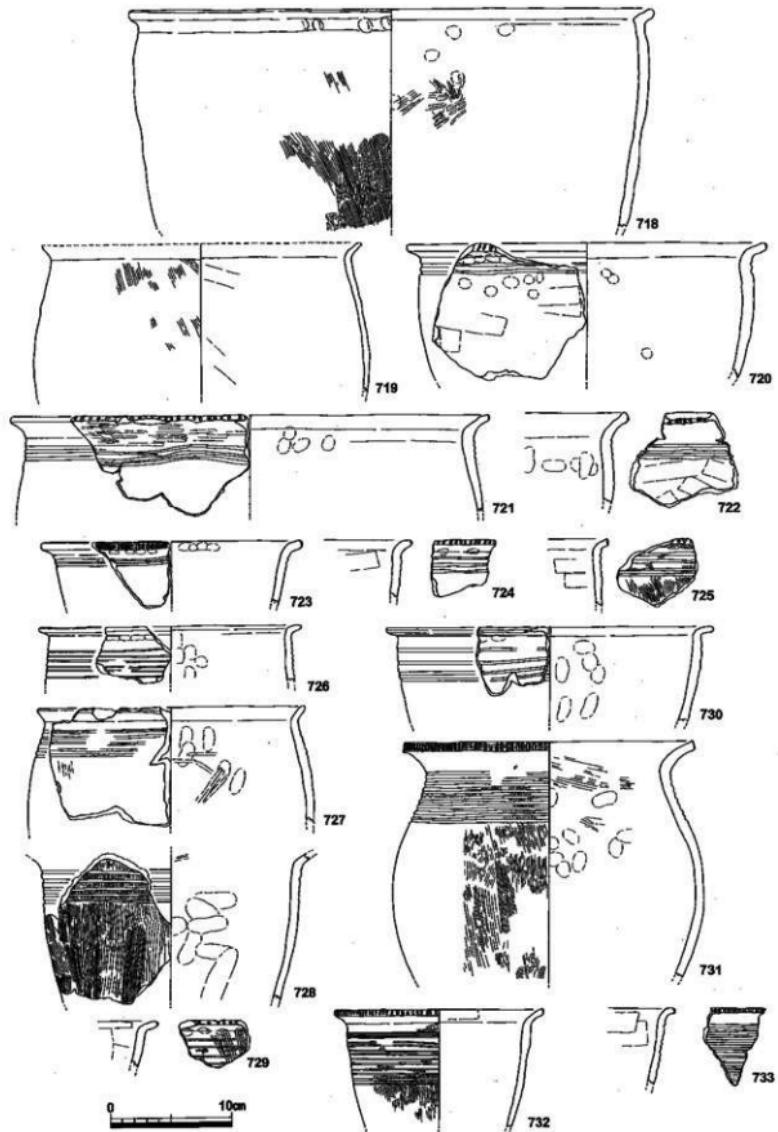
718~766は壺。718~735は如意状口縁を持つ。718・719は無文。器面はハケメで調整する。718は口縁部内面の屈曲は鋭い。720~733はヘラ描き沈線を施すもの。720~724は口縁端部に刻目を持ち、器面に2~3条のヘラ描き沈線を持つ。725~730はヘラ描き沈線を4~6条施す。728と729は同一個体の可能性がある。725・729は口縁端部に刻目を施す。731は他の壺と形態が異なり、口縁部が長めで頸部と体部の境の括れがきつく、体部は丸みを帯びる。頸部に9条のヘラ描き沈線を施し、口縁端部には沈線を巡らせ、刻目を施す。他地域からの搬入か。732・733は10条以上のヘラ描き沈線文を施すもの。口縁端部に刻目を持つ。734・735は体部に櫛描沈線を持つ。734は器表面の摩滅が進み、沈線は不明瞭である。

736~764(757は除く)は逆L字型口縁を持つ。736~743は無文。体部はハケメやヘラミガキで調整する。736・737は口縁端部に刻目を持つが、いずれの刻目も全体には巡らせずに部分的に、または単位ごとに間隔をあけながら施す。739は口縁端部直下に穿孔が1ヶ所残る。残存量から考えれば対角線上

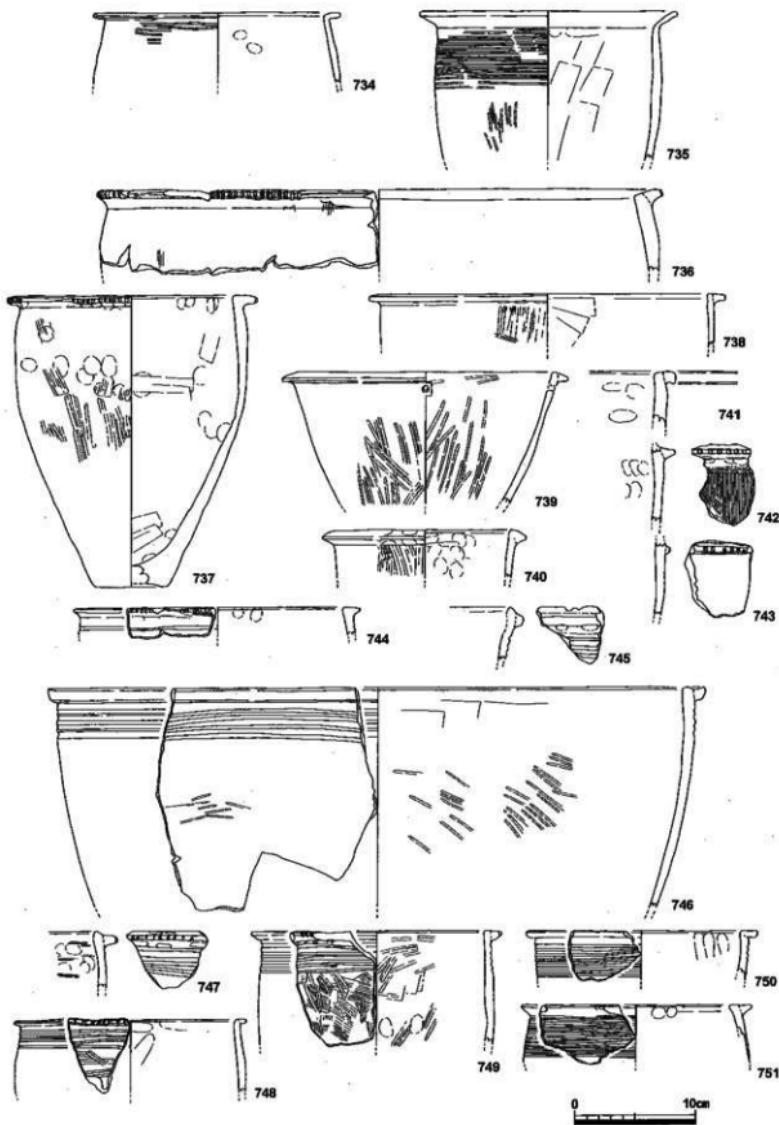
に2孔の穿孔があったと考えられる。743の口縁端部は欠損するが、突帯は端部からやや下がった位置にあるようで、突帯文系の流れを汲む、やや古手のものかもしれない。744～757はヘラ描き沈線を持つ。746～749は4～5条、750・754は7条以上、751～753・755・756は9～14条のヘラ描き沈線を持つ。747



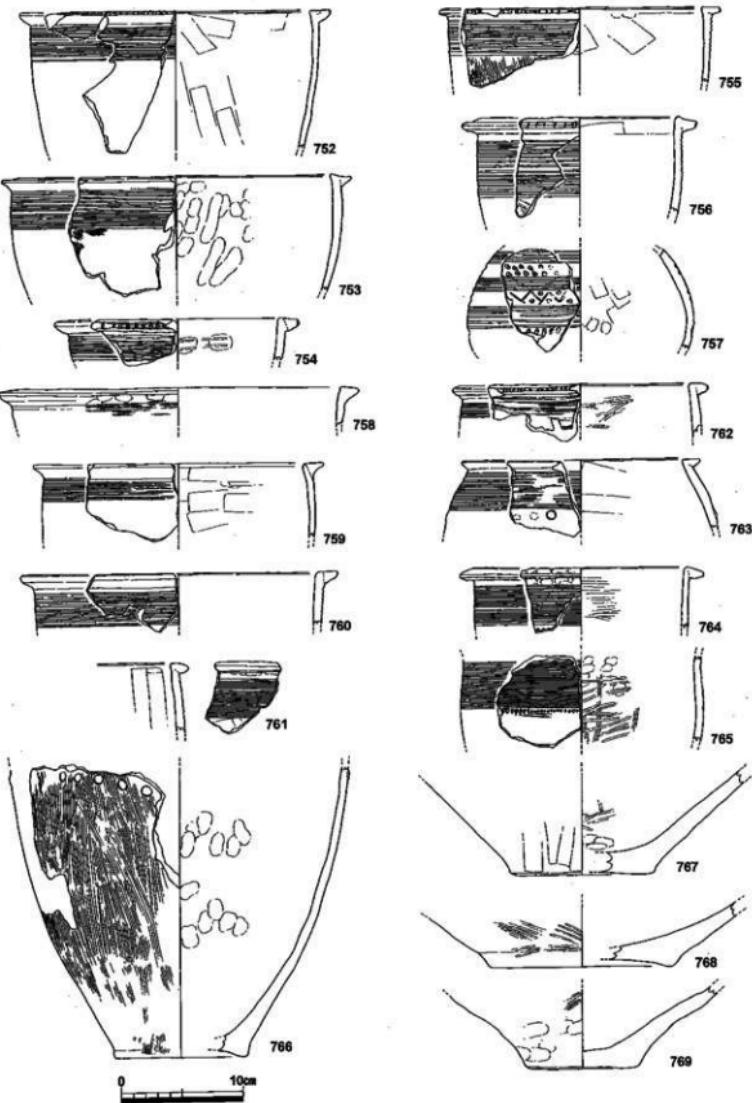
第74図 SRk01下層 (I-26) 出土遺物① (1/4)



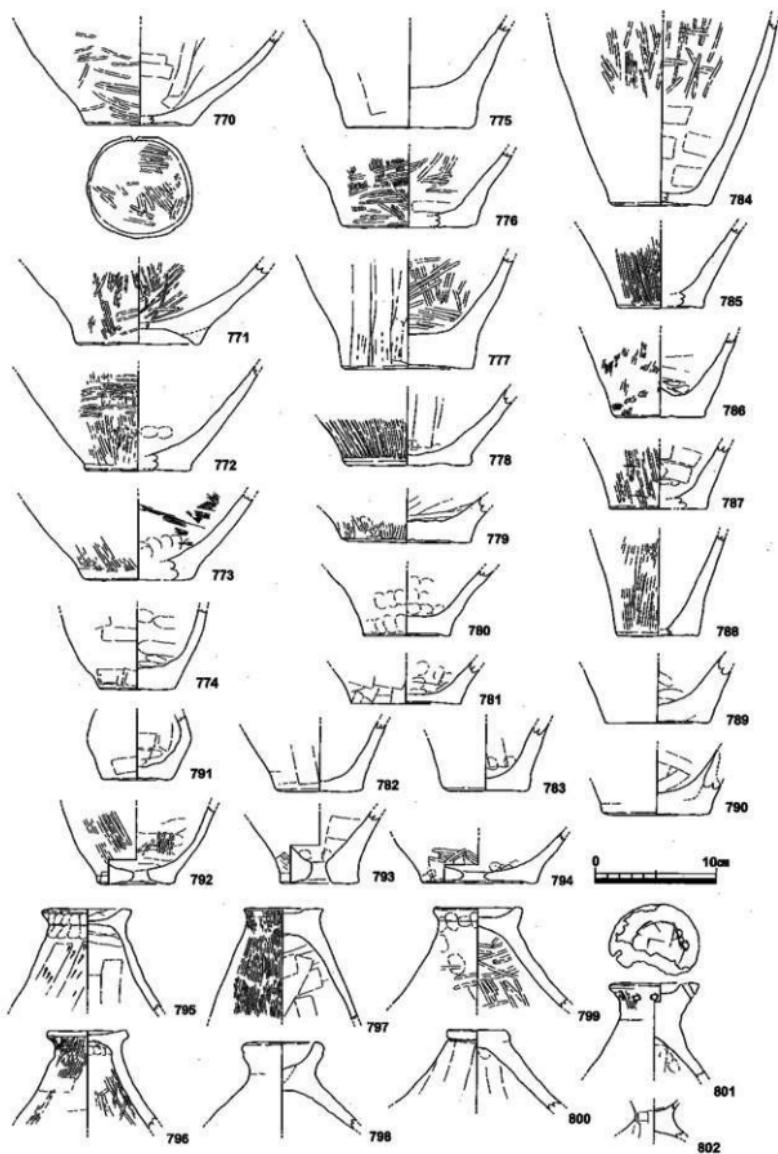
第75図 SRk01下層 (I-26) 出土遺物② (1/4)



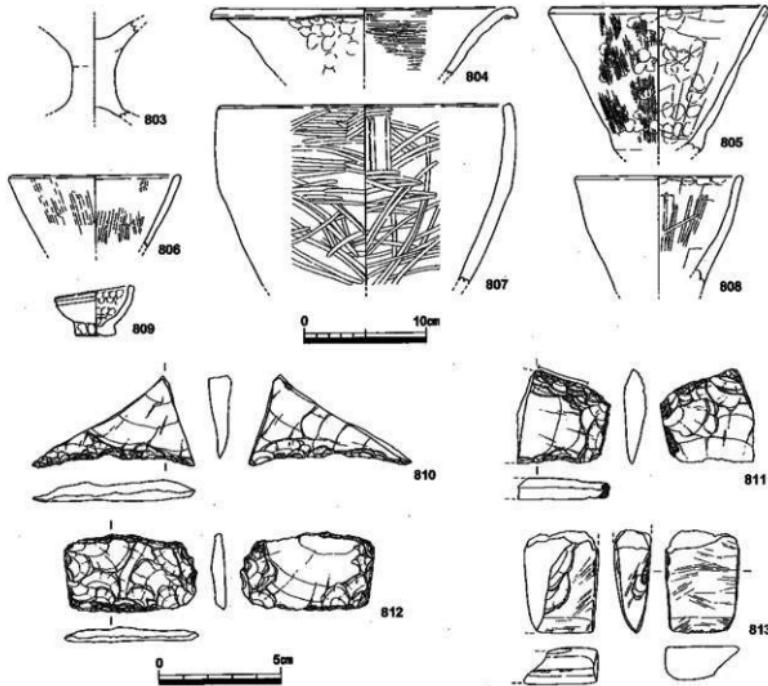
第76図 SRk01下層（I-26）出土遺物③（1/4）



第77図 SRk01下層 (I-26) 出土遺物④ (1/4)



第78図 SRk01下層 (I-26) 出土遺物⑤ (1/4)



第79図 SRk01下層 (I-26) 出土遺物⑥ (1/4)・(1/2)

~749・752・754~756は口縁端部に刻目がある。757は体部が丸みを持つもので、4~5条のヘラ描き沈線の間を円形の刺突文やヘラ描きの山形文などで埋めていく。758~765は櫛描沈線を持つ。762は口縁端部に刻目を持つ。沈線文の下部には763は円形浮文、764は三角形の刺突文、765は楕円形の刺突文がある。櫛描きの単位は761・762で5条1単位のものが確認できる。765の口縁部の形態は不明である。

壺は口縁形態によって器面装飾の種類のピークが際立って異なるものが多い。如意状口縁で端部に刻目を持たないものは4~6条のヘラ描き沈線を持つもの、如意状口縁で端部に刻目を持つものは1~3条のヘラ描き沈線、逆L字型口縁で端部に刻目を持つものは7条以上のヘラ描き沈線が際立って多く、端部に刻目を持たない逆L字型口縁部は無文のものと櫛描沈線が拮抗している。これは自然河川の時期幅を反映している可能性が高い。

766は壺底部。残存部分の上部に円形浮文が見られ、外面にはハケメが顕著に残る。767~774は壺底部。外面調整は768~772はヘラミガキが、772・773はハケメが観察できる。775~790は壺底部。外面調整は壺同様にヘラミガキ、ハケメ、ハケメ後ヘラミガキするものがある。790は断面に粘土の継ぎ目が観察できる。791は小型壺の体部から底部。792~794は底部穿孔土器。いずれも焼成後穿孔。792は壺型の底部、793・794は壺型の底部である。

795~802は蓋。形態は、やや大きめで薄い天井部で、体部との境の括れがあまりないもの (795・796)、前述の形態に似ているがやや器壁が厚いもの (797・799)、天井部径は小さめで、厚く、体部との境の

括れが大きく、天井部が窪んでいるもの（798・801・802）、天井部径は小さいが、体部との境の括れはほとんどなく、天井部も窪んでいないもの（800）がある。801は2孔1対の穿孔が1ヶ所に残り、もともとは対角線上に2ヶ所にあったと考えられる。

803は高坏。804～808は鉢。804は口縁端部を如意状に折り曲げ、805～808は口縁端部を直線的にする。809はミニチュア土器。底部は平らにし、指押さえ痕を多く残す。

810～812は打製石器。スクレイパー。サヌカイト製。811は片側側面に自然面を残し、上部に敲打痕がある。813は扁平片刃石斧。全面に擦痕を残す。結晶片岩の中の緑色片岩製。

#### 〈I-25その他出土遺物〉（第80～83図、図版48・49）

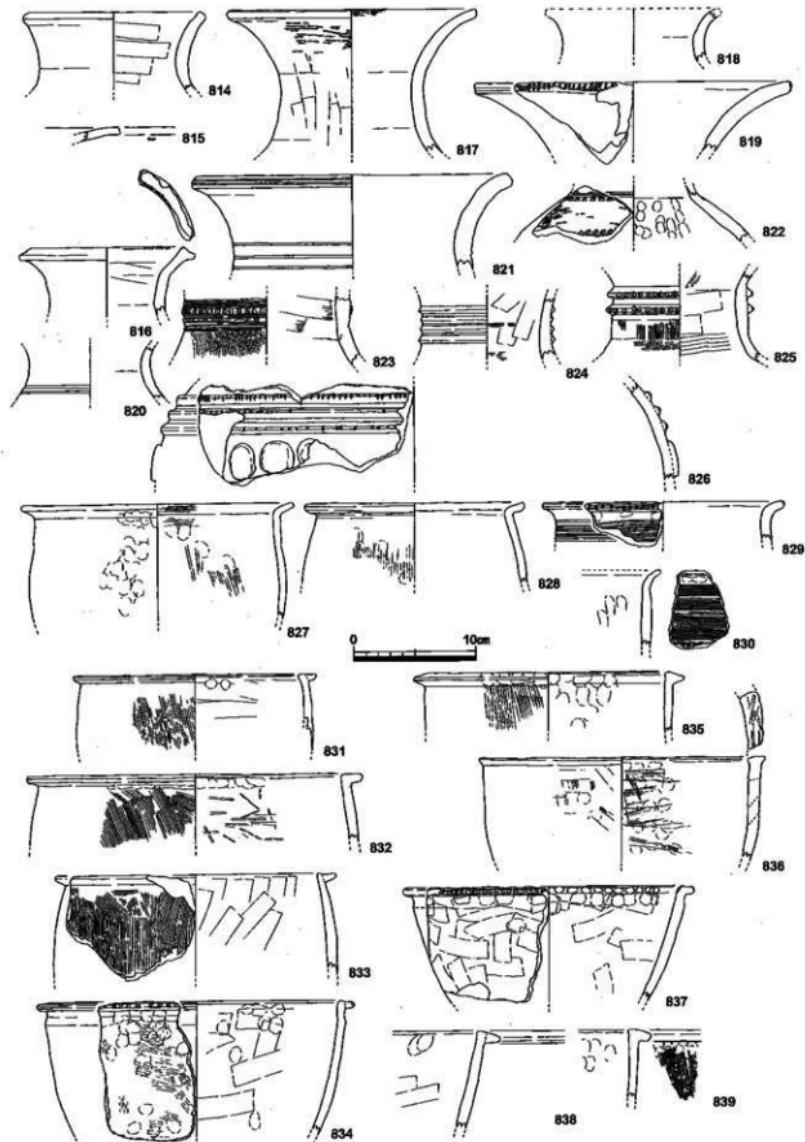
814～897はI-25部分のうちトレンチなど出土層位不明の遺物である。814～826は壺。814・816～818は頸部無文のもの。819は口縁端部に刻目を入れその後沈線を巡らせる。816は口縁端部内側に刻目を入れる。820～822は頸部にヘラ描き沈線を描くもの。820は2条、821は3条以上の沈線を入れる。821はやや大型の壺で、口縁端部に2条の沈線を巡らせる。822は頸部に2条沈線をその下部に三角形の刺突文を、体部には三角形の刺突文の下部に沈線を施す。823～825は頸部に貼付突帯を巡らせるもの。823は刻目突帯の上下にヘラ描き沈線を入れる。824は4条、825は2条の貼付突帯を巡らせ、825は貼付突帯に刻目を持つ。826は体部片。最大径よりやや上部に3条以上の刻目を持つ貼付突帯を付け、その下部には円形浮文が3個残る。しかし、残っている破片から、円形浮文は全体にわたって貼り付けられたいたわけではないことがわかる。

827～862は壺。827～830・847は如意状口縁を持つもの。827・828は体部無文、829・830は櫛描沈線で飾る。829は口縁端部に刻目を持つ。830の櫛描きは8条1単位と考えられる。831～860（847を除く）は逆L字型口縁部を持つもの。831～839は体部が無文のもの。831～833・835は体部に縱方向の明瞭なハケメが残る。834・837は口縁端部に刻目が付く。837は口縁端部内面にも等間隔に強めの指押さえにより窪ませている。840～854・857・860はヘラ描き沈線を施すもの。840は2条、841は6条、853・854が5条の沈線が観察できる他は、ヘラ描き沈線の条数が判明するものでは8条～14条程度の多条化した沈線が目立つ。846～848・852・853・857・858は口縁端部に刻目を持つ。855・856・858・861・862は櫛描沈線を施すもの。858は口縁端部に刻目を持つ。櫛描きの単位は、856・858が5～6条1単位、861・862は3条1単位と考えられる。859は多条沈線が平行に施され、櫛描きによるようにも見えるが、沈線帯の下部の沈線間の幅が若干広くなり、疑問が残る。沈線の下部には長辺円形の刺突文が施され、そのまま下方向へヘラミガキを施している。861・862は口縁端部が剥離していると考えられるもの。861は口縁端部の剥離した部分は変色している。櫛描沈線の下部に三角形の刺突文を施し、同じ方向へ板ナデを施している。862は7～9条の櫛描沈線と三角形の刺突文、斜線文を交互に配する。内面はヘラミガキする。口縁端部付近が欠損しており、逆L字型口縁部が剥離したとも考えられるが、櫛描沈線が上端付近まで及んでおり、変色している部分が口縁部上端ごく一部であるので、このまま突帯は付かないかもしれない。

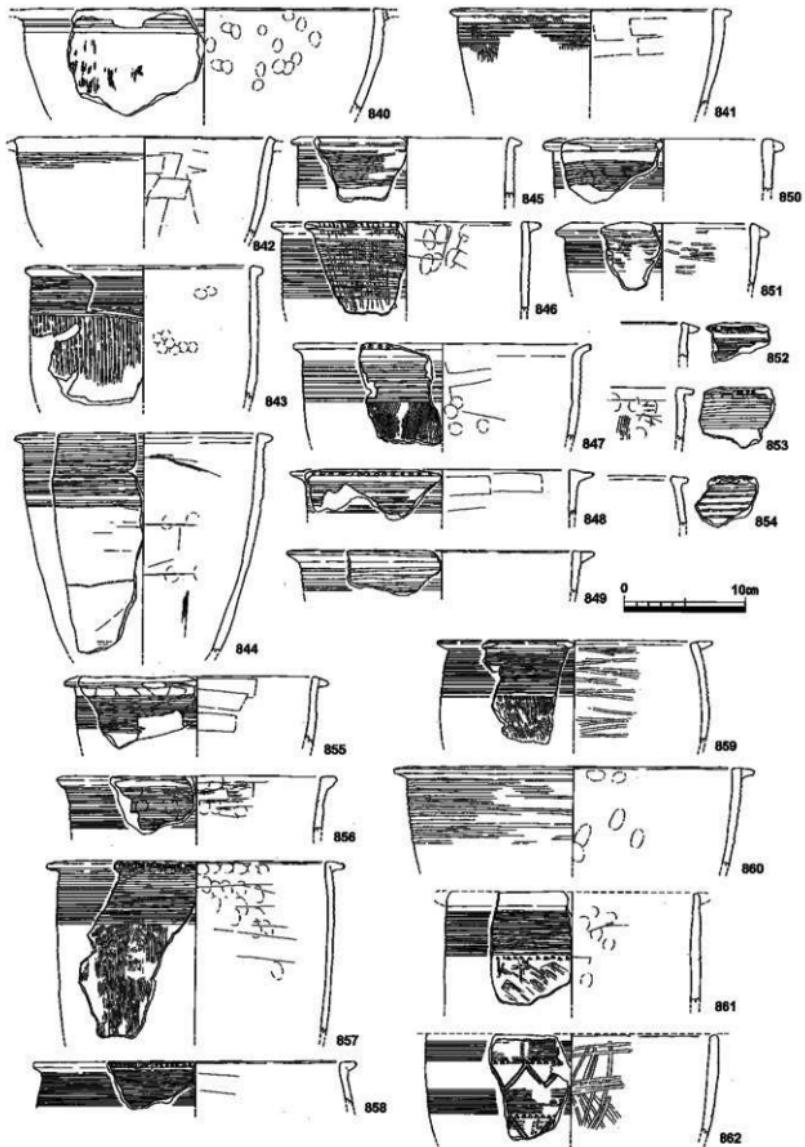
863～884は底部。863～866・875・877は壺底部。残りは壺底部と考えられる。874は底部外面に2孔1対の穿孔を試みた痕跡があるが、穿孔は極めて浅い。885・886は底部穿孔土器。いずれも焼成後に穿孔している。

887～889は蓋。887・888は天井部の外周がやや高く、中心付近は窪んでいる。天井部と体部の境はやや括れている。890はミニチュア土器鉢。器面に指押さえ痕が残る。

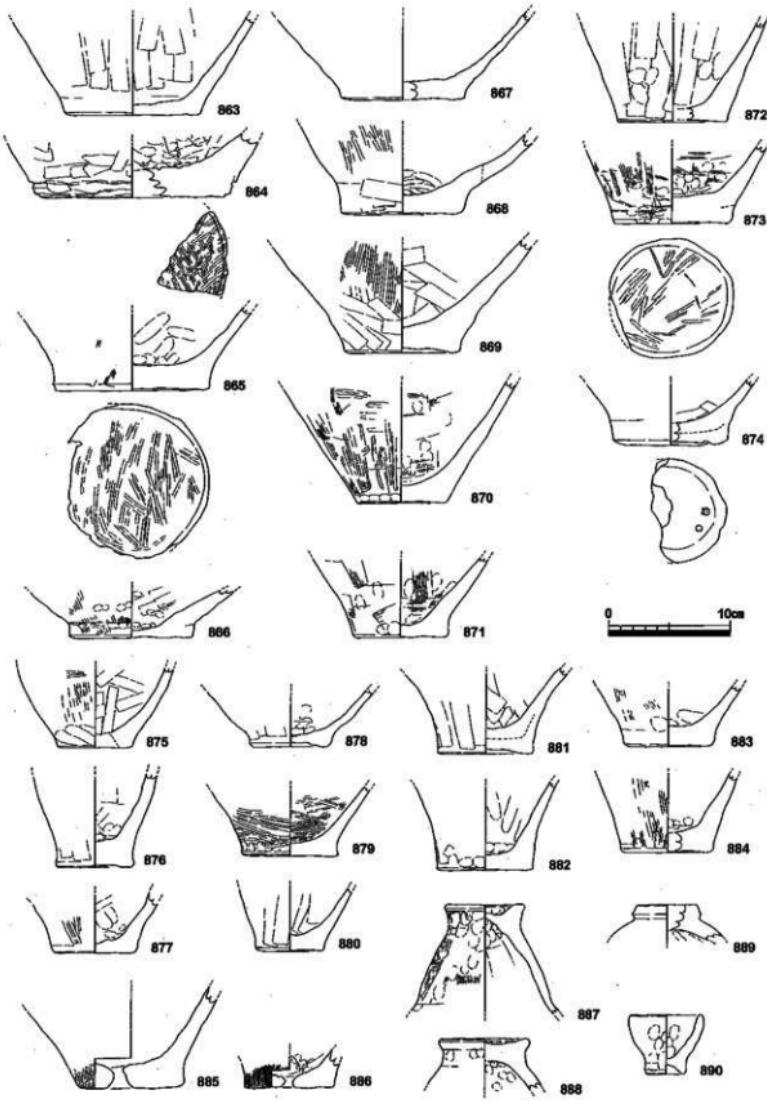
891～897は打製石器。すべてサヌカイト製。891は石鎌。四基式。892は石錐。893は石匙。894・895はスクレイパー。896・897は石庖丁。896は側縁部にわずかに抉りを入れる。897は剥離面の境の稜線部分に磨滅痕が残る。ともに上部に敲打痕を残す。



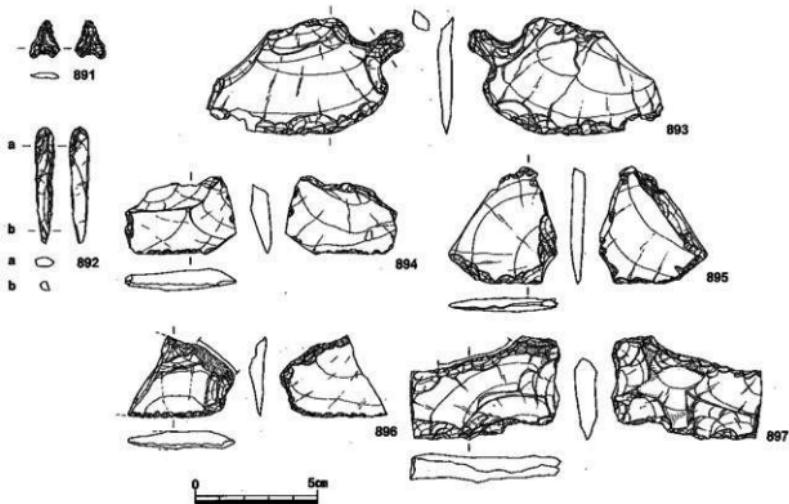
第80図 SRk01その他 (I-25) 出土遺物① (1/4)



第81図 SRk01その他（I-25）出土遺物②（1/4）



第82図 SRk01その他（I-25）出土遺物③（1/4）



第83図 SRk01その他 (I-25) 出土遺物④ (1/2)

〈I-27その他出土遺物〉(第84図、図版50)

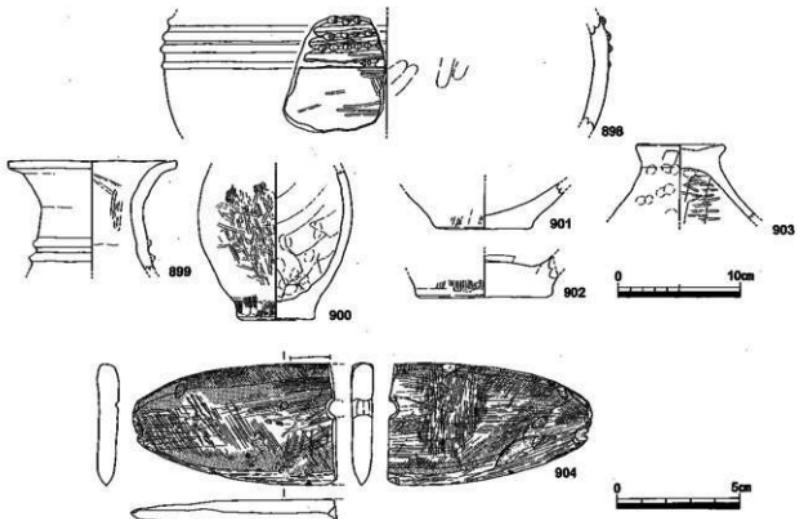
898~904はI-27部分から出土した層位不明の遺物である。898~900は壺。898は胸部最大径付近に刻目が付く貼付突帯を4条巡らす。器面はヘラミガキする。899はやや長めの頸部で、頸部と胴部の境目付近に2条の貼付突帯が残る。900は体部から底部。901~902は底部。壺の底部と考えられる。903は蓋。天井部径がやや広めで薄い。904は磨製石臼。上部に敲打痕がわずかに残る。完全な穿孔が1ヶ所に残るほか、穿孔途中とも考えられる浅い円形の窪みも1ヶ所に残る。流紋岩製。

〈I-26その他出土遺物〉(第85図、図版50)

905~914はI-26部分から出土した層位不明遺物である。905・906は壺。906は内面加筋の壺で、内面に刻目突帯や連弧状の突帯が付く。口縁端部には上下に刻目が付く。907~912は壺。907は如意状口縁、残りは逆L字型口縁を持つ。907~910は無文。911は6条のヘラ描き沈線文、912は11条のヘラ描き沈線文を持つ。ともに突帯の一部が剥離しているが、その下部にも沈線が施されている。913・914は壺底部。

遺物は上層と下層に分けて取り上げたが、際立った時期差はないようである。出土する土器の器種は壺・甕・蓋で大部分を占める。壺はすばまた頭部から口縁部が大きく開くものがほとんどであり、器面装飾は多条のヘラ描き沈線を持つもの、刻目突帯を持つものが多い。甕は如意状口縁を持つもの、逆L字状口縁を持つものがあり、それぞれ刻目を持つもの・持たないものがある。なかでは逆L字状口縁を持つものが8割を占め、また、刻目を持たないものの方が6割前後を占める。器面装飾は無文、ヘラ描き沈線、櫛描沈線、その他沈線の下部に波状文や刺突文を持つものがある。

場所による出土はI-25が最も多く、I-27とI-26の遺物出土量は同程度である。空港跡地遺跡の北辺道路部分やさらにその北に位置する宮西・一角遺跡で同時期の土坑群が検出されているので、より集落域に近い区画で土器の出土量が多くなっているのであろう。SRk01の時期はおおむね弥生時代前期末~



第84図 SRk01その他 (I-27) 出土遺物 (1/4)・(1/2)

中期初頭と考えられる。

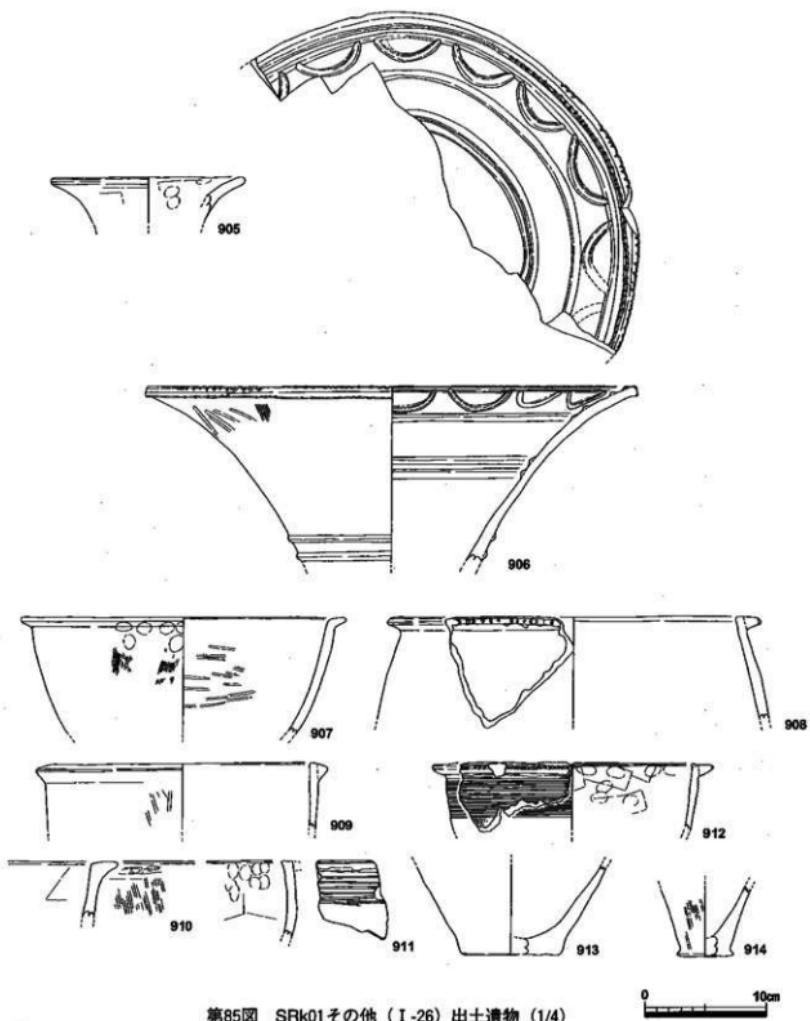
SRk02 (第86~88図、図版16・51)

I-25・I-23・I-26に亘って検出した自然河川である。I-25部分ではSRk01と平行するように北西から南東方向を向くが、I-23の北東隅でやや屈曲し、I-26では東方向へ向きを変え、調査区端ではSRk03と重なる。SRk03の埋土とは上層部分で共通している部分もあり、弥生時代前期末～中期初頭においては同時併存だった可能性が高く、ほぼ同時期に埋没し、後述するSRk03だけ弥生時代後半まで残っていたと考えられる。規模は幅10.4m～11.6m、深さは45cm～60cmで、底は北西から南東へ若干傾斜している。断面形状はI-25では浅い皿状であるが、I-26では底がやや削られて、緩いV字状になっている。埋土は最上層に土壤化が進んでいると思われる灰褐色砂混粘土層、上層に暗灰色粘土層、下層に黒灰色粘土層、底付近には灰色粘土・砂などが堆積する。SRk01同様湿地状態であったと考えられる。埋土中からは弥生時代前期後半～中期初頭までの土器が出土したが、遺物量は他の自然河川に比べて少ない。遺物の取り上げは大半は層位ごとに行わなかったが、出土遺物の大半は下層・黒灰色粘土層から下の層で出土した。

915はI-25の上層で出土した。弥生土器窓の底部。外面は横方向にヘラミガキする。

916～920はI-23黒色粘土層（下層）から出土した。916～919は甕。916は如意状口縁部を持つ無文のもの。917～919は逆L字状口縁部で、917は8条のヘラ描き沈線、918・919は樹脂沈線を施す。920は甕の底部。粘土の継ぎ目痕が観察できる。

921～928はI-26下層から出土した。921～926は甕。922以外は逆L字型口縁部をもつ。921は浅い沈線が1条観察できる。922は口縁端部をまっすぐ終わらせて最上部にヘラ描き沈線を1条施すが、沈線部も含めて最上部約1.2cmは若干変色しており、その下部に浅い指揮さえ痕があることから逆L字型口縁部が付いていた可能性もある。923・924・926は3条～5条以上のヘラ描き沈線を施す。925は4条1



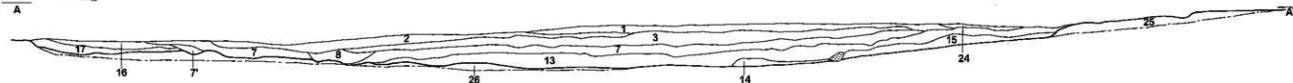
第85図 SRk01 その他 (I-26) 出土遺物 (1/4)



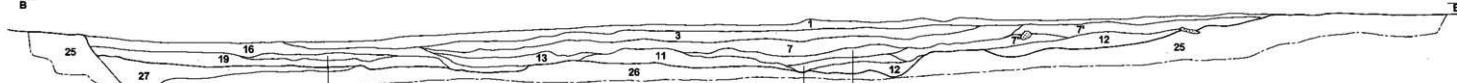
単位の櫛描沈線を施す。927・928は壺底部。

929～942はI-25出土取り上げ層位不明の遺物である。ただし、大半は黒灰色粘土層より下部で出土した。929は壺頸部。無文。930～939は壺。930・931は如意状口縁を持つ。930は無文、931は半裁竹管により沈線を施す。932～936・938・939は逆L字型口縁持つ。932は無文。933～936はヘラ描き沈線を施す。いずれも6条以上の沈線で、933は口縁端部に刻目を持つ。937は丸い体部を持ち、体部を櫛描沈線やヘラ描きによる山形文、刺突文を施す。最下段の刺突文は米粒状のものが途中から三角形のものに

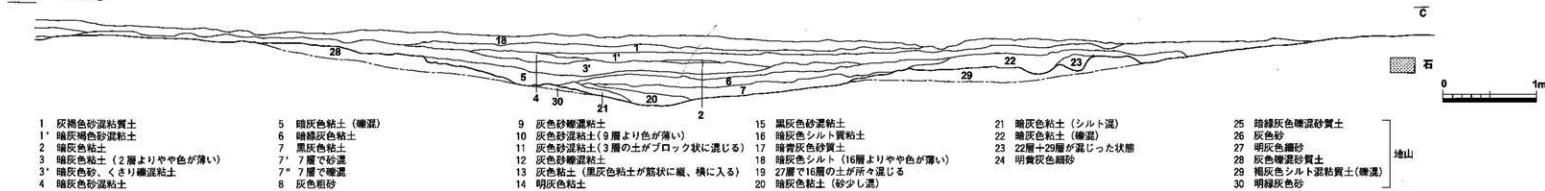
19.20m SRk02①



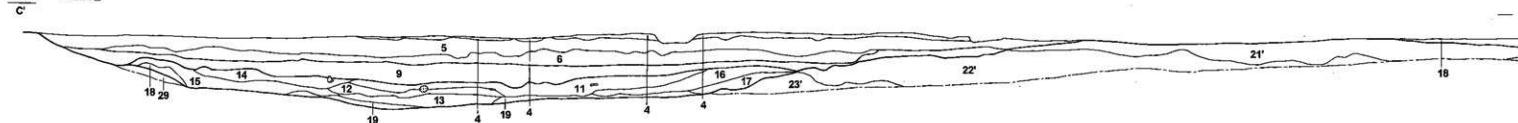
19.20m SRk02②



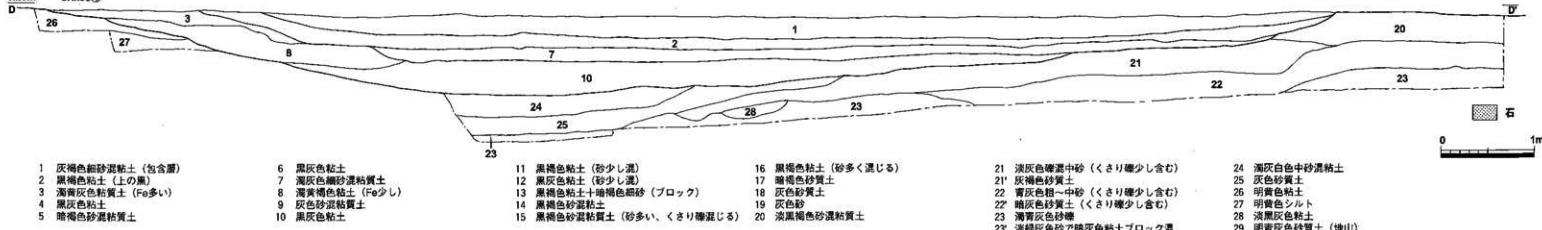
19.20m SRk02③



9.20m SRk03②

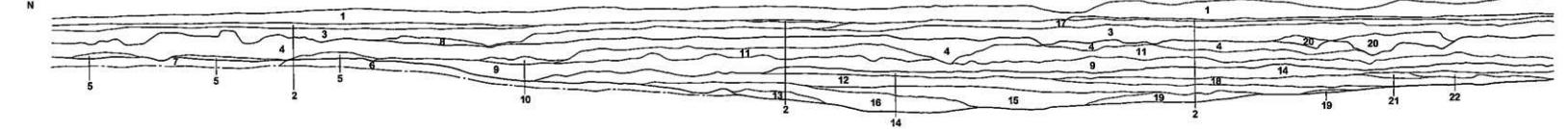


9.20m SRk03④

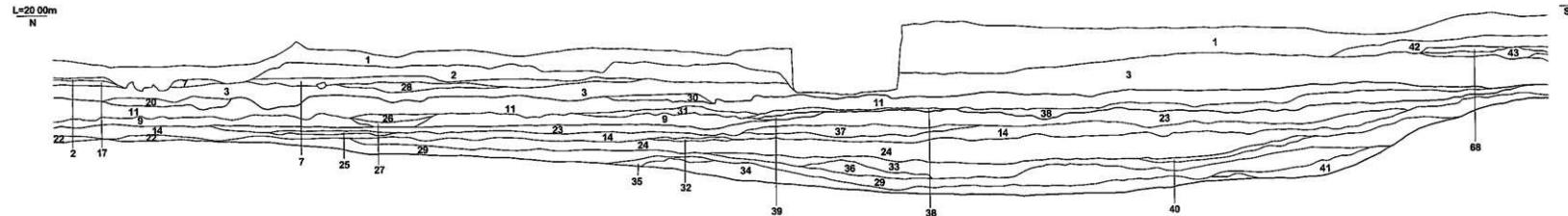


第86図 SRk02・03断面図① (1/40)

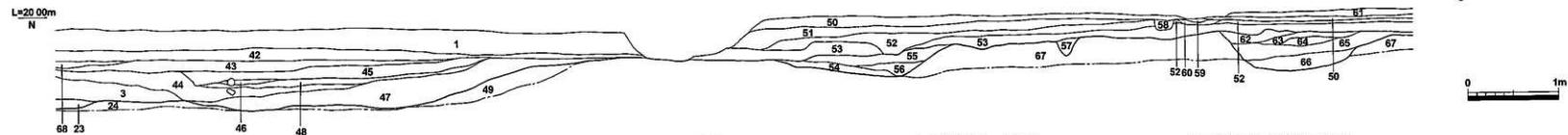
L=19.600m



L=20.000m



L=20.00m

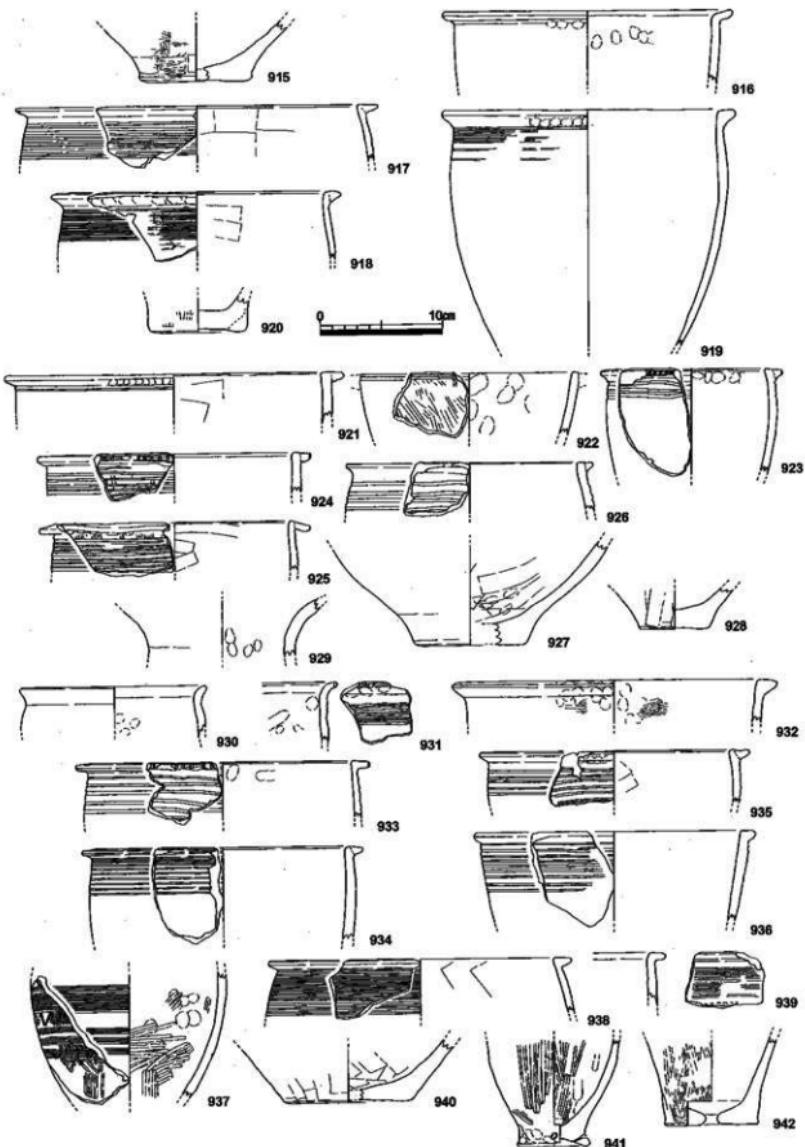


- 1 粘土
- 2 明灰褐色砂質土——床土
- 3 明灰褐色粘土
- 4 灰褐色粘土——包含层
- 5 灰褐色粘土——包含层
- 6 灰褐色粘土——地山
- 7 黑灰褐色粘土（レキ多い）——地山
- 8 明褐色粘土
- 9 名前褐色混砂粘土
- 10 褐褐色粘土
- 11 茶褐色混砂粘土（暗褐色粘土が入り混る）
- 12 茶褐色混砂粘土（砂が多い）
- 13 灰褐色シルト質粘土
- 14 茶褐色混砂粘土

- 15 黑褐色粘土
- 16 暗褐色混砂粘土
- 17 褐灰褐色粘土
- 18 褐褐色混砂粘土
- 19 棕褐色砂質土
- 20 黑褐色砂質土
- 21 黑灰褐色混砂粘土
- 22 黑灰褐色混砂粘土（少し）
- 23 黑灰褐色粘土
- 24 黑灰褐色粘土混砂質土（くさりレキ少し）——地山
- 25 黑灰褐色粘土（暗褐色砂質土がブロック状に混る）
- 26 茶褐色粘土（やや多い）
- 27 茶褐色混砂粘土（やや多い）
- 28 黑灰褐色粘土（上面にFeの集積層）
- 29 黑青色砂質土
- 30 床褐色粘土（3層よりやや暗い）
- 31 黑褐色粘土
- 32 床褐色粘土
- 33 黑灰褐色粘土
- 34 黑灰褐色混砂粘土
- 35 黑褐色泥シルト粘土
- 36 黑褐色粘土（暗褐色が1ヶ所で混る）
- 37 黑灰褐色混砂粘土
- 38 黑褐色粘土（4箇所の土が少し混る）
- 39 明灰褐色粘土
- 40 墓地褐色シルト質粘土
- 41 墓地褐色シルト—黑色粘土（炭が混る）
- 42 明灰褐色砂質土——旧耕土
- 43 灰褐色砂質土——旧耕土
- 44 灰褐色粘质土
- 45 灰褐色粘土（上面にFe）
- 46 明灰褐色粘土
- 47 明灰褐色粘土
- 48 灰褐色砂土
- 49 黄色粘土——地山
- 50 名前茶褐色砂質土——旧耕土
- 51 明褐色砂質土——旧耕土
- 52 明褐色シルト
- 53 明褐色シルト
- 54 明褐色シルト
- 55 明褐色シルト
- 56 灰褐色シルト（灰色粘土が混る）
- 57 暗褐色砂質土
- 58 暗褐色シルト
- 59 棕褐色粘土+細砂
- 60 明茶褐色シルト+明灰褐色シルト（ラミナ状）
- 61 明褐色砂質土——旧耕土
- 62 赤茶褐色シルト（Feが多い）
- 63 灰褐色シルト（上面にFe, Mn多い）
- 64 明褐色砂
- 65 黄褐色泥シルト（Feが多い）
- 66 黄褐色シルト
- 67 黄褐色シルト——地山
- 68 灰褐色砂質土（Feの集積層）

14~22—SRk02  
14~23~41—SRk03

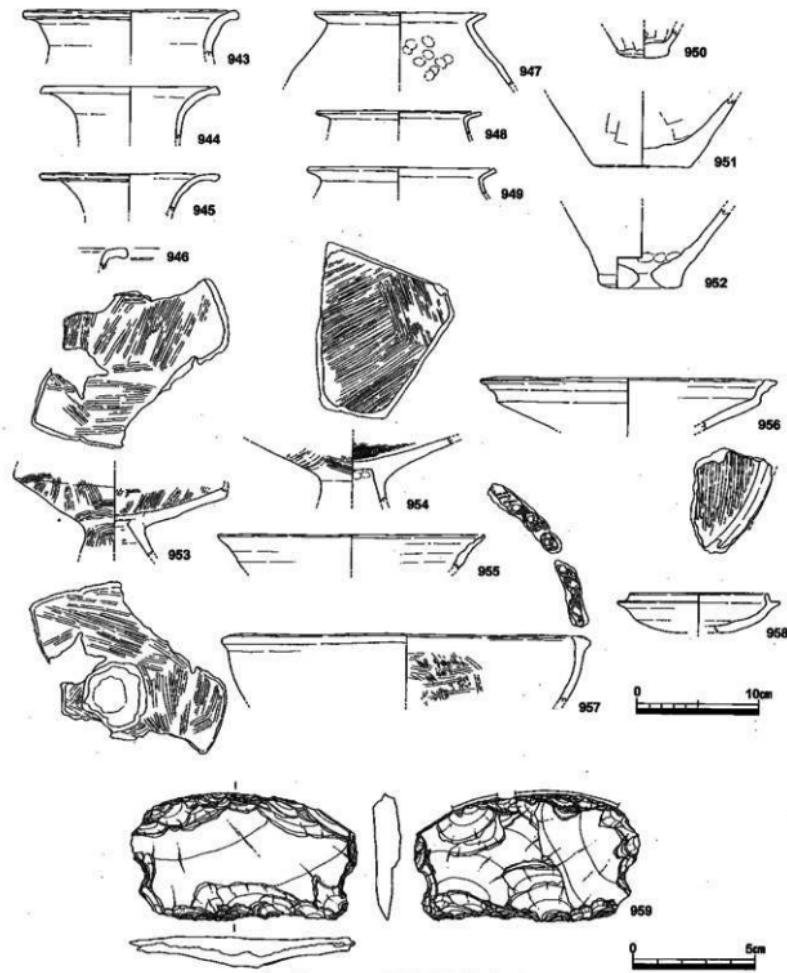
第87図 SRk02・03断面図（I-26東壁部分）②（1/40）



第88図 SRk02出土遺物 (1/4)

替わっている。櫛描は4条1单位である。938・939は櫛描沈線を施す。939は沈線の下部に竹管文を施す。940は壺底部。941は小型壺の底部。底部に1ヶ所外面から底部外面へ向けて穿孔しているが、底部外面側はわずかしか孔が開いていない。対角線上には穿孔はまったくなかった。942は底部穿孔土器。焼成後に穿孔している。

遺物はおおむね弥生時代中期初頭頃と考えられる。



第89図 SRK03上層出土遺物 (1/4)

### SRk03（第86・87図、図版18）

I-23からI-26・I-28にかけて検出した自然河川である。西から東方向へ向き、I-28で流路をやや北東方向へ変える。幅12.0～13.8m、深さ60cm～80cmである。埋土は上層・黒灰色粘土、中層・濁灰色細砂混粘土質、下層・黒灰色粘土層に分層した。上層・中層は厚さ10cm程度で、下層は25cm程度堆積する。上層からは弥生時代後期の遺物が、中層・下層からは弥生時代前期末～中期初頭の遺物が出土している。埋土は中層でやや砂が混じるもの、上層・下層とも黑色系の粘土が堆積し、他の自然河川とともに湿地帯を形成していたと考えられる。上層部分はI-26東壁によると、上層の黒灰色粘土層はSRk02の上面をも覆っており、最終的にはSRk02とほぼ同時に埋没していったと考えられる。遺物はおおむね上層・中層・下層に分けて取り上げをしたが、I-26・28では中層を抽出しきれず、下層で取り上げている。

#### 〈上層出土遺物〉（第89図、図版51・52）

943～959は上層から出土した遺物である。943～957は弥生土器。943～946は壺。946には胎土中に角閃石を多く含む。947～949は壺。いずれも下川津B類土器。950・951は底部。952は底部穿孔土器。穿孔は焼成後に現れる。953～956は高杯。953・954は杯部内外面に4方向分割のヘラミガキを行う。955・956は杯部小片。956は底部外面にヘラミガキが残る。高杯はいずれも胎土中に角閃石を含む。下川津B類土器。957は鉢。982と同一個体の可能性が高い。口縁端部に面を持たせ、そこに斜格子文を施し、円形浮文を数ヶ所に貼り付ける。958は須恵器杯身。底部は回転ヘラケズリをする。焼成は不良である。959は打製石窓。サヌカイト製。上部に敲打痕、刃部にわずかに磨痕が残る。出土遺物の時期は958が6世紀末頃、957が弥生時代中期中頃であることを除けば、おおむね弥生時代後期前半～後半頃と考えられる。

#### 〈中層出土遺物〉（第90・91図、図版52）

960～987は中層から出土した遺物である。すべてI-23から出土した。960は壺。体部には櫛描沈線と波状文を交互に配し、最下段に2段の刺突文を配する。櫛描きは4～5条で1単位である。961～972は壺。961・962は如意状口縁を持ち、その他は逆L字型口縁を持つ。961～965は無文。966～972は櫛描沈線を持つもの。摩滅していく沈線が薄くなっているものがほとんどである。櫛描の単位がわかるものは967が3条1単位、969が6条1単位、971・972が4条1単位と考えられる。櫛描沈線の下部に968には円形の刺突文、971には三角形の刺突文が付く。973・974は壺底部。975～979は壺底部。976・977は外面上にヘラミガキ、977は内面上にハケメが観察できる。980は壺。981は高杯口縁部。小片。下川津B類。大型品と考えられる。982は鉢。口縁端部に円形浮文が貼りつく。全体に摩滅が著しい。957と同一個体の可能性がある。

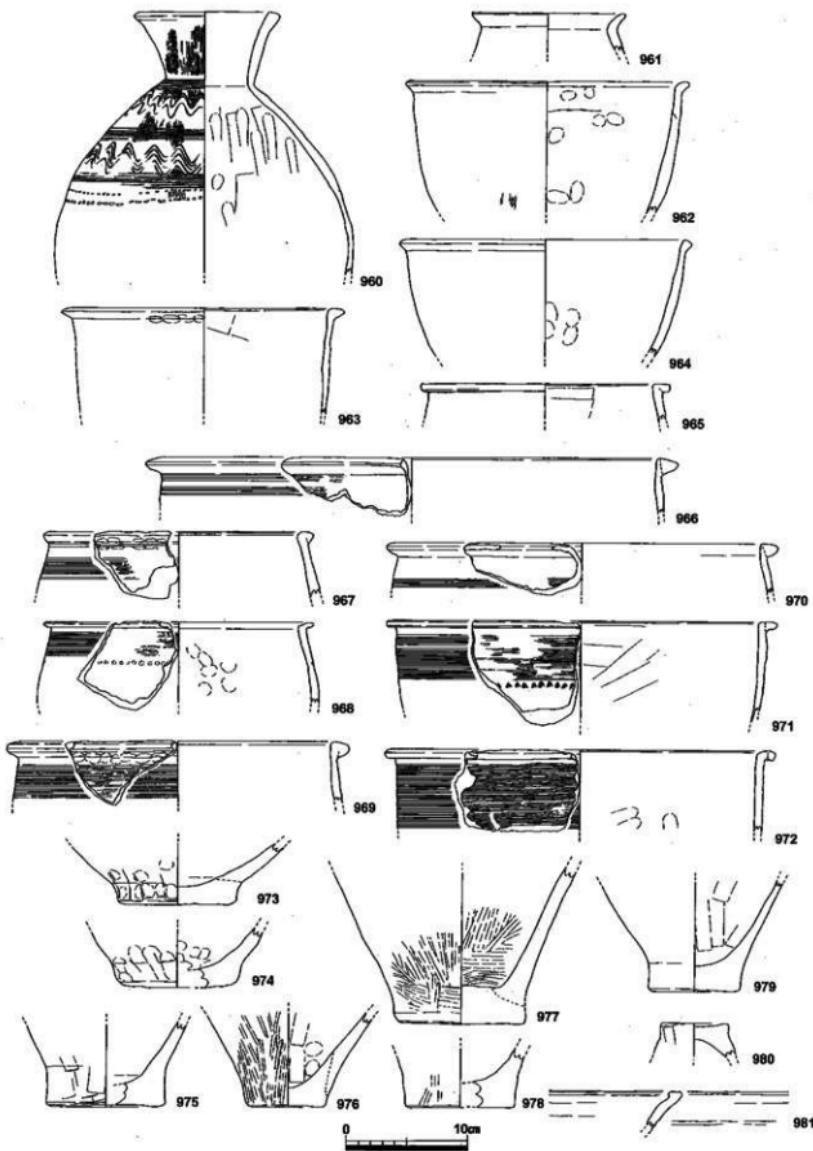
983～985は打製石器。サヌカイト製。983は石鎚。984は石斧か。側縁に敲打痕がある。985はスクレイバー。986・987は磨製石器。986は扁平片刃石斧。緑色片岩製。上下は欠け、表面も剥離している。987は大型船形石斧。緑色片岩製。上部・側縁部に敲打痕を残し、側縁部に擦痕を残す。

出土遺物は981が弥生時代後期前半頃、982が中期中頃であることを除けば、おおむね弥生時代中期初頭頃である。SRk01では大半を占めていたヘラ描き沈線は姿を消し、施文は櫛描沈線のみである。

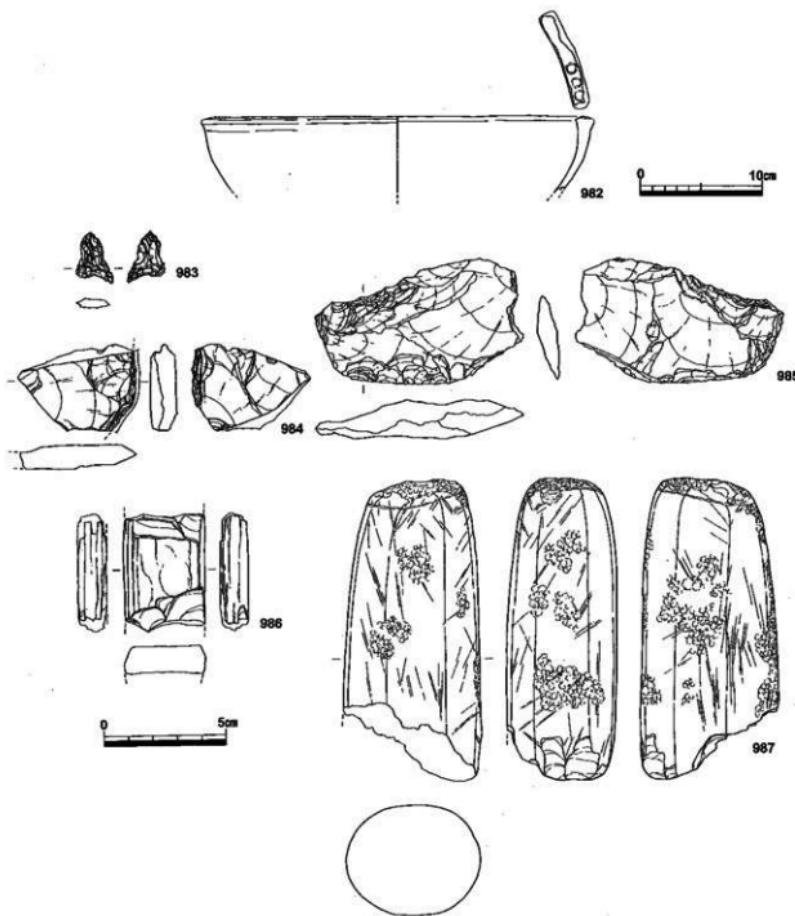
#### 〈I-23下層出土遺物〉（第92～94図、図版53～55）

988～1062はI-23部分の下層から出土した遺物である。988～996は壺。990・991は頸部に段を持つもの。992は頸部に10条以上のヘラ描き沈線を施し、内面・外面の上部はヘラミガキする。993は頸部に2条のヘラ描き沈線が確認できる。994は頸部に2条以上のヘラ描き沈線を描き、体部には半円の連張文を飾る。993と994は胎土がよく似ており、同一個体の可能性がある。前期Ib期まで遡るもの。996は無頸壺。

997～1025は壺。997～1005・1017は如意状口縁を持つ。997のみ端部に刻目を持つ。997～1002は無文。全体に摩滅が著しい。1003は口縁端部から少し下がったところでヘラ描き沈線が1条見えるが、沈線の

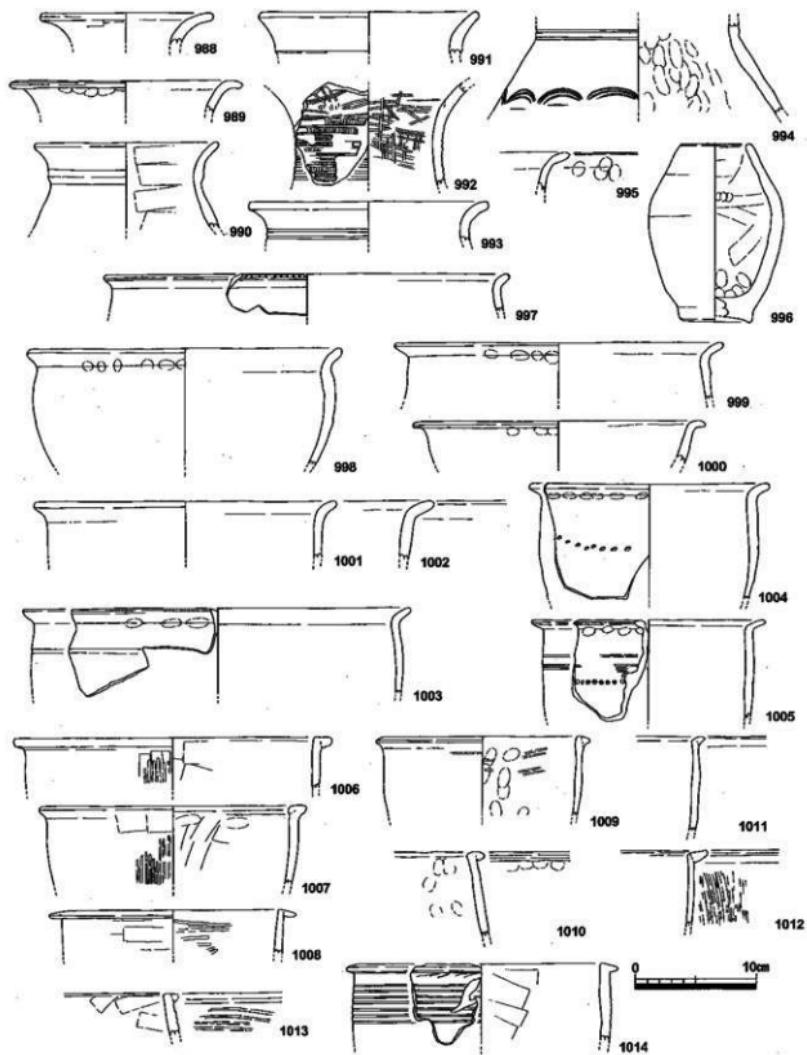


第90図 SRk03中層出土遺物① (1/4)



第91図 SRk03中層出土遺物② (1/4)・(1/2)

下側のラインは明確ではなく、緩い段状になっている。1004は体部中ほどに稍円形の刺突文が並ぶ。沈線は見えないが、器表は摩滅しており、櫛描沈線が施されていた可能性も残される。1005は体部中ほどに円形の刺突文が施され、その上部には、摩滅が著しいものの、櫛描沈線が所々に観察できる。1006～1024（1017は除く）は逆L字型口縁を持つもの。1006～1012は無文。体部には縱方向のヘラミガキを施すもの（1006・1007）、浅いハケメを残すもの（1012）がある。1013・1014はヘラ描き沈線を持つ。1013は4条以上、1014は7条のヘラ描き沈線を持つ。1015～1024は櫛描沈線を持つ。櫛描の単位は、わかる範囲では3条1単位のもの（1024）、4条1単位のもの（1016、1022）、5条1単位のもの（1018～1021、

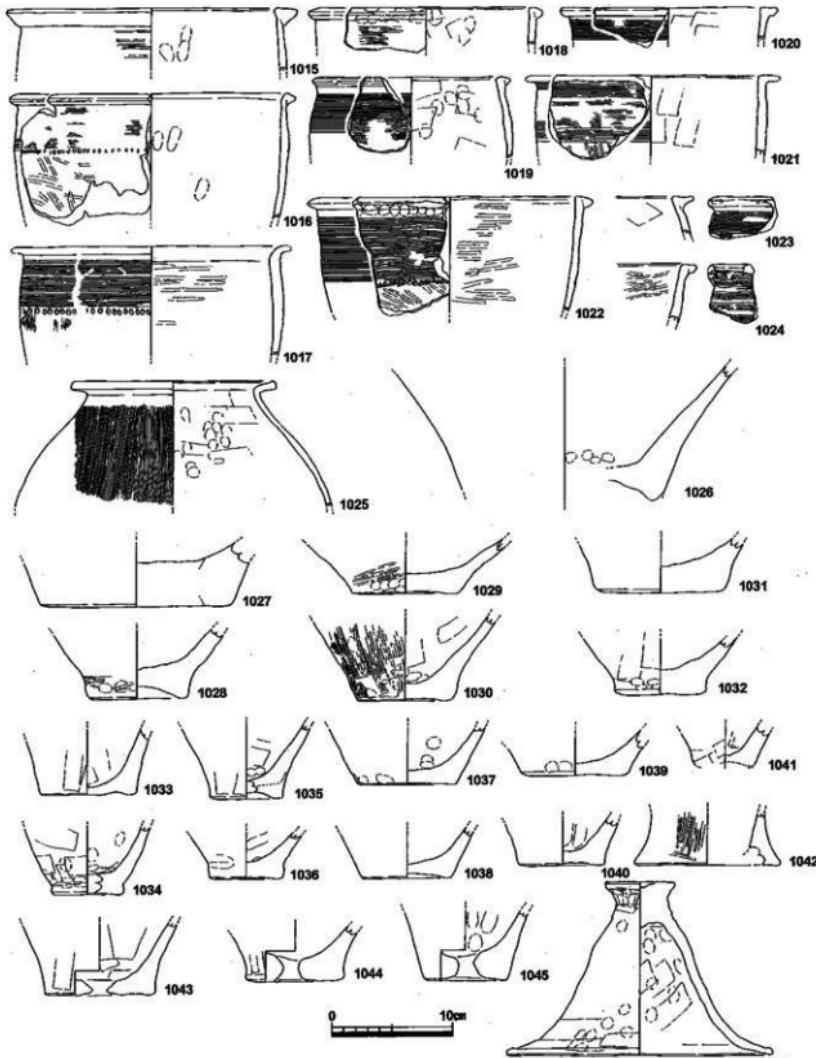


第92図 SRk03下層（I-23）出土遺物①（1/4）

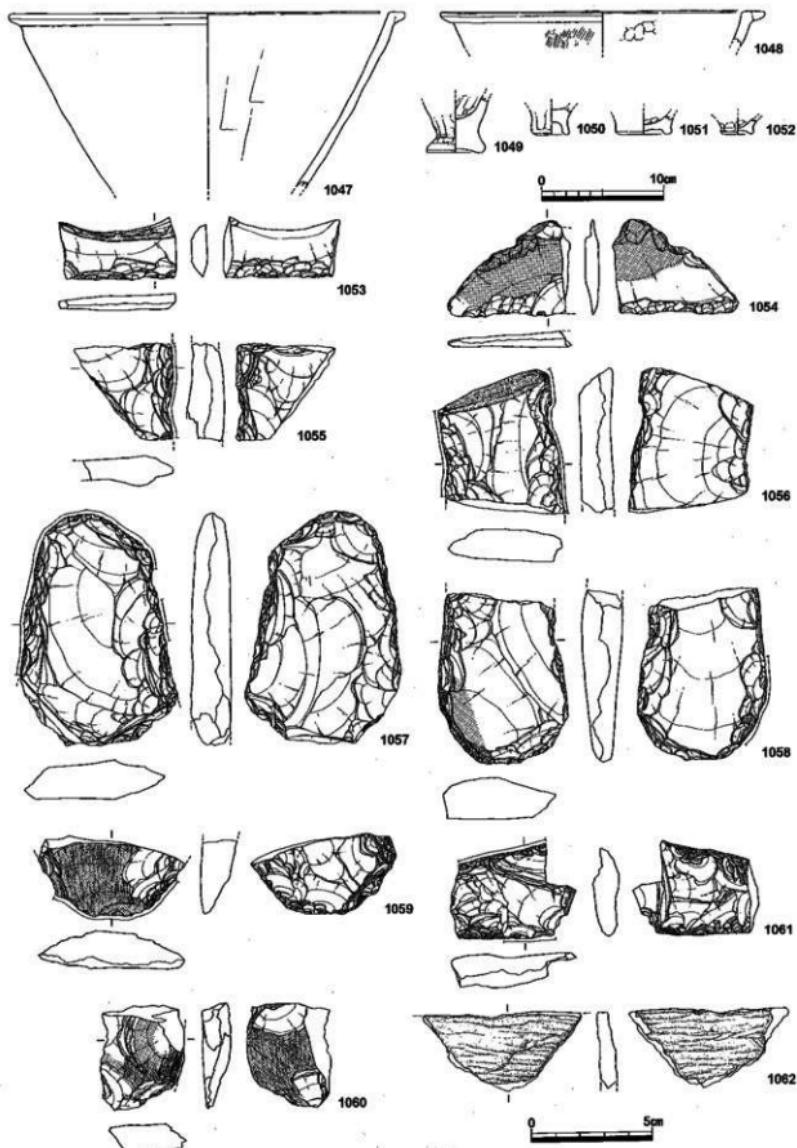
1023)、6条1単位のもの（1017）がある。横描沈線の下部には1016・1017は円形刺突文が、1019は波状文が、1022は三角形の刺突文が残る。1016では円形刺突文は一部にしか表現していないが、残りの部分は摩滅が著しく確認ができなかった。1025は胎土中に角閃石をわずかに含む甕。後期前半頃まで下るもので、上層からの紛れ込みと考えられる。

1026～1042は底部。1026・1041は底部が接合面できれいに剥離し、1035は底部に剥離痕がみえる。

1043~1045は底部を穿孔するもの。いずれも焼成後に穿孔を行っている。1046は蓋。天井部径が小さく、厚みがあって中央部は窪んでいる。天井部と体部の境はやや括れている。ほぼ完形で歪みが著しい。1047・1048は体部の立ち上がりが大きく聞く器形なので鉢とした。口縁部形態は逆L字型口縁部をもつ第と同じ。1049~1052はいずれもミニチュア土器と考えられる。



第93図 SRk03下層 (I-23) 出土遺物② (1/4)



第94図 SRk03下層（I-23）出土遺物③（1/4）・（1/2）

1053～1062は打製石器。1062以外はサヌカイト製。1053・1054はスクレイパー。1054は上部を突起状に作り出しており、石匙の可能性もある。両面上半部に磨滅痕がある。1055～1057は石斧。1055は側面片面に、1056・1057は両側面に敲打痕を残す。1056・1057は抉りがある。1058～1060は石鎚。とともに片面に多数の擦痕を残し、表面がつるつるになっている。1061は楔形石器。上部・下部とともに敲打痕を残す。1062は打製石窓。石材を薄く割り、上部を敲打している。表・裏面とも自然面のままである。石英片岩製。

出土遺物は、明らかに弥生時代後期に下る1025を除けば、壺はやや古い様相を示すものが目立つものの、出土遺物の多くを占める甕にヘラ描き沈線を施すものがほとんどなく、大半が無文のものと櫛描沈線を施すもので占められることから、おおむね弥生時代中期初頭頃と考えられる。

#### 〈 I -26 下層出土遺物 〉 (第95・96図、図版55)

1063～1100はI -26部分の下層から出土した遺物である。1063～1070は壺。1063は口縁部が大きく広がり、口縁端部は上方へ引き上げる。下川津B類土器。1065は口縁端部に刻目を入れる。1066・1067は頸部に沈線を施す。1066はヘラ描きで3条の沈線を描き、1067は4条1単位の櫛描を3単位施す。1068は内面加飾壺。内面に斜め方向の2条の突帯を残す。口縁端部には凹線がある。1069・1070は頸部に貼付突帯があるもの。1069は頸部に4条の貼付突帯があり、所々に突帯のうち2条を繋ぐような2本1単位の棒状突帯を上から貼り付ける。1070は2条の突帯を貼り付け、その上から2ヶ所に短めの棒状突帯を貼り付ける。

1071～1087は甕。1071～1073は如意状口縁を持つ。1071・1073は無文。1072は5条1単位の櫛描沈線を施し、その下部に波状文を描く。1074～1086は逆L字型口縁を持つもの。1074～1083は無文。1075には口縁部の下部に剥離痕がみえ、とともに把手が付いていたと考えられる。1080～1082は口縁端部に刻目を持つ。1084・1085は多条のヘラ描き沈線を施し、その下部にはハケメが観察できる。1084は13条以上の沈線を描き、口縁端部には刻目を入れる。1085は10条以上の沈線を描く。1086は4～5条1単位の櫛描沈線を描く。1087は下川津B類土器。頸部は緩くくの字に曲がり、口縁端部は四角くする。

1088・1089は壺底部。1089は体部と底部に境に粘土の継ぎ目が観察できる。1090～1094は甕底部。1093は歪みが著しい。底部は厚さ半分程度剥離していると考えられる。1095は底部穿孔土器。形態は甕の底部に近い。穿孔は焼成後行う。1096・1097は甕。1096は歪みが著しい。側面天井部付近に1ヶ所穿孔があるが、天井部外面までは貫通しない。1097は頂部付近で剥離し、上部は欠損。1098は鉢。

1099・1100は打製石器。サヌカイト製。1099は石鎚。平基式。1100は石斧。刃部の下面から側面にかけて敲打痕がある。

遺物の時期は、1063・1087は弥生時代後期前半まで下るが、残りはおおむね弥生時代前期後半～中期初頭で、中期初頭が中心となると考えられる。

#### 〈 I -28 下層出土遺物 〉 (第97図、図版56)

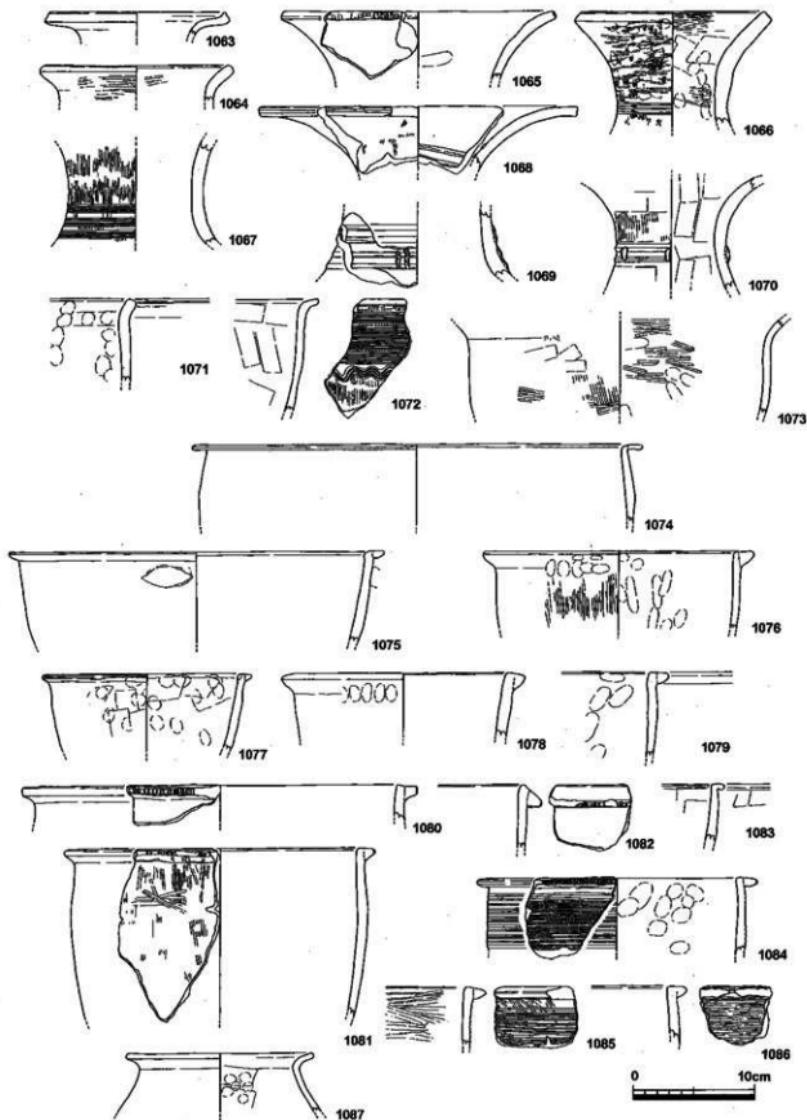
1101～1109はI -28の下層から出土した遺物である。1101は壺。やや内傾気味に立ち上がる頸部から大きく開く口縁を持つ。口縁端部は上方へ拡張し、口縁端面には緩く凹線状に窪む。下川津B類土器。

1102は壺の底部。しっかりした平底に丸みを持つ体部をもつ。1103は甕。逆L字型口縁で、7条のヘラ描き沈線を描く。1104～1106は底部。1106は底部に粘土の継ぎ目痕が観察できる。

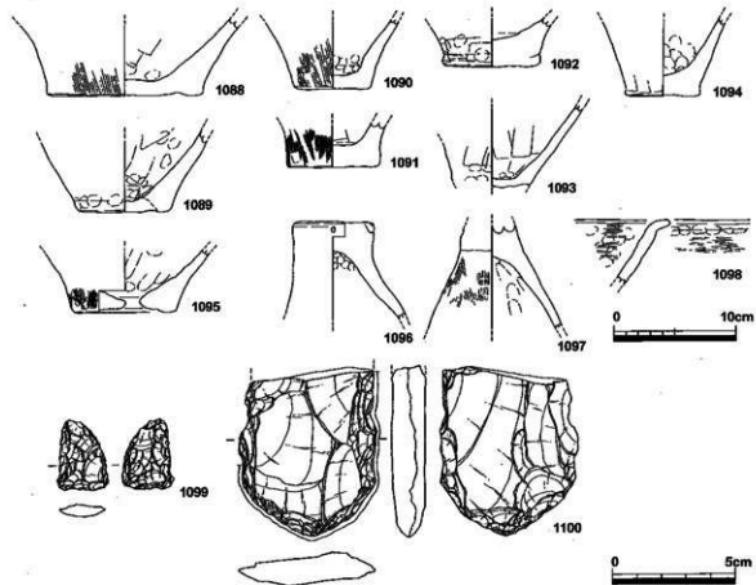
1107・1108は打製石器。サヌカイト製。スクレイパー。1107は上部に、1108は裏面に自然面を多く残す。刃の成形はほとんどしていない。1109は安山岩。表面には多数の擦痕があり、成形しようとした痕跡が観察できる。残りの面は割れています。磨製石器の未製品または失敗品か。

#### 〈 その他出土遺物 〉 (第98図、図版56)

1110～1119は出土層位不明の遺物である。1110・1111は壺。1110は3条の貼付突帯が付く。1112は甕。



第95図 SRk03下層 (I-26) 出土遺物① (1/4)



第96図 SRk03下層 (I-26) 出土遺物② (1/4) • (1/2)

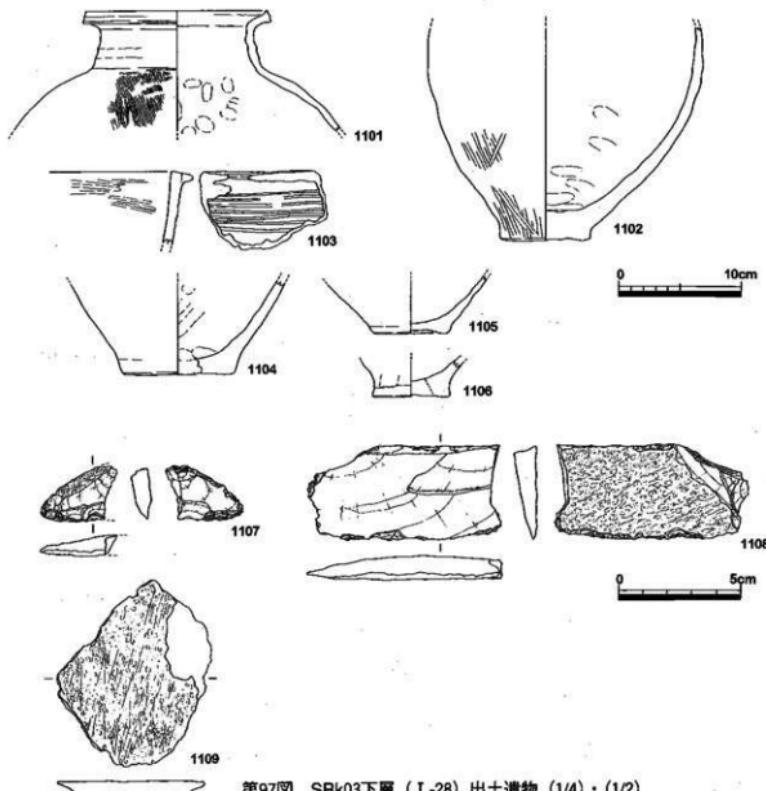
逆L字型の口縁部を持ち、5条以上のヘラ書き沈線を描く。1113～1115は底部。いずれも底底部と考えられ、外面調整は1113・1115にはヘラミガキ、1114にはハケメが施される。

1116～1118は打製石器。1118以外はサヌカイト製。1116は石鐵。凹基式。先端は欠損する。1117・1118はスクレイパー。1119は石庖丁。上部に敲打痕があるが、表・裏面とも割れた面のままである。結晶片岩（紅麻片岩）製。

#### SRk01～SRk03について

本調査区ではSRk01～SRk03の自然河川を幅約70～80mの範囲で検出した。これらはそれぞれ独立した自然河川として報告したが、SRk03の上層を除けばいずれも弥生時代前期後半～中期初頭と時期が限定されること、調査区の南側にこの流路にあうような自然河川が検出されていないこと、後述するような現地形の地割の乱れから、これらの流路は大きく捉えれば1つの流路であろうと考えられる。

都市計画図や江戸時代後期（文化15年頃）の作成とされる『山田郡下村順道図絵』を見ると、空港跡地の西側を走る旧河道の痕跡は、そのまま北側の下池・大池へと連なる流路と、東側の池台池へ方向を変え、東から北東方向へ向く地割の乱れがある。また、『順道図絵』の土地利用状況に拠れば、池台池から下池・大池へ連なるラインの東側一帯が下田舎として位置づけられていたのに続き、池台池から東へそれ、SRk01～SRk03からSRk01へ抜けるラインにラップして下田舎が占めている。このような状況からも、大きく捉えればSRk01～SRk03が同一の流路であると考えられる。空港跡地遺跡の西側に隣接する多肥宮尻遺跡の東端から、分ヶ池（池台池の一部）の南岸に沿うようにほぼ東西方向に弥生時代前期後半～中期初頭の自然河川が検出されており、これはSRk03へ連続するものと考えられる。また、高松



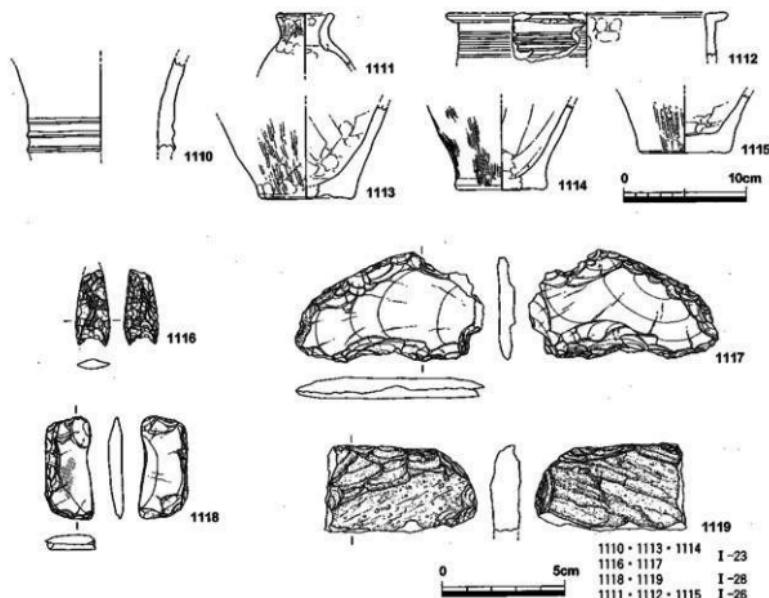
第97図 SRk03下層 (I-28) 出土遺物 (1/4)・(1/2)

市教育委員会が弘福寺領田園関連調査の際に発掘調査したF地区1・2トレンチからは同時期の溝が検出されている。この溝は埋土や検出位置からSRk01へ連続する可能性も考えられるかもしれない。SRk01～SRk03は大きく捉えれば西側から流れてきてI-28付近で北東へ屈曲し、SRa01から宮西・一角遺跡で検出したSRk03へ続いていると考えられる。

SRk01～SRk03までの部分は弥生時代前期後半には自然河川が埋没を始め、弥生時代後期後半にはSRk03部分が湿地状を呈し、その後古代～中世にかけて灰褐色～暗灰褐色粘質土の包含層が堆積していくようだ。

SRk03の延長部であるSRa01の直上からは厚さ約8cmの灰茶黒色粘質土の水田層が検出されている。また、その約17cm上面でも灰茶色粘質土の水田層を検出した。しかし、今回の調査ではSRk03の上面に堆積する包含層を細分することができず、水田層は検出することはできなかった。

3条の自然河川の中では遺物出土量はSRk01が際立って多い。その中でも特にI-25が最多く、I-26・27がほぼ同量であった。SRk02の遺物出土量はわずかで、SRk03はやや多い。これは当該期の聚落からの距離によるものと考えられる。



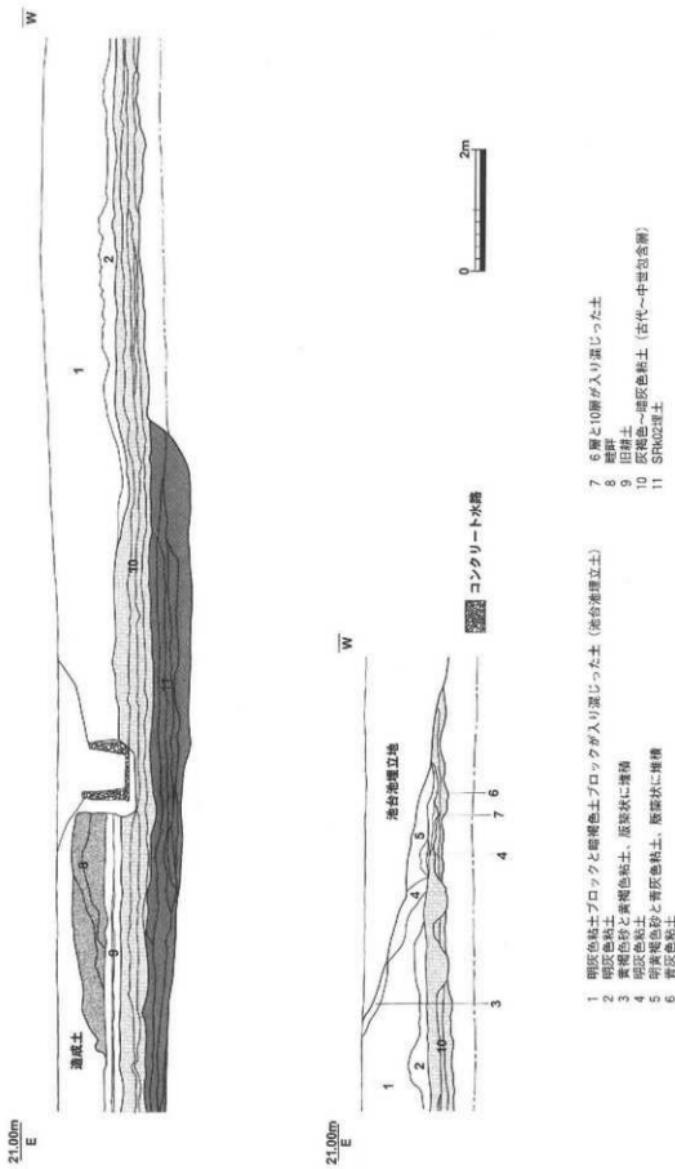
第98図 SRk03その他 (I-23・26・28) 出土遺物 (1/4)・(1/2)

## 6. 近世以降の遺構・遺物

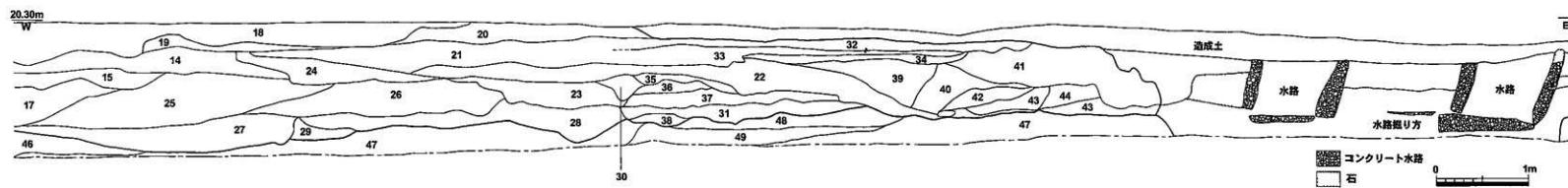
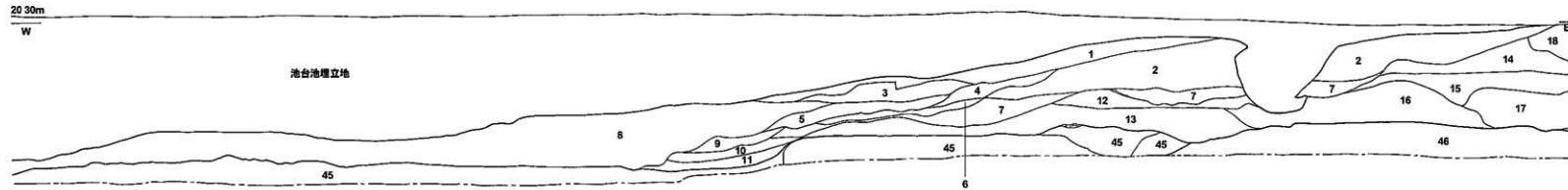
### 池台池堤防 (第99・100図)

平面的には確認をしていないが、池の東側から北東のコーナーにかけての堤防の盛土断面を部分的に検出している。I-26南壁土層でやや斜めに入った横断面を、I-26・27西壁断面ではやや斜め気味の堤防縦断面を、I-25北壁では北東隅コーナーの横断面の一部を検出している。調査時には堤防盛土を意識して断面図を作成していなかったので、堤防に直交する断面図は作成していないが、壁面で残っている堤防の高さは60cm~1.0m、幅は後述する暗渠水路の長さから約14mを測る。I-23の南端部ではベースが急激に上がっており、明治21年地籍図に拠ると、池の西南側には堤防は築かれていません。A地区西地区の池際の南壁土層断面図に拠れば、空港造成直前の地表面のレベルが約21.5mなので、堤防の標高もおむねそれくらいであろう。そうとすれば、堤防の高さは1.1~1.2m程度であると考えられる。堤防盛土は、I-26南壁部分では堤防の下部に堆積する包含層やSRk02の埋土ブロックを捏ね回したようなものを盛り上げたようにしておらず、池の際にわずかに明灰色粘土や黄褐色粘土と黄褐色砂を版築状にしたものと斜面に貼り付けている。一方、I-27の暗渠水路から北側で観察できる土層では、大雑把にいえば

- ① 堤防の両端基底部に橙褐色シルト・粘質土などのよく締まる土を盛る。
- ② 基底部中程に褐色砂礫を盛る。
- ③ 中央部分に灰色・黄褐色・褐色などの粘質土・砂質土などを盛る。
- ④ 堤防の水田側斜面に粘質土・砂質土など違う種類の土を交互に盛る。
- ⑤ 堤防上部に耕土と同様の土や、周辺で採取した土を捏ね回したような土を盛る。



第99図 池台地堤防断面図（I-25南壁部分）(1/80)



- 1 褐灰色泥砂質土
- 2 明褐色シルト+明黄褐色粗砂（版築状に堆積）
- 3 明灰色粘土+黄褐色粉（版築状に堆積）
- 4 明褐色シルトで明褐色砂混
- 5 明灰色粘土
- 6 明青灰シルト+黄褐色砂（版築状に堆積）
- 7 明褐色粘土
- 8 明灰色粘土
- 9 明青灰色粘土
- 10 明青灰色砂混积土
- 11 黄褐色砂
- 12 黄褐色粘土で2、7層混
- 13 橙褐色粘土質土（よく縛まる）
- 14 明灰色砂質土
- 15 明青灰褐色粘土
- 16 褐褐色砂混积质土（砂が多い）
- 17 黄褐色砂質土
- 18 黄灰色粘土フロックと暗灰色粘土フロックが入り混じる
- 19 明灰色砂質土
- 20 底色砂質土（旧様土と同じ土）
- 21 明褐色粘土質土
- 22 明黄褐色砂混积质土
- 23 明茶褐色シルト
- 24 黄褐色砂質土
- 25 黄褐色砂（2~5cm大的礫を含む）
- 26 黄褐色砂質土（砂が多い）

- 27 暗色砂層（5~10cm大的礫を含む）
- 28 明黄褐色砂混积土（よく縛まる）
- 29 茶赤褐色砂質土（よく縛まる）
- 30 黄褐色シルト
- 31 黄褐色シルト
- 32 明茶褐色砂質土（上面にFe沈殿）
- 33 明黄褐色砂質土
- 34 底色砂質土と青色土が入り混じった土
- 35 暗褐色砂質土
- 36 35で黄色土混
- 37 暗色砂質土（よく縛まる）
- 38 茶褐色砂質土（よく縛まる）
- 39 黄褐色砂質土

- 40 灰褐色砂質土
- 41 明青灰褐色砂質土フロックと褐灰色土混
- 42 褐褐色砂
- 43 褐褐色砂混积质土
- 44 黄褐色砂質土フロックが入り混じった土
- 45 Sf(O)の厚土
- 46 灰褐色砂混
- 47 暗色砂
- 48 暗色砂
- 49 黄褐色砂

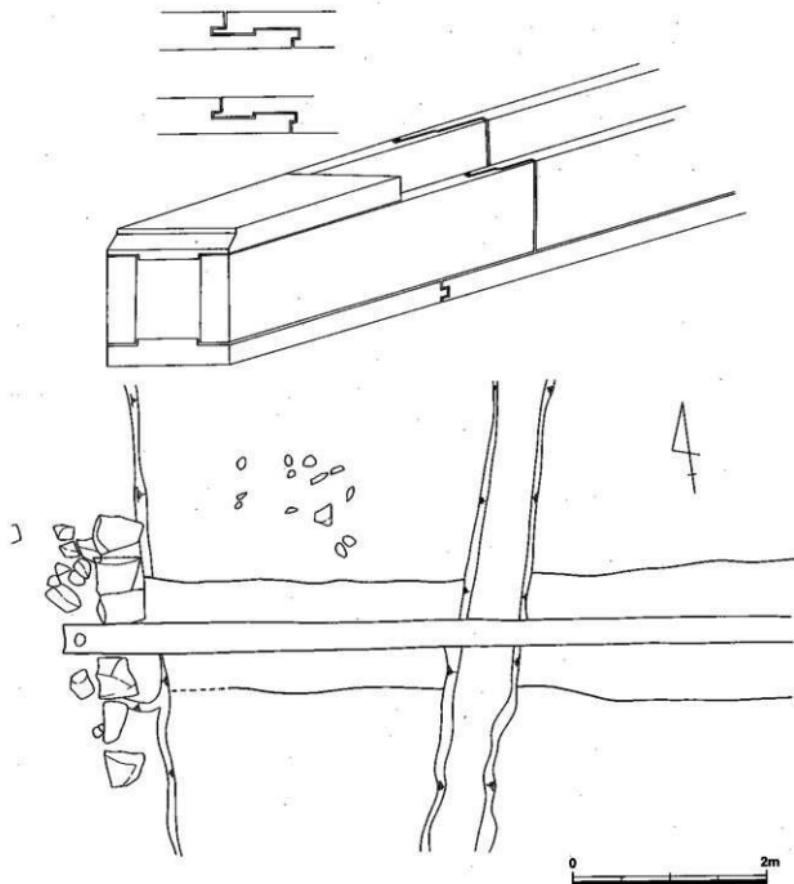
第100図 池台池堤防断面図（I-27北壁部）(1/40)

⑥ 池側斜面に粘土・砂・シルトを版築状に盛る。

といった工程を取るようである。I-25南壁部分に比べてこの部分の盛土状況が複雑なのは池のコーナーであることやユルの近くであるためと考えられる。

I-25北壁部分では池側の斜面に厚さが最大約55cmの明灰色粘土層が堆積し、その上下両側の層に版築状につき固めた層が認められる。この明灰色粘土は池台池の堆積土、版築状堆積土は堤防の盛土と考えられ、池の内部の自然堆積が進むにつれて、堤防を少し拡張したとも考えられる。

この堤防の築造時期は、明らかに堤防の下部にあるSKk11が13世紀後半であることから、それ以降であることは確実である。また、堤防の下部に堆積する包含層の出土遺物が13世紀後半頃までの遺物を含むようである。この堤防の築造年代は早くてもそれ以降と考えられる。



第101図 暗渠模式図・底ユル平面図 (1/50)

I-25・27 暗渠水路（底ユル）（第101図、図版18）

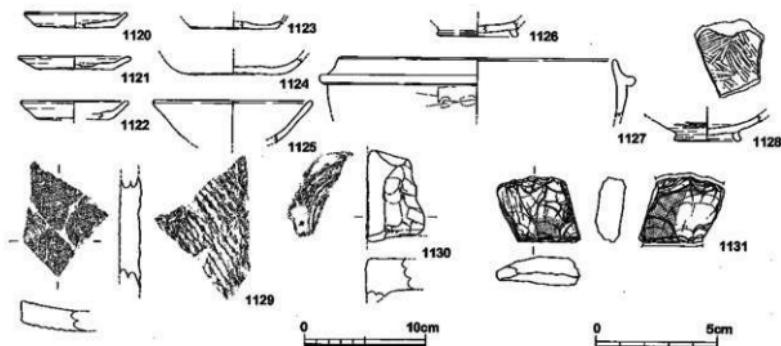
I-25北端部付近で暗渠を検出した。長さ18.2m、幅26cm、深さ28cmである。暗渠の組み方は、底板と天板の両サイドを溝状に掘って横板を嵌め込み、底板の継ぎ目、横板の継ぎ目、天板の継ぎ目はそれぞれ互いに嵌め込めるように端を図のように加工している。暗渠の掘り方は幅1.4m、深さ50cmで、埋土は地山ブロックで形成され、暗渠埋設後すぐに埋められた様子が窺える。断面形状はほぼ長方形である。暗渠の西端は石を暗渠の両側に3個ずつ1段だけ両側へ並べており、池側のほうに裏込めの石が見られる。天板には直径5cm程度の孔があり、ユルとなっている。東端はコンクリート水路へ接続している。この暗渠は池台池から水路を引くためのもので、暗渠の長さが堤防の底辺の長さと対応する。暗渠には所々に丸釘が残されていた。この暗渠の掘り方は堤防の最上部から掘り込まれており、堤防を築いた後に暗渠が設置されている様子が窺える。この暗渠自体は丸釘が使用されていることから遡っても明治時代中頃と考えられる。この暗渠は池台池にあるユルのうち底ユルに相当するものである。このユルからI-27区で検出した北東へ向く水路を通じて北側を灌漑していた。

トレンチ2（I-24）出土遺物（第102図、図版57）

トレンチ2は池台池の南東部にあたり、約2.2mの空港造成時の埋立土の下部に池台池の堆積土である濁灰緑色粘土・淡灰色粘土が約30cmある。掲載した遺物はいずれもI-24トレンチ2のうち淡灰色粘質土層から出土した遺物で、摩滅の度合いも比較的少ない。

1120～1127は土師質土器。1120～1122は小皿。口径は8.4～8.8cm、器高は1.0～1.5cmである。底部はすべてヘラ切りによる。1123・1124は杯底部。1124は時計回りのヘラ切り痕跡が残る。1125は杯口縁部。1126は碗底部。1127は足釜。内面はナデ、外面は横方向の板ナデを施す。鋤から下には煤が付着する。1128は須恵器碗。底部内面はヘラミガキ、外面には横方向のヘラミガキが残る。底部はヘラ切り痕が残る。1129は平瓦。土師質に近い焼成で、凹面には布目、凸面には斜め方向の縄目が残る。側端部には短辺方向の工具痕が残る。1130は軒丸瓦片。土師質の焼成で、摩滅が著しいが、縁線に取り付く尾っぽが2本見えることから、左回りの三巴文と考えられる。珠文は均等には配されない。丸瓦との接合部には指ナデ痕が顕著に残り、丸瓦と瓦当の接合粘土は多くない。1131は楔形石器。サヌカイト製。上部・下部とともに敲打痕を残し、両面ともに磨滅痕を残す。

これらの時期は、おおむね佐藤耀年II-1～2（12世紀後半～13世紀前半）に当たると考えられる。これらの遺物はすべて池台池の埋立土のなかの淡灰色粘質土から出土したものである。この層は第17図

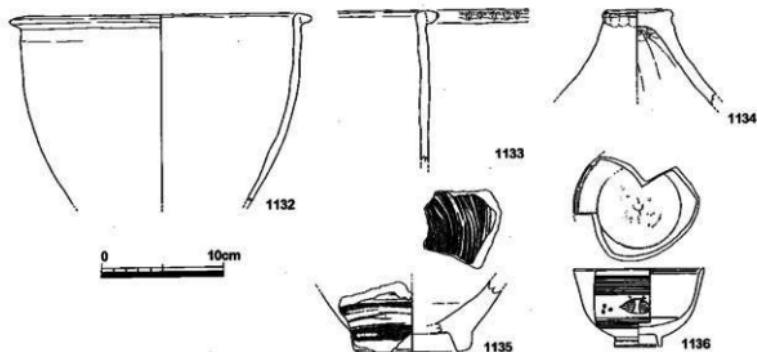


第102図 トレンチ2（I-24）出土遺物（1/4）・（1/2）

のうちの7の層になると考へられる。このように池の埋立土中に比較的時期の近接した、破片の大きい土器が出土するのは、その客土が遺構を含んでいた、あるいは遺物包含層であったことが考へられよう。トレンチ2の南東部、I-23SRk03の南岸一帯では、SXk11を中心とした淡灰褐色細砂混粘質土層が広がっており、ここからは12世紀後半～13世紀前半の遺物が出土している。埋立土の一部にこの辺りの土を利用していたとも考へられよう。

#### I-27旧水路（第103図）

I-27西北部で検出した南北方向の水路である。幅50cm、深さ30cmで、調査時はコンクリート製で、約2.5m東側にも同様の水路を検出しており、その間が畦道となっていたのであろう。これらの水路自体は昭和19年の陸軍飛行場造成時まで機能していたが、この水路は「順道図絵」にも描かれている。ただし、このコンクリート水路に先行する溝は認められず、このコンクリート水路は先行する溝と同位置に作り変えられたと考えられる。この水路は約1.3m四方の石組みの枠形で止まっており、そこから直角方向へ池台池へと伸びる木製暗渠へ続く。



第103図 旧水路（I-27）出土遺物（1/4）

1132～1134は弥生土器。1132・1133は壺。ともに逆し字型口縁で、体部に文様はない。1133は口縁端部に刻目を持つ。1134は蓋。天井部径がやや大きめで天井部と体部の境の括れがほとんどない。いずれも弥生時代前期末頃のもので、SRk01からの粉れ込みであろう。1135は陶器鉢。肥前系の刷毛目唐津。高台内と疊付部分は無釉。1136は肥前系磁器碗。外面と見込み部分に具須で絵付けする。

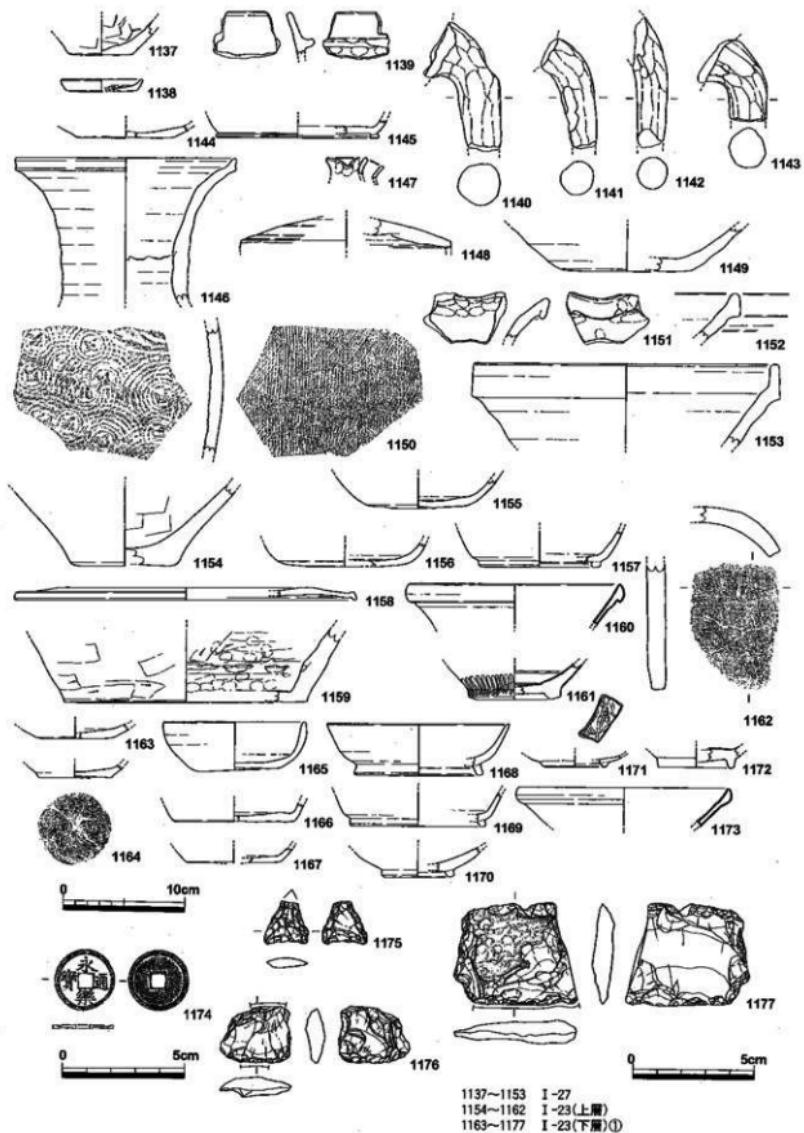
#### 7. 包含層、その他の遺物

##### 包含層出土遺物（第104・105図、図版57・58）

I-27・25・26・23で堆積していた包含層である。特にSRk01～03の上部で多く堆積し、そこから離れるに従って薄くなる。上層・灰褐色粘土、下層・暗褐色砂混粘土で、深い部分では厚さ25～30cm程度にわたって堆積する。A地区北地区ではこの層位で水田層が検出されたが、今回の調査区では水田層は検出できなかった。

1137～1153はI-27部分の包含層から出土した遺物である。

1137は弥生土器底部。1138～1143は土師質土器。1138は小皿。直径6.5cmで、13世紀～14世紀前半。1139は足釜口縁部。B II形式。14世紀前半。1140～1143は足釜脚部。1144～1152は須恵器。1144は壺。9世紀後半頃。1145は壺B。1146は壺。長頸壺で輪縁目を顯著に残す。1147は頸部口縁端部を片口状にして注ぎ口を作る。焼成は堅緻。ミニチュア土器の壺口縁部か。1148は壺肩部。肩に強い後線を持つ器



第104図 包含層出土遺物① (1/4) • (1/2)

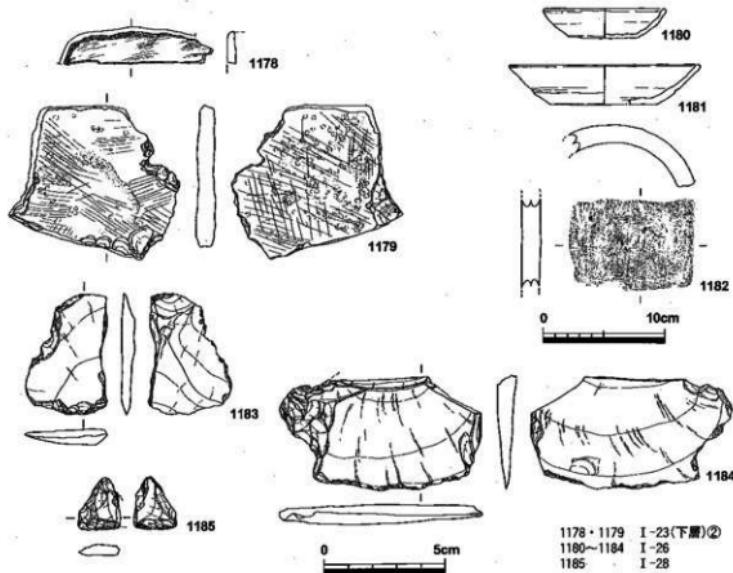
形で、上面には自然釉が分厚く掛かる。細長い頭部が付くと考えられる。1149は壺底部。1150は須恵器壺。小破片で傾きは不明。1151・1152は東播系捏ね鉢。1151は片口部分。口縁端部はわずかに下へ拡張する。ともに重ね焼き痕跡は見られない。13世紀末～14世紀前半。1153は備前焼鉢。

包含層の時期は、SKk11が埋没する頃以降からで、9世紀代の遺物を含むものの、おおむね14世紀前半頃以降と考えられる。

1154～1179はI-23から出土した遺物である。I-23の包含層出土遺物は、2層に分けて取り上げた。1154～1162は上層である灰褐色砂混粘土層から出土した遺物である。1154は弥生土器底部。壺底部。しっかりと平底を呈する。1155は土師質土器坏D。底部には板状圧痕がある。1156～1159は須恵器。1156は坏A。1157は坏B。1158は蓋。1159は壺底部。残存範囲内で内外面とも横方向にヘラ削りする。1160は白磁碗。口縁端部は玉環状にし、残存範囲内では全体に釉が掛かる。白磁第IV類。1161は白磁碗底部。内面と外面高台部付近まで施釉し、内面には沈線を2条、外面体部下半～高台部にはヘラ彫りを施す。1162は丸瓦。土師質の焼成で、凹面には布目压痕、外面は短辺方向にヘラ削りする。側端部はなでる。

出土遺物は、SRk03からの混入と考えられる1154、8世紀後半頃と考えられる1156～1158の他は、おおむね12世紀～13世紀前半頃のものが多い。ただし、この包含層は12世紀後半～13世紀中頃の遺構であるSKk11の上部に堆積するので、実際の包含層の堆積はもう少し遅れる。

1163～1179は下層である暗褐色粘土層から出土した遺物である。1163・1164は土師質土器坏底部。1163は坏D。1164は底部を回転糸切りで切り離す坏Eである。1165～1170は須恵器。1165は坏G。内面には自然釉が掛かり、底部外面は時計回りのヘラ切りをした後、ヘラ削りする。1166・1167は坏A。



第105図 包含層出土遺物② (1/4) • (1/2)

1166は外面に、1167は内外面に火拂が掛かる。9世紀代。1168・1169は坏B。1170は碗。摩滅が著しく、調整は不明。12世紀後半～13世紀前半頃の西村産のものと考えられる。1171は瓦器碗。和泉型。1172・1173は白磁。1173は白磁IV類。口縁端部を玉縁状にし、残存部分では釉は全体に掛かる。1174は北宋銭。永楽通宝。1175～1177は打製石器。すべてサヌカイト製。1175は石鎚。凹基式。先端部欠損。1176・1177は楔形石器。1176は上部・下部ともに敲打により刃を潰す。1177は片面に自然面を残し、上部の一部と下部に敲打痕を残す。1178は打製石庖丁。上部に敲打痕が残り、片面は剥がれています。石英片岩製。1179は磨製石庖丁の未製品か。安山岩製。上部はきれいに磨いており、両面ともに擦痕を残す。穿孔を試みた痕跡が認められる。

出土遺物の時期は13世紀前半～中頃を下限として、一部7世紀代の坏Gや8～9世紀代の須恵器坏がある。

1180～1184はI-26の包含層から出土した遺物。1180・1181は土師質土器坏D。1180は底部に時計回りのヘラ切り痕と板状圧痕を残す。1182は丸瓦。凹面には布目圧痕、凸面には短辺方向にヘラ削り痕を残す。側端面はなで仕上げる。焼成はよくない。1183～1185は打製石器。すべてサヌカイト製。1183・1184はスクレイパーとした。下部片面にわずかに刃を作り出し、片面はほとんど加工しない。1184は上部片側を突起状に成形している。

1185はI-28出土の石鎚。サヌカイト製。平基式。

この調査区からの出土遺物は少ないが1180の土師質土器坏Dは小振りのもので、時期は13世紀後半まで下る可能性もある。

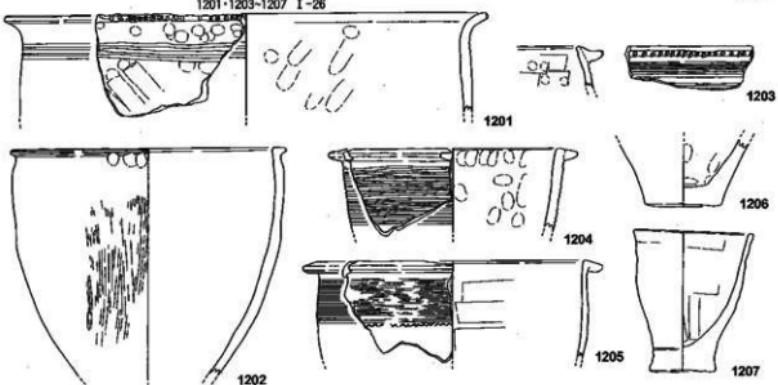
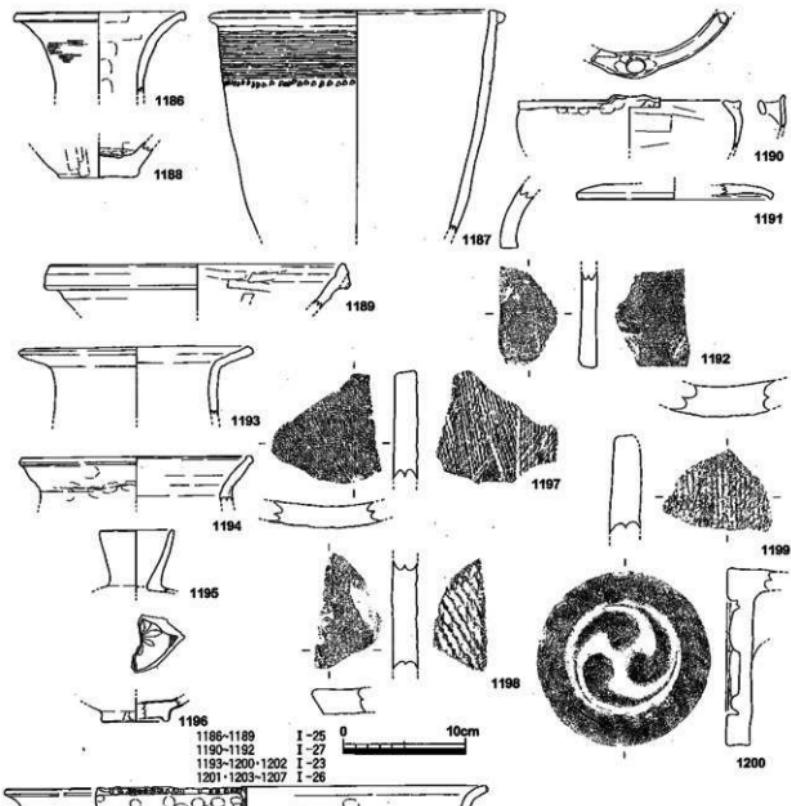
その他の出土遺物（第106・107図、図版59）

1186～1189はI-25から出土した遺物である。1186～1188は弥生土器。1186は壺。出土地不明。1187・1188はいずれも池台池にかかる位置で出土したもので、SRk01に由来するものと考えられる。1187は逆L字型口縁部を持つ壺で、多条沈線+三角刺突文を施す。沈線は上半部は明らかに3条1単位の構造で施文しているが、下半部は単位がくずれていてヘラ描きで施文しているようである。1189は須恵器捏ね鉢。東播系。池台池にかかる位置での壁切り出土の遺物で、包含層から出土したと考えられる。

1190～1192はI-27から出土した遺物である。1190は土師質土器把手付鍋。内耳が付く。16世紀頃。東側の壁切りの際に出土した遺物で、SXk12に関連する遺物かもしれない。1191は須恵器蓋。1192は丸瓦。凹面には布目圧痕を残す。凸面には短辺方向にヘラ削りし、側端縁は長辺方向になどある。側端部は長辺方向にヘラ削りする。軟質の焼成。1191・1192は北側の壁切りの際に出土した遺物。

1193～1200はI-23から出土した遺物。1193は弥生土器壺。角閃石が多く含むもので下川津B類土器。弥生時代後期中頃。調査区東壁から出土しており、SRk03上層部からのものか。1194は須恵器壺。口縁端部が若干肥厚する。表土除去の際に出土した。1195は須恵器平瓶口縁部。排土中から出土した。1196は青磁碗。内面には團線、見込みには花弁を配する。13世紀中頃以降。上面精査中の出土遺物。1197～1199は平瓦。1197・1198は凹面に布目圧痕、凸面に斜め方向の繩目痕がある。1197は凹面にコビキA痕が残る。1199は凹面に布目痕が残っていない。1197は排土中、1198は上面精査中、1199は表土除去中に出土した。1200は軒丸瓦。全体に黒く燃し、瓦当は三つ巴文。瓦当裏面中央部には指押さえ痕が残り、瓦当が取り付かない下部には瓦当の円弧に沿うナデがみられる。壁清掃中に出土した遺物。近世～近代のもの。

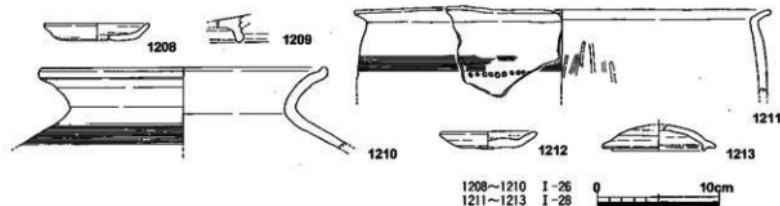
1201～1210はI-26から出土した遺物。1201～1207は弥生土器。いずれも弥生時代前期後半～中期初頭のもの。1203以外はSRk02またはSRk03から出土したと考えられるもの。1202・1206はSRk02・03のトレンチ掘削中に、その他は南半部の西壁壁切り中に出土した。1203はI-26北部の北側壁切り中に出土したもので、SRk01のものと考えられる。1201は如意状口縁にヘラ描き沈線3条を持つ壺。口縁端部



第106図 包含層その他出土遺物① (1/4)

には刻目を持つ。1202～1205は逆L字型口縁部を持つ壺。1202は無文。1203は4条以上のヘラ描き沈線を施し、口縁端部には刻目を持つ。1204は14条のヘラ描き沈線を持つ。1205は5条1単位の櫛描沈線をもち、その下部には三角刺突文を持つ。1206は壺底部。1207は小型鉢。1208は土師質土器小皿。皿B III-3形式。口径8.6cmで、底部はヘラ切りである。南壁の壁切り中に出土したもので、ベースを覆う明灰褐色粘質土・砂層などの包含層中から出土したものが。1209は土師質土器碗底部。小片。SRk03の南岸に広がる明灰褐色粘質土の包含層中から出土した。1210は須恵器壺。肩部と口縁部内面に一部自然釉が残る。体部にはカキ目がある。北部の表土除去中に出土した。

1211～1213はI-28から出土した遺物である。1211は弥生土器壺。如意状口縁を持ち、器面は櫛描沈線+円形刺突文を施す。弥生時代中期初頭。上面精査中に出土した。1212は土師質土器小皿。皿B III-3形式。口径7.6cmで底部はヘラ切りする。1213は須恵器壺蓋。返りの付くもの。頂部はヘラ削りする。1212・1213は北壁壁切り中に出土した。1212はベースを覆う明灰褐色粘質土・砂層などの包含層中から出土したものか。



第107図 包含層その他出土遺物② (1/4)

## 第4章 自然科学調査の成果

### 第1節 空港跡地遺跡（K地区）の樹種・種実同定

株式会社 古環境研究所

#### (1). 樹種同定

##### 1. はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から概ね属レベルの同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が少ないとことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

ここでは、空港跡地遺跡より出土した木材について樹種同定を行った。

##### 2. 試料

試料は、I-23SRk03出土の自然木1点（試料1）、I-26SRk03出土の自然木1点（試料2）、I-27SKk11出土の板状木製品1点（試料3）、I-28SKk06出土の自然木2点（試料4・5）、I-26SKk06出土の加工木1点となすび型木製品1点（試料6・7）、合計7点である。

##### 3. 方法

カミソリを用いて、試料の新鮮な基本的三断面（木材の横断面、放射断面、接線断面）を作製し、生物顕微鏡によって60～600倍で観察した。同定は解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

##### 4. 結果

結果を表4に示し、主要な分類群の顕微鏡写真を図版に示す。以下に同定の根拠となった特徴を記す。

#### ツガ *Tsuga sieboldii* Carr. マツ科 （図版60）

仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞及び放射仮道管から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行は急である。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は、スギ型でややヒノキ型の傾向を示し、1分野に2～4個存在する。放射仮道管が存在し、その壁には小型の有縁壁孔が存在する。わずかではあるが、樹脂細胞が存在する。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型で、1～20細胞高である。

以上の形質より、ツガに同定される。ツガは福島県以南の本州、四国、九州に分布する。常緑高木で通常高さ20～25m、径50～80cmである。材は耐朽、保存性中庸で、建築、器具、土木、薪炭などに用いられる。

#### コナラ属コナラ節 *Quercus sect. Prinus* ブナ科 （図版60）

横断面：年輪のはじめに大型の道管が、1～2列配列する環孔材である。晩材部では薄壁で角張った小道管が、散在ないし火炎状に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属コナラ節に同定される。コナラ属コナラ節にはカシワ、コナラ、ナラガシワ、ミズナラがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉高木で、高さ15m、径60cmぐらいに達する。材は強靭で弾力に富み、建築材などに用いられる。

#### コナラ属クヌギ節 *Quercus sect. Aegilops* ブナ科 (図版61)

横断面：年輪のはじめに大型の道管が、1～2列配列する環孔材である。晚材部では厚壁で丸い小道管が、単独でおよそ放射方向に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属クヌギ節に同定される。コナラ属クヌギ節にはクヌギ、アベマキなどがあり、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、高さ15m、径60cmに達する。材は強靭で弾力に富み、器具、農具などに用いられる。

#### コナラ属アカガシ亜属 *Quercus subgen. Cyclobalanopsis* ブナ科 (図版61)

横断面：中型から大型の道管が、1～数列幅で年輪界に関係なく放射方向に配列する放射孔材である。道管は単独で複合しない。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属アカガシ亜属に同定される。コナラ属アカガシ亜属にはアカガシ、イチイガシ、アラカシ、シラカシなどがあり、本州、四国、九州に分布する。常緑高木で、高さ30m、径1.5m以上に達する。材は堅硬で強靭、弾力性強く耐湿性も高い。特に農耕具に用いられる。

## 5. 所見

同定の結果、空港跡地遺跡の木材は、ツガ1点、コナラ属コナラ節1点、コナラ属クヌギ節2点、コナラ属アカガシ亜属3点であった。自然木はコナラ属アカガシ亜属、コナラ属コナラ節、コナラ属クヌギ節であり、周囲に生育していたものが用いられているとみられる。なすび型木製品はコナラ属アカガシ亜属であるが、農耕具は照葉樹林域では堅硬な材質のコナラ属アカガシ亜属が多用される。

### 参考文献

佐伯浩・原田浩 (1985) 針葉樹材の細胞、木材の構造、文水堂出版、p.20-48.

佐伯浩・原田浩 (1985) 広葉樹材の細胞、木材の構造、文水堂出版、p.49-100.

島地謙・伊東隆大 (1988) 日本の遺跡出土木製品総覧、雄山閣、296p.

## (2). 種実等同定

### 1. はじめに

植物の種子や果実は比較的強靭なものが多く、堆積物や遺構内に残存している場合がある。堆積物などから種実を検出し、その種類や構成を調べることで、過去の植生や栽培植物を明らかにすることができる。

ここでは、空港跡地遺跡より出土した種実類について同定を行った。

## 2. 試料

試料は、I-23SRk03地点で1点（試料8）、I-26SRk03地点で1点（試料9）、I-27SKk11地点で2点（試料10、11）、I-28SKk06地点で3点（試料12、13、14）、I-26SKk04地点で5点（試料15、16、17、18、19）およびI-26SKk05地点で2点（試料20、21）と葉2点（試料22、23）である。いずれも遺跡の調査担当者により水洗選別されたものである。

### 3. 方法

試料（堆積物）に以下の物理処理を施して、抽出および同定を行った。

- 1) 試料の表面の汚れを筆などで除去する。
- 2) 双眼実体顕微鏡下で観察し、種実の同定計数を行う。

同定は形態的特徴および現生標本との対比を行い、結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示した。

### 4. 結果

#### (1) 分類群

樹木3、草本5の計8が同定された。学名、和名および粒数を表5に示し、主要な分類群を写真に示す。以下に同定の根拠となる形態的特徴を記す。

〔樹木〕(図版62)

クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. 堅果 ブナ科

種子は黒褐色で広椭円形を呈し、下端に広い付き部がある。断面は椭円～半円形である。

堅果は三角状扁円形を呈す。一側面は丸みがあり、反対面は平らな形が多い。両面とも丸みがある。

モモ *Prunus persica* Batsch 核 バラ科

黄褐色～黒褐色で椭円形を呈し、側面に縫合線が発達する。表面にはモモ特有の隆起がある。

センダン *Melia azedarach* L. var. *subtripinnata* Miq. 核 センダン科

黒褐色で椭円形を呈し、一端は円孔となる。縫に5本の発達した稜が走る。

〔草本〕(図版63)

タデ属 *Polygonum* 果実 タデ科

a. 黒褐色で先端がとがる卵形を呈す。表面にはやや光沢があり、断面は三角形である。

b. 黒褐色で先端がとがる広卵形を呈す。表面には網目模様があり、断面は両凸レンズ形である。

ヒシ *Trapa dispinosa* Roxb. var. *Iiumai Nakano* 果実 ヒシ科

黒褐色を呈し、ヒシ特有の角（上位角）の破片が得られた。

ウリ属 *Cucumis melo* L. 種子 ウリ科

淡褐色～黄褐色である。椭円形を呈し、一端には「ハ」字状のへこみがある。

藤下（1992）による長さ8.1mm以上の大粒種子（モモルディカ型）にあたる。

ヒョウタン属 *Lagenaria siceraria* Standl. 種子・果皮（破片） ウリ科

淡褐色で椭円形を呈す。上端にはへそと発芽孔があり、下端は波うつ切形を呈す。表面には縫に2本の低い稜が走る。

果皮は、木質化しやや厚みがある。表面はなめらかで裏面は粗い。

藤下がヒョウタン仲間とするものには、ヒョウタン・フクベ・カンビョウが含まれ、このうちフクベ・カンビョウは食用になる。

〔葉〕〔図版64〕

いずれも破片であり、完形のものはない。単葉で、葉縁は鋸い鋸歯を有し、側脈はおよそ10対で裏に突出している。托葉の有無や、毛の有無は、保存状態が悪いため観察できない。以上の特徴から、ニレ科の可能性はあるものの広葉樹との同定にとどまった。

5. 種実群集の特徴と考察

遺構内から検出された種実で多かったのは、ヒヨウタン類である。なお、ウリ類は一部でまとまって検出されている。これらはいずれも栽培植物である。モモも栽培される樹木で、クリは栽培と野生とがある。センダンは特に中世の集落で多い傾向にある。検出された種実類はいずれも栽培植物ないし有用植物および人為環境に生育する種類である。

参考文献

- 並原安夫 (1985) 日本雑草図説、萎賢堂、494p.
- 南木睦彦 (1992) 低湿地遺跡の種実、月刊考古学ジャーナルNo.355、ニューサイエンス社、p.18-22.
- 南木睦彦 (1993) 葉・果実・種子、日本第四紀学会編、第四紀試料分析法、東京大学出版会、p.276-283.
- 金原正明 (1996) 古代モモの形態と品種、月刊考古学ジャーナルNo.409、ニューサイエンス社、p.15-19.

試料	報文番号	出土位置	種類	結果(和名/学名)							
1	未報告	I-23SRK03	自然木	コナラ属クヌギ節							
2	未報告	I-26SRK03	自然木	コナラ属コナラ節	Quercus sect. <i>Argylophila</i>						
3	279	I-27SKK11	板状木製品	ツガ							
4	未報告	I-28SKK06	自然木	コナラ属アカガシ亞属	Quercus subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>						
5	未報告	I-28SKK06	自然木	コナラ属アカガシ亞属	Quercus subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>						
6	4	I-26SKK05	加工木	コナラ属クヌギ節	Quercus sect. <i>Argylophila</i>						
7	5	I-26SKK05	なすび型木製品	コナラ属アカガシ亞属	Quercus subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>						

第4表 樹種同定結果

学名	分類群	和名	部位	I-23				I-26				I-27				I-28				I-26				
				SRK03	SRK03	SRK11	SRK06	SRK04	SRK05															
Arbor		樹木																						
<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	*	クリ	果実	1				1																
<i>Prunus persica</i> Batsch	**	モモ	根																					
<i>Melia azedarach</i> L. var. <i>subspinosata</i> Miq.		センダン	果実																					
Herb			草本																					
<i>Polygonum</i>			タデ属(カヤツリグサ科)果実	1				1																
<i>Tropaeolum</i> Rost. var. <i>Inumii</i> Nakano *			ヒシ																					
<i>Leguminosae</i> Standl.	**		ヒヨウタン類					7																
<i>Cucumis melo</i> L.	***	ウリ類	種子					(+)																
Total		合計		1	7	4	1	16	12	0	1	5	13	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1
		その他																						
		虫エイ?																						

第5表 種実同定結果

## 第5章 まとめ

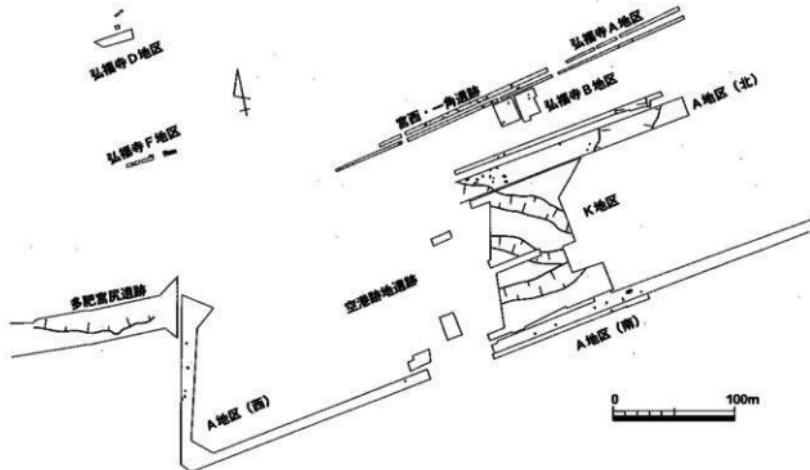
### 第1節 遺構の変遷（第109～111図）

#### 1. 弥生時代前中期～中期初頭（第108図、第6～8表）

今回の調査区では調査区全体を横断するように3条の自然流路を検出している。これらの流路は北西・東から南東・西方向へのものが見られるが、この調査区では南部の一部を除いて土地が低く、全体に低地であったことが見て取れる。この流路は西側はいずれも池台池の浚渫により破壊されており、どこから流れてきたのかは正確にはわからないが、最も北側を流れるSRk01はA調査区で池台池の肩に沿うように流路の肩を検出している。SRk01からはコンテナ約86箱、SRk02からはコンテナ約3箱、SRk03からはコンテナ約15箱の遺物が出土しており、周辺に当該期の集落があったことが推測される。特にSRk01からは量が多く、遺物の埋蔵度の少ない土器が出土している。

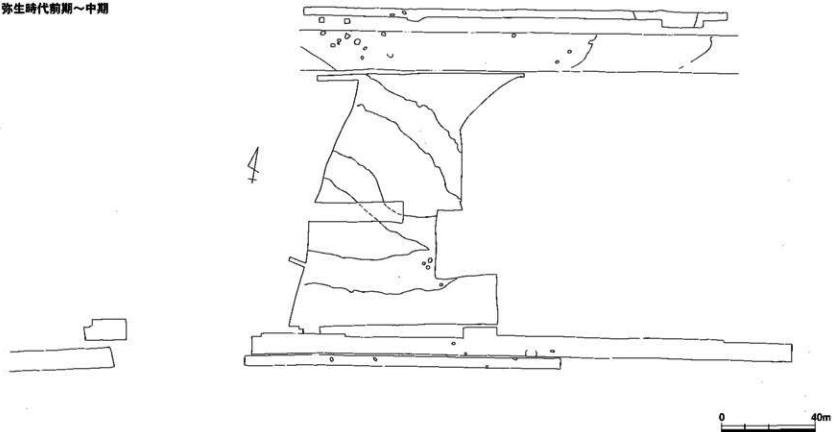
今回の調査区ではこの時期の遺構はこれらの流路だけであったが、空港跡地遺跡A地区北地区およびその北側約35mに位置する宮西・一角遺跡では当該期の土坑が数多く検出されている。これらはSRA01(SRk03)とSRA02(SRk01)に挟まれた場所で検出されたが、多くはSRA02に近い場所で検出している。土坑の性格については廃棄土坑のほかに貯蔵穴などの性格を持つのではないかとされる土坑がある（平成3年度 空港跡地遺跡発掘調査概報）。おおむねこの時期の集落の1つはK地区北側の西寄りに展開していたと考えられる。

この調査区で検出した3条の流路のうち最も南側に位置するSRk03は他の2条と異なり最終埋没は弥生時代後期後半まで下る。この状況はA調査区北地区で検出したSRA01と同じである。また、今回の調査区の西側に当たり、池台池の一部であった分ヶ池の南側に位置する多肥宮尻遺跡で検出したSR01は、上・中・下層の3層に分類されているが、このうち上・中層に当たる黒色砂混粘質土層・黒褐色粘質土層からコンテナ67箱に及ぶ弥生時代前期後半～後期後半の土器と木製品の農耕具が出土している。この

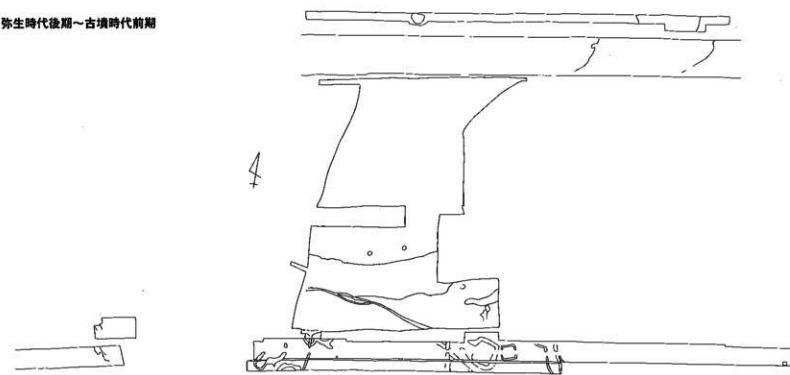


第108図 空港跡地遺跡K地区周辺弥生時代前期～中期初頭遺構配置図（1/4,000）

弥生時代前期～中期

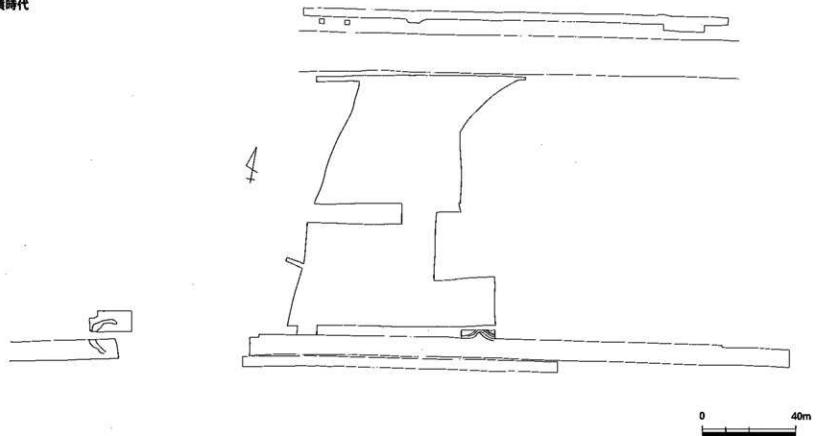


弥生時代後期～古墳時代前期

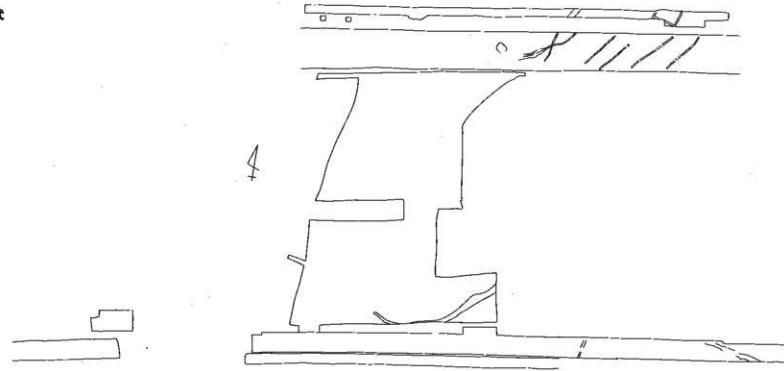


第109図 遺構変遷図①② (1/1,600)

古墳時代

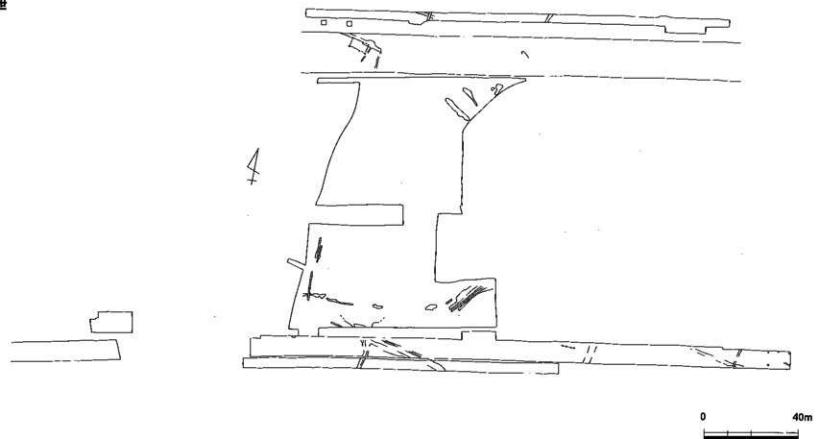


古代

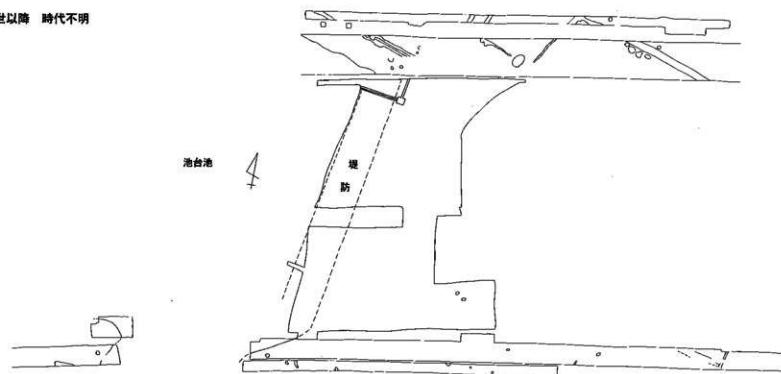


第110図 造構変遷図③④ (1/1,600)

中世



近世以降 時代不明



第111図 遺構変遷図⑤⑥ (1/1,600)

SRk01は位置関係や出土遺物の時期などからSRk03へ連続するものと考えられ、当該期の集落はより削平を受けていないと考えられる遺跡の南方にあることを想定している（県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報「多肥宮尻遺跡」平成9年度）。おそらくその集落はA地区西地区で一部検出している前期の集落と同一のものであろう。

また、分が池の北側に設定した弘福寺領の調査F調査区1および2トレンチでは北西から東方向へ屈曲する幅2.0m、深さ40cmの溝を検出している。ここからは検出範囲が狭い割には大量の当該期の土器が出土している。この溝はトレンチ1で幅が2.0mと狭いものの、埋土や方向、出土遺物の時期がSRk01によく類似しており、あるいはSRk01の延長部として考えられるのではないか。いずれにしても低湿地帯を挟んで両側に集落があった様子が窺える。

SRk01～SRk03からは弥生時代前期後半～中期初頭の土器が数多く出土した。これらのうち壺・甕の口縁形態・体部の文様構成を一覧表にしたのが第6～8表である。甕は口縁形態は80%前後が逆L字型

SRk01（上層）

		合計	
		頸部	体部
無文	5		5(38.5)
段	1		1( 6.7)
ヘラ	1(9～)	1(7)	2(13.3)
櫛		3	3(23.1)
貼凸	1(5)		1( 6.7)
貼凸(刻目)	1(3～)		1( 6.7)
合 計	5	4	13

( )内は沈縫または貼付突審の条数。合計の( )内は全体に占める割合(%)

SRk01(その他)

	頸部	体部	頸部+体部	合計
無文	3			3(25.0)
段				0
ヘラ	1(2)		1(2～+1～)	3(25.0)
	1(3～)			
櫛				0
貼凸	1(2～)			2(16.7)
	1(4)			
貼凸(刻目)	1(2)	2(3～)		3(25.0)
貼凸+ヘラ		1		1( 8.3)
合 計	3	6	2	12

( )内は沈縫または貼付突審の条数。合計の( )内は全体に占める割合(%)

SRk01(下層)

	頸部	肩部	頸部+肩部	合 計
無文	12			12(17.4)
段		0		0(0)
ヘラ(1～3)	1		1	2
ヘラ(1～)	4			4
ヘラ(4～6)	3	1	4	8
ヘラ(4～)	2			2
ヘラ(7～9)	1			1
ヘラ(7～)	1			1
ヘラ(10～)	5			5
櫛	3			3(4.3)
削凸	1			1(1.6)
貼凸(1)	1	1		2
貼凸(1～)	1			1
貼凸(2)				0
貼凸(3)		2		2
貼凸(4～)	1	1		2
貼凸(刻目)(1)	3		2(全部で)	3
貼凸(刻目)(2)	2	1		3
貼凸(刻目)(3)	4	3		7
貼凸(刻目)(4～)	1			1
			14(20.3)	
貼凸+ヘラ		4		4(5.8)
竹管文			3(2+2)	3(4.3)
合 計	12	38	9	69

( )内は沈縫または貼付突審の条数。合計の( )内は全体に占める割合(%)

第6表 SRk01～03壺文様構成一覧表

SRk03(下層)

	頸部	体部	合計
無文			0
段	2		2(22.2)
ヘラ	2(2～)		4(44.4)
	1(3)		
	1(10)		
櫛			0
削凸	1		1(11.1)
貼凸	1(2)		2(22.2)
	1(4)		
貼凸(刻目)			0
合 計	0	9	9

## SRk01(上層)

	報告遺物								未報告遺物								合計	
	縫 目	縫 締	縫 縫	縫 縫	縫 縫	縫 縫	縫 縫	縫 縫	縫 縫	縫 縫	縫 縫	縫 縫	縫 縫	縫 縫	縫 縫	縫 縫		
無文				1	4	5			5(17.2)	3	2	1	8	13			27(48.2)	
ヘラ(1~3)									0								0	
ヘラ(1~)						1			1(3.4)				2	1			3(5.4)	
ヘラ(4~6)		1							1(3.4)					1			1(1.8)	
ヘラ(4~)	2					2		1	5(17.2)				7	2	1		10(17.8)	
ヘラ(7~9)									0					2			2(3.6)	
ヘラ(7~)			1	3					4(13.8)								0	
ヘラ(10~12)									0								0	
ヘラ(10~)				1(1)	1				2(6.8)								0	
ヘラ(13~)			2(1)		2				4(13.8)								0	
繩						6(2)			6(20.7)		1		6	4			11(19.6)	
その他						1(3.4)			1(3.4)					1	1		2(3.6)	
合計	26(9)	1(3.4)	0	5(17.2)	20(89.0)	1(3.4)	0	0	29	15(4)	3(5.4)	1(1.8)	25(44.0)	22(39.3)	2(3.6)	0	0	56

( )はヘラ縫き、繩縫きの下部に刺繡文などがあるもの。合計の( )内は全体に占める割合(%)

全体に占める割合は報告遺物と未報告遺物を分けて出している。

未報告遺物に無文の割合が多いのは、繩縫が摩滅して沈線がわからなくなつたものが含まれる可能性がある。

未報告遺物にヘラ縫き沈線の条数の多いものがないのは、そのように大きい破片はすべて報告遺物に含まれるからである。

以下の摘要もすべて同じ。

## SRk01(下層)

	報告遺物								未報告遺物								合計
	縫 目	縫 締	縫 縫	縫 縫	縫 縫	縫 縫	縫 縫	縫 縫	縫 縫	縫 縫	縫 縫	縫 縫	縫 縫	縫 縫	縫 縫	縫 縫	
無文	1	5		2	25				33(22.3)	4	7		7	27			45(21)
ヘラ(1~3)	6			1	1				1(9.6)	1			4				5(4.7)
ヘラ(1~)	1	1		4	3				9(6.1)	4	4		8	6			22(20.6)
ヘラ(4~6)	5	3	1	6	1(1)		1		18(12.2)					2			2(1.9)
ヘラ(4~)	1	1		2					1(5.4)				7	4			11(10.3)
ヘラ(7~9)	3(1)	1		6(1)	6				18(12.2)				1	1			2(1.9)
ヘラ(7~)	1			3	5				9(6.1)				2				2(1.9)
ヘラ(10~12)	1			6(1)	3				10(6.8)					1			1(0.9)
ヘラ(10~)				2	1(1)				4(2.7)								0
ヘラ(13~)						3			4(2.7)								0
繩	1	7(4)		5(2)	14(4)				27(18.2)	1			5	10(1)			16(15.0)
その他	1(1)			1					2(1.4)					1			1(0.9)
合計	21(14.2)	29(13.5)	1(0.7)	49(22.0)	62(41.9)	1(0.7)	3(2.6)	148	19(3.3)	11(10.3)	34(31.0)	52(35.1)	0	0	107		

## SRk01(その他)

	報告遺物								未報告遺物								合計
	縫 目	縫 締	縫 縫	縫 縫	縫 縫	縫 縫	縫 縫	縫 縫	縫 縫	縫 縫	縫 縫	縫 縫	縫 縫	縫 縫	縫 縫	縫 縫	
無文		3		3	9				15(23.3)	1	9		6	30			46(41)
ヘラ(1~3)					1				1(2.5)								0
ヘラ(1~)									0	2		7	9	1			19(17.0)
ヘラ(4~6)			3	1					4(10.0)				1				1(4.9)
ヘラ(4~)			1	1					2(5.0)	3		8	8				19(17.0)
ヘラ(7~9)	2			3(1)					5(12.5)			2	1				3(2.7)
ヘラ(7~)				1					1(2.5)			4	3				7(6.3)
ヘラ(10~12)			2	2					4(10.0)								0
ヘラ(10~)			1						1(2.5)								0
ヘラ(13~)			1	2					3(7.5)								0
繩		1		2	1				4(10.0)	1	1		6	8			16(14.3)
その他									0				1				1(0.9)
合計	25(5)	4(10.0)	0	13(32.5)	21(52.5)	0	0	46	5(4.5)	12(10.7)	34(30.4)	30(53.6)	1(0.9)	0	112		

第7表 SRk01 繁文様構成一覧表

## SRk02

報告遺物																							
	総	目	総	推	総	不	目	総	推	総	不	目	総	推	総	目	総	推	総	目	総	合計	
無文			2					3					5(26.3)										
ヘラ(1~3)								1						1( 5.3)									
ヘラ(1~)														0									
ヘラ(4~6)									1					1( 5.3)									
ヘラ(4~)									2		1			3(15.8)									
ヘラ(7~9)								1		2			3(15.8)										
ヘラ(7~)									1					1( 5.3)									
ヘラ(10~12)														0									
ヘラ(10~)														0									
ヘラ(13~)														0									
櫛										4				4(21.1)									
その他			1											1( 5.3)									
合計	15(3)		2(10.5)		0	4(21.1)		12(63.2)		0	0	0	0	19									

未報告遺物で口縁形態や体部文様がわかるものはなかった。

## SRk03(中層)

報告遺物										未報告遺物												
	総	目	総	推	総	不	目	総	推	総	目	総	推	総	目	総	推	総	目	総	合計	
無文			2					3					5(41.7)									
ヘラ(1~3)														4		2	15					21(75.0)
ヘラ(1~)														0								0
ヘラ(4~6)														0								0
ヘラ(4~)														0								0
ヘラ(7~9)														0								0
ヘラ(7~)														0								0
ヘラ(10~12)														0								0
ヘラ(10~)														0								0
ヘラ(13~)														0								0
櫛			1(1)					6(1)					7(50.3)						1	6		7(25.0)
その他			0	3(25.0)		0	0	9(75.0)		0	0	12					4(14.3)		3(10.0)	21(75.0)	28	
合計	0	3(25.0)	0	0	9(75.0)		0	0	12								4(14.3)		3(10.0)	21(75.0)	28	

## SRk03(下層)

報告遺物										未報告遺物											
	総	目	総	推	総	不	目	総	推	総	目	総	推	総	目	総	推	総	目	総	合計
無文		1	7		3	14						25(92.0)							8		8(50.0)
ヘラ(1~3)		1			1							2( 4.2)							1		1( 6.3)
ヘラ(1~)					2							2( 4.2)						1	1		2(12.5)
ヘラ(4~6)																					0
ヘラ(4~)								1				1( 2.1)									0
ヘラ(7~9)																					0
ヘラ(7~)						1						1( 2.1)									0
ヘラ(10~12)																					0
ヘラ(10~)							1					1( 2.1)									0
ヘラ(13~)								1				1( 2.1)									0
櫛		4(3)			11(3)							15(1.3)						5			5(31.3)
その他																		1(6.3)	15(83.7)	16	
合計	12(1)	12(25.0)	0	5(10.4)	30(82.5)		0	0	48						0			1(6.3)	15(83.7)	16	

第8表 SRk02・03文様構成一覧表

口縁部で、如意型口縁は20%前後である。体部文様構成は無文のものが多く、彌描沈線、7~12条のヘラ描き沈線のものが続く。これらから勘案すれば出土遺物の時期は弥生時代中期初頭が中心であろうが、最も多くの土器が出土したSRk01下層からはそれらに混じって1~6条程度のヘラ描き沈線を持つものが多く出土しており、ヘラ描きの条数の少ないほうは口縁形態は如意状口縁のものが多い。SRk01下層にはもう少し古いものが混じる。壺は個体数が少なく傾向がつかみにくいが、ヘラ描き沈線を施すものが最も多く、次いで刻目を持つ貼付突帯を持つものがある。

## 2. 弥生時代中期後半

I-26南部、SRk03内部でSKk04~06を検出している。1.0~2.5m前後の円形~隅丸方形の土坑で、いずれも埋土中から自然木や種子・果実などが出土している。樹種・種子同定の結果、樹種はクヌギ、アカガシ、コナラで、周囲に生息していたと考えられる。また、種子・果皮はヒヨウタンやウリ、桃核、栗が出土しており、クリ以外は栽培植物で、いずれも食用植物であることが指摘されている（第4章参照）。

このうち、SKk05からは自然木に混じって加工木やなすび型木製品が出土している。遺構の時期は異なるものの、中間西井坪遺跡SKⅡ46や寺田産宮通遺跡第3低地帯流路04・木製品集積遺構2でいずれも低湿地で土坑を掘り込み、木材を水漬け保存する例がある。SKk05もSRk03下層が埋没した後に掘り込まれた可能性が高く、やはり木材に水漬け保存の目的を持つ可能性がある。

## 3. 弥生時代後期後半~古墳時代初頭（第112図第9表）

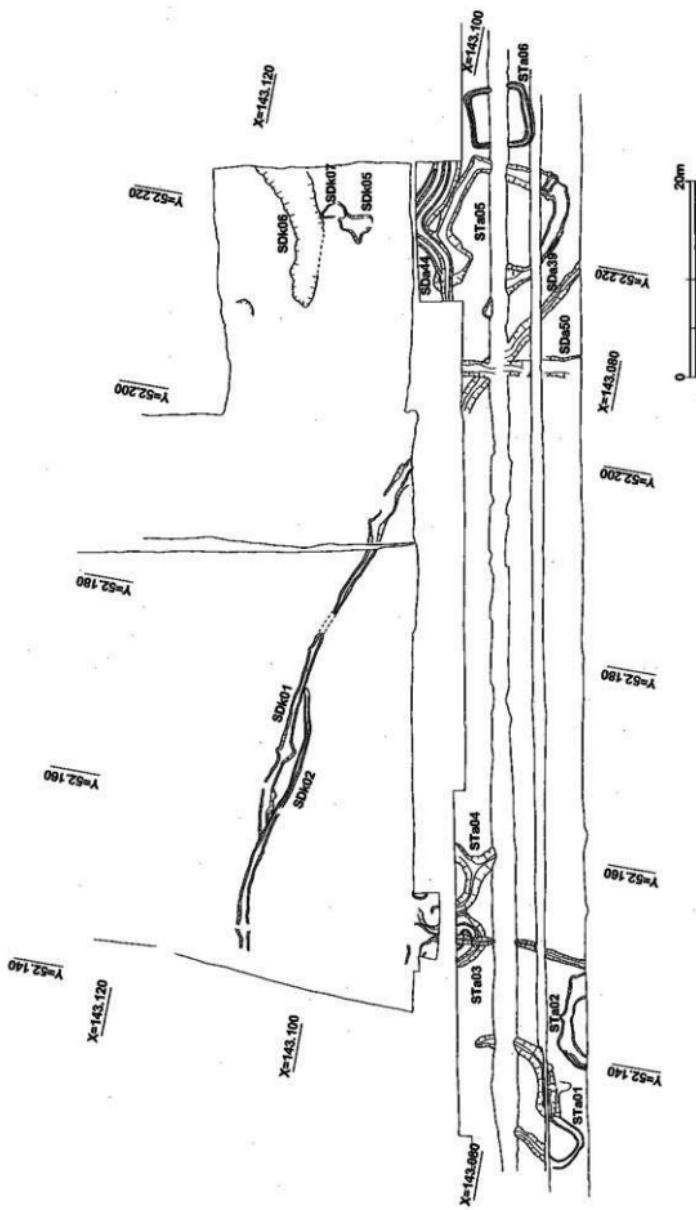
この時期の遺構は調査区の南部、SRk03の周囲で検出している。SRk03の最終時期が弥生時代後期後半であるほか、SRk03の北岸で土坑を2基、南側では北西から南東へ走る溝を2条、周溝墓を2基検出した。

この時期で特に注目されるのが調査区南部に広がる周溝墓群との関わりである。A地区南地区では6基の周溝墓が検出された（STa01~STa06）。このうち西側に位置するSTa01は前方後円形、STa02は形状不明、STa03・04は円形である一方、これらから約50m東側で検出したSTa05は前方後方形、STa06は方形を呈しており、形態により異なる墳墓群が形成されることが推定されている。それぞれの所属時期については、出土遺物に恵まれず詳細の不明なものが多い。

今回の調査区はSTa03・STa04の北側に接しており、その延長部が検出できる位置にある。この部分の遺構については第3章第3節の部分で述べたが、STk03は長軸4.0m、短軸2.7mの長楕円形に、STk04は直径4.4mの円形で北西方向に陸橋を持つ周溝墓に復元した。これらの周溝墓の時期については、A地区的成果では弥生時代後期後半まで（平成3年度概報、本報告は記載なし）とされている。一方周溝墓を切ると考えられるSDk03からは弥生時代終末期にまで下ると考えられる二重口縁の壺が出土している。これらの壺は明らかに供獻土器と考えられ、もとは周溝の遺物と考えられる。周溝墓の所属時期は少し下る可能性がある。

東側に位置する墳墓群の北側延長部では、前方後方形の周溝墓の北約12mの位置で円形の周溝状遺構SDk06を検出した。この溝は大半が調査区外へ延びるほか、残る部分も大半が古代の溝と重複しているが、復元した範囲では直径約15m、溝の幅3m、深さ50cm程度で、溝の南西部で溝の底が急激に上がり、途切れる。この溝では底部分から礫が大量に出土し、礫敷きの周溝墓であった可能性が高い。周溝の中からは遺物はほとんど出土していないが、SDk06埋土中や、SDk12埋土中でSDk06を巻き込んだと思われる出土遺物から知れる範囲では所属時期は弥生時代後期終末期までと考えられ、南側に位置する前方後方形の周溝墓より古いと思われる。この場合、調査区外に想定される部分で周溝が想定される位置は、

第112圖 A地區・K地區周溝基群平面圖 (1/500)



遺構名	形 状	規 模	そ の 他
STA01	前方後円形	後円部半径4.6m／前方部幅2.5m、長さ5.7m／全長15.5m	後円部の溝が深く前方部は浅い
STA02	形状不明	直径7～8m?	
STA03 (STK01)	円形	長径4m、短径2.7m	
STA04 (STK02)	円形	直径4.4m	
STA05	前方後方形	全長13～13.7m、／前方部の長さ5～6m	
STA06	方形	1辺5m	
STA07	土器墳墓		
SDk06	(精)円形	長径15m、短径12m	溝の中から多量の礫が出土

第9表 A地区・K地区周溝墓一覧

SRk03の延長部と重なることが考えられるが、林・坊城遺跡のように自然河川が埋没した後の低湿地に周溝の一部がかかるようにしながら円形周溝墓を低湿地に沿って造成していく例がある。SDk05も同様の立地になると考えられる。

SDk06の南側に、南北方向に走る溝SDk07があるが、ここからは弥生時代後期後半の壺がほぼ完形で出土している。この溝は位置関係や埋土から、SDa44から連続し、徐々に浅くなり、SDk06の手前で消滅する。ただし、SDa44は古墳時代初頭の周溝墓であるSTA05を切っている。SDk07の所属時期は空港跡地遺跡Vでは出土した須恵器から古墳時代中期としているが、SDk07で出土した弥生土器を混入とするには躊躇があり、二又に分かれるSDa44に時間差があるかも知れず、所属時期は不明である。ただし、もし、SDa44のうち東側へ向く溝がSDk07と組んで円弧をなす場合、直径は14mとなり、ともにSTA05に先行するやや規模の大きい円形の周溝墓となる。

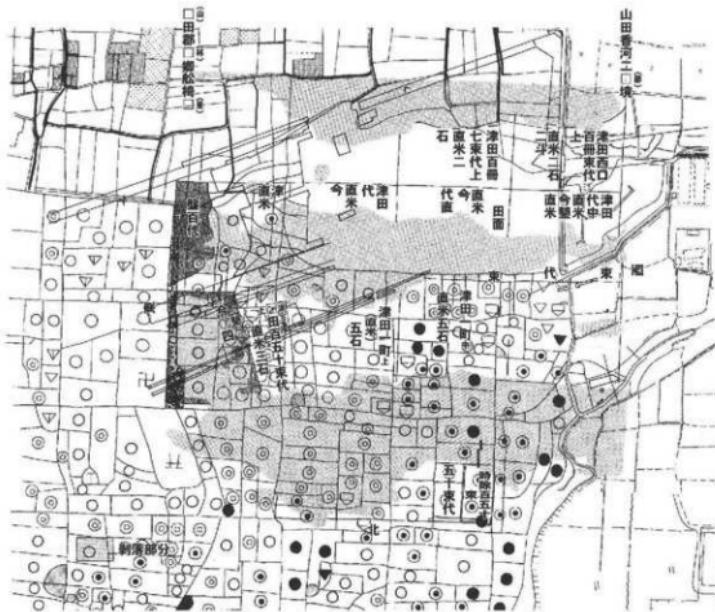
県内の弥生時代後期の周溝墓の例は先述の林・坊城遺跡（高松市）の他に尾崎西遺跡・陵遺跡（ともにさぬき市）などがある。いずれも円形の周溝墓で周溝の直径が12～15m程度で、尾崎西遺跡や陵遺跡では墳丘の礫が周溝内に落ち込んだ状態で検出した。

土坑はいずれもSRk03の北側で近接して検出した。規模・形状とも類似しており、ともに廃棄土坑と考えられる。土器の遺存状況はいずれもあまりよくなかった。

#### 4. 奈良・平安時代（第113図）

奈良・平安時代の遺構としては調査区南部で検出したSDk11・12がある。SDk11は北西から南東へ、SDk12は南西から北東へ向く溝であるが、おそらく調査区の外側で屈曲して同一の溝になると考えられる。溝のラインは条里型地割の方向とは違い、SRk03の肩に規制された方向を持つ。この地割の方向は中世にもこの付近は、江戸時代に作られたとされる『順道図絵』の地割をみても同様のラインを示している。A地区南地区の50～100m東側（1区画東側）では条里の坪界線とほぼ同位置に2ヶ所・2方向で溝が検出されているが、K地区の南側ではこの時期の溝は検出されていない。

A地区北地区では弥生時代の流路の上面で、流路の形状に規制される形で平安時代の水田が検出されている。この地点の約100m北側で高松市教育委員会が弘福寺領田園関連調査の発掘調査を行った際では、第1～第3トレンチに、水田畦畔を伴う灰黄褐色シルト質極細砂層が厚さ約7～8cmにわたって幅35mの範囲で堆積しており、A地区で検出した水田層が北側に広がっていた様子が窺え、第2・3トレンチではSRk03の延長部も検出されている。この地点のプラントオパールの結果から、弥生時代前中期～中期前半の旧河道が古代までには埋積され比較的平坦地となり、土地条件が安定したとみられ、このような地形環境の変化と条里型地割の整備は西日本各地においても同様の傾向を示すとしている。今回の調査区でもこれらに対応すると同じと思われる古代～中世の遺物を含む包含層を検出したが、北側の



第113図 弘福寺領田園南地区比定位置図 (1/5,000)  
(下が北)

調査区のように上層を細分することはできず、水田畦畔も確認できなかった。空港跡地遺跡の西側に位置し、SRk03の延長部を検出している多肥宮尻遺跡においても、畦畔は確認されていないものの、遺構面の上面に堆積する褐色粘質土層が水田耕土であった可能性が指摘されている。水田耕土は南側にも広がっていた可能性も考えられるかもしれない。

この調査区は弘福寺領田園の南地区の比定地の一部に当たり、その南東部の区画に位置する。すなわち、「壁百代・直米・津」の記載部分の西半分が当たるI-26・27、およびその西隣の「津田 代 直米」

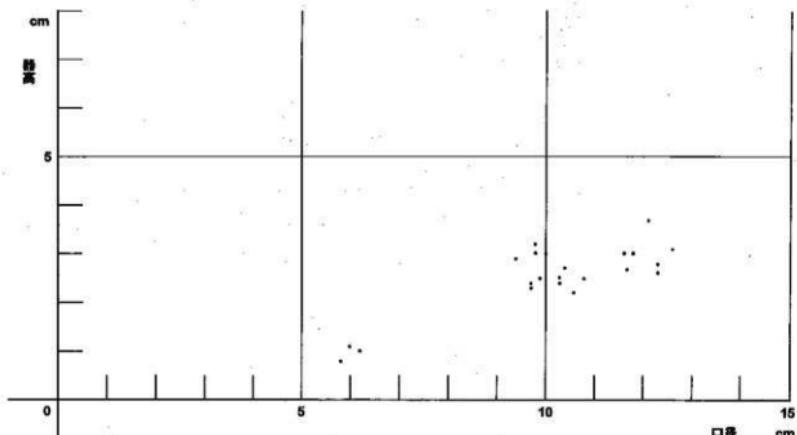
今に記載部分に東部に当たるI-25西半部である。この現地比定に従えば、西側の区画は自然流路が埋没した後の低地が広がり、水田耕土の可能性が否定できない包含層の広がりを持つ。東側の区画は、西側から続く自然河川が埋没した低地がほぼ南北から北東へ向けて幅約45mの帯状に位置し、残りの部分は微高地になっている。先述したA地区の水田は「壁百代・直米・津」記載の区画とその北側の区画の境付近の東端付近に相当する。ただし、今回の調査でも現地比定が正しいことを証明することはできなかった。

##### 5. 中世（第114図、第10表）

自然流路が埋没後の低湿地には遺構はないが、低地の北側で土坑や溝状遺構、南側で溝を数条検出した。SRk03の南側では先行する古代の溝SDk12と同じ方向に走る溝SDk21~23、SDk11の周囲では不定形な埋土の広がりを持つSXk11を検出している。これらに先行するような位置にある古代の溝SDk11・12はしっかりと切り込まれた溝であったのに対し、SDk12の北側に平行する位置にあるSDk21~23は、いずれも規模が小さく、中には埋土の主体が砂層で流れがあったことが想定される場合もあり、恒常的な溝ではなく、不安定な溝であったと考えられる。また、SDk11が切り込まれていたI-23部分は不定

器種 数	土師質土器					須恵器					合計	
	小皿	环	足釜	甕	捏鉢	その他	环	碗	甕	捏鉢	その他	
個数	6	27	8	7	1	2	5	1	2	2	0	61
%	9.8	44.3	13.1	11.5	1.6	3.3	8.2	1.6	3.3	3.3	0	100

第10表 SKk11器種一覧表



第114図 SKk11出土土器法量分布

形な遺構群をなすことから、明確な遺構ではなく、包含層として堆積したもの一部がベースの凹凸部分に残ったものと思われ、この場所が低地であったため、度々水の侵食に晒されていたと思われる。

古代において、一旦は灌漑水路を整備し、耕地開発を行った土地であったが、中世においては不安定な状態に置かれていたようだ。池台池の築造はこのような土地条件下に置かれたことと関係するのかかもしれない。

この南側、A地区南地区では、坪界線上の2方向の溝が古代から踏襲されるほか、K地区的南側においても条里型地割と同方向の溝が検出されており、南側の微高地上で耕作地化が進んだと考えられる。

低地の北側では土坑SKk11、溝状遺構、集石遺構SXk12を検出している。SKk11は円形の土坑で、埋土中からは多量の川原石とともに13世紀後半の土器が出土した（内訳は第10表、第114図のとおり）。

溝状遺構はやや方向が違うものの、A地区北地区で検出した溝に連続する可能性が高い。順道図絵に換れば、この場所の地割りは低地に沿って湾曲しており、これに先行する地割と考えられるだろう。集石遺構SXk11については同様の遺構がA地区北地区でも検出されているが、性格は不明である。

## 6. 近世・近代

この時期の遺構としては池台池堤防および底ユルに当たる暗渠水路、それにつながる旧水路を検出している。調査時には特に意識して堤防の断面図をとったわけではなかったので、堤防に直角方向の断面図は作成していないが、調査区壁面の断面図によれば、池台池の堤防は、底ユル付近では周辺の土とはやや異なる土を交互に積み重ね、それ以外の部分ではおむね池側の斜面は版築状に、それ以外は周辺の土を捏ねて盛土を行っている。堤防の下部から13世紀後半～14世紀前半の土坑を検出していることが

ら、堤防の築造はそれ以降である。堤防の北東隅で検出した底ユルに当たる暗渠水路は丸釘を使用しているため、明治時代中期以降と考えられるが、この水路の掘り方は堤防の最上部から掘り込まれており、改修を受けたものと考えられ、堤防の築造自体はもっと古いと考えられる。

今回の調査区では近世～近代の水路は、弥生時代の遺構面からかなり高い位置にあったため、表土除去の段階で掘り下げてしまったが、A調査区および今回の調査区の壁面で明治21年地籍図の水路の位置にほとんどでコンクリートの水路が確認できており、おおむね明治時代から空港造営時までほぼ同位置で水路が機能していたらしい。

#### 主要参考文献

- 大久保徳也「煮沸形態からみた地域層」『古代学協会四国支部第10回松山大会資料 弥生後期の瀬戸内海』1996年  
佐藤竜馬「楠井産土器の編年」『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第18号 国分寺楠井遺跡』香川県教育委員会ほか 1995年  
香川県教育委員会ほか「空港跡地遺跡I～VI」  
高松市教育委員会「讀崎国弘福寺領の調査 弘福寺領讀崎国山田郡田園調査報告書」1992年  
高松市教育委員会「讀崎国弘福寺領の調査Ⅱ 第2次弘福寺領讀崎国山田郡田園調査報告書」1999年  
高松市教育委員会「宮西・一角遺跡 市道林町47号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」2000年  
森下英治「龍川五条遺跡出土弥生土器の編年」『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第29号 龍川五条遺跡Ⅱ』  
香川県教育委員会ほか 1998年  
森下英治・信里芳紀・栗松真也「讀崎地方における弥生土器の基準資料Ⅲ」「財團法人香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要Ⅳ」  
財團法人香川県埋蔵文化財調査センター  
信里芳紀「讀崎地域における弥生時代前期から中期前半の様相」『弥生時代前期末・中期初頭の動態－研究発表要旨集－』第16回  
古代学協会四国支部研究大会  
それぞれの土器については、下記の文献に依拠した。  
弥生土器：大久保 1996, 森下：1998  
土師質土器：佐藤 2000【空港跡地遺跡IV】、1995

# 觀 察 表

四国語 符号番号	語彙	地区名	新幹線番号	法量(cm)	土	色調	外面測量	内面測量	長手量	形態上の特徴	備考
1	外:裏	1 - 26	SK005	口径16.5 内径15.5	長石・中・多・石英・中・多・角 長石・中・多・石英・中・多・角	内外7.5YR5/6にぶい緑 内外7.5YR5/6にぶい緑	ナデ ナデ	板ナデ・ナデ	口縫部1/6		
2	外:裏	1 - 26	SK005	口径13.0	長石・中・少・石英・中・少・角 長石・中・少・石英・中・少・角	内外7.5YR5/6にぶい緑 内外7.5YR5/6にぶい緑	板ナデ 板ナデ	口縫部1/6			
3	土:灰	1 - 265	SK005	-	長石・小・少・石英・少・角 長石・小・少・石英・少・角	内外2.5YR5/6灰白 内外2.5YR5/6灰白	マツツ マツツ	板ナデ	口縫部1/6		
6 19	外:裏	1 - 28	SK006	口径22.0	長石・大・多・石英・大・多 長石・大・多・石英・大・多	内外10YR5/3にぶい緑 内外10YR5/3にぶい緑	ナデ ナデ	口縫部1/6	縁「(2)」の縫先開 縁「(2)」の縫先開		
7 19	外:裏	1 - 28	SK006	口径22.0	長石・中・多・石英・中・多 長石・中・多・石英・中・多	内外2.5YR5/6灰白 内外2.5YR5/6灰白	ハクリ・横押さえ ハクリ・横押さえ	口縫部1/6	口縫部1/6 文書93(24cm)	マツツ青い マツツ青い	
8	外:裏	1 - 28	SK006	口径23.0	長石・中・多・石英・大・多・角 長石・中・多・石英・大・多・角	内外7.5YR5/6にぶい緑 内外7.5YR5/6にぶい緑	ナデ・縫ナデ・ハクリ・横 縫ナデ・ハクリ・横	口縫部1/6	口・逆手形		
9	外:裏	1 - 28	SK006	底径6.5	長石・小・少・石英・小・少 長石・小・少・石英・小・少	内外10YR5/2灰黒褐 内外10YR5/2灰黒褐	ヘラナゲ ヘラナゲ	底部3/6			
10 20	外:裏	1 - 23	SK001	-	長石・小・少・石英・小・少 長石・小・少・石英・小・少	内外10YR5/3にぶい緑 内外10YR5/3にぶい緑	縫押さえ後板ナデ・ハケ 縫押さえ後板ナデ・ハケ	新鋸68			
11	外:裏	1 - 23	SK001	口径14.0	長石・中・多・石英・小・少 長石・中・多・石英・小・少	内外7.5YR5/6にぶい緑 内外7.5YR5/6にぶい緑	マツツ・ナデ	口縫部1/6			
12 20	外:裏	1 - 23	SK001	口径15.0 底径5.4	長石・中・多・石英・中・少 長石・中・多・石英・中・少	内外7.5YR5/6にぶい緑 内外7.5YR5/6にぶい緑	マツツ・ハセミ・横押さえ マツツ・ハセミ・横押さえ	口縫部1/6 口縫部1/6	口:如意形 口:如意形		
13	外:裏	1 - 23	SK001	-	長石・中・多・石英・中・少 長石・中・多・石英・中・少	内外10YR5/3灰黒 内外10YR5/3灰黒	横押さえ後ハケメ	伸幅2/3			
14	外:裏	1 - 23	SK001	口径14.0	長石・中・多・石英・中・少 長石・中・多・石英・中・少	内外7.5YR5/6にぶい緑 内外7.5YR5/6にぶい緑	ヨコナデ・板ナデ・横押 ヨコナデ・板ナデ・横押	口縫部1/6			
15	外:裏	1 - 23	SK001	口径18.2	長石・中・多・石英・中・少 長石・中・多・石英・中・少	内外10YR5/3にぶい緑 内外10YR5/3にぶい緑	板ナデ	口縫部1/6	口:如意形		
16	外:裏	1 - 23	SK001	-	長石・中・多・石英・中・少 長石・中・多・石英・中・少	内外10YR5/3にぶい緑 内外10YR5/3にぶい緑	縫押さえ後板ナデ	縫押さえ後板ナデ			
17	外:裏	1 - 23	SK001	口径16.4	長石・中・少・赤色粒子・中・少 長石・中・少・赤色粒子・中・少	内外2.5YR5/4灰黒 内外2.5YR5/4灰黒	マツツ マツツ	ハクリ・板ナデ・ナデ	口縫部1/6		
18	外:裏	1 - 23	SK001	底径6.4	-	内外7.5YR5/6灰 内外7.5YR5/6灰	マツツ・ハケメ マツツ・ハケメ	マツツ	底部4/6		
19	外:裏	1 - 23	SK001	底径2.8	長石・中・多・石英・中・少 長石・中・多・石英・中・少	内外2.5YR5/2灰 内外2.5YR5/2灰	板ナデ・横押さえ・ナデ	横押さえ	底部5/6		
20	外:裏	1 - 23	SK002	-	長石・大・多・石英・大・多 長石・大・多・石英・大・多	内外2.5YR5/2灰 内外2.5YR5/2灰	ヘラナゲ・マツツ・ハ クジ クジ	縫押さえ	縫押2/6		
21 20	外:裏	1 - 23	SK002	-	長石・小・少・石英・小・少 長石・小・少・石英・小・少	内外10YR5/3にぶい緑 内外10YR5/3にぶい緑	ナデ・縫押さえ・ナデ ナデ・縫押さえ・ナデ	縫押4/6			
22 20	外:裏	1 - 23	SK002	口径17.8	長石・中・多・石英・中・少 長石・中・多・石英・中・少	内外10YR5/4にぶい緑 内外10YR5/4にぶい緑	ナデ・ハセミ・マツツ ナデ・ハセミ・マツツ	伸幅6/6			
23 20	外:裏	1 - 23	SK002	口径10.0	長石・中・少・石英・中・少 長石・中・少・石英・中・少	内外10YR5/3にぶい緑 内外10YR5/3にぶい緑	ヨコナデ・ハセミ・マツツ ヨコナデ・ハセミ・マツツ	ヘラナゲ・マツツ	口縫部1/6		

固有文 字	固有文 字	地区名	報告書標号	法量(m)	地土	色調	外面調整	内面調整	操作量	形態上の特徴	備考
24	赤瀬川	I - 23	SK002	-	鵠石・小・中・石英・小・中・多 砂岩・小・中・多・赤色粒子・小・多	内外: 7.5YR4/4褐色 内外: 7.5YR5/6にぶい褐色	ハラミガキ(4分割) ハラミガキ(4分割)	削削2/6			
25	赤瀬川	I - 23	SK002	延長17.0	鵠石・大・中・多・石英・中・多・赤 色粒子・小・少	内外: 10YR6/3にぶい褐色 内外: 2.5YR2褐色	ハラミガキ ハラミガキ	削削1/6			
26	赤瀬川	I - 23	SK002	延長8.2	鵠石・大・中・多・石英・中・多・赤 色粒子・小・少	内外: 10YR6/3にぶい褐色 内外: 2.5YR2褐色	ハラミガキ ハラミガキ	削削1/6	底盤完存		
27	赤瀬川	I - 23	SK002	延長6.6	鵠石・中・中・石英・中・中・多 色粒子・小・少	内外: 10YR6/3にぶい褐色 内外: 2.5YR2褐色	ハラミガキ ハラミガキ	削削1/6	底盤完存		
28	赤瀬川	I - 23	SD001	口径14.4	鵠石・小・中・石英・小・中・多 色粒子・小・少	内外: 7.5YR5/6にぶい褐色 内外: 7.5YR5/6にぶい褐色	ヨコナデ マメツ	マメツ	口: 削削小片		
29	赤瀬川	I - 23	SD001	口径13.7	鵠石・小・中・石英・小・中・多 色粒子・小・少	内外: 7.5YR5/6にぶい褐色 内外: 7.5YR5/6にぶい褐色	ナデミガキ ナデミガキ	ナデミガキ	口: 削削		
30	赤瀬川	I - 23	SD001	口径14.6	鵠石・小・中・石英・小・中・多 色粒子・小・少	内外: 7.5YR5/6にぶい褐色 内外: 7.5YR5/6にぶい褐色	ナデ ナデ	ナデ	口: 削削		
31	赤瀬川	I - 23	SD001	口径16.4	鵠石・中・中・石英・中・中・多 色粒子・小・少	内外: 7.5YR6/6暗 内外: 7.5YR6/6暗	ヨコナデ マメツ	ヨコナデ マメツ	口: 削削		
32	赤瀬川	I - 23	SD001	口径14.0	鵠石・小・中・石英・小・中・多 色粒子・小・少	内外: 7.5YR6/6暗 内外: 7.5YR6/6暗	ナデマメツ ナデマメツ	ナデマメツ	口: 削削小片	口: 削削	
33	赤瀬川	I - 23	SD001	口径16.4	鵠石・小・中・石英・小・中・多 色粒子・小・少	内外: 7.5YR6/6暗 内外: 7.5YR6/6暗	ナデ ナデ	ナデ	口: 削削	口: 削削	
34	赤瀬川	I - 23	SD001	口径13.0	鵠石・小・中・石英・小・中・多 色粒子・小・少	内外: 7.5YR6/6暗 内外: 7.5YR6/6暗	ナデ マメツ	ナデ・音押さえ マメツ	口: 削削 口: 削削	口: 削削	
35	赤瀬川	I - 23	SD001	口径13.7	鵠石・小・中・石英・小・中・多 色粒子・小・少	内外: 7.5YR6/6暗 内外: 7.5YR6/6暗	マメツ マメツ	マメツ・音押さえ・音ナ マメツ	口: 削削	口: 削削	
36	赤瀬川	I - 23	SD001	-	鵠石・中・中・石英・中・中・多 色粒子・中・中・多	内外: 10YR4/4にぶい褐色 内外: 7.5YR5/6暗	ハクリ マメツ	マメツ	体部小片	体部小片	
37	赤瀬川	I - 23	SD001	延長14.0	鵠石・小・中・石英・小・中・多 色粒子・小・少	内外: 7.5YR6/6暗 内外: 7.5YR6/6暗	マメツ マメツ	マメツ	脚部小片	脚部小片	
38	赤瀬川	I - 23	SD001	延長5.3	鵠石・中・中・石英・中・中・多 色粒子・中・中・多	内外: 10YR6/6暗 内外: 2.5YR2褐色	タキ目 タキ目 マメツ	タキ目 マメツ マメツ	削削7/8		
39	赤瀬川	I - 23	SD003	口径16.0	鵠石・大・中・多・石英・大・中・多 色粒子・大・中・多	内外: 7.5YR4/3暗 内外: 7.5YR5/6暗	ハケメ ナデ	ナデ・板ナデ・音押さえ ナデ・ハケメ・音押さえ	口: 二面口機 口: 二面口機		
40	赤瀬川	I - 23	SD003	-	鵠石・中・中・石英・中・中・多 色粒子・中・中・多	内外: 5YR6/6暗	マメツ マメツ	ナデ・ハケメ・音押さえ ナデ・ハケメ	削削3/8		
41	赤瀬川	I - 23	SD003	-	鵠石・中・中・石英・中・中・多 色粒子・中・中・多	内外: 5YR6/6暗 内外: 5YR6/6暗	ハケメ マメツ	ナデ・ハケメ ナデ・ハケメ	削削5/8		
42	赤瀬川	I - 23	SD003	-	鵠石・中・中・石英・中・中・多 色粒子・中・中・多	内外: 5YR6/6暗 内外: 5YR6/6暗	マメツ マメツ	ナデ ナデ	体部1/8	体部1/8	
43	赤瀬川	I - 23	SD003	口径17.8	鵠石・小・中・石英・小・中・多 色粒子・小・中・多	内外: 7.5YR5/6暗 内外: 7.5YR5/6暗	圆板ナデ 圆板ナデ	圆板ナデ 圆板ナデ	口: 削削小片	口: 削削小片	
44	赤瀬川	I - 23	SD003	口径15.0	鵠石・中・中・石英・中・中・多 色粒子・中・中・多	内外: 10YR4/4暗 内外: 5YR4/4暗	マメツ マメツ	マメツ・音ナデ・音押さえ マメツ・音ナデ・音押さえ	口: 削削4/8	口: 削削4/8	

地文圖 番号	路名	地区名	駆逐艦番号	法規(cm)	船土	色調	外面圖鑑	内面圖鑑	深洋圖	形態上の特徴	備考
45	赤・黒	1 - 23	SD603	口径15.0	岩石中・多・石英 中・多	内外: 5.75FB6機 長石・小・多・石英 中・多	ハケメ	ナデ	口轟船1/8	口轟・ヘラ2 口音・竹3個1組3ヶ所	
46	赤・黒	1 - 23	SD603	口径25.6	長石・小・多・石英 中・多	内外: 5.75FB5/6機 長石・中・多・石英 中・多・石英 中・多	ナデ・ハバメ	ナデ	口轟船4/8	口音・竹3個1組3ヶ所	
47	赤・黒	1 - 23	SD603	-	長石・中・多・石英 中・多・石英 中・多	内外: 5.75FB4/4に近い機 長石・中・多・石英 中・多・石英 中・多	ナデ・ヘラ・ガキ	ナデ・指揮さえ	体操竿		
48	赤・黒	1 - 23	SD603	-	長石・中・多・石英 中・多・石英 中・多	内外: 5.75FB5/4に近い機 長石・中・多・石英 中・多・石英 中・多	ナデ・ヘラ・ガキ	ナデ・指揮さえ	網船2/8	網へ2/13(m)	
49	土・黒	1 - 23	SD603	-	長石・中・多・石英 中・多・石英 中・多	内外: 10YFB5/6機 長石・中・多・石英 中・多・石英 中・多	ヘラミガキ	指揮さえ・ナデ	網船4/8		
50	赤・黒	1 - 23	SD603	口径17.6	長石・中・多・石英 中・多・石英 中・多	内外: 5.75FB4/4に近い機 長石・中・多・石英 中・多・石英 中・多	マツ・ヘラ・ナデ	マツ・指揮小片	口: 駆逐船		
51	赤・黒	1 - 23	SD603	口径12.4	長石・中・多・石英 中・多・石英 中・多	内外: 10YFB5/4に近い機 長石・中・多・石英 中・多・石英 中・多	ヨコナデ	ヨコナデ	口轟船1/8	口: 駆逐船	
52	赤・黒	1 - 23	SD603	口径14.6	長石・中・少・石英 中・少・赤色 長石・中・少・石英 中・少・赤色	内外: 10YFB5/2機 長石・中・少・石英 中・少・赤色	ヨコナデ・ハケメ	板ナデ・指揮さえ後ナデ	口轟船1/8	口: 駆逐船	
53	赤・黒	1 - 23	SD603	-	長石・中・多・石英 中・多・石英 中・多	内外: 2.5YFB4/6機 長石・中・多・石英 中・多・石英 中・多	マツ	ナデ・指揮さえ	体操竿		
54	赤・黒・赤	1 - 23	SD603	底径8.0	長石・中・多・石英 中・多・石英 中・多	内外: 10YFB3/1機 長石・中・多・石英 中・多・石英 中・多	ハテミガキ・マメツ	ヘラ柄	底船2/8		
55	赤・黒・赤	1 - 23	SD603	底径3.3	長石・中・多・石英 中・多・石英 中・多	内外: 10YFB3/2機 長石・中・多・石英 中・多・石英 中・多	ハテミガキ・マメツ	底船2/8			
56	赤・黒・赤	1 - 23	SD603	底径2.2	長石・中・少・石英 中・少・石英 中・少	内外: 10YFB3/2機 長石・中・少・石英 中・少・石英 中・少	ナデ・マツ	マツ	底船2/8		
57	赤・黒・赤	1 - 23	SD603	底径2.0	長石・中・少・石英 中・少・石英 中・少	内外: 10YFB5/2機 長石・中・少・石英 中・少・石英 中・少	ナデ・後ヘラ・ミガキ	ナデ・指揮さえ	底船2/8		
58	赤・黒・赤	1 - 23	SD603	底径1.8	長石・中・少・石英 中・少・石英 中・少	内外: 10YFB5/3機 長石・中・少・石英 中・少・石英 中・少	ナデ・ハサ・ナデ	板ナデ・指揮さえ	底船2/8		
59	赤・黒・赤	1 - 23	SD603	口径3.6	長石・中・多・石英 中・多・石英 中・多	内外: 7.5YFB5/6機 長石・中・多・石英 中・多・石英 中・多	マツ・指揮さえ	マツ	口轟船1/8		
60	赤・黒・赤	1 - 23	SD603	-	長石・中・多・石英 中・多・石英 中・多	内外: 10YFB5/4に近い機 長石・中・多・石英 中・多・石英 中・多	ナデ・マツ・ヘラ・ガキ	体操竿			
61	赤・黒・赤	1 - 23	SD603	-	長石・中・多・石英 中・多・石英 中・多	内外: 7.5YFB4/4に近い機 長石・中・多・石英 中・多・石英 中・多	マツ・マツ	マツ	体操竿		
62	赤・黒・赤	1 - 23	SD603	-	長石・中・少・石英 中・少・石英 中・少	内外: 7.5YFB4/4に近い機 長石・中・少・石英 中・少・石英 中・少	ヘラミガキ4方角分類 ナデ	ヘラミガキ	体操竿	頭へ2/2	
63	赤・黒・赤	1 - 23	SD603	底径8.5	長石・中・多・石英 中・多・石英 中・多	内外: 7.5YFB5/4に近い機 長石・中・多・石英 中・多・石英 中・多	ナデ・マメツ	マツ・板ナデ	体操竿	頭: 宝刀1/1ヶ所實持せ	
64	赤・黒・赤	1 - 23	SD603	-	長石・中・少・石英 中・少・石英 中・少	内外: 7.5YFB4/4機 長石・中・少・石英 中・少・石英 中・少	ナデ	口轟船小片			
65	赤・黒	1 - 23	SD601	-	長石・中・多・石英 中・多・石英 中・多	内外: 10YFB5/6機 長石・中・多・石英 中・多・石英 中・多	ナデ・マツ	ナデ・マツ	口: 駆逐船		



国 名 編 番 号	地 名	報告書 番 号	法 量(m)	胎 土	色 調	外 面 形 状	内 面 形 状	残 存 量	形 態 上の 特 徴	備 考
96 你・系 干	I - 28	SDK05	-	長石・小・多、石英・少、青 長石・小・多、石英・少、青 長石・小・少、石英・少、青 長石・小・少、石英・少、青	内外:7.5YR6/4にぶい懐 内外:7.5YR6/4にぶい懐 内外:7.5YR6/4にぶい懐 内外:7.5YR6/4にぶい懐	ヘラミガキ(4方向分割) ヘラミガキ(4方向分割) ナデ ナデ	断面小片 断面小片			
87 你・系 干	I - 28	SDK05	底径10.8	-						
88 你・性 干	I - 28	SDK05	-	長石・小・少、石英・少、青 長石・中・多、石英・中・多、青 長石・小・少、石英・少、青	内外:7.5YR6/4にぶい懐 内外:7.5YR6/4にぶい懐 内外:7.5YR6/4にぶい懐	ヨコナデ ナデ・マツツ ナデ・マツツ	断面小片 断面小片		断状 +断面	
93 你・系 干	I - 28	SK007	口径9.0	赤色胎子・小・少、砂粒・小・少 赤色胎子・中・中、砂粒・中・中 赤色胎子・小・少、砂	内外:7.5YR6/4にぶい懐 内外:7.5YR6/4にぶい懐 内外:7.5YR6/4にぶい懐	ヨコナデ ナデ・マツツ マツツ	口縫部小片			
94 黒色土・岩 干	I - 28	SK007	口径15.2	赤色胎子・小・少、砂粒・小・少 長石・中・多、石英・中・多、青 長石・小・少、白母・小・少、青 赤色胎子・小・少	内外:7.5YR6/4にぶい懐 内外:7.5YR6/4にぶい懐 内外:7.5YR6/4にぶい懐 マツツ	ヨコナデ ナデ・マツツ ヨコナデ・極ナデ?	口縫部小片 口縫部小片			
95 你・系 干	I - 28	SDK05	口径26.0	長石・中・多、石英・中・多、青 長石・小・少、白母・小・少、青 長石・小・少、白母・小・少、青 長石・小・少、白母・小・少	内外:7.5YR6/4にぶい懐 内外:7.5YR6/4にぶい懐 内外:7.5YR6/4にぶい懐 マツツ	ナデ・マツツ ナデ・マツツ マツツ	口縫部小片			
96 你・系 干	I - 28	SDK05	口径9.2	-						
97 你・系 干	I - 28	SDK05	-	長石・小・少、石英・少、青 長石・小・少、石英・少、青 長石・小・少、石英・少、青 長石・小・少、石英・少、青	内外:5YR6/6懐 内外:5YR6/3懐 内外:5YR6/3懐 マツツ	ナデ・西板ナデ ナデ・西板ナデ ナデ	口縫部小片 口縫部小片			
98 你・系 干	I - 28	SDK05	口径15.3	長石・小・少、石英・少、青 長石・小・少、石英・少、青 長石・小・少、石英・少、青 長石・小・少、石英・少、青	内外:7.5YR6/4にぶい懐 内外:7.5YR6/4にぶい懐 内外:7.5YR6/4にぶい懐 マツツ	ナデ・西板ナデ ナデ・西板ナデ ナデ	口縫部小片 口縫部小片			
99 你・系 干	I - 28	SDK05	口径11.8	-						
100 你・系 干	I - 28	SDK05	口径12.4	長石・小・少、石英・中・多、青 長石・小・少、石英・中・多、青 長石・小・少、石英・中・多、青 長石・小・少、石英・中・多、青	内外:7.5YR6/4にぶい懐 内外:7.5YR6/4にぶい懐 内外:7.5YR6/4にぶい懐 マツツ	ナデ ナデ ナデ	口縫部小片 口縫部小片			
101 你・系 干	I - 28	SDK05	-	長石・小・少、石英・少、青 長石・小・少、石英・少、青 長石・小・少、石英・少、青 長石・小・少、石英・少、青	内外:7.5YR6/4にぶい懐 内外:7.5YR6/4にぶい懐 内外:7.5YR6/4にぶい懐 マツツ	ヨコナデ ヨコナデ ヨコナデ	口縫部小片 口縫部小片			
102 你・系 干	I - 28	SDK05	-	長石・小・少、石英・中・多、青 長石・中・多、石英・中・多、青 長石・中・多、石英・中・多、青 長石・中・多、石英・中・多、青	内外:7.5YR6/4にぶい懐 内外:7.5YR6/4にぶい懐 内外:7.5YR6/4にぶい懐 マツツ	ハグリ(底面きれいにハ クリア)ナデ	口縫部小片			
103 22 水・泥 干	I - 28	SDK05	直径13.0	長石・中・多、石英・中・多 長石・中・多、石英・大・多、青 長石・中・少、石英・少、青 長石・中・少、石英・少、青	内外:10YR5/6懐 内外:7.5YR6/4にぶい懐 内外:7.5YR6/4にぶい懐 内外:7.5YR6/4にぶい懐	ナデ ナデ ナデ ナデ	口縫部小片 口縫部小片			
104 你・系 干	I - 28	SDK05	底径10.4	長石・大・多、石英・大・多、青 長石・大・多、石英・大・多、青 長石・大・少、石英・少、青 長石・大・少、石英・少、青	内外:7.5YR6/4にぶい懐 内外:7.5YR6/4にぶい懐 内外:7.5YR6/4にぶい懐 マツツ	ナケ・メ・ナデ ナケ・メ・ナデ ナデ ナデ	口縫部小片 口縫部小片			
105 你・系 干	I - 28	SDK05	底径9.4	-						
106 你・系 干	I - 28	SDK05	底径6.6	長石・大・多、石英・大・多 長石・小・少、石英・少、青 長石・小・少、石英・少、青 長石・小・少、石英・少、青	内外:10YR7/3にぶい懐 内外:7.5YR6/4にぶい懐 内外:7.5YR6/4にぶい懐 マツツ	ナデ・マツツ ナデ・マツツ ナデ・マツツ マツツ	口縫部小片 口縫部小片 口縫部小片			
107 你・系 干	I - 28	SDK05	底径3.0	長石・小・少、石英・少、青 長石・小・少、石英・少、青 長石・小・少、石英・少、青 長石・小・少、石英・少、青	内外:10YR7/3にぶい懐 内外:7.5YR6/4にぶい懐 内外:7.5YR6/4にぶい懐 マツツ	ナデナデ ナデナデ ナデナデ マツツ	口縫部小片 口縫部小片 口縫部小片			
108 你・系 干	I - 28	SDK05	口径21.6	-						
109 你・系 干	I - 28	SDK05	-	長石・小・少、石英・少、青 長石・小・少、石英・少、青 長石・小・少、石英・少、青 長石・小・少、石英・少、青	内外:10YR6/4にぶい懐 内外:10YR6/4にぶい懐 内外:10YR6/4にぶい懐 マツツ	ヨコナデ・極ナデ ヨコナデ・極ナデ ヨコナデ・極ナデ マツツ	口縫部小片 口縫部小片 口縫部小片			

剖面 番号	地名	新規地番番号	法量(m)	胎土	色調	外観特徴	内面特徴	残存量	地盤上の特徴	備考
110	赤堀坪 1-28	SD065	-	粘石・小・多・石英・小・多・角 灰岩・小・多・石英・小・多・角	内外: 0YR6/3に少い黄鐵 ヨコナナデ	ヨコナナデ	口縫隙小片			
111	赤堀坪 1-28	SD065	底深15.6	粘石・小・多・石英・小・多・角 灰岩・小・多・石英・小・多・角	内外: 0YR6/4に少い黄鐵 ヨコナナデ	ナデ	周縁1/8	削り跡1/8		
112	赤堀坪 1-28	SD065	底深13.3	粘石・中・少・石英・細・少	内外: 10YR5/4に少い黄鐵 ナデ	ヘラ削り	周縁1/8			
113	赤堀坪 1-28	SD065	底深13.2	粘石・小・多・石英・小・多・角 灰岩・中・少・石英・小・多・角	内外: 7.5YR5/6に少い褐 ヨコナナデ	ヨコナナデ	周縁1/8			
114	赤堀坪 1-28	SD065	-	粘石・中・少・石英・中・多・角 灰岩・小・多	内外: 10YR5/4に少い黄鐵 ヨコナナデ・マメツ	ヨコナナデ・マメツ	周縫小片			
115	須津 1-28	SD065	口径14.9	粘石・中・少・石英・細・少	内外: 9YR5/6に少い褐 ヨコナナデ・マメツ	ヨコナナデ・マメツ	周縫1/8	削り跡1/8		
116	須津 1-28	SD065	口径11.1	粘石・中・少・石英・細・少	内外: 10YR5/6に少い褐 ヨコナナデ	ヨコナナデ	周縫1/8	削り跡1/8		
117	須津 1-28	SD065	底深8.8	粘石・中・少・石英・細・少 砂質・あまり食えない	内外: 1NA白自 ナデ	ヨコナナデ・ハケメ	周縫1/8	削り跡1/8		
120	24 土壠							底部2/8		
121	24 土壠 1-23	SDK11	口径13.6 底深9.6	粘石・中・多・石英・中・多・角 砂質・少・小・青	内外: 5YR6/6 5YR6/8	ヨコナナデ・ハケメ	周縫小片	削り跡4/8		
122	須津 1-23	SDK11	口径13.0 底深9.6	粘石・中・少・石英・細・少・角 砂質・少・小・青	内外: NAME 5YR6/6	ヨコナナデ・ハケメ	周縫小片	削り跡4/8		
123	須津 1-23	SDK11	-	粘石・中・少・石英・小・少	内外: SY7/1灰白	ヨコナナデ	周縫小片	削り跡4/8		
124	須津 1-23	SDK11	-	粘石・中・少・石英・中・少	内外: N7灰白	ヨコナナデ	周縫小片	削り跡4/8		
125	赤堀 1-28	SDK12	口径26.2	粘石・中・多・石英・中・多・角 色斑子・中・青	内外: 7.5YR5/4に少い褐 ナデ・ホナデ	ナデ・ホナデ	周縫小片	削り跡4/8		
126	赤堀 1-28	SDK12	口径25.0	粘石・中・多・石英・中・多・角 色斑子・中・少	内外: 7.5YR5/4に少い褐 ヨコナナデ・マメツ	ヨコナナデ・マメツ	周縫小片	削り跡4/8		
127	赤堀 1-28	SDK12	口径19.2	粘石・中・少・石英・中・青	内外: 10YR5/6に少い褐 ヨコナナデ・ナデ	ヨコナナデ・ナデ	周縫小片	削り跡4/8		
128	赤堀 1-28	SDK12	-	粘石・中・多・石英・中・多・角 色斑子・小・青	内外: 7.5YR5/4に少い褐 ナデ	ナデ	周縫小片	削り跡4/8		
129	赤堀 1-28	SDK12	口径20.2	粘石・中・多・石英・中・多・角 色斑子・小・青	内外: 10YR5/6に少い褐 マメツ	マメツ	周縫小片	削り跡4/8		
130	赤堀 1-28	SDK12	口径14.4	粘石・中・少・石英・中・少・角 色斑子・中・少	内外: 7.5YR5/4に少い褐 ナデ・ホナデ・ハケメ	ナデ・ホナデ・ハケメ	周縫小片	削り跡4/8	口・如意洞	
131	赤堀 1-28	SDK12	口径15.8	粘石・中・少・石英・小・手	内外: 10YR5/3に少い褐 ナデ・ホナデ	ナデ・ホナデ	周縫小片	削り跡4/8	口・如意洞	

国 語 書 字 番 号	地 名	報告書番号	法量(m)	地 土	色 調	外 面 特 徴	内 面 調 査	保 存 量	形 態 上の 特 徴	備 考
132 赤・黒	I - 29	SDK12	口径15.1 長石・中・暗・石英・中・暗・ 長石・小・暗・系白色子・中・普	内外:7.5YR5/4にぶい暗 ヨコナデ	ナデ	口輪幅1/8	口:丸形			
133 赤・黒	I - 29	SDK12	口径14.6 長石・小・基・石英・小・普・赤	内外:7.5YR5/5暗 ヨコナデ	四面ナデ	口輪幅1/8	口:丸形			
134 赤・黒	I - 29	SDK12	口径17.4 長石・小・多・石英・小・多・角	内外:7.5YR5/3暗 ヨコナデ	板ナデ・ヨコナデ	口輪幅1/8	口:丸形			
135 赤・黒	I - 29	SDK12	口径15.6 長石・中・基・石英・中・暗・角	内外:7.5YR5/4にぶい暗 ヨコナデ・ヨコナデ	ヨコナデ	口輪幅1/8	口:丸形			
136 赤・基・赤	I - 28	SDK12	底径7.6 長石・中・多・石英・中・多・角	内外:10YR5/2暗 ヘラミガズ・ヨコナデ	指押さえ・板ナデ	底幅1/8				
137 赤・基・赤	I - 28	SDK12	底径7.1 長石・中・少・石英・中・少・赤	内外:10YR5/3にぶい黄 指押さえ・板ナデ	指押さえ・板ナデ	底幅1/8				
138 赤・基・赤	I - 28	SDK12	底径10.6 長石・中・少・石英・中・少・赤	内外:10YR5/3にぶい黄 指押さえ・板ナデ	板ナデ	底幅1/8				
139 赤・基・赤	I - 28	SDK12	底径7.4 長石・小・暗・石英・小・普	内外:2.5YR4/1灰 ナデ	指押さえ	底幅1/8				
140 赤・基・赤	I - 28	SDK12	底径4.8 長石・中・暗・石英・中・普	内外:2.5YR4/1灰 板ナデ・ナデ・マツツ	板ナデ	底幅1/8				
141 赤・基・赤	I - 28	SDK12	底径2.8 長石・小・暗・石英・小・普	内外:10YR5/2灰 指押さえ・板ナデ・ナデ	指押さえ・板ナデ	底幅1/8				
142 赤・基・赤	I - 28	SDK12	底径6.5 長石・中・暗・石英・中・普	内外:7.5YR5/4にぶい暗 ナデ	ナデ	底幅1/8				
143 赤・基・赤	I - 28	SDK12	底径4.8 長石・小・少・石英・小・少・赤	内外:10YR5/3にぶい黄 板ナデ・ナデ	板ナデ	底幅1/8				
144 赤・基・赤	I - 28	SDK12	天井86.8 長石・中・多・石英・中・多	内外:10YR5/2灰 ナデ	ナデ	天井部は灰岩 天井部・天井部・天井部	天井部・天井部・天井部			
145 赤・基・赤	I - 28	SDK12	口径26.0 長石・中・暗・石英・中・普	内外:2.5YR4/1灰 ナデ	ナデ	口輪幅1/8	文・凹窓底・円形浮・突 等			
146 赤・基・赤	I - 28	SDK12	口径21.4 長石・小・暗・系白色子・中・少	内外:7.5YR5/4にぶい暗 ナデ	ナデ	口輪幅1/8				
147 赤・基・赤	I - 28	SDK12	口径20.9 長石・小・少・石英・小・少・普	内外:5YR4/6暗 ナデ	ナデ	口輪幅小片				
148 赤・基・赤	I - 28	SDK12	口径25.0 長石・中・暗・石英・中・少・普	内外:7.5YR5/4にぶい暗 ヨコナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ヨコナデ	口輪幅小片				
149 赤・基・赤	I - 28	SDK12	- 長石・小・暗・系白色子・中・少	内外:7.5YR5/4にぶい暗 ヨコナデ・マツツ	ヨコナデ・マツツ	体幅小片				
150 赤・基・赤	I - 28	SDK12	- 長石・中・多・石英・中・少・普	内外:7.5YR5/4にぶい暗 ナデ・マツツ	ナデ	体幅小片				
151 赤・基・赤	I - 28	SDK12	- 長石・小・暗・小・少・角	内外:7.5YR5/4にぶい暗 圓盤ナデ	圓盤ナデ	口輪幅小片				

国	都道府県	地区名	特生地番号	注記 (m)	土	色	外因調整	内因調整	被評量	地上の特徴	備考
152	新潟県	1-28	SDK12	-	長石 小、多 石英 少、中 粘土 少 長石 小、多 粘土 少、中 粘土 少	内: 10YR4/6に 外: 10YR5/6に 少 少 少 少	板ナデ	板ナデ (5方向分割) 直ナデ 工具 直ナデ	直ナデ		
153	新潟県	1-28	SDK12	-	長石 小、多 石英 少、中 粘土 少 長石 小、多 粘土 少、中 粘土 少	内: 10YR4/6に 外: 10YR5/6に 少 少 少 少	板ナデ	直ナデ マツ 直ナデ マツ 直ナデ	直ナデ		
154	新潟県	1-28	SDK12	底径16.1	長石 中、多 石英 中、粘 長石 小、多 粘土 少、中 粘土 少	内: 10YR5/4に 外: 10YR5/4に 少 少 少 少	板ナデ	直ナデ	直ナデ		
155	新潟県	1-28	SDK12	底径15.4	長石 少、多 石英 少、中 粘 長石 少、多 粘土 少、中 粘土 少	内: 10YR5/4に 外: 10YR5/4に 少 少 少 少	板ナデ	直ナデ	直ナデ		
156	新潟県	1-28	SDK12	底径15.4	長石 小、多 石英 少、中 粘 長石 小、多 粘土 少、中 粘土 少	内: 10YR5/4に 外: 10YR5/4に 少 少 少 少	板ナデ	直ナデ ハラ削り	直ナデ		
157	新潟県	1-28	SDK12	底径13.5	長石 少 石英 少、中 粘 長石 小、多 石英 少、中 粘	内: 10YR5/4に 外: 10YR5/4に 少 少 少 少	板ナデ	直ナデ	直ナデ		
158	新潟県	1-28	SDK12	底径16.2	長石 小、多 石英 少、中 粘 長石 小、多 粘土 少、中 粘土 少	内: 10YR5/4に 外: 10YR5/4に 少 少 少 少	板ナデ マツ 板ナデ	直ナデ	直ナデ		
159	新潟県	1-28	SDK12	底径16.0	長石 少 石英 少、中 粘 長石 小、多 石英 少、中 粘	内: 10YR5/4に 外: 10YR5/4に 少 少 少 少	ヨコナデ	直ナデえ後板ナデ	直ナデ		
160	新潟県	1-28	SDK12	底径13.6	長石 少 石英 少、中 粘 長石 小、多 石英 少、中 粘	内: 10YR5/4に 外: 10YR5/4に 少 少 少 少	ヨコナデ マツ ヨコナデ	直ナデ ハラ削り 直ナデ	直ナデ		
161	新潟県	1-28	SDK12	底径15.4	長石 少 石英 少、中 粘 長石 少、中 粘土 少、中 粘土 少	内: 10YR5/4に 外: 10YR5/4に 少 少 少 少	ヨコナデ マツ ヨコナデ	直ナデ マツ 直ナデ	直ナデ		
162	新潟県	1-28	SDK12	-	長石 少 石英 少、中 粘 長石 少 粘土 少、中 粘土 少	内: 10YR5/4に 外: 10YR5/4に 少 少 少 少	ヨコナデ マツ ヨコナデ	直ナデ ハラ削り 直ナデ	直ナデ		
163	新潟県	1-28	SDK12	-	長石 少 石英 少、中 粘 長石 少 粘土 少、中 粘土 少	内: 10YR5/4に 外: 10YR5/4に 少 少 少 少	ヨコナデ	直ナデ ナダ	直ナデ		
164	新潟県	1-28	SDK12	底径8.2	長石 多 石英 少、中 粘 長石 多 石英 少、中 粘	内: 10YR5/4に 外: 10YR5/4に 少 少 少 少	ヨコナデ マツ ヨコナデ	直ナデ マツ 指押さえ 直ナデ マツ 指押さえ	直ナデ		
165	新潟県	1-28	SDK12	底径3.8	長石 中 石英 少、中 粘 長石 中 石英 少、中 粘	内: 10YR5/4に 外: 10YR5/4に 少 少 少 少	ヨコナデ マツ ヨコナデ	直ナデ 指押さえ 直ナデ 指押さえ	直ナデ		
166	新潟県	1-28	SDK12	底径4.2	長石 少 石英 少、中 粘 長石 少 粘土 少、中 粘土 少	内: 10YR5/4に 外: 10YR5/4に 少 少 少 少	ヨコナデ	指押さえ	直ナデ		
167	新潟県	1-28	SDK12	底径8.5	長石 少 石英 少、中 粘 長石 少 粘土 少、中 粘土 少	内: 10YR5/4に 外: 10YR5/4に 少 少 少 少	ヨコナデ 直ナデ 切り	直ナデ	直ナデ		
168	新潟県	1-28	SDK12	-	長石 少 石英 少、中 粘 長石 少 粘土 少、中 粘土 少	内: 10YR5/4に 外: 10YR5/4に 少 少 少 少	ヨコナデ	直ナデ	直ナデ		
169	土 塵	1-26	SDK12	口径31.0	長石 大 石英 少、中 粘 粘土 少 石英 少、中 粘	内: 10YR5/4に 外: 10YR5/4に 少 少 少 少	ヨコナデ マツ ヨコナデ	直ナデ	直ナデ		
170	新潟県	1-28	SDK12	-	長石 少 石英 少、中 粘 粘土 少 石英 少、中 粘	内: 10YR5/4に 外: 10YR5/4に 少 少 少 少	ヨコナデ	直ナデ	直ナデ		
171	新潟県	1-28	SDK12	-	砂岩 あまり含まない	内: 10YR5/4に 外: 10YR5/4に 少 少 少 少	ヨコナデ	直ナデ	直ナデ		
172	新潟県	1-26S	SDK12	底径7.8	長石 少 石英 少、中 粘 長石 少 石英 少、中 粘	内: 10YR5/4に 外: 10YR5/4に 少 少 少 少	ヨコナデ ハラ削り	直ナデ	直ナデ		

国 地名 固有 地名 番号	地区名	報告番号	法量(cm)	胎土	色調	外面特徴	内面特徴	残存量	形態上の特徴	備考
173 濱・坏 I - 28	SDK12	能透10.0	長石・小・石英・小・少	内外:7.5/6/1灰	回転ナデ	回転ナデ	底部ナデ	底部1/8		
174 濱・坏 I - 28	SDK12	能透11.0	長石・細少・石英・細少	内外:9.5/6/灰	回転ナデ	回転ナデ	底部ナデ	底部1/8		
175 濱・坏 I - 28	SDK12	高台10.2	長石・細少・石英・細少 色相子・小・少	内:1.0/6/灰 外:1.0/6/灰	回転ナーナデ	回転ナーナデ	底部ナデ	底部1/8	底部小片	
176 濱・坏 I - 28	SDK12	高透20.0	長石・小・少・石英・小・少	内外:2.5/7/2/5灰	回転ナデ	回転ナデ	底部ナデ	底部1/8		
177 濱・坏 I - 28	SDK12	口透17.0 透高2.6 砂粒・小・量	長石・小・少・石英・小・少 色相子・小・少・黑色子・小・少	内:7.5/7/2/5灰 外:2.5/6/1灰	回転ナデ	回転ナデ	口輪窓1/8			
178 25 濱・山 I - 28	SDK12	口透17.7 透高3.0 砂粒・小・量	長石・小・少・石英・小・少	内外:5/6/1灰	回転ナーナデ	回転ナーナデ	口輪窓1/8		外壁底部火輝	
179 濱・山 I - 28	SDK12	口径16.0	長石・小・少・石英・小・少	内外:5/7/1灰白	回転ナデ	回転ナデ	内面部透底火輝			
180 濱・山 I - 28	SDK12	口径15.0	長石・小・少・石英・小・少	内外:2.5/7/2/5灰	回転ナデ	回転ナデ	口輪窓小片			
181 25 濱 I - 28	SDK11・SDK12	口径14.0 透高2.6 砂粒・小・量	長石・小・少・石英・小・少 色相子・小・少・黑色子・小・少	内:SYR7/1灰 外:SYR7/1灰	回転ナーナデ	回転ナーナデ	口輪窓小片			
182 濱・櫻 I - 28	SDK12	天井8/4 透高4.4	長石・細少・石英・細少	内:NM灰 外:NM灰	ヘラ割り・回転ナデ	回転ナデ	天井盤1/8			
183 濱・櫻 I - 28	SDK12	口径15.0	長石・小・少・石英・小・少	内外:1.6/灰	回転ナデ	回転ナデ	底部ナデ	底部1/8		
184 濱・櫻 I - 28	SDK12	-	長石・中・少・石英・中・少	内:NM灰 外:NM灰	横子・タガヤ目留 横子・タガヤ目留	回転ナーナデ	底部ナデ	底部1/8		
185 濱・櫻 I - 28	SDK12	-	長石・小・少・石英・小・少	内:2.5/7/1灰白 外:5/7/1灰白	回転ナデ	回転ナデ	底部ナデ	底部1/8		
186 濱・櫻 I - 28	SDK12	底透8.0	長石・小・少・石英・小・少	内:NM灰 外:NM灰	回転ナデ	回転ナデ	底部ナデ	底部1/8		
187 25 濱・櫻 I - 28	SDK12	口径13.0	長石・小・少・石英・小・少	内:10/8/2/2灰 外:10/8/2/2灰	回転ナデ	回転ナデ	底部ナデ	底部1/8	横子・タガヤ目留 横子・タガヤ目留	横子・タガヤ目留 横子・タガヤ目留
188 25 黑色土 A 番 I - 28	SDK12	口径15.2 透高6.3 砂粒・小・量	折子・色相子・小・少・砂粒・小・少 色相子・小・量	内:NM灰 外:NM灰	ヘラミ・ガキナ・ナ・アメツ ヘラミ・ガキナ・ナ・アメツ	ヘラミ・ガキナ・ナ・アメツ	口輪窓2/8		内面部マツサニ	
189 黒色土 A 番 I - 28	SDK12	口径7.0	長石・小・少・石英・小・少 色相子・小・量	内:NM灰 外:NM灰	ナデ・マメツ	ナデ・マメツ	底部ナデ	底部1/8		
203 27 土・櫻 I - 24	SDK13	口径12.8	母子・砂・色相子・中・量	内外:7.5/8/6/灰	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ	口輪窓2/8		口・如意毫	
204 27 濱・坏 I - 24	SDK13	口径12.2 透高3.3 砂粒・小・量	砂粒・小・量・黑色粒子・小・少 色相子・小・量	内:7.5/6/1灰 外:6/6/灰	回転ナーナデ	回転ナーナデ	口輪窓2/8			
205 27 濱・坏 I - 24	SDK13	口径15.2	砂粒・小・量	内:SYR/1灰 外:SYR/1灰	回転ナーナデ	回転ナーナデ	口輪窓2/8		如意毫	
206 27 濱・坏 I - 24	SDK13	-	長石・小・量・石英・小・量	凸出:10/8/2/11明青灰 (凸出)磨カキ目	磨カキ目	(凸出)磨カキ目	(凸出)磨カキ目	(凸出)磨カキ目	(凸出)磨カキ目	-

国 籍 番 号	種 類	地区名	報告者略号	法量(m)	鉱土	色調	外觀特徴	内観調整	残存量	形態上の特徴	備考
207	土・灰	I - 23	SDK14	口径1.4 底径1.3 高さ2.7 色柱子・小・少	内外:10YR8/2灰白 口部ナデ・圓柱ヘラ切り	回転ナデ・圓柱ヘラ切り	回転ナデ	口輪削り8 無削8			マツツ音
208	土・灰	I - 23	SDK14	口径1.7 底径1.6 高さ2.3 色柱子・小・少	内外:2.5YR8/4にぶい緑 外:5YR7/7にぶい緑 底柱子・小・少	底柱子ナデ・圓柱ヘラ切り	回転ナデ	底柱子7 底削7			
209	土・灰	I - 23	SDK16	底径6.0 柱柱・小・少	内外:10YR8/3浅綠 外:NE灰	底柱子ナデ・圓柱ヘラ切り	回転ナデ	底削10 火薬下			
210	灰・灰	I - 23	SDK16	底径6.2 砂粒・多	内外:あまり含まない NE灰	底柱子ナデ	回転ナデ	底削10 底削10			
211	灰・灰	I - 23	SDK16	底径6.6 長石・小・多、石英・小・多 色柱子・小・少	内外:NE灰 外:NE灰	底柱子ナデ・ナデ	回転ナデ	底削10 底削10			
212	土・小皿	I - 23	SDK17	口径6.0 器柱・小・少 底柱子・小・少	内外:5YR7/6緑 外:5YR7/6緑	ナデ・回転ヘラ切り	ナデ	口輪削り8			
213	馬鹿土・鋸 A型	I - 23	SDK18	底径6.3 底柱子・少、石英・細・少 底柱子・少	内外:N4灰 外:2.5YR8/2白	ナデ	ヘラミガキ	底削10 底削10			
214	灰・透	I - 27	SKK11	-	長石・中・少、石英・中・少 色柱子・小・少	内外:10YR8/3にぶい黄緑 ナケヌ	底柱子ヘラガキ・相 持さえ後板ナデ	底削8 無削8	質:ヘラミガキ(日本)、相 持さえ後板(日本)、相 持さえ後板(日本)+a 無削:ヘラミガキ(日本)+a 削突:ヘラミガキ(日本)+a		
215	灰・透	I - 27	SKK11	-	長石・中・多、石英・中・多 底柱子・少	内外:10YR8/3にぶい黄緑 ナデ	ヘラミガキ・板ナデ	底削10 底削10			
216	灰・透	I - 27	SKK11	底柱子6	長石・中・多、石英・中・多 底柱子・少	内外:2.5YR8/2灰 ナケヌ	ヘラミガキ	底削10 底削10			
217	土・小皿	I - 27	SKK11	口径7 底柱子・少	長石・小・少、石英・小・少 底柱子・少	内外:10YR8/3にぶい黄緑 ナケヌ	底柱子・圓柱ヘラ切り	回転ナデ			
218	土・小皿	I - 27	SKK11	口径6.0 底柱子・少 底柱子・少	長石・小・少、石英・小・少 色柱子・小・少 底柱子・少	内外:10YR8/2灰白 ナケヌ	回転ナデ・圓柱ヘラ切り	回転ナデ	口輪削り8 底削5		
219	土・小皿	I - 27	SKK11	口径6.8 底柱子・少 底柱子・少	長石・小・少、石英・小・少 底柱子・少	内外:2.5YR7/3浅 ナデ	ナデ・回転ヘラ切り	ナデ	口輪削り8		
220	土・小皿	I - 27	SKK11	底柱子2	長石・小・少、石英・小・少 底柱子・少	内外:10YR8/3浅 ナデ	ナデ・回転ヘラ切り後 ナデ				
221	土・小皿	I - 27	SKK11	底柱子4.7	長石・小・少、石英・小・少 底柱子・少	内外:2.5YR7/2灰 ナケヌ	回転ナデ・圓柱ヘラ切り	回転ナデ	底削2		
222	土・小皿	I - 27	SKK11	口径6.2 底柱子・少 底柱子・少	ナケヌ	ナデ・圓柱ヘラ切り・板 ナデ	ナデ・圓柱ヘラ切り・板 ナデ	口輪削り8			
223	土・灰	I - 27	SKK11	口径6.4 底柱子・少 底柱子・少	長石・細・少、石英・細・少 色柱子・少 底柱子・少	内外:2.5YR8/2灰白 ナケヌ	回転ナデ・圓柱ヘラ切り	回転ナデ	底削8		
224	土・灰	I - 27	SKK11	口径6.8 底柱子・少 底柱子・少	長石・細・少、石英・細・少 色柱子・少 底柱子・少	内外:10YR8/3浅 ナケヌ	回転ナデ・メタ ナデ	回転ナデ・メタ ナデ	底削8		

調査記号	基盤	地区名	新岩場番号	法面(m)	地土	色調	外観特徴	内部構造	堆存量	形態上の特徴	備考
225	土・砂	I - 27	SK011	口幅9.0 高さ6.1	風化小・石英小・少 粘土質小・少	内外:2.5m/2段白	風化ナ・回版ヘラ切り	回版ナデ	口幅部1/8		
226	土・砂D	I - 27	SK011	口幅9.7 高さ6.0	風化小・少 石英小・少	内外:2.5m/2段黄	回版ナ・回版ヘラ切り	回版ナデ	半形		
227	土・砂	I - 27	SK011	口幅10.0 高さ6.0	風化小・少・石英小・少	内外:2.5m/2段白	回版ナ・回版ヘラ切り	回版ナデ	口幅部2/8		
228	土・砂	I - 27	SK011	口幅9.7 高さ6.0	風化小・少・石英小・少	内外:2.5m/2段白	回版ナ・回版ヘラ切り	回版ナデ	口幅部1/8		
229	土・砂	I - 27	SK011	口幅9.8 高さ6.4	風化小・少・石英小・少	内外:2.5m/2段白	回版ナ・回版ヘラ切り	回版ナデ	口幅部1/8		
230	土・砂	I - 27	SK011	口幅10.3 高さ6.4	風化小・少・石英小・少	内外:2.5m/2段白 外:2.5m/2段黄	回版ナ・回版ヘラ切り	回版ナデ	口幅部1/8		
231	土・砂D	I - 27	SK011	口幅10.8 高さ6.4	風化小・少・石英小・少・少	内外:10m/3段黄	回版ナ・回版ヘラ切り	回版ナデ	底板3/8		
232	土・砂	I - 27	SK011	口幅10.3 高さ6.4	砂粒・小・少	内外:10m/1段灰 外:5m/6段黄	回版ナ・回版ヘラ切り	回版ナデ	口幅部1/8 底板穴井	裏と焼き前、焼8 ムアリ	
233	土・砂	I - 27	SK011	口幅10.6 高さ6.6	砂粒・小・少	内外:2.5m/1段灰 外:2.5m/1段白	回版ナ・回版ヘラ切り	回版ナデ	口幅部1/8		
234	土・砂	I - 27	SK011	口幅11.7 高さ7.8	風化小・少・少 砂粒・少	内外:2.5m/2段白 外:10m/3段白	回版ナ・回版ヘラ切り・ 後板灰柱	回版ナデ	口幅部2/8		
235	土・砂	I - 27	SK011	口幅11.0 高さ7.8	砂粒・少・少	内外:2.5m/2段白	回版ナ・回版ヘラ切り	回版ナデ	口幅部2/8		
236	土・砂	I - 27	SK011	口幅11.8 高さ8.8	風化小・少・少	内外:2.5m/2段白	回版ナ・回版ヘラ切り	回版ナデ	口幅部1/8		
237	土・砂	I - 27	SK011	口幅10.4 高さ8.4	風化小・少・石英小・少	内外:10m/3段黄	ナ	ナ	口幅部小片		
238	土・砂D	I - 27	SK011	口幅11.6 高さ7.0	風化小・少・石英小・少	内外:2.5m/2段白	回版ナ・回版ヘラ切り	回版ナデ	口幅部1/8	裏と焼きあり	
239	土・砂	I - 27	SK011	口幅11.8 高さ9.8	砂粒・小・少	内外:2.5m/2段白	回版ナ・回版ヘラ切り	回版ナデ	口幅部1/8		
240	土・砂	I - 27	SK011	口幅12.3 高さ7.8	風化小・少・石英小・少	内外:2.5m/2段白	回版ナ・回版ヘラ切り	回版ナデ・ナデ	口幅部2/8		
241	土・砂	I - 27	SK011	口幅12.3 高さ9.4	風化小・少・石英小・少	内外:2.5m/2段白	回版ナ・回版ヘラ切り	回版ナデ	口幅部2/8		
242	土・砂	I - 27	SK011	高さ5.6	風化小・少・少	内外:10m/3段黄	ナ	ナ	底板2/8		
243	土・砂	I - 27	SK011	高さ6.7	風化小・少・石英小・少	内外:10m/2段白	回版ナ・回版ヘラ切り	回版ナデ	底部5/6		

編文 番号	地盤	地区名	衛生清掃番号	法量(m)	地土	色調	外面風貌	内面風貌	特徴	備考
244	土・灰	I - 27	SK011	底面7.0	砂粒をほこんど含まない 長石・細・少・赤	内外:10YR8/3灰黄 内外:2.5YR8/3灰黄	圓板ナデ・圓板ヘラ切り	圓板ナデ・圓板ヘラ切り	底面1.8	
245	土・灰	I - 27	SK011	底面6.0	長石・細・少・赤 長石・粗・少	圓板ナデ・圓板ヘラ切り	圓板ナデ・圓板ヘラ切り	底面2.8		
246	土・灰	I - 27	SK011	底面5.6	赤色斑子・微少・粉紅・微少・赤	内外:10YR8/2灰白 内外:10YR8/3灰黃	圓板ナデ・圓板ヘラ切り	圓板ナデ・圓板ヘラ切り	底面2.8	
247	土・灰	I - 27	SK011	底面5.8	長石・細・少・石英・細・少・赤	内外:10YR8/3灰黃	ナデ	ナデ	底面1.8	
248	土・灰	I - 27	SK011	底面5.2	長石・小・赤・石英・小・青	内外:10YR8/2灰白 圓板ナデ・圓板ヘラ切り	ナデ・圓板ナデ	底面2.8		
249	土・灰	I - 27	SK011	底面7.1	長石・小・少・石英・小・少・赤 長石・粗・少・小・少	内外:10YR8/2灰白 内外:10YR8/2灰白	圓板ナデ・圓板ヘラ切り	底面完存		
250	土・鶴	I - 27	SK011	口径3.74	長石中・多・石英中・多	内外:10YR8/2灰白 内外:2.5YR7/2灰白	ナデ・圓板ナデ	口端部小片	外斷に深付端	
251	土・鶴	I - 27	SK011	-	長石中・多・石英中・多	マツ	マツ	口端部小片		
252	土・鶴	I - 27	SK011	-	長石・小・少・石英・小・少・赤 長石・粗・少・小・少	ナデ	ハケメ	口端部小片		
253	土・鶴	I - 27	SK011	口径26.8	長石中・粗・石英中・粗	内外:10YR8/3に少い青 内外:10YR8/2灰黃	ナデ・ハケメ像ナデ	口端部小片	外斷に深付端	
254	土・足金	I - 27	SK011	-	長石中・多・石英中・多	内外:10YR8/1墨灰 内外:2.5YR7/1灰	ヨコナデ・ハケメ像 ナデ・板ナデ	牛形小片	外斷に工具痕	
255	土・足金	I - 27	SK011	口径26.0	長石中・多・石英中・多	内外:10YR8/2に少い青 内外:10YR8/3に少い青	ヨコナデ・ハケメ像 ナデ・板ナデ	口端部2.8	外斷口端部下端付	
256	土・足金	I - 27	SK011	口径26.6 中	長石・微中・多・石英・中・粗	内外:10YR8/3に少い青 内外:10YR8/5に少い青	ナデ・ハケメ像 ナデ・板ナデ	口端部1.8	外斷口端部下端付 板ナデ	
257	土・足金	I - 27	SK011	口径25.3	長石・中・粗・石英・中・粗	内外:10YR8/2に少い青 内外:10YR8/2灰白	ナデ・ハケメ像 ナデ・板ナデ	口端部小片	外斷口端部下端付	
258	土・足金	I - 27	SK011	口径21.4	長石中・粗・石英中・粗・赤	内外:10YR8/2に少い青 内外:10YR8/3に少い青	ナデ・ハケメ像 ナデ・板ナデ	口端部小片	外斷口端部下端付	
259	土・足金	I - 27	SK011	口径14.0	長石中・粗・石英中・粗	内外:10YR8/4灰黃	ナデ・ハケメ像 ナデ・板ナデ	口端部小片	外斷口端部下端付	
260	土・足金	I - 27	SK011	口径23.2	長石中・粗・石英中・粗	内外:10YR8/3灰白	ヨコナデ・ハケメ像 ナデ・板ナデ	口端部小片	外斷口端部下端付	
261	土・足金	I - 27	SK011	口径24.2	長石中・粗・石英中・粗	内外:10YR8/3に少い青 内外:10YR8/3灰白	ナデ・ハケメ像 ナデ・板ナデ	口端部小片	外斷口端部下端付	
262	土・足金	I - 27	SK011	口径23.0	長石中・粗・石英中・粗	内外:10YR8/3に少い青 内外:10YR8/3灰白	ナデ・ハケメ像 ナデ・板ナデ	口端部小片		
263	土・足金	I - 27	SK011	-	長石・大・粗・石英・大・粗	内外:10YR8/3灰白	ヨコナデ・ハケメ像 ナデ・板ナデ	口端部小片		
264	土・足金	I - 27	SK011	-	長石・小・少・石英・小・少	内外:10YR8/2灰白 内外:10YR8/2灰白	ナデ	ナデ	口端部小片	

国文 版 番 号	版 種	地区名	報告済得手号	法量(cm)	鉢土	色調	外表面型	内面調整	残存量	形態上の特徴	備考
265-28	土・屋 根 (磚)	I - 27	SK0011	厚さ7.7	長石・中・多・石英・中・多	内外:10YR6/2灰青褐色	板ナデ	-	周辺完存	外側上半部剥竹輪	
266	土・屋 根 (磚)	I - 27	SK0011	厚さ2.5	長石・中・多・石英・中・多	内外:10YR6/2灰青褐色	板ナデ	-	周辺完存	外側上半部剥竹輪	
267	土・屋 根 (磚)	I - 27	SK0011	厚さ1.9	長石・小・多・石英・小・多	内外:10YR6/2灰白	板ナデ	-	周辺4枚		
268	土・屋 根	I - 27	SK0011	口径24.0	長石・中・多・石英・中・多	内:2.5YR3/3灰褐色 外:10YR3/3灰褐色	滑伴さ有板ナデ・ナデ・板ナデ	板ナデ	周辺6枚		
269	土・屋	I - 27	SK0011	-	長石・小・多・石英・小・多・多	ナデ・ハケメ	ナデ	体部小片	口縁部小片	口縁部一部重ね 焼き痕あり	
270	瓦・瓦 根	I - 27	SK0011	口径12.1 底径12.2	長石・小・多・石英・小・多・多	内外:10YR6/2灰青褐色	周辺ナデ・回版へラ切り	回版ナデ	口縁部2枚 周辺完存		
271	瓦・瓦 根	I - 27	SK0011	口径12.6 底径11.2	長石・小・少・石英・小・少	内外:2.5YR7/8灰白 外:10YR6/2灰白	周辺ナデ・回版へラ切り	回版ナデ	口縁部9枚 周辺完存		
272	瓦・瓦 根	I - 27	SK0011	底径9.0	長石・小・多・石英・小・多	内外:5YR7/8灰白	回版ナデ・回版へラ切り	回版ナデ	底部2枚	口縁部重ねあり 焼け痕あり	
273	瓦・瓦 根	I - 27	SK0011	-	長石・相・少・石英・相・少	内:2.5YR2/8灰白 外:2.5YR1/8灰白	回版ナデ・ヘラミガキ	回版ナデ	口縁部小片	口縁部重ねあり 焼け痕あり	
274	瓦・瓦 根	I - 27	SK0011	-	長石・小・少・石英・小・少	ナデ・カキ目	ナデ	口縁部小片	口縁部小片	口縁部重ねあり 焼け痕あり	
275	瓦・瓦 根	I - 27	SK0011	底径27.0	長石・中・多・石英・中・多	内:5YR7/8黄灰 外:10YR6/2灰白	桔子目タキキ ヨコナデ	板ナデ	底部2枚	口縁部8枚 周辺5枚	
276	瓦・瓦 根	I - 27	SK0011	口径32.6	長石・中・多・石英・中・多	内外:2.5YR6/2灰青 外:10YR6/2灰白	ヨコナデ・板ナデ・横押 ヨコナデ	ナデ	口縁部8枚 周辺5枚		
277	瓦・瓦 根	I - 27	SK0011	-	長石・中・多・石英・中・多	内外:10YR6/2灰白 外:5YR1/8	ナデ	口縁部小片	口縁部小片	重ね焼け痕あり	
280	土・燒	I - 27	SK0012	-	長石・小・多・石英・小・多	内外:2.5YR6/2灰青褐色	ナデ・板ナデ	口縁部小片	口縁部小片	口・如意形	
281	土・小皿	I - 23	SK0011	口径3.8 底径3.0	長石・小・少・石英・小・少	内外:2.5YR6/2灰白	回版ナデ・回版へラ切り	回版ナデ	口縁部1枚		
282	土・瓦 根	I - 23	SK0011	底径7.5	長石・小・少・石英・小・少・多	内外:2.5YR6/2灰白	回版ナデ・回版へラ切り	回版ナデ	底部5枚		
283	土・砂 根	I - 23	SK0011	-	長石・小・多・石英・小・多	内外:2.5YR6/2灰白	ナデ	ナデ	口縁部小片	口縁部小片	
284	尾根土 八重井	I - 23	SK0011	-	長石・小・少・石英・小・少	内:2.5YR7/8灰青 外:10YR6/2灰白	ナデ・回版へラ切り・マ ツナデ	ナデ	ヘラミガキ 底部5枚	ヘラミガキ	
285	灰根	I - 23	SK0011	底径5.6	砂質・相・少	内:2.5YR6/2灰青 外:5YR1/8灰白	ナデ・回版へラ切り・マ ツナデ	ナデ	底部4枚	板仔根	
286	灰根	I - 23	SK0011	底径6.0	砂質・あまり食味なし	内:2.5YR6/2灰白 外:2.5YR7/8灰白	ナデ	ナデ	底部2枚	板仔根	
287	灰根	I - 23	SK0011	-	長石・小・少・石英・小・少 色斑子・絆・少	内外:10YR6/2灰 外:10YR6/2灰白	桔子タタキ ナデ	ナデ	塊山根	塊山根	

標名 番号	基準 地区名	総合連絡番号	法規 (cm)	地土	色調	外観特徴	内面調査	残存量	形態上の特徴	参考
288 互換・柄 1 - 23	SXK11	口幅17.2 脊柱・板・少	内外: NS灰白	指揮さえハミガキ・ヨコナデ	ヘラミガキ・ヨコナデ	口幅17.2				
289 白留・皿 1 - 23	SXK11	口幅6.6 鋸歯	内外: 7.5YR6/1灰白	圓板ナデ・板ナデ	圓板ナデ・板ナデ	口幅6.6 小片				
290 簡易質・丸 1 - 23	SXK11	薄壁3.3 長石・中・少 輪郭部2.9	△: 2.5YR7/0灰白 ○: DYR4/2灰白	(△面) 傾斜ナデ (○面) 傾斜ナデ	(△面) ヨコナデ・傾タ (○面) ヨコナデ・傾タ 質	(△面) 傾斜部正直 質	-			
291 30 簡易質・丸 1 - 23	SXK11	-	長石・中・多 石英・中・多	△: 2.5YR6/1灰白 ○: 7.5YR6/1灰白 外: 7.5YR6/1灰白 外: 7.5YR6/1灰白	(△面) ヨコナデ・板ナデ (○面) ヨコナデ・板ナデ	(△面) ヨコナデ・板ナデ (○面) ヨコナデ・板ナデ	-			
293 土・小皿 1 - 27	SXK12	口幅9.2 色板子・鋸歯少 底厚1.0	△: 2.5YR6/1灰白 ○: 7.5YR6/1灰白 外: 7.5YR6/1灰白 外: 7.5YR6/1灰白	圓板ナデ・板ナデ・鋸歯少 圓板ナデ	圓板ナデ	底部小片				
294 土・手 1 - 27	SXK12	底厚12.0 長石・中・少 大・中・少	△: 2.5YR7/0灰白 ○: 7.5YR7/0灰白 外: 7.5YR7/0灰白	指揮さえ板板ナデ	ナデ	底部小片				
295 土・把手 1 - 27	SXK12	口幅11.8 長石・中・少 石英・中・少	△: 2.5YR7/0灰白 ○: 7.5YR7/0灰白 外: 7.5YR7/0灰白	ヨコナデ	指揮ナデ	口幅17.8				
296 土・把手 1 - 27	SXK12	口幅23.5 長石・中・多 石英・中・多	△: 10YR2/2灰白 ○: 10YR2/2灰白 外: 10YR2/2灰白	指揮さえ板板ナデ	板ナデ	口幅17.8				
297 土・把手 1 - 27	SXK12	口幅6.6 長石・中・少 石英・中・少	△: 2.5YR6/1灰白 ○: 7.5YR6/1灰白 外: 7.5YR6/1灰白	ナデ・指揮さえ 板ナデ・板ナデ	ナデ	口幅6.6 小片				
298 土・把手 1 - 27	SXK12	口幅29.8 長石・中・多 石英・中・多	△: 10YR2/2灰白 ○: 10YR2/2灰白 外: 10YR2/2灰白	ナデ・マツツ ナデ・板ナデ	ナデ	口幅6.6 小片				
299 土・把手 1 - 27	SXK12	口幅34.8 長石・中・少 石英・中・少	△: 10YR2/1灰白 ○: 10YR2/1灰白 外: 7.5YR2/2灰白	ナデ・板ナデ	ナデ	口幅6.6 小片				
300 土・把手 1 - 27	SXK12	底厚32.0 長石・中・多 石英・中・少	△: 2.5YR6/1灰白 ○: 7.5YR6/1灰白 外: 7.5YR6/1灰白	板ナデ・板ナデ	ナデ	底部小片				
301 土・把手 1 - 27	SXK12	-	長石・中・少 石英・中・少	ヨコナデ・指揮さえ・ハ クリ	ナデ・ハクリ	口幅底下: 密孔状				
302 土・把手 1 - 27	SXK12	-	長石・小・多 石英・中・少	内: 10YR2/2灰白 外: 7.5YR2/2灰白	ナデ・板子タタキ目 ナデ・板ナデ	底部小片				
303 30 土・把手 1 - 27	SXK12	口幅27.4 長石・中・多 石英・中・少	△: 10YR2/2灰白 ○: 7.5YR6/1灰白 外: 7.5YR6/1灰白	ナデ・指揮さえ 板ナデ	ナデ・節目	口幅17.8 底面: 6mm1箇位				
304 土・板 1 - 28	SOK21	底厚4.4 長石・中・多 色板子・小・少	△: 2.5YR6/1灰白 ○: 7.5YR6/1灰白 外: 7.5YR6/1灰白	マツツ・板ナデ	指揮さえ・ハケメ・ヘラ ナデ	底部17.8				
305 土・板 1 - 28	SOK21	口幅19.3 長石・中・多 色板子・小・少	△: 10YR2/3灰白 ○: 10YR2/3灰白 外: 7.5YR6/1灰白	ヨコナデ・マツツ ナデ・マツツ・ハクリ	ナデ・板ナデ	口幅17.8				
306 土・高杯 1 - 28	SOK21	口幅39.0 長石・中・少 石英・中・少	△: 2.5YR6/1灰白 ○: 7.5YR6/1灰白 外: 7.5YR6/1灰白	指揮さえ後壁ナデ・ヨコ ナデ	口幅17.8 文: ヘラ(2本)(m)+α					
307 土・高杯 1 - 28	SOK21	口幅39.3 長石・小・多 石英・小・多	△: 2.5YR6/1灰白 ○: 7.5YR6/1灰白 外: 7.5YR6/1灰白	ナデ・マツツ・ハクリ	ナデ	口幅6.6 小片				
308 土・小皿 1 - 28	SOK21	口幅10.2 長石・小・少 色板子・小・少	△: 2.5YR6/1灰白 ○: 7.5YR6/1灰白 外: 7.5YR6/1灰白	圓板ナデ・板ナデ・鋸歯少 圓板ナデ	圓板ナデ	底部小片				

固 定 編 番 号	地 理 的 位 置	解 説 名	解 説 番 号	法 規 の 名	施 工 土	色 調	外 面 風 貌	内 面 風 貌	積 存 量	形 態 上 の 特 徴	備 考
309 30 土・灰 I - 28	SD21	口透12.6 長石・少・石英 透底3.7 色鉛子・少・少	内: 01/YR02/65 白 外: 5/YR01/65 黄 内: 15/YR07/45 黄 外: 15/YR08/45 黄	回板ナデ・回板ヘラ切り 回板ナデ・回板ヘラ切り	回板ナデ	口繪墨1/6					
310 30 土・灰 I - 28	SD21	口透14.7 長石・少・石英 透底3.7 色鉛子・少・少	内: 15/YR07/45 黄 外: 15/YR08/45 黄 内: 15/YR07/45 黄 外: 15/YR08/45 黄	回板ナデ・回板ヘラ切り 回板ナデ・回板ヘラ切り	回板ナデ	口繪墨2/6					
311 30 土・灰 I - 28	SD21	口透14.4 長石・少・石英 透底3.7 色鉛子・少・少	内: 15/YR07/45 黄 外: 15/YR08/45 黄 内: 15/YR07/45 黄 外: 15/YR08/45 黄	回板ナデ・回板ヘラ切り 回板ナデ・回板ヘラ切り	回板ナデ	口繪墨5/6					
312 31 土・灰 I - 28	SD21	口透15.6 長石・少・石英 透底3.6 色鉛子・少・少	内: 15/YR07/45 黄 外: 15/YR08/45 黄 内: 15/YR07/45 黄 外: 15/YR08/45 黄	回板ナデ・回板ヘラ切り 回板ナデ・回板ヘラ切り	回板ナデ	直刷墨7/9					
313 土・灰 I - 28	SD21	口透13.2 長石・少・石英 透底3.7 色鉛子・少・少	内: 2.5/YR7/35 黄 外: 7.5/YR08/65 黄 内: 2.5/YR7/35 黄 外: 7.5/YR08/65 黄	回板ナデ ナデ	ナデ	口繪墨小片					
314 土・灰 I - 26	SD21	口透13.8 長石・少・石英 透底6.0 色鉛子・少・少	内: 2.5/YR7/35 黄 外: 7.5/YR08/65 黄 内: 2.5/YR7/35 黄 外: 7.5/YR08/65 黄	回板ナデ・回板ヘラ切り 回板ナデ	ナデ	口繪墨1/6					
315 土・灰 I - 28	SD21	底刷6.0 長石・少・石英 透底8.0 色鉛子・少・少	内: 7.5/YR07/65 黄 外: 7.5/YR08/65 黄 内: 7.5/YR07/65 黄 外: 7.5/YR08/65 黄	回板ナデ ナデ	ナデ	直刷墨1/6					
316 土・灰 I - 28	SD21	底刷7.7 長石・少・石英 透底8.0 色鉛子・少・少	内: 7.5/YR07/65 黄 外: 7.5/YR08/65 黄 内: 7.5/YR07/65 黄 外: 7.5/YR08/65 黄	回板ヘラ切り 回板ナデ	ナデ	直刷墨2/6					
317 土・灰 I - 28	SD21	- 短鉛・少・少	-	回板ナデ	ナデ	直刷墨小片					
318 土・灰 I - 28	SD21	- 長石・少・石英・少・少	-	回板ナデ	ナデ	体刷小片					
319 土・灰 I - 28	SD21	口透13.7 長石・中・少・少	内: 2.5/YR07/65 黄 外: 2.5/YR07/65 黄 内: 2.5/YR07/65 黄 外: 2.5/YR07/65 黄	回板ナデ ヨコナデ・ヘラギ・ヘラ ヨコナデ・ヘラギ・ヘラ ヨコナデ・ヘラギ・ヘラ	ナデ ナデ ナデ	口繪墨小片 直刷墨 直刷墨					
320 黒 I - 28	SD21	口透13.8 粘土・少・少	内: 10/YR07/45 黄 外: 10/YR08/45 黄 内: 10/YR07/45 黄 外: 10/YR08/45 黄	ヨコナデ ヨコナデ	ナデ ナデ	直刷墨小片 直刷墨					
321 31 黑 I - 28	SD21	底刷4.6 長石・少・石英・少・少	内: 10/YR07/45 黄 外: 10/YR08/45 黄 内: 10/YR07/45 黄 外: 10/YR08/45 黄	ヨコナデ・ヘラギ・ヘラ ヨコナデ・ヘラギ・ヘラ ヨコナデ・ヘラギ・ヘラ	ナデ ナデ ナデ	直刷墨 直刷墨 直刷墨					
322 31 黑 I - 28	SD21	口透13.6 長石・中・少・少	内: 7.5/YR07/65 黄 外: 7.5/YR07/65 黄 内: 7.5/YR07/65 黄 外: 7.5/YR07/65 黄	ヨコナデ・ヘラギ・ヘラ ヨコナデ・ヘラギ・ヘラ ヨコナデ・ヘラギ・ヘラ	ナデ ナデ ナデ	直刷墨3/6					
323 31 黑 I - 28	SD21	口透15.0 粘土・少・少	内: NS/灰 外: NS/灰 内: 10/YR07/45 黄 外: 10/YR08/45 黄	ナデ ナデ	ナデ	直刷墨4/6					
324 黑 I - 28	SD21	口透15.0 粘土・少・少	内: NS/灰 外: NS/灰 内: 10/YR07/45 黄 外: 10/YR08/45 黄	ナデ ナデ	ナデ	直刷墨小片					
325 灰 I - 28	SD21	口透15.0 粘土・少・少	内: 15/YR07/45 黄 外: 15/YR08/45 黄 内: 15/YR07/45 黄 外: 15/YR08/45 黄	回板ナデ	ナデ	直刷墨7/6					
326 白 I - 28	SD21	- 粘土・少・少	-	回板ナデ	ナデ	直刷墨小片					
327 平瓦 I - 28	SD21	透仔底刷4.9 長石・少・石英・少・少	内: 7.5/YR07/65 黄 外: 7.5/YR07/65 黄 内: 7.5/YR07/65 黄 外: 7.5/YR07/65 黄	(合面) 隅タキ目 (山面) 隅タキ目 (山面) 向日正直	-	-					

規格番号	基準	地区名	報告書番号	法量(m)	施工	色調	外観調整	内面調整	既存量	形象上の特徴	備考
328	土・小田	I - 28	SD0122	口掛6.5 底面6.4	長石・小・少 石英・小・少	内外:2.57/75/明赤褐 子	固板ナヘラ切り固板ナ 子切ナダ	固板ナヘラ・指揮され ナダ・ナダ	口掛高1.6		
329	土・土坏	I - 28	SD0122	-	長石・中・多 石英・小・少	内外:10/70/2/3に高い青 色	固板ナヘラ	固板ナヘラ	体部小片		
330	土・足釜	I - 28	SD0122	口掛16.0	長石・中・普 石英・中・普	内外:10/70/4/4に高い青 色	ナダ・指揮され ナダ・ハケメ	ナダ・ハケメ	口掛厚小片		
331	原灰	I - 28	SD0122	底面7.1	長石・中・少 石英・中・少 黒 色	内外:10/70/4/4に高い青 色	固板ナヘラ	固板ナヘラ	底部28		
332	瓦・瓦端	I - 28	SD0122	-	砂利ほどんど書きない	内外:SY/11灰 外:NE5灰	固板ナヘラ	固板ナヘラ	口掛厚小片		
333	原灰B	I - 28	SD0123	底面8.0	長石・小・普 石英・小・普	内外:7.5/7/7灰白 白黒	固板ナヘラ	固板ナヘラ	底部19	底:へラ	マツサしい
334	深底質・ 平瓦	I - 28	SD0123	現板底4.4	長石・中・少 石英・中・少	内外:7.5/7/7灰白 (凹面)構タキ目	(凹面)布目压痕	(凹面)布目压痕	-		
335	赤・普	I - 25	SR01上層	口掛16.9 色	長石・中・多 石英・中・多 色	内外:SY/11灰 外:SY/11灰	ハクリ	ハクリ	口掛部28		
336	赤・普	I - 25	SR01上層	-	長石・中・少 石英・中・多 普	内外:7.5/7/7灰白 白黒	ナダ・マツメツ	ナダ・マツメツ	断面はばせい		
337	赤・普	I - 27	SR01上層	口掛15.7	長石・中・多 石英・中・多	内外:2.5/7/7灰白 白黒	ナダ・ハクリ	ナダ・ハクリ	口掛部28	底:(P)へラ	
338	赤・普	I - 27	SR01上層	口掛12.8	長石・中・多 石英・中・多	内外:2.5/7/7灰白 白黒	ナダ・ハクリ	ナダ・ハクリ	口掛部28		
339	赤・普	I - 27	SR01上層	口掛25.4	長石・中・普 石英・中・普	内外:10/70/2/3に高い青 色	ハミガキ	ハミガキ	口掛部28		
340	赤・普	I - 27	SR01上層	-	長石・中・多 石英・中・多	内外:10/70/3/3に高い青 色	ハミガキ	ハミガキ	体部小片	周:へラ(2本/cm)	
341	赤・普	I - 26N	SR01上層	口掛16.4	長石・大・多 石英・大・多	内外:10/70/4/4に高い青 色	指揮され ナメツ	指揮され ナメツ	口掛部19	底:(3本/cm)	
342	赤・普	I - 25	SR01上層	口掛15.8 色	長石・中・多 石英・中・少 色	内外:10/70/2/3灰白 子	ハケメ・ヘラミガキ・マ 板ナ	ハケメ・ヘラミガキ・マ 板ナ	口掛部19	底:(3本/cm), 壁:指(3本/cm)	
343	赤・普	I - 27	SR01上層	-	長石・中・少 石英・中・少	内外:10/70/4/4灰白 子	指揮され ナメツ	指揮され ナメツ	周:へラ(1.5cm), 壁:指(1.5cm)		
344	赤・普	I - 27	SR01上層	-	長石・中・多 石英・中・多 黒 色	内外:10/70/4/4に高い青 色	ハミガキ・ハケメ・マ 板ナ	ハミガキ・ハケメ・マ 板ナ	周:指(1.5cm), 壁:指(1.5cm)		
345	赤・普	I - 27	SR01上層	-	長石・中・普 石英・中・普	内外:10/70/3/3灰白 子	ナダ・マツメツ	ナダ・マツメツ	断面35	底:指(1.5cm)	
346	赤・普	I - 26	SR01上層	-	長石・中・少 石英・中・少 黒 色	内外:10/70/3/3に高い青 色	マツメツ	マツメツ	口掛厚小片	口掛厚小片	
347	赤・普	I - 25	SR01上層	口掛40.0	長石・中・多 石英・中・普	内外:15/5/5明赤	ヨコナダ	ヨコナダ	口掛厚小片	口掛厚小片	

固有種子番号	学名	地区名	新分類種子番号	法度(cm)	土質	色調	外觀特徵	内面観察	英字名	形態上の特徴	備考
348 30 小葉 I - 2N SRF01上層	口徑20.0	長石・中・多、石英・中・多	内:2.57/2灰黃 外:2.57/3灰黃	ヨコナデ	ヨコナデ・板ナデ	口輪部/8	口輪部前 文へラ(2本/m)+α				
349 小葉 I - 2N SRF01上層	口徑23.3	長石・中・少、石英・中・多、角 色子・小・少	内:10YR4/3に少い青綠 外:2.57/3灰黃	マツリ・押附さえ	押附さえ・板ナデ	口輪部/8	口輪部前 文へラ(2本/m)+1.0cm				
350 小葉 I - 2S SRF01上層	-	長石・中・多、石英・中・多、無 色子・小・少	内:10YR7/3に少い青綠 外:10YR7/3に少い青綠	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ	口輪部/8	口輪部前 文へラ(2本/m)+α				
351 小葉 I - 2S SRF01上層	口徑14.3	長石・中・多、石英・中・多 色子・中・少	内:10YR2/3灰黃 外:10YR2/3灰黃	ナデ・ハラミガキ	ナデ	口輪部/8	口輪部前 文へラ(2本/m)+α				
352 32 小葉 I - 2N SRF01上層	口徑22.6	長石・中・多、石英・中・多	内:10YR3/3に少い青綠 外:10YR3/3灰黃	ナデ・ハケメ・ヘラミガ キ	ナデ・ハケメ	口輪部/8	口輪部前 文へラ(2本/m)+α				
353 小葉 I - 2S SRF01上層	口徑15.0	長石・中・多、石英・中・多、無 色子・中・少	内:10YR4/3に少い青綠 外:2.57/3灰黃	ナデ・ハケメ・板ナデ	ナデ・ハケメ	口輪部/8	口輪部前 文へラ(2本/m)+α				
354 32 小葉 I - 2N SRF01上層	口徑24.8	長石・中・多、石英・中・多 色子・中・少	内:10YR4/3に少い青綠 外:2.57/3灰黃	ナデ・ハラミガキ・ハケメ マツリ	ナデ・ハラミガキ	口輪部/8	口輪部前 文へラ(2本/m)+α				
355 9.葉 I - 27 SRF01上層	口徑5.9	長石・中・多、石英・中・多	内:10YR4/3に少い青綠 外:2.57/3灰黃	ヘラ・ミガキ	ヘラ・ミガキ	口輪部/8	口輪部前 文へラ(2本/m)+α				
356 小葉 I - 2S SRF01上層	-	長石・中・多、石英・中・多	内:2.57/3灰黃	ナデ	ナデ	口輪部/8	口輪部前 文へラ(2本/m)+α				
357 小葉 I - 2S SRF01上層	-	長石・中・多、石英・中・多	内:2.57/3灰黃	ナデ・マツリ	ナデ	口輪部/8	口輪部前 文へラ(2本/m)+α				
358 32 小葉 I - 2S SRF01上層	口徑19.8	長石・大・普、石英・大・普	内:2.57/4灰・リーフ緑 外:10YR4/3に少い青綠	ナデ	ナデ・ハケメ	口輪部/8	口輪部前 文へラ(2本/m)+α				
359 32 小葉 I - 2S SRF01上層	口徑18.6	長石・小・普、石英・小・普 色子・小・少	内:10YR4/3に少い青綠 外:10YR4/3灰黃	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ	口輪部/8	口輪部前 文へラ(2本/m)+α				
360 32 小葉 I - 2T SRF01上層	口徑16.0	長石・大・多、石英・大・多 の他、中・普	内:10YR4/3に少い青綠 外:10YR2/3灰黃	ヨコナデ・ハケメ・マツリ	ヨコナデ	口輪部/8	口輪部前 文へラ(2本/m)+1.0cm				
361 32 小葉 I - 2S SRF01上層	口徑16.4	長石・中・普、石英・中・普、そ の他、中・普	内:10YR4/3に少い青綠 外:10YR2/3灰黃	ナデ・マツリ	ナデ・マツリ	口輪部/8	口輪部前 文へラ(2本/m)+α				
362 32 小葉 I - 2S SRF01上層	口徑21.6	長石・中・普、石英・中・普 色子・小・少	内:10YR4/3に少い青綠 外:10YR2/3灰黃	ナデ・ハラミガキ・ハケメ マツリ	ナデ・ハラミガキ	口輪部/8	口輪部前 文へラ(2本/m)+4.0cm				
363 小葉 I - 2T SRF01上層	口徑25.6	長石・中・多、石英・中・多	内:10YR4/3に少い青綠 外:10YR4/3灰黃	ヨコナデ	ヨコナデ	口輪部/8	口輪部前 文へラ(2本/m)+α				
364 小葉 I - 2S SRF01上層	口徑27.7	長石・中・少、石英・中・少	内:10YR4/3に少い青綠 外:10YR4/3灰黃	ナデ・マツリ	ナデ・マツリ	口輪部/8	口輪部前 文へラ(2本/m)+α				
365 32 小葉 I - 2S SRF01上層	口徑24.2	長石・中・多、石英・小・普	内:10YR4/3に少い青綠 外:10YR4/3灰黃	ナデ・ハケメ・ハラミガキ	ナデ・ハケメ	口輪部/8	口輪部前 文へラ(2本/m)+α				

地名 相手 番号	地図 番号	地区名	船島漁港番号	法面(m)	施工	色調	外因調整	内因調整	残存量	形態上の特徴	備考
366 32 东・瀬	1 - 27	SR01上層	口番16.8	長石・中・多・石英・中・多	内: 2.5Y7/2赤黃 外: 7.5Y7/5赤褐	ナデ	マメツ	口: 滑面 文: 剥離	口: 滑面 文: 剥離	口: 滑面 文: 剥離	口: 滑面 文: 剥離
367 东・瀬	1 - 26	SR01上層	口番25.4	長石・小・少・石英・少	内外: 2.5Y7/3赤黃	ナデ	指揮さえ	口: 滑面 文: 剥離	口: 滑面 文: 剥離	口: 滑面 文: 剥離	口: 滑面 文: 剥離
368 32 东・瀬	1 - 27	SR01上層	口番24.0	長石・中・少・石英・中・少	内: 10YR2/3に少い黄 外: 10YR3/3に少い黄	ヨコナデ・マメツ	ヨコナデ・マメツ	口: 滑面 文: 剥離	口: 滑面 文: 剥離	口: 滑面 文: 剥離	口: 滑面 文: 剥離
369 东・瀬	1 - 2N	SR01上層	口番18.0	長石・中・多・石英・中・多	内外: 10YR3/5に少い黄 外: 10YR3/5に少い黄	ナデ・ハケメ	ナデ・板ナデ・板剥離さえ	口: 滑面 文: 剥離	口: 滑面 文: 剥離	口: 滑面 文: 剥離	口: 滑面 文: 剥離
370 33 东・瀬	1 - 25	SR01上層	口番16.2	長石・中・少・石英・中・少	内: 10YR4/3赤褐 外: 5YR4/3赤褐	ナデ	ナデ・ハミガキ	口: 滑面 文: 剥離	口: 滑面 文: 剥離	口: 滑面 文: 剥離	口: 滑面 文: 剥離
371 东・瀬	1 - 27	SR01上層	口番17.6	長石・大・多・石英・大・多	内: 10YR4/4に少い黄 外: 10YR4/5灰青	ハクリ	板ナデ・ハクリ	口: 滑面 文: 剥離	口: 滑面 文: 剥離	口: 滑面 文: 剥離	口: 滑面 文: 剥離
372 32 东・瀬	1 - 27	SR01上層	口番15.0	長石・大・多・石英・大・多	内: 10YR4/5灰青 外: 10YR5/5灰青	ナデ・マメツ	ナデ・マメツ	口: 滑面 文: 剥離	口: 滑面 文: 剥離	口: 滑面 文: 剥離	口: 滑面 文: 剥離
373 33 东・瀬	1 - 2N	SR01上層	口番27.7	長石・小・少・石英・小・少	内: 10YR2/2赤 外: 10YR3/2赤	ナデ	指揮さえ	口: 滑面 文: 剥離	口: 滑面 文: 剥離	口: 滑面 文: 剥離	口: 滑面 文: 剥離
374 32 东・瀬	1 - 26	SR01上層	口番20.4	長石・中・多・石英・中・多	内: 10YR2/3に少い黄 外: 10YR3/3に少い黄	ヨコナデ	指揮さえ	口: 滑面 文: 剥離	口: 滑面 文: 剥離	口: 滑面 文: 剥離	口: 滑面 文: 剥離
375 33 东・瀬	1 - 25	SR01上層	口番26.6	長石・中・多・石英・中・多	内: 2.5Y7/2赤黃 外: N3暗灰	指揮さえ・ナデ	指揮さえ・ハミガキ	口: 滑面 文: 剥離	口: 滑面 文: 剥離	口: 滑面 文: 剥離	口: 滑面 文: 剥離
376 东・瀬	1 - 25	SR01上層	底番9.4	長石・大・多・石英・大・多	内: 2.5Y7/2赤黃 外: 2.5Y7/3赤黃	ハナメ・マメツ・圓板・ハ ナ切り	ナデ・指揮さえ	底部完存	底部完存	底部完存	底部完存
377 东・瀬	1 - 25	SR01上層	底番9.2	長石・中・少・石英・大・多・赤	内: 10YR3/3に少い黄 外: 7.5YR2/4に少い黄	マメツ	板ナデ・指揮	底部完存	底部完存	底部完存	底部完存
378 东・瀬	1 - 25	SR01上層	底番9.1	長石・中・多・石英・中・中	内: 10YR3/3に少い黄 外: 10YR3/3に少い黄	ナデ	指揮さえ	底部完存	底部完存	底部完存	底部完存
379 东・瀬	1 - 25	SR01上層	底番9.6	長石・中・多・石英・中・中	内: 10YR3/3に少い黄 外: 10YR3/3に少い黄	板ナデ・ハケメ	指揮さえ	底部完存	底部完存	底部完存	底部完存
380 东・瀬	1 - 25	SR01上層	底番5.9	長石・中・多・石英・中・多	内: 10YR3/6暗灰 外: 10YR3/6暗灰	ハラミガト・ナデ	指揮さえ・板ナデ	底部完存	底部完存	底部完存	底部完存
381 东・瀬	1 - 25	SR01上層	底番7.0	長石・中・多・石英・中・多	内: 2.5Y7/6赤	ナデ・指揮	指揮さえ	底部は剥離	底部は剥離	底部は剥離	底部は剥離
382 东・瀬	1 - 25	SR01上層	底番7.6	長石・中・多・石英・中・少	内: 2.5Y7/3赤 外: 2.5Y7/3赤	ナデ・ハケメ	指揮さえ	底部完存	底部完存	底部完存	底部完存
383 东・瀬	1 - 27	SR01上層	底番5.6	長石・中・多・石英・中・多	内: 2.5Y7/3赤 外: 3YR6/6暗	マメツ・指揮	マメツ・指揮	底部完存	底部完存	底部完存	底部完存
384 东・瀬	1 - 2N	SR01上層	口番21.4	長石・中・多	内: 2.5Y7/3赤黃 外: 2.5Y7/3赤黃	指揮さえ・板ナデ	指揮さえ・板ナデ	口: 滑面 文: 剥離	口: 滑面 文: 剥離	口: 滑面 文: 剥離	口: 滑面 文: 剥離

国 籍文 書登 録番 号	登 場機 種	地区名	報告連絡番号	法量(cm)	地 土	色 調	外 面特 徴	内 面特 徴	残存量	形態上の特徴	備考
385	赤・鉄	I - 26N	SHR01上層	口径20.0	長石・中・岩・石英・中・砂	内外:10YR7/3にぶい黄緑 メタマツ	根子・根附さえ・ハケ ナデ・マツ	口縁部小片			
386	赤・鉄・鉄	I - 26	SHR01上層	口径18.0	長石・大・多・石英・中・多	内外:10YR4/2黒褐色 外:10YR4/1黒褐色	ナデ・マツ・根附さえ	根子・マツ	口縁部3.8	口縁部下:穿孔焼	
387	赤・鐵・土器	I - 25	SHR01上層	口径15.5	長石・中・多・石英・中・多	内外:2.5YR8灰白 外:1.5YR7/1灰白	根附さえ・ナデ	指揮さえ			
388	赤・鐵	I - 25	SHR01上層	天井部6.6	長石・中・多・石英・中・多	ナデ・マツ・根附さえ	マツ	天井部			
389	土・灰E	I - 27	SHR01上層	口径10.9	長石・小・少・石英・中・少・熱	天井部4.7	根附さえ・凹凸あり	凹凸ナデ	底面5.8		
390	土・灰E	I - 27	SHR01上層	口径12.4	長石・小・少・石英・中・少・熱	天井部3.0	天井部4.7	凹凸ナデ・凹凸あり	底面3.8		
391	赤・鐵	I - 25	SHR01下層	口径16.0	長石・大・多・石英・中・多	内外:10YR8/3黒褐色 外:2.5YR7/3黒褐色	ナデ・ヨコナデ・ハケメ・ ナデ・ハクリ	口縁部下:穿孔焼	底面7.8		
392	赤・鐵	I - 25	SHR01下層	口径14.2	長石・中・岩・石英・中・岩・熱	天井部1.3	天井部4.7	ナデ・ヨコナデ・ハラミガキ	口縁部1.9		
393	赤・鐵	I - 25	SHR01下層	口径14.0	長石・中・岩・石英・中・岩	内外:10YR7/3にぶい黄緑 外:10YR8/3にぶい黄緑	根附さえ・ナデ	根子・ナデ・根附さえ	口縁部1.8		
394	赤・鐵	I - 25	SHR01下層	口径15.8	長石・中・少・石英・中・少	内外:2.5YR7/3黒褐色	ナデ・ハケメ	指揮さえ	口縁部1.8		
395	赤・鐵	I - 25	SHR01下層	口径35.2	長石・中・多・石英・中・多	内外:10YR8/3灰白	ナデ・マツ	ナデ・マツ	口縁部小片		
400	赤・鐵	I - 25	SHR01下層	口径15.0	長石・中・少・石英・中・岩	内外:10YR8/3にぶい黄緑 外:10YR7/3にぶい黄緑	板ナデ・ハラミガキ	口縁部1.8			
401	赤・鐵	I - 25	SHR01下層	口径17.2	長石・中・少・石英・中・少	内外:2.5YR7/3黒褐色	ヨコナデ・マツ	マツ	口縁部2.8	口縁部:ヘラ	
402	赤・鐵	I - 25	SHR01下層	口径20.3	長石・中・岩・石英・中・岩・熱	天井部2.3	ナデ・根附さえ・ハラミガキ	口縁部小片			
403	赤・鐵	I - 25	SHR01下層	口径17.4	長石・中・岩・石英・中・岩・熱	天井部2.0	ナデ・根附さえ	指揮さえ	口縁部1.8		
404	赤・鐵	I - 25	SHR01下層	口径17.2	長石・中・多・石英・中・多	内外:2.5YR5/3にぶい黄緑 外:2.5YR5/2黒褐色	マツ・ハラミガキ	ヘラミガキ	口縁部4.8	口縁部:ヘラ	
405	赤・鐵	I - 25	SHR01下層	口径19.8	長石・中・岩・石英・中・岩・熱	天井部2.3	ナデ・ハケメ	ナデ	口縁部7.8		
406	赤・鐵	I - 25	SHR01下層	口径19.8	長石・大・多・石英・中・多	内外:10YR8/3にぶい黄緑 外:10YR7/3にぶい黄緑	ナデ・ハケメ	指揮さえ・ヨコナデ	口縁部7.8		
407	赤・鐵	I - 25	SHR01下層	口径23.8	長石・中・少・石英・中・岩・熱	天井部2.3	ナデ・ヨコナデ	マツ・ハラミガキ	口縁部1.8	口縁部:斜面	
408	赤・鐵	I - 25	SHR01下層	口径15.8	長石・中・岩・石英・中・岩・熱	天井部2.3	根附さえ・根附子・ハク	指揮さえ	口縁部1.8	頭:ヘラ	
409	赤・鐵	I - 25	SHR01下層	-	長石・中・多・石英・中・多	内外:2.5YR7/3黒褐色	根附さえ・根子	根附さえ・根子	断面2.8	頭:ヘラ2.8	

固有 学名	学名	群種	地区名	絶滅危機等級	法量(m)	植土	色調	外因影響	内因影響	保存層	形態上の特徴	備考
410 34 未定	1 - 25	SRI01下層	口壁16.2	長石+小葉石+基岩	石英+中・暗・青	内外:2.5/6/25露 内外:5YR6/2にふるい地質	指揮さえ後ヘラミガキ	指揮さえ後ヘラミガキ	頭底2/3	頭:ヘラ(10cm) + a		
411 34 未定	1 - 25	SRI01下層	口壁27.3	長石+小葉石+基岩	石英+中・多・青	内外:2.5/6/25露 内外:5YR6/2にふるい地質	指揮さえ後ヘラミガキ	指揮さえ後ヘラミガキ	頭底1/6	頭:ヘラ(10cm) + a		
412 未定	1 - 25	SRI01下層	-	長石+中・多・石英+中・少	長石+中・多・石英+大・多・青	内外:2.5/7/25露 内外:2.5/6/3にふるい地質	ヘラミガキ	ヘラミガキ	骨部2/8	頭:ヘラ(10cm) + a		
413 未定	1 - 25	SRI01下層	-	長石+大・多・石英+大・多	長石+大・多・石英+大・多	内外:2.5/7/25露 内外:10YR4/1にふるい地質	指揮さえ、マツツ	指揮さえ、マツツ	体部1/8	頭:ヘラ(2本/m)		
414 未定	1 - 25	SRI01下層	-	長石+中・暗・石英+中・少	長石+中・暗・石英+中・少	内外:2.5/7/25露 内外:5YR6/2露	ハケメ	ハケメ	頭部2/8	頭:ヘラ(4本/m)		
415 未定	1 - 25	SRI01下層	-	長石+大・暗・石英+大・暗	長石+中・暗・石英+中・暗	内外:10YR6/3にふるい地質	ナデハケメ	ナデハケメ	頭部2/8	頭:ヘラ(3本/m) + a		
416 未定	1 - 25	SRI01下層	口壁11.7	長石+中・暗・石英+中・暗	長石+中・暗・石英+中・暗	内外:10YR6/3にふるい地質	ナデハケメ	ナデハケメ	頭部1/6	文:ヘラ(10cm) + a		
417 34 未定	1 - 25	SRI01下層	-	長石+中・暗・石英+大・暗	長石+中・暗・石英+大・暗	内外:2.5/7/25露 内外:2.5/6/3にふるい地質	ハケメ	ハケメ	頭部2/8	頭:ヘラ(10cm) + a		
418 未定	1 - 25	SRI01下層	-	長石+中・暗・石英+中・暗	長石+中・暗・石英+中・暗	内外:2.5/7/25露 内外:2.5/6/3にふるい地質	指揮さえ後端ナデ	指揮さえ後端ナデ	頭底2/3	頭:ヘラ(10cm) + a		
419 35 未定	1 - 25	SRI01下層	口壁26.0	長石+中・暗・石英+中・少	長石+中・暗・石英+中・少	内外:2.5/7/25露 内外:2.5/6/3にふるい地質	ハケメ	ハケメ	口端部2/8	頭:ヘラ(10cm) + a		
420 未定	1 - 25	SRI01下層	-	長石+中・少・石英+中・少	長石+中・少・石英+中・少	内外:2.5/7/25露 内外:2.5/7/3にふるい地質	マツツヘラミガキ	マツツヘラミガキ	体部小片	頭:ナデ+ハ・凌波22		
421 未定	1 - 25	SRI01下層	-	長石+中・暗・石英+中・暗	長石+中・暗・石英+中・暗	内外:10YR6/3にふるい地質	板ナデ	板ナデ	体部1/8	頭:頭(5本/m) + a		
422 35 未定	1 - 25	SRI01下層	口壁8.4	長石+大・暗・石英+中・暗	長石+大・暗・石英+中・暗	内外:10YR6/3にふるい地質	ナデ	ナデ	口端部2/8	頭:頭(5本/m) + a		
423 35 未定	1 - 25	SRI01下層	-	長石+中・多・石英+中・多	長石+中・少・石英+中・少	内外:10YR6/3にふるい地質 内外:5YR6/6露	指揮さえ、ヘラミガキ	指揮さえ、ヘラミガキ	頭底2/3	頭:頭(5本/m)		
424 未定	1 - 25	SRI01下層	-	長石+中・少・石英+中・少	長石+中・少・石英+中・少	内外:10YR6/3にふるい地質	ナデハケメ	ナデハケメ	体部小片	頭:頭(5本/m) + a		
425 未定	1 - 25	SRI01下層	-	長石+中・暗・石英+中・暗	長石+中・多・石英+中・多	内外:10YR6/3にふるい地質	マツツナデ	マツツナデ	体部1/8	頭:頭(5本/m) + a		
426 未定	1 - 25	SRI01下層	-	長石+小・少・石英+小・少	長石+小・少・石英+小・少	内外:10YR6/3にふるい地質	ナデ	ナデ	頭底2/3	頭:頭(5本/m)		
427 未定	1 - 25	SRI01下層	-	長石+中・少・石英+中・少	長石+中・少・石英+中・少	内外:2.5/7/25露	ナデ	ナデ	頭底2/3	頭:頭(5本/m)		
428 未定	1 - 25	SRI01下層	-	長石+中・多・石英+中・多	長石+中・多・石英+中・多	内外:2.5/7/25露 内外:10YR4/2にふるい地質	マツツ	マツツ	頭底2/3	頭:頭(5本/m)		
429 未定	1 - 25	SRI01下層	-	長石+小・少・石英+小・少	長石+小・少・石英+小・少	内外:10YR6/3にふるい地質	板ナデ後ヘラミガキ	板ナデ後ヘラミガキ	頭部1/8	頭:頭(5本/m) + a		
430 35 未定	1 - 25	SRI01下層	-	長石+中・少・石英+中・少	長石+中・少・石英+中・少	内外:10YR6/3にふるい地質	ナデマツツ	ナデマツツ	頭部1/8	頭:頭(5本/m) + a		

国 名 編 番 号	地名	報告者番号	法量(m)	胎土	色調	外觀特徴	内部特徴	保存状	参考
431 烏・堀	1 - 25	SPR01下層	-	長石・中・多・石英・中・多	内:10YR3/3に少い黄褐色 外:10YR2/2灰褐色	ハケメ・ヘラミガキ 押さえ後板ナデ	板ナデ・ヘラミガキ・指 壓板ナデ	断:點凸(目) 削:ヘラミガキ(目)、 厚さ(cm)、内面ハカリ書き	
432 烏・堀	1 - 25	SPR01下層	-	長石・大・多 他の砂・大・多	内:7.5YR4/6明黄色 外:7.5YR4/6少い緑色	ナデ・ヘラミガキ 押さえ後板ナデ	マツツ 板ナデ	断:ヘラミガキ(目) 削:ヘラミガキ(目)、 厚さ(cm)	
433 烏・堀	1 - 25	SPR01下層	口径21.0	長石・中・多・石英・中・多 の砂・小・多	内:2.5YR7/2淡青 外:2.5YR7/2淡青	押さえ後板ナデ	マツツ ナデ	口音:斜目 口音:斜目	
434 烏・堀	1 - 25	SPR01下層	-	長石・小・少 色粒子・小・少	内:10YR2/2灰白 外:10YR2/2灰白	ナデ	口音:斜目 口音:斜目	口音:斜目 口音:斜目	
435 烏・堀	1 - 25	SPR01下層	-	長石・中・多 の砂・中・多	内:2.5YR6/2灰 外:2.5YR6/2灰	ハラミガキ 押さえ後板ナデ	マツツ ナデ	断:點凸(目) 削:點凸(目)	
436 烏・堀	1 - 25	SPR01下層	-	長石・中・多・石英・中・多 の砂・大・多	内:2.5YR7/3淡青 外:2.5YR7/3淡青	ハラミガキ・ヨコナデ 押さえ後板ナデ	マツツ ナデ	断:點凸(目) 削:點凸(目)	
437 烏・堀	1 - 25	SPR01下層	-	長石・中・多・石英・中・多 の砂・大・多	内:2.5YR8/2淡青 外:2.5YR8/2淡青	マツツ ナデ	マツツ ナデ	断:點凸(目) + 円 削:點凸(目) + 円	
438 烏・堀	1 - 25	SPR01下層	-	長石・小・多・石英・小・多	内:2.5YR6/6灰 外:2.5YR6/6灰	板ナデ・ハケメ ナデ	口音:斜目 口音:斜目	断:点凸(目) + 円 削:点凸(目) + 円	
439 烏・堀	1 - 25	SPR01下層	-	長石・大・多・石英・大・多 の砂・大・多	内:2.5YR5/3淡青 外:2.5YR5/3淡青	ハラミガキ・ハケメ ハラミガキ・ハケメ	マツツ ナデ	断:點凸(目) + 円 削:點凸(目) + 円	
440 烏・堀	1 - 25	SPR01下層	-	長石・小・多・石英・大・多 の砂・大・多	内:10YR3/3に少い黄褐色 外:10YR2/2灰褐色	ハラミガキ・マツツ ナデ後押さえ・マツツ ナデ	マツツ ナデ	断:點凸(目) + 円 削:點凸(目) + 円	
441 烏・堀	1 - 25	SPR01下層	-	長石・大・多・石英・大・多	内:2.5YR7/2淡青 外:2.5YR7/2淡青	ハケメ ナデ	マツツ ナデ	断:ヘラミガキ(目) 削:ヘラミガキ(目)	
442 烏・堀	1 - 25	SPR01下層	-	長石・中・多・石英・中・多 の砂・大・多	内:10YR4/4に少い黄褐色 外:10YR2/2灰褐色	板ナデ・ヘラミガキ 押さえ後板ナデ	マツツ ナデ	断:點凸(目) + 円 削:點凸(目) + 円	
443 烏・堀	1 - 25	SPR01下層	-	長石・中・多・石英・中・多 の砂・大・多	内:10YR3/3に少い黄褐色 外:10YR2/2灰褐色	ハラミガキ 押さえ後板ナデ	マツツ ナデ	断:ヘラミガキ(目) 削:ヘラミガキ(目)	
444 烏・堀	1 - 25	SPR01下層	-	長石・中・多・石英・中・多 の砂・大・多	内:2.5YR6/2灰 外:2.5YR6/2灰	ナデ・指押さえ・マツツ ナデ	口音:斜目 口音:斜目	断:點凸(目) + 円 削:點凸(目) + 円	
445 烏・堀	1 - 25	SPR01下層	口径8.0	長石・中・多・石英・中・多 の砂・大・多	内:10YR5/1灰 外:10YR5/1灰	ナデ・指押さえ・マツツ ナデ	マツツ ナデ	断:點凸(目) + 円 削:點凸(目) + 円	
446 烏・堀	1 - 25	SPR01下層	口径20.8	長石・中・多・石英・中・多 の砂・大・多	内:10YR5/3に少い黄褐色 外:10YR5/3少い黄褐色	ナデ・指押さえ・ヘラミ ガキ・マツツ ナデ・指押さえ・ヘラミ ガキ・マツツ	口音:斜目 口音:斜目	断:點凸(目) + 円 削:點凸(目) + 円	
447 烏・堀	1 - 25	SPR01下層	口径19.8	長石・中・少・石英・中・少 の砂・大・少	内:10YR4/4に少い黄褐色 外:10YR4/4少い黄褐色	ナデ・指押さえ・ヘラミ ガキ・マツツ ナデ・指押さえ・指押 さえ・ヘラミ・ガキ	口音:斜目 口音:斜目	断:點凸(目) + 円 削:點凸(目) + 円	
448 烏・堀	1 - 25	SPR01下層	口径16.0	長石・中・多・石英・中・多 の砂・大・多	内:2.5YR7/2灰 外:2.5YR7/2灰	ナデ・指押さえ後板ナデ ナデ・指押さえ後板ナデ	口音:斜目 口音:斜目	断:點凸(目) + 円 削:點凸(目) + 円	

国文書 番号	新規 番号	地区名	新規測量番号	法量(cm)	地盤	色調	外観特徴	内面特徴	残存量	形態上の特徴	備考
449	外・源 I - 25	SPH01下層	口径41.2	長石・中・暗・石英・中・帶	内外:2.57/3.85cm 内:7.57/9.66cm	指揮さえへラミガキ 板ナデ後へラミガキ	口縁部小片 口縁部へラミ 口縁部小片 文へラミ(3本/cm)				
450	外・源 I - 25	SPH01下層	口径21.5	長石・中・少・石英・中・帶 色板子・小・少	内:10FR11黒褐色 外:10FR14黒褐色	指揮さえ・板ナデ ナデ・指揮さえ・板ナデ	口縁部小片 口縁部へラミ(3本/cm)				
451	外・源 I - 25	SPH01下層	-	長石・中・少・石英・中・帶	内:10FR11黒褐色 外:10FR14黒褐色	ナデ・板ナデ ナデ・指揮さえ・ハケメ マツツ	体幅8cm ヨコナナデ・板ナデ ヨミガキ・板ナデ	体幅8cm ロ織部9.0cm ロ織部13.0cm			
452	外・源 I - 25	SPH01下層	口径22.7	長石・中・暗・石英・中・帶	内外:7.57/9.66cm	指揮さえ後へ ロ織部9.0cm	口縁部小片 文へラミ(3本/cm)				
453	外・源 I - 25	SPH01下層	-	長石・大・多・石英・大・多	内外:5YR6/6暗	マツツ	口縁部小片 文へラミ(3本/cm)+α				
454	外・源 I - 25	SPH01下層	-	長石・中・少・石英・中・少	内:10FR11黒褐色 外:2.57/4.19cm	指揮さえ後へラミガキ 板ナデ・指揮さえ	口縁部小片 口縁部・指揮 文へラミ(3本/cm)				
455	外・源 I - 25	SPH01下層	-	長石・小・少・石英・少・少	内外:2.57/6.4cm	指揮さえ・板ナデ ナデ・板ナデ	口縁部小片 口縁部・指揮 文へラミ(3本/cm)				
456	外・源 I - 25	SPH01下層	口径23.2	長石・中・多・石英・中・多	内:10FR3/3に少・黒褐色 外:3YR5/2の黒褐色	指揮さえ・板ナデ・指揮さえ	口縁部8cm ヨコナナデ・板ナデ	口縁部8cm ヨコナナデ・板ナデ			
457	外・源 I - 25	SPH01下層	口径21.4	長石・中・多・石英・中・少	内外:2.57/4.0cm	指揮さえ・板ナデ	口縁部8cm ヨコナナデ・板ナデ	口縁部8cm ヨコナナデ・板ナデ			
458	外・源 I - 25	SPH01下層	口径11.0	長石・中・暗・石英・中・暗・带 色板子・小・少・その他の中・暗	内:10FR3/3に少・黒褐色 外:10FR3/3に少・黒褐色	指揮さえ・ハケメ	口縁部8cm ヨコナナデ・板ナデ	口縁部8cm ヨコナナデ・板ナデ			
459	外・源 I - 25	SPH01下層	口径20.6	長石・中・暗・石英・中・暗	内外:2.57/6.3cmに少・黒 外:10FR3/3黒褐色	指揮さえ・ハケメ テメハジ	口縁部8cm ヨコナナデ・板ナデ	口縁部8cm ヨコナナデ・板ナデ			
460	外・源 I - 25	SPH01下層	口径24.6	長石・中・暗・石英・中・暗	内:10FR3/3に少・黒褐色 外:10FR2/2灰褐色	指揮さえ・ハケメ	口縁部8cm ヨコナナデ・板ナデ	口縁部8cm ヨコナナデ・板ナデ			
461	外・源 I - 25	SPH01下層	口径20.8	長石・中・暗・石英・中・暗・带 母・小・少	内:10FR3/3に少・黒褐色 外:10FR2/2灰褐色	指揮さえ・ハケメ ナデ・指揮 ヨミガキ・板ナデ	口縁部8cm ヨコナナデ・板ナデ後 ヨコナナデ・板ナデ	口縁部8cm ヨコナナデ・板ナデ			
462	外・源 I - 25	SPH01下層	口径28.2	長石・中・多・石英・中・多・带 色板子・少・少	内外:10FR3/3に少・黒褐色 外:10FR2/2灰褐色	指揮さえ・マツツ	ハクリ	口縁部8cm ヨコナナデ・板ナデ			
463	外・源 I - 25	SPH01下層	口径21.0	長石・大・多・石英・大・多	内外:2.57/6.3cm	指揮さえ・マツツ	マツツ	口縁部8cm ヨコナナデ・板ナデ	口縁部8cm ヨコナナデ・板ナデ		
464	外・源 I - 25	SPH01下層	-	長石・中・暗・石英・中・暗・带 色板子・小・少	内外:2.57/8.0cm	ヨミガキ・板ナデ	ヨミガキ・板ナデ ヨコナナデ・板ナデ ヨコナナデ・板ナデ	口縁部小片 文・先封袋	口縁部小片 文・先封袋		

国 名 文 字 番 号	地 理 位 置	地区名	緯度経度	法 量(m)	附 土	色 調	外 面 特 徴	内 面 特 徴	保 存 状 態	形 態 上 の 特 徴	備 考
465	赤、黒 1 - 25	SR01下層	口底20.2	長石・中・基・石英・中・普	内外: 10YR 3/3に 外: 2.5Y6/2に ない黄 基石・大・多・石英・大・多	ナデ・指揮され マツ・揮舞され	口擦痕小片	口: 加工形 文: 6(本)1.1cm)+判 口: 追字形			
466	赤、黒 1 - 25	SR01下層	口底27.2	長石・中・基・石英・中・普	内外: 10YR 3/3に 外: 2.5Y6/2に ない黄 基石・中・少・石英・中・普・非 色斑子・小・普	ナデ	口擦痕小片	口: 追字形			
467	赤、黒 1 - 25	SR01下層	口底18.2	長石・中・基・石英・中・普・非 色斑子・小・普	内外: 10YR 3/3に 外: 10YR 2/2灰黄 基石・中・少	ナデ	口擦痕小片	口: 追字形			
468	赤、黒 1 - 25	SR01下層	口底24.7	長石・中・少・石英・中・普	内外: 10YR 3/3に 外: 2.5Y7/2灰 基石・中・少	ヨコナデ・ハケメ・マツ ツ	口擦痕小片	口: 追字形			
469	赤、黒 1 - 25	SR01下層	口底20.6	長石・大・多・石英・大・多	内外: 10YR 3/3に 外: 10YR 3/3に ない黄 基石・中・少・石英・大・多	マツ	ヘラミガキ・マツ ナデ・指揮され 色斑子ナデ	口擦痕小片	口: 追字形		
470	赤、黒 1 - 25	SR01下層	口底21.4	長石・小・基・石英・小・普	内外: 10YR 3/3に 外: 10YR 2/2灰黄 基石・小・基・石英・小・普	ナデ・指揮され 色斑子ナデ	口擦痕小片	口: 追字形			
471	赤、黒 1 - 25	SR01下層	口底24.8	長石・小・基・石英・小・普	内外: 10YR 3/3に 外: 10YR 2/2灰 基石・小・基・石英・小・普	ヨコナデ・板ナデ	口擦痕小片	口: 追字形			
472	赤、黒 1 - 25	SR01下層	口底21.0	長石・中・少・石英・中・少	内外: 10YR 3/3に 外: 2.5Y7/4に ない黄 基石・中・少・石英・中・少	ナデ・指揮され 板ナデ・ヘミガ キ	口擦痕小片	口: 追字形			
473	赤、黒 1 - 25	SR01下層	口底22.0	長石・中・基・石英・中・普	内外: 10YR 3/3に 外: 10YR 2/2灰 基石・中・基・石英・中・普	マツ	口擦痕小片	口: 追字形			
474	赤、黒 1 - 25	SR01下層	口底19.4	長石・中・基・石英・中・普	内外: 10YR 3/3に 外: 2.5Y7/2灰 基石・中・少	ナデ・指揮され 板ナデ・ヘミガ キ	口擦痕小片	口: 追字形			
475	赤、黒 1 - 25	SR01下層	口底16.5	長石・中・基・石英・中・普	内外: 10YR 3/3に 外: 2.5Y7/4リグダム 基石・中・基・石英・中・普	ナデ・指揮され 板ナデ・ヘミガ キ	口擦痕小片	口: 追字形			
476	赤、黒 1 - 25	SR01下層	-	長石・中・基・石英・中・普	内外: 10YR 3/3に 外: 2.5Y7/4に ない黄 色斑子・小・少	ナデ・指揮され 板ナデ・ヘミガ キ	口擦痕小片	口: 追字形			
477	赤、黒 1 - 25	SR01下層	-	長石・中・基・石英・中・普	内外: 10YR 3/3に 外: 2.5Y7/2灰 色斑子・小・少	ナデ・指揮され 板ナデ	口擦痕小片	口: 追字形			
478	赤、黒 1 - 25	SR01下層	-	長石・大・基・石英・大・普	内外: 10YR 3/3に 外: 10YR 3/3に ない黄 基石・大・基・石英・大・普	ナデ・指揮され 板ナデ・ヘミガ キ	口擦痕小片	口: 追字形			
479	赤、黒 1 - 25	SR01下層	-	長石・中・基・石英・中・普	内外: 10YR 3/3に 外: 2.5Y7/2灰 色斑子・小・少	ナデ・指揮され 板ナデ・ヘミガ キ	口擦痕小片	口: 追字形			
480	赤、黒 1 - 25	SR01下層	-	長石・小・基・石英・小・普	内外: 10YR 3/3に 外: 10YR 4/4に ない黄 基石・小・基・石英・小・普	ナデ・指揮され 板ナデ・ヘミガ キ	口擦痕小片	口: 追字形			
481	赤、黒 1 - 25	SR01下層	-	長石・大・多・石英・大・多	内外: 10YR 3/3に 外: 10YR 3/3に ない黄 基石・大・多・石英・大・多	ナデ・指揮され 板ナデ・ヘミガ キ	口擦痕小片	口: 追字形			
482	赤、黒 1 - 25	SR01下層	-	長石・大・多・石英・大・多	内外: 10YR 3/3に 外: 10YR 3/3に ない黄 色斑子・小・少	マツ	口擦痕小片	口: 追字形			
483	赤、黒 1 - 25	SR01下層	口底18.6	長石・中・基・石英・中・普	内外: 10YR 4/4に ない黄 色斑子・小・少	ナデ・指揮され 板ナデ・ヘミガ キ	口擦痕小片	口: ベラ2(3本)cm 文: ベラ2(3本)cm			
484	赤、黒 1 - 25	SR01下層	口底18.5	長石・大・基・石英・大・普	内外: 10YR 3/3に 外: 10YR 3/3に ない黄 の他大・普	ナデ・ヘミガ キ	口擦痕小片	口: ベラ2(3本)cm 文: ベラ2(3本)cm			

固有文書番号	地名	解説	注釈(m)	地質	色調	外観特徴	内面特徴	残存量	形態上の特徴	備考
485	赤堀 I - 25	SPR01下層	口径23.4 色斑子・中・紫・石英・中・基岩・中・普 外: 10YR7/3に、少い黄鐵 内: 10YR7/3に、少い黄鐵	長石・中・紫・石英・大・多・少 長石・大・多・石英・大・多・少 長石・小・少	ナデ ヨコナデ・ナデ	指揮さえ・板ナデ	口・逆子形 文・ヘラ8(2本/cm)	口・逆子形 文・ヘラ8(2本/cm)	口・逆子形 文・ヘラ8(2本/cm)	
486	赤堀 I - 25	SPR01下層	-	長石・中・紫・石英・大・多・少 長石・中・多・石英・中・多	ナデ ヨコナデ・ナデ	指揮さえ・板ナデ	口・逆子形 文・ヘラ8(2本/cm)	口・逆子形 文・ヘラ8(2本/cm)	口・逆子形 文・ヘラ8(2本/cm)	
487	赤堀 I - 25	SPR01下層	-	長石・中・多・石英・中・多	ナデ ヨコナデ・ナデ	指揮さえ・板ナデ	口・逆子形 文・ヘラ7(2本/cm) + e	口・逆子形 文・ヘラ7(2本/cm)	口・逆子形 文・ヘラ7(2本/cm)	
488	赤堀 I - 25	SPR01下層	口径12.4 長石・中・紫・石英・中・普	内: 2.5Y5/2偏紅 外: 10YR7/3に、少い黄鐵 内: 10YR7/3に、少い黄鐵	ナデ・ハラミガキ ナデ・ハラミガキ	体部1/8	口・逆子形 文・ヘラ8(2本/cm)	口・逆子形 文・ヘラ8(2本/cm)	口・逆子形 文・ヘラ8(2本/cm)	
489	赤堀 I - 25	SPR01下層	口径23.6 長石・中・少・石英・中・少・少	内: 10YR5/4偏灰 外: 10YR4/2偏灰	ヨコナデ・板ナデ	指揮さえ・板ナデ	口・逆子形 文・ヘラ10(4本/cm)	口・逆子形 文・ヘラ10(4本/cm)	口・逆子形 文・ヘラ10(4本/cm)	
490	赤堀 I - 25	SPR01下層	口径18.0 長石・中・少・石英・中・少・少	内: 2.5Y5/3偏褐 外: 10YR3/2偏褐	マメツ	指揮さえ・ハラミガキ ナデ・ハラミガキ・マメツ	口・逆子形 文・ヘラ6(3本/cm) + 山形	口・逆子形 文・ヘラ6(3本/cm) + 山形	口・逆子形 文・ヘラ6(3本/cm) + 山形	
491	赤堀 I - 25	SPR01下層	-	長石・中・少・石英・中・少・少	内: 10YR5/4に、少い黄鐵 外: 10YR5/4偏灰	ナデ・ハラミガキ・指揮さえ	口・逆子形 文・ヘラ8(2本/cm)	口・逆子形 文・ヘラ8(2本/cm)	口・逆子形 文・ヘラ8(2本/cm)	
492	赤堀 I - 25	SPR01下層	口径18.4 長石・中・少・石英・中・少・少	内: 2.5Y7/6偏灰 外: 10YR4/2偏灰	ナデ	指揮さえ	口・逆子形 文・ヘラ12(2本/cm) + e	口・逆子形 文・ヘラ12(2本/cm) + e	口・逆子形 文・ヘラ12(2本/cm) + e	
493	赤堀 I - 25	SPR01下層	口径21.2 長石・中・少・石英・中・少・少	内: 10YR5/4に、少い黄鐵 外: 10YR5/4偏灰	ヨコナデ・マメツ	指揮さえ・板ナデ・マメツ	口・逆子形 文・ヘラ5(3本/cm) + e	口・逆子形 文・ヘラ5(3本/cm) + e	口・逆子形 文・ヘラ5(3本/cm) + e	
494	赤堀 I - 25	SPR01下層	口径23.5 長石・中・少・石英・大・普・少	内: 10YR7/2に、少い黄鐵 外: 10YR7/3に、少い黄鐵	ナデ・ハケメ	指揮さえ	口・逆子形 文・ヘラ6(2本/cm)	口・逆子形 文・ヘラ6(2本/cm)	口・逆子形 文・ヘラ6(2本/cm)	
495	赤堀 I - 25	SPR01下層	口径16.4 長石・中・少・石英・中・普・少	内: 2.5Y5/3に、少い黄鐵 外: 5Y5/2偏灰	ナデ・マメツ	指揮さえ・マメツ	口・逆子形 文・ヘラ7(3本/cm)	口・逆子形 文・ヘラ7(3本/cm)	口・逆子形 文・ヘラ7(3本/cm)	
496	赤堀 I - 25	SPR01下層	口径21.4 長石・中・普・石英・中・普	内: 10YR5/4に、少い黄鐵 外: 10YR5/4偏灰	ナデ・ハケメ	指揮さえ	口・逆子形 文・ヘラ11(3本/cm)	口・逆子形 文・ヘラ11(3本/cm)	口・逆子形 文・ヘラ11(3本/cm)	
497	赤堀 I - 25	SPR01下層	口径23.6 長石・大・多・石英・大・多	内: 10YR5/4に、少い黄鐵 外: 10YR5/3偏灰	ナデ・ハケメ	マメツ・指揮さえ	口・逆子形 文・ヘラ8(2本/cm)	口・逆子形 文・ヘラ8(2本/cm)	口・逆子形 文・ヘラ8(2本/cm)	
498	赤堀 I - 25	SPR01下層	口径22.0 長石・小・少・石英・中・少	内: 10YR5/4に、少い黄鐵 外: 2.5Y4/2偏灰	ナデ・ハケメ	指揮さえ・ナデ	口・逆子形 文・ヘラ7(2本/cm) + e	口・逆子形 文・ヘラ7(2本/cm) + e	口・逆子形 文・ヘラ7(2本/cm) + e	
499	赤堀 I - 25	SPR01下層	口径22.0 長石・中・少・石英・中・普・少	内: 10YR5/4に、少い黄鐵 外: 2.5Y4/2偏灰	ナデ・ハケメ	ナデ・マメツ	アダ・マメツ・指揮さえ	アダ・マメツ・指揮さえ	アダ・マメツ・指揮さえ	
500	赤堀 I - 25	SPR01下層	口径27.0 長石・中・普・石英・中・少	内: 10YR7/3に、少い黄鐵 外: 5Y5/2偏灰	ナデ・ハラミガキ	ナデ・板ナデ	口・逆子形 文・ヘラ8(2本/cm)	口・逆子形 文・ヘラ8(2本/cm)	口・逆子形 文・ヘラ8(2本/cm)	
501	赤堀 I - 25	SPR01下層	口径28.0 長石・中・普・石英・中・普	内: 10YR7/3に、少い黄鐵 外: 10YR7/3偏灰	ナデ・ハラミガキ	ナデ・指揮さえ	口・逆子形 文・ヘラ8(3本/cm)	口・逆子形 文・ヘラ8(3本/cm)	口・逆子形 文・ヘラ8(3本/cm)	

標文及 番号	地名	報告者番号	法量(cm)	土	色調	外断面	内面断面	断面量	形面上の特徴	備考
502	赤堀	1 - 25	SR01下層	-	長石・中・暗・石英・中・青	内: 2.57/73浅黄 外: 10YR5/3に少い黒斑 色粒子・中・少	ナデ・ハケメ	指揮さえ・ヘラミガキ	口縁部小片 文へテラ(0.2m)	
503	赤堀	1 - 25	SR01下層	-	長石・中・暗・石英・中・青 色粒子・中・少	内: 10YR5/3に少い黒斑 外: 10YR5/3に少い黒斑 色粒子・中・少	ナデ	口縫部さえ・指揮さえ	口縫部小片 文へテラ(0.2m) + 横 端山形	
504	赤堀	1 - 25	SR01下層	口径20.2	長石・中・暗・石英・中・青・赤 色粒子・中・少	内: 10YR2/2に少い黒斑 外: 2.5YD9/3浅黄	ヨコナデ	ア半端押さえ・ヨコナ デ	口縫部さえ・ヨコナ デ	口縫部小片 文へテラ(0.2m) + a
505	赤堀	1 - 25	SR01下層	口径16.3	長石・中・暗・石英・中・青	内: 10YR2/2底深場 外: 10YR3/3に少い黒斑	ナデ・マメリ・指揮さえ	口縫部8	口縫部8	口縫部8 文へテラ(0.2m) + a
506	赤堀	1 - 25	SR01下層	口径17.0	長石・大・暗・石英・大・青	内: 10YR5/6底深場 外: 10YR4/6底深場	ナデ	ナデ・ハナデ	口縫部28	口縫部28 文へテラ(0.2m) + a
507	赤堀	1 - 25	SR01下層	-	長石・小・暗・石英・小・青	内: 2.5YD6/3に少い黒 外: 2.5YD9/3底深場	ハケメ・指揮さえ	口縫部小片 ヘラミガキ・指揮さえ	口縫部小片 文へテラ(0.2m) + a	
508	赤堀	1 - 25	SR01下層	-	長石・中・暗・石英・中・青・赤 色粒子・小・少	内: 10YR2/3に少い黒斑 外: 10YR2/2底深場	ナデ	ナデ・ハラミガキ・板ナ デ	口縫部小片 口縫部8	口縫部8 文へテラ(0.2m) + a
509	赤堀	1 - 25	SR01下層	-	長石・中・暗・石英・中・青	内: 2.5YD4/4に少い黒 外: 2.5YD9/4底深場	ヘラミガキ	指揮さえ・ヘラミガキ	口縫部小片 ナキ	口縫部小片 文へテラ(0.2m) + a
510	赤堀	1 - 25	SR01下層	-	長石・中・暗・石英・中・青	内: 2.5/7/25底深 外: 10YR2/2底深場	ナデ	ナデ・指揮さえ・ヘラミ ナキ	口縫部小片 ナキ	口縫部8 文へテラ(0.2m) + a
511	赤堀	1 - 25	SR01下層	口径30.0	長石・中・少・石英・中・少 色粒子・小・少	内: 7DY6/6底 外: 10YR7/6底深場	ナデ	ナデ・指揮さえ・板ナデ ナキ・ヘラミガキ	口縫部先存 ナキ	口縫部8 文へテラ(0.2m) + a
512	赤堀	1 - 25	SR01下層	口径26.2	長石・中・暗・石英・中・青	内: 10YR5/3に少い黒斑 外: 2.5YD2底深場	ナデ	指揮さえ・入後板ナデ・ナ キ	口縫部10 文へテラ(0.2m) + a	
513	赤堀	1 - 25	SR01下層	口径14.0	長石・中・少・石英・中・少	内: 2.5/7/4底深 外: 2.5YD2底深場	ナデ・ハラミガキ	ヘラミガキ	口縫部10 文へテラ(0.2m) + a	
514	赤堀	1 - 25	SR01下層	-	長石・小・暗・石英・小・青	内: 10YR2/2底白 外: 10YR5/3底深場	ナデ・ハケメ	ナデ・指揮さえ・後板ナ デ	口縫部小片 文・角脚(0.2m) + 三 枚	
515	赤堀	1 - 25	SR01下層	口径24.7	長石・中・暗・石英・中・青 色粒子・中・少	内: 2.5YD7/7底白 外: 2.5YD7/7底白	ナデ・指揮さえ・マツ ナ	指揮さえ後板ナデ	口縫部10 文・角脚(0.2m) + 三 枚	
516	赤堀	1 - 25	SR01下層	口径20.6	長石・大・暗・石英・大・青	内: 10YR6/6底深場 外: 10YR5/6底深場	ナデ	指揮さえ後板ナデ	口縫部小片 文・角脚(0.2m) + 三 枚	

固有 番号	地名	解説標高番号	法面(m)	地土	色調	外観特徴	内面特徴	被覆量	形態上の特徴	備考
517 46 東側	I - 25	SR01下層	口径21.2	基盤子・小・大・石英・大・黄・赤 色斑子・小・少	内:10YR6/4に赤い黄鐵 外:10YR4/4基盤	ナデ・ハケメ	ナデ・板ナデ	口輪郭2/8	口環・平面 文:「平」(外) 茎 原	
518 東側	I - 25	SR01下層	口径19.9	長石・中・少・石英・中・少	内:10YR6/4に赤い黄鐵 外:10YR4/4基盤	ナデ	ハクナデ・根附キナデ 板ナデ	口輪郭小片 文:「ラ」(5本/1cm)+円形	口環・平面 文:「ラ」(5本/1cm)	
519 東側	I - 25	SR01下層	-	長石・小・少・石英・小・少・赤 色斑子・小・少	内:10YR5/5に赤い黄鐵 外:10YR5/5に赤い黄鐵	ナデ	ハクナデ・ラミガキ 板ナデ	口輪郭小片 文:「ラ」(5本/1cm)+α	口環・平面 文:「ラ」(5本/1cm)	
520 東側	I - 25	SR01下層	-	長石・中・少・石英・中・少・赤 色斑子・小・少	内:2.5Y7/2赤鉄 外:2.5Y7/2赤鉄	ナデ	ナデ・根附キナデ 板ナデ	口輪郭小片 文:「ラ」(5本/1cm)+α	口環・平面 文:「ラ」(5本/1cm)	
521 東側	I - 25	SR01下層	-	長石・小・少・石英・小・多 色斑子・小・少	内:10YR6/4に赤い黄鐵 外:10YR6/4基盤	板ナデ・マツメ	板ナデ・根附キナデ 板ナデ	体部2/8	文:「ラ」(5本/1cm)+α 文:「ラ」(2+8)(5本/2cm)	竹 茎:「ラ」(1.1m)+α
522 東側	I - 25	SR01下層	-	長石・中・少・石英・中・少・赤 色斑子・小・少	内:10YR4/4赤鉄 外:2.5Y7/2赤鉄	ハラミカキ・マツメ	根附キナデ・板板ナデ後 ラミカキ	体部1/8	文:「ラ」(5本/1cm)+α 文:「ラ」(2+8)(5本/2cm)	根附キナデ後 ラミカキ
523 東側	I - 25	SR01下層	-	長石・小・少・石英・小・多 色斑子・小・少	内:10YR6/4に赤い黄鐵 外:10YR6/4基盤	板ナデ・ハラミガキ	根附キナデ・板ナデ 板ナデ	体部1/8	文:「ラ」(5本/1cm)	
524 38 東側	I - 25	SR01下層	口径10.8	長石・中・少・石英・中・多 色斑子・中・少	内:10YR6/4赤鉄 外:10YR6/4基盤	ナデ・根附キナデ・ハケメ	根附キナデ・板板ナデ 板ナデ	口輪郭1/8	口環・平面 文:「ラ」(4本/2cm)	
525 37 東側	I - 25	SR01下層	-	長石・中・少・石英・中・多 色斑子・中・少	内:10YR6/4赤鉄 外:10YR6/4基盤	ナデ・根附キナデ 板ナデ	根附キナデ・板板ナデ 板ナデ	口輪郭小片 文:「ラ」(4本/1.4m)	口輪郭小片 文:「ラ」(4本/1.4m)	
526 37 東側	I - 25	SR01下層	口径6.0	長石・中・少・石英・中・少・赤 色斑子・中・少・少	内:10YR6/4赤鉄 外:10YR6/4基盤	ナデ・ハケメ	ヨコナデ	口輪郭1/8	口山形凸槽 文:「ラ」(4本/2cm)	
527 東側	I - 25	SR01下層	口径11.6	長石・中・少・石英・中・少・赤 色斑子・小・少・その他の 色斑子・中・少	内:10YR6/4に赤い黄鐵 外:10YR6/4基盤	ナデ・根附キナデ・マツメ	根附キナデ・マツメ	口輪郭1/8	口輪郭小片 文:「ラ」(4本/2cm)	
528 37 東側	I - 25	SR01下層	-	長石・大・少・石英・大・少 色斑子・大・少	内:2.5Y7/2赤鉄	ナデ・根附キナデ・マツメ	ナデ・板ナデ・根附キナデ 板ナデ	口輪郭小片 文:「ラ」(2+8)(5本/2cm)	根附キナデ 文:「ラ」(2+8)(5本/2cm)	
529 36 東側	I - 25	SR01下層	口径15.7	長石・大・少・石英・大・少・赤 色斑子・小・少・その他の 色斑子・中・少	内:10YR6/4に赤い黄鐵 外:10YR6/4基盤	ナデ・ハラミガキ	ナデ・板ナデ	口輪郭3/8	口輪郭 文:「ラ」(3本/2cm)	
530 东底板	I - 25	SR01下層	底径13.1	長石・大・少・石英・大・少 色斑子・中・少	内:10YR6/4に赤い黄鐵 外:10YR6/4基盤	ハケメ・根附キナデ・マツメ 板ナデ・板板ナデ	根附キナデ・板板ナデ・マツメ 板ナデ	底部4/8	底部4/8	
531 东底板	I - 25	SR01下層	底径18.0	長石・大・少・石英・大・少 色斑子・中・少	内:10YR6/3に赤い黄鐵 外:10YR6/4基盤	ナデ	ナデ	底部1/8	底部4/8	
532 东底板	I - 25	SR01下層	底径15.0	長石・大・少・石英・大・多・赤 色斑子・小・少	内:2.5Y7/4に赤い黄鐵 外:2.5Y7/3基盤	板ナデ・ハケメ・マツメ	板ナデ	底部4/8	底部4/8	
533 东底板	I - 25	SR01下層	底径12.0	長石・大・少・石英・大・少・赤 色斑子・小・少	内:10YR6/4に赤い黄 外:10YR6/4基盤	ハラミカキ・根附キナデ	根附キナデ・板板ナデ	底部3/8	底部3/8	
534 东底板	I - 25	SR01下層	底径10.7	長石・中・少・石英・中・少 色斑子・中・少	内:2.5Y7/3基盤	マツメ・マツメ・ナデ	マツメ	底部4/8	底部4/8	
535 东底板	I - 25	SR01下層	底径11.0	長石・大・少・石英・大・少・赤 色斑子・中・少	内:3YR6/4基盤	ナデ	ナデ	底部4/8	底部4/8	

調査 場所 番号	器種	地区名	経年測量番号	法長(cm)	地土	色調	外因測量	内面測量	残存量	形態上の特徴	備考
536	壳・底部	I - 25	SPR01下層	底径6.0	長石・中・暗・石英・中・暗・中・暗	内:10YR4/4にぶつかる黄緑 外:10YR4/4にぶつかる黄緑 マメツ	板ナード・横押さえ	底部1/8			
537	壳・底部	I - 25	SPR01下層	底径11.0	長石・中・多・石英・大・多・その他・中・暗	内:2.5Y5/3にぶつかる 外:2.5Y6/3にぶつかる 黄緑	板ナード	底部1/8			
538	壳・底部	I - 25	SPR01下層	底径18.6	長石・中・暗・石英・中・暗・中・少	内:1.5Y7/3にぶつかる 外:1.5Y7/3にぶつかる 黄緑	横押さえ後板ナード・マツ ツ	板ナード	底部4/8		
539	壳・底部	I - 25	SPR01下層	底径10.6	長石・中・暗・石英・中・暗・中・少	内:10Y7/2にぶつかる黄緑 外:10Y7/2にぶつかる黄緑	横押さえ後板ナード・ナツ ツ	板ナード	底部3/8		
540	壳・底部	I - 25	SPR01下層	底径9.1	長石・大・多・石英・大・多・その他・中・暗	内:10YR4/4にぶつかる 外:10YR3/3にぶつかる 黄緑	板ナード・横押さえ・マツ	横押さえ	底部完存		
541	壳・底部	I - 25	SPR01下層	底径8.4	長石・中・暗・石英・中・暗・その他・中・少	内:10YR1/3にぶつかる 外:10YR3/3にぶつかる 黄緑	ハケメタ・マツ	マツ	底部1/8	内面マツ壁いい	
542	壳・底部	I - 25	SPR01下層	底径7.4	長石・大・暗・石英・大・暗・その他・中・暗	内:10YR2/2にぶつかる 外:10YR4/4にぶつかる 黄緑	板ナード・横押さえ	底部完存			
543	壳・底部	I - 25	SPR01下層	底径8.8	長石・大・暗・石英・大・暗・片 その他・中・少	内:2.5Y7/3にぶつかる 外:2.5Y7/3にぶつかる 黄緑	板ナード・ヘリミガキ・マツ ツ	板ナード・横押さえ	底部3/8		
544	壳・底部	I - 25	SPR01下層	底径11.0	長石・中・少・石英・中・少	内:10YR4/4にぶつかる黄緑 外:2.5Y7/3にぶつかる 黄緑	板ナード・ヘリミガキ・ナツ ナツ	板ナード	底部2/8		
545	壳・底部	I - 25	SPR01下層	底径10.0	長石・中・暗・石英・中・暗	内:10YR4/4にぶつかる黄緑 外:2.5Y7/3にぶつかる 黄緑	板ナード・ヘリミガキ・マツ ツ	板ナード	底部3/8		
546	壳・底部	I - 25	SPR01下層	底径9.0	長石・中・多・石英・中・多・その他・中・少	内:10YR4/4にぶつかる黄緑 外:2.5Y7/3にぶつかる 黄緑	横押さえ後板ナード・ナツ	板ナード	底部4/8		
547	壳・底部	I - 25	SPR01下層	底径8.4	長石・中・暗・石英・大・暗・片 その他・小・暗	内:10YR4/4にぶつかる 外:2.5Y7/3にぶつかる 黄緑	マツ・横押さえ・ナツ	マツ	底部5/8		
548	壳・底部	I - 25	SPR01下層	底径7.7	長石・大・多・石英・大・多・暗	内:2.5Y6/3にぶつかる 外:2.5Y7/3にぶつかる 黄緑	板ナード・ヘリミガキ・ナツ	ナツ	底部1/8		
549	壳・底部	I - 25	SPR01下層	底径7.3	長石・中・暗・石英・大・暗・片 その他・中・少	内:10YR4/4にぶつかる 外:2.5Y6/3にぶつかる 黄緑	ヘリミガキ・横押さえ	ヘリミガキ	底部完存		
550	壳・底部	I - 25	SPR01下層	底径7.3	長石・大・暗・石英・大・暗・片	内:2.5Y7/3にぶつかる	ハケメナツ	横押さえ	底部完存		
551	壳・底部	I - 25	SPR01下層	底径7.0	長石・小・暗・石英・小・暗・中・少	内:2.5Y7/3にぶつかる 外:10YR4/4にぶつかる 黄緑	横押さえ後板ナード・ナツ	底部完存			
552	壳・底部	I - 25	SPR01下層	底径10.2	長石・中・多・石英・中・多・暗	内:10YR4/4にぶつかる 外:2.5Y3/3にぶつかる 黄緑	ナツ・マツ・横押さえ	マツ	底部完存		
553	壳・底部	I - 25	SPR01下層	底径9.2	長石・中・少・石英・中・少・暗	内:10YR4/4にぶつかる 外:10YR6/6にぶつかる 黄緑	ヘリミガキ・ナツ・マツ	マツ	底部6/8		
554	壳・底部	I - 25	SPR01下層	底径8.4	長石・中・多・石英・中・少	内:10YR4/4にぶつかる 外:10YR4/4にぶつかる 黄緑	横押さえ・マツ	マツ	底部4/8		

固有文書番号	場所	地区名	積合番号	法量(m)	出土	色調	外観風景	内面風景	残存量	形態上の特徴	備考
555	赤堀部	1 - 25	SRI01下層	底径9.8	長石・中・碧・石英・中・青	内:10YR4/6底にぶい黄緑 外:2.5YR5/6底に黄緑	ナデ・指揮さえ・ハケメ	指揮さえ後板ナデ	無傷はば完存		
556	赤堀部	1 - 25	SRI01下層	底径6.3	長石・中・碧・石英・中・青	内:2.5YR7/3底に 外:2.5YR7/3底に	指揮さえ後板ナデへラ 指揮さえ後板ナデ	指揮さえ後板ナデ	無傷はば完存		
557	赤堀部	1 - 25	SRI01下層	底径6.2	長石・小・少・石英・小・少	内:10YR4/6底に黄緑 外:10YR6/2底に黄緑	指揮さえ後板ナデへラ 指揮さえ後板ナデ	指揮さえ後板ナデ	無傷はば完存		
558	赤堀部	1 - 25	SRI01下層	底径6.4	長石・中・多・石英・中・多	内:2.5YR7/1黒 外:2.5YR7/3底に	ハケメナーデ	指揮さえ後板ナデ	無傷はば完存		
559	赤堀部	1 - 25	SRI01下層	底径8.1	長石・大・碧・石英・大・碧	内:10YR4/6底に黄緑 外:10YR6/2底に黄緑	ナデ・マメツ・板ナデ・チナギア ナデ・マメツ・板ナデ	指揮さえ後板ナデ	無傷はば完存		
560	赤堀部	1 - 25	SRI01下層	底径6.7	長石・中・多・石英・中・多	内:10YR1/1黒	ハケメ	指揮さえ後板ナデ	無傷はば完存		
561	赤堀部	1 - 25	SRI01下層	底径6.1	長石・中・碧・石英・中・碧・碧	内:10YR6/3底に黄緑	ナデ・マメツ・板ナデ	指揮さえ後板ナデ	無傷はば完存		
562	赤堀部	1 - 25	SRI01下層	底径6.0	長石・大・碧・石英・大・碧	内:10YR4/6底に黄緑 外:10YR3/1黒	ナデ・マメツ	指揮さえ後板ナデ	無傷はば完存		
563	赤堀部	1 - 25	SRI01下層	底径5.0	長石・中・碧・石英・中・碧	内:10YR6/6底に黄緑 外:10YR6/4にぶい黄緑	ナデ	指揮さえ後板ナデ	無傷はば完存		
564	赤堀部	1 - 25	SRI01下層	底径7.0	長石・中・少・石英・中・少	内:10YR2/2黒	ナデ・指揮さえ	ナデ・板ナデ	無傷はば完存		
565	赤堀部	1 - 25	SRI01下層	底径7.6	長石・中・碧・石英・中・碧	内:10YR6/4にぶい黄緑 外:2.5YR7/3底に	ナデ・指揮さえ	ナデ・指揮さえ	無傷はば完存		
566	赤堀部	1 - 25	SRI01下層	底径6.9	長石・中・碧・石英・中・碧	内:2.5YR7/1黒	ナデ・ハケメ	指揮さえ後板ナデ	無傷はば完存		
567	赤堀部	1 - 25	SRI01下層	底径6.2	長石・大・碧・石英・中・碧	内:10YR1/1黒	ナデ・マメツ・板ナデ・ナ ナデ・ハケメ	指揮さえ後板ナデ	無傷はば完存		
568	赤堀部	1 - 25	SRI01下層	底径5.6	長石・大・多・石英・大・多	内:2.5YR7/3底に	ハラミガキ・指揮さえ・指 指揮さえ・指揮さえ	指揮さえ後板ナデ	無傷はば完存		
569	赤堀部	1 - 25	SRI01下層	底径8.0	長石・中・多・石英・中・多	内:10YR4/6底に黄緑 外:10YR6/2底に黄緑	ナデ・指揮さえ・ハケメ	指揮さえ後板ナデ	無傷はば完存		
570	赤堀部	1 - 25	SRI01下層	底径8.0	長石・中・碧・石英・中・碧	内:10YR6/4にぶい黄緑 外:10YR6/4にぶい黄緑	ナデ・マメツ・ナデ	指揮さえ後板ナデ	無傷はば完存		
571	赤堀部	1 - 25	SRI01下層	底径7.8	長石・中・多・石英・中・多・少	内:2.5YR7/3底に 外:10YR6/4にぶい黄緑	ナデ・マメツ・ナデ	ハクリ	無傷はば完存		
572	赤堀部	1 - 25	SRI01下層	底径6.4	長石・中・碧・石英・中・碧	内:10YR4/6底 外:2.5YR7/2底に	ナデ・板ナデ	指揮さえ後板ナデ	無傷はば完存		
573	赤堀部	1 - 25	SRI01下層	底径9.0	長石・大・多・石英・大・多	内:2.5YR7/3底に	ナデ・ハケメ	指揮さえ後板ナデ	無傷はば完存		
574	赤堀部	1 - 25	SRI01下層	底径7.6	長石・大・少・石英・大・少	内:10YR6/3底に	ナデ・マメツ・指揮さえ・ナ ナデ・ハケメ	指揮さえ	無傷はば完存		
575	赤堀部	1 - 25	SRI01下層	底径7.3	長石・大・碧・石英・大・碧	内:10YR3/3底に	ナデ・ハケメ	板ナデ・ナデ	無傷はば完存		

編 番 号	地名	報告者番号	法面(m)	地土	色調	外観特徴	内部構造	保存量	形態上の特徴	備考
576	赤・底筋 等	1 - 25	SRH01下層	底筋0.4 長石・中・多・石英・中・普 長石・中・多・石英・中・多・少 長石・中・多・石英・中・普	内:10YR2/2に 外:10YR3/3に 内:10YR3/3に 外:10YR3/3に	ハラミヨガキ ハケメナード ハケメナード ハケメナード	板ナデ	無	無	
577	赤・底筋	1 - 25	SRH01下層	底筋2.0 長石・中・多・石英・中・普 長石・中・多・石英・中・多・少 長石・中・多・石英・中・普	内:2.5Y7/3底質 外:2.5Y6/2底質 外:2.5Y5/2底質	指揮さえ後板ナデ・ハラ ミガキナデ 指揮さえ後板ナデ	指揮さえ後板ナデ	無	無	
578	赤・底筋	1 - 25	SRH01下層	底筋2.0 長石・中・多・石英・中・普 長石・中・多・石英・中・少 長石・中・多・石英・中・普	内:10YR3/3に 外:10YR3/3に 内:10YR3/3に 外:10YR3/3に	ハラ ミガキナデ 指揮さえ後板ナデ	指揮さえ後板ナデ	無	無	
579	赤・底筋	1 - 25	SRH01下層	底筋2.9 長石・大・多・石英・大・普 長石・大・少・石英・大・多・少	内:2.5Y7/3底質 外:2.5Y6/2底質 外:2.5Y5/2底質	指揮さえ後板ナデ	指揮さえ後板ナデ	無	底筋完存	
580	赤・底筋	1 - 25	SRH01下層	底筋6.4 長石・小・少・石英・大・多・角 長石・大・少・石英・大・多・角	内:10YR3/3に 外:10YR3/3に	ハラ ミガキナデ 板ナデ・ナデ	指揮さえ後板ナデ	無	底筋7/8	
581	赤・底筋	1 - 25	SRH01下層	底筋4.4 長石・中・普・石英・中・普 長石・中・普・石英・中・多・少 長石・中・普	内:2.5Y7/4底質 外:2.5Y6/1底質 内:2.5Y7/4底質 外:2.5Y6/2底質	板ナデ・ナデ	指揮さえ	無	底筋完存	
582	赤・底筋	1 - 25	SRH01下層	底筋5.0 長石・中・普・石英・中・普 長石・中・普	内:2.5Y7/4底質 外:2.5Y6/2底質	ナデ・指揮さえ	指揮さえ	無	底筋完存	
583	赤・底筋	1 - 25	SRH01下層	底筋4.2 長石・中・少・石英・中・普 長石・中・少・石英・中・普	内:2.5Y7/5底質 外:2.5Y6/3底質	ハクリ・指揮さえ ナデ・板ナデ	指揮さえ	無	底筋完存	
584	赤・底筋	1 - 25	SRH01下層	底筋8.0 長石・中・少・石英・中・少・普 長石・中・多・石英・中・多・普	内:2.5Y6/3に 外:10YR3/3に 内:10YR3/3に 外:10YR3/3に	ハケメ・指揮さえ・板ナ デ・マツ	指揮さえ	無	底筋完存	
585	赤・底筋	1 - 25	SRH01下層	底筋7.5 長石・中・多・石英・中・多・普 長石・中・少・石英・中・少・普	内:2.5Y7/4底質 外:2.5Y6/2底質	ハケメ・マツナデ	指揮さえ	無	底筋完存	
586	赤・底筋	1 - 25	SRH01下層	底筋6.5 長石・中・普・石英・中・普 長石・中・多・石英・中・少	内:10YR4/4に 外:10YR4/4底質 内:10YR4/4底質 外:10YR4/4底質	ハケメ・マツナデ 板ナデ・指揮さえ ハケメ・指揮さえ	指揮さえ	無	底筋6/8	
587	赤・底筋	1 - 25	SRH01下層	底筋8.0 長石・中・多・石英・中・多 長石・中・多・石英・中・少	内:10YR4/4に 外:2.5Y6/3底質 内:10YR4/4底質 外:2.5Y7/2底質	ハケメ マツナデ	ナフ・マツ・指揮さえ ナフ・マツ・マツ	無	底筋6/8	
588	赤・底筋	1 - 25	SRH01下層	底筋10.4 長石・中・多・石英・中・多 長石・中・多・石英・中・少	内:10YR4/4底質 外:2.5Y7/2底質	指揮さえ後板ナデ・マツ ナフ	指揮さえ後板ナデ	無	底筋4/6	
589	赤・底筋	1 - 25	SRH01下層	底筋5.6 長石・中・普・石英・中・普 長石・中・少・石英・中・普	内:10YR4/4底質 外:2.5Y7/2底質	ハラ ミガキナデ	天井感音孔	無	底筋5/8	
590	赤・底筋	1 - 25	SRH01下層	底筋6.8 長石・中・少・石英・中・少 長石・中・多・石英・中・多	内:2.5Y7/3底質 外:2.5Y7/3底質	指揮さえ後板ナデ	指揮さえ後板ナデ	天井感音孔	無	
591	赤・底筋	1 - 25	SRH01下層	底筋9.9 長石・大・多・石英・大・普 長石・中・多・石英・中・多	内:10YR3/3に 外:SYR7/3に	ナデ・板ナデ	ナデ・板ナデ・指揮さえ	天井感音孔	無	
592	赤・底筋	1 - 25	SRH01下層	底筋5.6 長石・中・多・石英・中・多 長石・中・少・石英・中・少	内:10YR7/4底質 外:10YR7/4底質	板ナデ	板ナデ・指揮さえ	天井感音孔	無	
593	赤・底筋	1 - 25	SRH01下層	底筋8.0 長石・中・普・石英・中・普 長石・中・少・石英・中・少	内:2.5Y7/4底質 外:2.5Y7/4底質	ナデ・指揮さえ・ハラ ミ	指揮さえ・板ナデ	天井感音孔	無	
594	赤・底筋	1 - 25	SRH01下層	底筋5.4 長石・大・普・石英・大・普 長石・中・普・石英・中・普	内:10YR3/3に 外:10YR3/3に	ナデ・指揮さえ	ナデ・指揮さえ	天井感音孔	無	
595	赤・底筋	1 - 25	SRH01下層	底筋4.2 長石・中・普・石英・中・普 長石・中・少・石英・中・少	内:10YR5/6に 外:10YR5/6に	ハケメ・指揮さえ ナデ	指揮さえ	底筋4/8	底筋2/8	
596	赤・底筋	1 - 25	SRH01下層	口壁2.8 長石・中・普・石英・中・少 長石・中・少・石英・中・少	内:2.5Y7/5底質 外:2.5Y7/5底質	板ナデ	指揮さえ・板ナデ	口牆部小片	無	

国	都道府県	地区名	剖面番号	法量(m)	地土	色調	外面調整	内面調整	残存量	形態上の特徴	備考
597	奈良県	1-25	SHR01下層	口径20.0	長石・中・普 石英・中・普 ソ の他 大・普	内:10YR6/4にぶい黄緑 外:10YR2/1黒	ナデ・ハミガキ 指押さえ板ナデ	指押さえ後板ナデ	口端部1/8		
598	奈良県	1-25	SHR01下層	-	長石・中・普 石英・中・普 色粒子・小・少	ナデ・ハミガキ	指押さえ板ナデ	指押さえ板ナデ	口端部小片 文・円形浮		
599	奈良県	1-25	SHR01下層	-	長石・中・多 石英・中・多・非 色粒子・小・普	ナデ・ハミガキ	指ナデ	指ナデ	指押さえ板ナデ	指押さえ板ナデ	
600	奈良県	1-25	SHR01下層	底径3.4	長石・中・少 石英・中・少	ナデ・ハミガキ	指押さえ	指押さえ	指押さえ	指押さえ	
601	奈良県	1-25	SHR01下層	底径4.7 口径19.0 柱径 0.7	長石・中・少 石英・中・少 色粒子・小・少	ナデ・ハミガキ	-	-	完形		
613	奈良県	1-27	SHR01下層	口径27.2	長石・中・多 石英・中・多・非 色粒子・大・普	内:2.5Y7/1灰青 外:2.5Y7/3灰青	ナデ・板ナデ	板ナデ	口端部1/8	黒ヘラ1	
614	奈良県	1-27	SHR01下層	口径19.8	長石・大・普 石英・大・普 色粒子・大・少	内:10YR7/3にぶい黄緑 外:10YR7/3にぶい黄緑	ナデ・ハミガキ 指押さえ	ナデ・ハミガキ・マツメ	口端部1/8		
615	奈良県	1-27	SHR01下層	口径22.4	長石・中・多 石英・中・多・非 色粒子・中・少	内:10YR7/3にぶい黄緑 外:SYR4/4にぶい赤緑	ナデ・ハミガキ・ナデ	ナデ・ハミガキ・ナデ	口端部2/8		
616	奈良県	1-27	SHR01下層	口径22.0	長石・大・普 石英・大・普	内:SYR4/4にぶい赤緑 外:2.5Y7/3灰青	ナデ・ハミガキ・マツメ	ナデ・ハミガキ・マツメ	口端部2/8		
617	奈良県	1-27	SHR01下層	口径19.0	長石・中・少 石英・中・少 色粒子・小・少	内:10YR7/3にぶい黄緑 外:10YR7/3にぶい黄緑	ナデ・ハミガキ・ナデ	板ナデ	口端部1/8	黒ヘラ1	
618	奈良県	1-27	SHR01下層	口径22.2	長石・中・普 石英・中・普 色粒子・小・少	内:10YR7/3にぶい黄緑 外:10YR7/3にぶい黄緑	ナデ・ハミガキ・ナデ	ナデ・ハミガキ・ナデ	口端部1/8		
619	奈良県	1-27	SHR01下層	-	長石・中・普 石英・中・普	内:2.5Y7/3灰青 外:10YR7/3にぶい黄緑	指押さえ板ナデ・ハケ 指押さえ	指押さえ板ナデ・ハケ	指押さえ	指押さえ	
620	奈良県	1-27	SHR01下層	口径8.0	長石・中・普 石英・中・普 ソ の他 小・少	内:2.5Y6/2灰青 外:2.5Y6/2灰青	マツメ・板ナデ	指押さえ	口端部1/8		
621	奈良県	1-27	SHR01下層	口径24.6	長石・中・普 石英・中・普 色粒子・小・少	内:10YR7/2にぶい黄緑 外:2.5Y4/4灰青	ハケメ	ハケメ	口端部1/8	口端部1/8	工具痕有
622	奈良県	1-27	SHR01下層	底径10.5	長石・大・多 石英・大・多・非 色粒子・中・少	内:2.5Y7/3灰青 外:SYR4/4にぶい赤緑	マツメ・板押さえ	板押さえ	板押さえ	板押さえ	ハカリ寄しい
623	奈良県	1-27	SHR01下層	底径7.3	長石・中・普 石英・中・普 色粒子・中・少	内:10YR3/2灰青	ハケメ・板ナデ・ハミガキ・ナ デ	指押さえ・板ナデ・ハミガキ・ナ デ	指押さえ	指押さえ	
624	奈良県	1-27	SHR01下層	口径15.2	長石・大・普 石英・大・普 色粒子・中・少	内:10YR7/3にぶい黄緑 外:SYR4/4にぶい赤緑	指押さえ・板ナデ・ハミ ゲ・マツメ	指押さえ・板ナデ・ハミ ゲ・マツメ	指押さえ	指押さえ	黒ヘラ2
625	奈良県	1-27	SHR01下層	-	長石・中・普 石英・中・普 ソ の他 中・普	内:2.5Y7/3灰青 外:10YR7/3にぶい黄緑	ナデ・板ナデ	板ナデ・指押さえ・ハケ メ	指押さえ	指押さえ	黒ヘラ2
626	奈良県	1-27	SHR01下層	口径20.4	長石・中・普 石英・中・普	内:10YR7/3にぶい黄緑 外:10YR7/3灰青	ハミガキ・ハケ メ	ハミガキ・ハケ メ	指押さえ	指押さえ	黒ヘラ1(2本)cm



地文 編 番 号	流域	地区名	報告済番号	法量(m)	地土	色調	外面調整	内面調整	横存量	形態上の特徴	備考
648 43 东・瀬	1 - 27	SR01下層	-	長石・小・岩・石英・小・青	内:2.57/2底質 外:10FR2底質	ナデ	板ナデ・滑押さえ・マツメ 板ナデ・滑押さえ・板ナデ・マツメ	織部小片	文:織19(4本/1.0m) 文:織19(4本/1.0m)		
649 东・瀬	1 - 27	SR01下層	口径21.2	長石・大・岩・石英・多・青	内:2.57/2底質 外:10FR2底質	ナデ	板ナデ・滑押さえ・板ナデ・マツメ	織部小片	口:逆手形	口:逆手形	
650 东・瀬	1 - 27	SR01下層	口径20.0	長石・大・岩・石英・大・青	内:10FR2底質 外:10FR2底質	ナデ	板ナデ・マツメ	織部小片	口:逆手形	口:逆手形	
651 东・瀬	1 - 27	SR01下層	口径23.6	長石・中・岩・石英・中・青・赤	内:10FR2底質 外:10FR2底質	ナデ	板ナデ・マツメ	織部小片	口:逆手形	口:逆手形	
652 东・瀬	1 - 27	SR01下層	-	長石・小・少・石英・小・少	内:10FR2底質 外:10FR2底質	ナデ	板ナデ・滑押さえ・板ナデ・マツメ	織部小片	口:逆手形	口:逆手形	
653 43 东・瀬	1 - 27	SR01下層	口径44.2	長石・中・少・石英・中・少	内:2.57/2底質 外:10FR2底質	ヨコナデ	ヨコナデ・板ナデ	織部小片	口:逆手形 文:織19(4本/1.0m)	口:逆手形 文:織19(4本/1.0m)	
654 东・瀬	1 - 27	SR01下層	口径24.2	長石・中・少・石英・中・少・青	内:2.57/2底質 外:10FR2底質	ナデ	ナデ・板ナデ	織部小片	口:逆手形	口:逆手形	
655 43 东・瀬	1 - 27	SR01下層	口径23.0	長石・大・岩・石英・大・青・赤	内:10FR2底質 外:10FR2底質	ヨコナデ	ヨコナデ・ヨコナデ・マツメ	織部小片	口:逆手形 文:織19(4本/1.0m)	口:逆手形 文:織19(4本/1.0m)	
656 东・瀬	1 - 27	SR01下層	口径22.0	長石・中・多・石英・中・多・青	内:10FR2底質 外:2.57/2底質	ナデ	板ナデ(ハケメ)	織部小片	口:逆手形	口:逆手形	
657 43 东・瀬	1 - 27	SR01下層	口径30.0	長石・大・岩・石英・大・青・赤	内:10FR2底質 外:10FR2底質	ナデ	板ナデ・マツメ	織部小片	口:逆手形 文:織19(4本/1.0m)	口:逆手形 文:織19(4本/1.0m)	
658 东・瀬	1 - 27	SR01下層	-	長石・中・少・石英・中・少	内:2.57/2底質 外:10FR2底質	ナデ	ナデ・板ナデ	織部小片	口:逆手形	口:逆手形	
659 43 东・瀬	1 - 27	SR01下層	口径42.5	長石・中・少・その他の中・少	内:2.57/2底質 外:10FR2底質	マツメ	板ナデ	織部小片	口:逆手形 文:織19(4本/1.0m)	口:逆手形 文:織19(4本/1.0m)	
660 43 东・瀬	1 - 27	SR01下層	-	長石・大・岩・石英・大・青・赤	内:2.57/2底質 外:10FR2底質	ハケメ・マツメ	板ナデ	織部小片	口:逆手形 文:織19(4本/1.0m)	口:逆手形 文:織19(4本/1.0m)	
661 43 东・瀬	1 - 27	SR01下層	口径24.5	長石・大・岩・石英・大・青・赤	内:10FR2底質 外:57/6底質	ナデ	板ナデ・マツメ	織部小片	口:逆手形 文:織19(4本/1.0m)	口:逆手形 文:織19(4本/1.0m)	
662 东・瀬	1 - 27	SR01下層	口径32.4	長石・中・多・石英・中・多・青	内:57/6底質	ナデ	板ナデ・マツメ	織部小片	口:逆手形 文:織19(4本/1.0m)	口:逆手形 文:織19(4本/1.0m)	
663 44 东・瀬	1 - 27	SR01下層	口径30.8	長石・中・多・石英・中・少・青	内:10FR2底質 外:57/6底質	ナデ	マツメ・ナデ	織部小片	口:逆手形 文:織19(4本/1.0m)	口:逆手形 文:織19(4本/1.0m)	
664 东・瀬	1 - 27	SR01下層	口径20.0	長石・小・少・石英・小・少・青	内:7.57/2底質 外:7.57/2底質	ナデ	板ナデ(ハケメ)	織部小片	口:逆手形 文:織19(5本/0.9m) + a	口:逆手形 文:織19(5本/0.9m) + a	

国	都道府県	地区名	緯度経度高さ	法量(cm)	胎土	色調	外観特徴	内面特徴	実存量	形態上の特徴	備考
日本	新潟県	1-27	SRI01下層	口径12.4 底径26.0	墨石・中・暗・石英・中・普 の胎土・中・暗・石英・中・普 の胎土・中・暗・石英・中・普	内:10YR6/4に似る質感 外:10YR7/4に似る質感	ナデハケメ ヨコナデ・板ナデ後背押 リヨコナデ・板ナデ・ハイ	板ナデ	口径底39.6 口:泥手形 又:壁手形(5本(6cm)+6個) 文:壁手形(5本(6cm)+6個) 刷毛	口:泥手形 又:壁手形(5本(6cm)+6個) 文:壁手形(5本(6cm)+6個) 刷毛	
日本	新潟県	1-27	SRI01下層	口径23.4 底径21.8	墨石・中・暗・石英・中・普 色粒子・小・普 墨石・中・暗・石英・中・普 色粒子・小・普	内:10YR6/4に似る質感 外:10YR4/2底質	ナデ・板押さえ・ハイ ガキ・マツツ ナデ・板押さえ・ハイ ガキ・マツツ	板ナデ・板ナデ・板ナデ マツツ	口径底7.8 口:泥手形 又:壁手形(1本(0.8cm)+2 個)の三脚脚	口径底7.8 口:泥手形 又:壁手形(1本(0.8cm)+2 個)の三脚脚	
日本	新潟県	1-27	SRI01下層	口径21.8 底径19.6	墨石・中・暗・石英・中・普 墨石・中・多・石英・中・多 墨石・中・少・石英・中・少	内:10YR6/4に似る質感 外:10YR6/2に似る質感 内:10YR6/4に似る質感 外:10YR6/2に似る質感	板ナデ・板押さえ ナデ・板ナデ	板ナデ・板押さえ ナデ・板ナデ	口径底18 文:刷毛・a(3本(6cm))	口径底18 文:刷毛・a(3本(6cm))	
日本	新潟県	1-27	SRI01下層	底径9.6 底径9.6	墨石・中・暗・石英・中・普 色粒子・小・少 墨石・中・暗・石英・大・普	内:10YR6/4に似る質感 外:10YR6/3に似る質 内:10YR7/3底質 外:10YR6/2底質	板ナデ・板ナデ 板ナデ・板ナデ	板ナデ・板ナデ 板ナデ	直径18 直徑18	直径18 直徑18	直徑18
日本	新潟県	1-27	SRI01下層	底径7.6 底径9.4	長石・大・普・石英・大・普 墨石・大・普・石英・大・普	内:10YR6/4底質 外:10YR6/2底質	板ナデ・板ナデ	板ナデ・板ナデ	直徑4.8	直徑4.8	
日本	新潟県	1-27	SRI01下層	底径8.4 底径12.2	長石・小・少・石英・小・少 墨石・中・少・石英・中・少	内:10YR6/4底質 外:10YR7/3底質 内:10YR6/4底質 外:10YR7/3底質	板ナデ・板ナデ 板ナデ・板ナデ	板ナデ・板ナデ 板ナデ	直徑5.8 直徑4.8	直徑5.8 直徑4.8	直徑4.8
日本	新潟県	1-27	SRI01下層	底径8.8 底径8.8	墨石・中・暗・石英・中・普 色粒子・小・少	内:10YR6/4底質 外:10YR7/3底質	ナデ・ハイ・ガキ ナデ・ハイ・ガキ	板押さえ・ナデ	直徑2.8	直徑2.8	
日本	新潟県	1-27	SRI01下層	底径6.6 底径10.0	長石・中・多・石英・中・多 長石・大・普・石英・大・普	内:10YR6/4底質 外:10YR7/3底質	アメツツ・ケメ・指押さ エ	指押さえ	直徑4.8	直徑4.8	直徑4.8
日本	新潟県	1-27	SRI01下層	底径7.6 底径8.5	墨石・大・普・石英・大・普 墨石・中・少・石英・中・少	内:10YR6/4に似る質感 外:10YR7/3に似る質感	ナデ・板押さえ ナデ・板押さえ	板ナデ・板押さえ 板ナデ・板押さえ	直徑4.8	直徑4.8	直徑4.8
日本	新潟県	1-27	SRI01下層	底径5.6 底径7.0	墨石・中・暗・石英・中・普 色粒子・小・少	内:10YR6/4に似る質感 外:10YR7/3に似る質感	アメツツ・ケメ・指押さ エ	指押さえ	直徑4.8	直徑4.8	直徑4.8
日本	新潟県	1-27	SRI01下層	底径7.6 底径6.6 底径6.1 底径7.3	墨石・大・普・石英・大・普 墨石・中・多・石英・中・普 墨石・中・少・石英・大・普 墨石・中・少・石英・中・少	内:10YR6/4に似る質 外:10YR7/3に似る質 内:10YR6/4に似る質 外:10YR7/3に似る質	板ナデ・ハイ・ガキ 板ナデ・ハイ・ガキ 板ナデ・ハイ・ガキ 板ナデ	板押さえ 板押さえ 板押さえ 板ナデ	直徑4.8 直徑3.8 直徑5.8 直徑4.8	直徑4.8 直徑3.8 直徑5.8 直徑4.8	直徑4.8 直徑3.8 直徑5.8 直徑4.8

地名 番号	成層 番号	地区名	総合資料番号	法量(m)	地土	色調	外観特徴	内面特徴	焼存量	形態上の特徴	備考
685	赤堀	1 - 27	SRH01下層	底5.6	底石・中・少、石英・小・少	内:10YR4/2底白 外:10YR4/4に少い黒鉛	滑押さえ後板ナデナデ ハクリ付押さえ・板ナ メ・マツリ	滑押さえ・板ナデ ハクリ付ミガキ	底板前作		
686 44	赤堀	1 - 27	SRH01下層	天井部3	基盤・中・少、石英・中・少 色斑子・小・少、その他の中・少	内:10YR4/4に少い黒鉛 外:10YR4/3に少い黒鉛	滑押さえ・板ナデ・ハラ ミガキ	滑押さえ・板ナデ・ハラ ミガキ	天井部前作		
687	赤堀	1 - 27	SRH01下層	底5.5	底石・中・少、石英・中・少、粉 色斑子・中・少	内:10YR7/2底黄 外:10YR7/3に少い黒鉛	ハラミガキ・マツリ マツリ	滑押さえ・板ナデ・ハラ ミガキ	滑押さえ・板ナデ ハラミガキ	天井部前作	滑押さえ・板ナデ・ハラ ミガキ
688 44	赤堀	1 - 27	SRH01下層	天井部3	基盤・中・多、石英・中・多、粉 色斑子・中・多	内:10YR4/2底黄 外:10YR4/3に少い黒鉛	滑押さえ・板ナデ・マツ リ	滑押さえ・板ナデ・マツ リ	天井部前作	天井部前作	滑押さえ・板ナデ・マツ リ
689	赤堀	1 - 27	SRH01下層	底5.9	基盤・中・少、石英・中・少、粉 色斑子・小・少	内:10YR4/2底白 外:10YR4/3に少い黒鉛	ハケメ・ナデ マツリ	マツリ・滑押さえ マツリ	底部5.8		
690	赤堀	1 - 27	SRH01下層	底6.4	基盤・大・少、石英・大・少 色斑子・大・少	内:10YR4/2底白 外:10YR4/3に少い黒鉛	ハラミガキ・マツリ マツリ	ハラミガキ・マツリ	天井部前作		
691	赤堀	1 - 27	SRH01下層	-	基盤・小・少、石英・少 色斑子・中・少	内:10YR4/2に少い黒鉛 外:10YR4/3に少い黒鉛	ハラミガキ・滑押さえ マツリ	ハラミガキ・滑押さえ マツリ	くびれ部前作		
692	赤鉢	1 - 27	SRH01下層	口径36	基盤・大・多、石英・大・多、粉 色斑子・中・多	内:10YR4/2底黄 外:10YR4/3底黄	滑押さえ後板ナデ・マツ リ	滑押さえ・板ナデ マツリ	口縁部7.8		
693	赤鉢	1 - 27	SRH01下層	口径25.0	基盤・中・少、石英・中・少 色斑子・中・少	内:10YR4/2に少い黒鉛 外:10YR4/3に少い黒鉛	ハラミガキ・板ナデ マツリ	ハラミガキ・板ナデ マツリ	周縁部7.8		
694	赤堀	1 - 26	SRH01下層	口径21.7	基盤・大・多、石英・大・多 色斑子・中・多	内:10YR4/2に少い黒鉛 外:10YR4/3に少い黒鉛	ハラミガキ・滑押さえ マツリ	ハラミガキ・滑押さえ マツリ	周縁部2.8		
695	赤堀	1 - 26	SRH01下層	口径17.8	基盤・中・少、石英・中・少 色斑子・中・少	内:10YR4/2に少い黒鉛 外:10YR4/3に少い黒鉛	ハラミガキ・滑押さえ マツリ	ハラミガキ・滑押さえ マツリ	周縁部小片	周縁部小片	周縁部小片
696	赤堀	1 - 26	SRH01下層	口径12.0	基盤・大・少、石英・大・少 色斑子・大・少	内:10YR4/2に少い黒鉛 外:10YR4/3に少い黒鉛	ハラミガキ・滑押さえ マツリ	ハラミガキ・滑押さえ マツリ	周縁部7.8		
697	赤堀	1 - 26	SRH01下層	口径10.7	基盤・大・少、石英・大・少 色斑子・大・少	内:10YR4/2に少い黒鉛 外:10YR4/3に少い黒鉛	ハラミガキ・滑押さえ マツリ	ハラミガキ・滑押さえ マツリ	周縁部2.8		
698	赤堀	1 - 26	SRH01下層	口径8.2	基盤・大・少、石英・大・少 色斑子・大・少	内:10YR4/2に少い黒鉛 外:10YR4/3に少い黒鉛	ハラミガキ・滑押さえ マツリ	ハラミガキ・滑押さえ マツリ	周縁部7.8		
699	赤堀	1 - 26	SRH01下層	口径6.0	基盤・大・少、石英・大・少 色斑子・大・少	内:10YR4/2に少い黒鉛 外:10YR4/3に少い黒鉛	滑押さえ・板ナデ	滑押さえ・板ナデ	周縁部小片		
700	赤堀	1 - 26	SRH01下層	口径5.7	基盤・大・少、石英・大・少 色斑子・大・少	内:10YR4/2底食塩 外:10YR4/3底食塩	ハラミガキ・板ナデ・ハクリ	ハラミガキ・板ナデ	周縁部3.8		
701	赤堀	1 - 26	SRH01下層	-	基盤・大・少、石英・大・少	内:10YR7/3底黄 外:10YR4/3に少い黒鉛	ハクリ	ハクリ	周縁部2.8		
702	赤堀	1 - 26	SRH01下層	口径5.7	基盤・中・少、石英・大・多、粉 色斑子・中・少	内:10YR4/2に少い黒鉛 外:10YR4/3に少い黒鉛	ハラミガキ・マツリ・ナ テ	ハラミガキ・マツリ・ナ テ	周縁部2.8		
703 45	赤堀	1 - 26	SRH01下層	底部6.4	基盤・中・少、石英・中・少 色斑子・中・少	内:10YR4/2に少い黒鉛 外:10YR4/3に少い黒鉛	滑押さえ マツリ	滑押さえ マツリ	周縁部2.8	周縁部2.8	周縁部2.8
704	赤堀	1 - 26	SRH01下層	-	基盤・中・少、石英・中・少 色斑子・小・少、その他の中・少	内:10YR4/2底黄 外:10YR4/3底黄	ハケメ・マツリ	ハケメ・マツリ	周縁部3.8		
705	赤堀	1 - 26	SRH01下層	-	基盤・小・少、石英・小・少 色斑子・小・少	内:10YR4/2底黄 外:10YR4/3底黄	ハラミガキ	ハラミガキ	周縁部小片		
706 45	赤堀	1 - 26	SRH01下層	口径15.2	基盤・中・少、石英・中・少 色斑子・中・少	内:10YR4/2に少い黒鉛 外:10YR4/3に少い黒鉛	ナデナデ・板ナデ像	ナデナデ・板ナデ像	周縁部7.8	周縁部7.8	周縁部7.8
707	赤堀	1 - 26	SRH01下層	-	基盤・小・少、石英・中・少、その他の中・少	内:10YR4/2に少い黒鉛 外:10YR4/3に少い黒鉛	滑押さえ後板ナデ	滑押さえ後板ナデ	周縁部2.8	周縁部2.8	周縁部2.8

固有 編番 号	基盤	地区名	報告書番号	法量(cm)	地土	色調	外觀特徴	内面特徴	操作量	形態上の特徴	備考
708 45 沢・堀	I - 26	SRH01下層	口径17.8	長石・小・中・石英・小・少 色柱子・小・少	内外:2.6YR6/0灰質 内:10YR6/3に少い黒斑 外:10YR7/3に少い黒斑	ナデ・指揮さえ ハタケメテナ	指揮さえ黒ハケメテナ	口縁壁2/8	壁:ヘ9/2(2m)+a		
709 45 沢・堀	I - 26	SRH01下層	-	長石・大・中・少 色柱子・小・少	ナ・ナ・ナ・ナ	ナ・ナ・ナ・ナ	指揮さえ黒ナ・ナ・ナ・ナ	壁:ヘ9/6(3m)			
710 45 沢・堀	I - 26	SRH01下層	底径1	長石・中・多・石英・中・少 色柱子・小・少	内:10YR6/3に少い黒斑 外:10YR6/4に少い黒斑 内:10YR7/3に少い黒斑 外:10YR7/3に少い黒斑	ナ・ナ・ナ・ナ	指揮さえ黒ナ・ナ・ナ・ナ	壁:ヘ2/2(2m)			
711 45 沢・堀	I - 26	SRH01下層	口径16.1	長石・小・少・石英・少 色柱子・小・少	ナ・ナ・ナ・ナ	ナ・ナ・ナ・ナ	指揮さえ黒ナ・ナ・ナ・ナ	壁:ヘ2/1(2m)			
712 沢・堀	I - 26	SRH01下層	-	長石・中・多・石英・中・少 色柱子・小・少	内外:10YR6/6に少い黒斑 内:10YR6/3に少い黒斑 外:10YR6/4に少い黒斑	ナ・ナ・ナ・ナ	ナ・ナ・ナ・ナ	壁:ヘ2/5	壁:ヘ2/5		
713 沢・堀	I - 26	SRH01下層	-	長石・小・少・石英・小・少 色柱子・小・少	ナ・ナ・ナ・ナ	ナ・ナ・ナ・ナ	ナ・ナ・ナ・ナ	壁:ヘ2/1(2m)			
714 沢・堀	I - 26	SRH01下層	-	長石・中・多・石英・中・少 色柱子・小・少	内:2.5YR6/3に少い黒斑 外:2.5YR7/3に少い黒斑 内:2.5YR6/3に少い黒斑 外:2.5YR7/3に少い黒斑	ナ・ナ・ナ・ナ	ナ・ナ・ナ・ナ	壁:ヘ2/1(2m)	壁:ヘ2/1(2m)		
715 45 沢・堀	I - 26	SRH01下層	-	長石・中・多・石英・中・少 色柱子・小・少	内外:10YR6/2灰質 板ナ	板ナ	板ナ	板部小片	板:ヘ2/1(2m)		
716 沢・堀	I - 26	SRH01下層	-	長石・中・多・石英・中・少 色柱子・小・少	内:2.5YR6/3灰質 外:2.5YR7/3灰質	指揮さえ	マツツ	壁:ヘ2/1(2m)	壁:ヘ2/1(2m)		
717 45 沢・堀	I - 26	SRH01下層	口径23.0	長石・大・多・石英・中・少 色柱子・中・少	内:2.5YR6/3に少い黒斑 外:2.5YR7/3に少い黒斑 内:2.5YR6/3に少い黒斑 外:2.5YR7/3に少い黒斑	マツツ	ナ・ナ・マツツ	口縁部1/8	口:ヘ2/1(2m)		
718 沢・堀	I - 26	SRH01下層	口径21.1	長石・中・少・石英・中・少 色柱子・中・少	内:2.5YR6/3に少い黒斑 外:10YR6/3に少い黒斑 内:2.5YR6/3に少い黒斑 外:10YR6/3に少い黒斑	ナ・ナ・指揮さえ・ハタケ ナ・ナ・ナ・ナ	ナ・ナ・指揮さえ・ハタケ ナ・ナ・ナ・ナ	口縁部1/8	口:ヘ2/1(2m)		
719 沢・堀	I - 26	SRH01下層	-	長石・中・少・石英・中・少 色柱子・中・少	内:2.5YR6/3に少い黒斑 外:10YR6/3に少い黒斑 内:2.5YR6/3に少い黒斑 外:10YR6/3に少い黒斑	ナ・ナ・ナ・ナ	ナ・ナ・ナ・ナ	口縁部1/8	口:ヘ2/1(2m)		
720 沢・堀	I - 26	SRH01下層	口径29.0	長石・小・多・石英・小・少 色柱子・小・少	内:2.5YR6/2灰質 外:2.5YR7/2灰質	指揮さえ・板ナ	指揮さえ	口縁部2/8	口:ヘ2/1(2m)		
721 45 沢・堀	I - 26	SRH01下層	口径28.6	長石・中・多・石英・中・少 色柱子・小・少	内:2.5YR6/3に少い黒斑 外:10YR6/3に少い黒斑 内:2.5YR6/3に少い黒斑 外:10YR6/3に少い黒斑	ハクリ ナ・ナ・ナ・ナ	ナ・ナ・ナ・ナ	口縁部小片	口:ヘ2/1(2m)		
722 45 沢・堀	I - 26	SRH01下層	-	長石・大・中・少・石英・大・少 色柱子・小・少	内:2.5YR6/3に少い黒斑 外:10YR6/3に少い黒斑 内:2.5YR6/3に少い黒斑 外:10YR6/3に少い黒斑	ナ・ナ・ナ・ナ	ナ・ナ・ナ・ナ	口縁部小片	口:ヘ2/1(2m)		
723 沢・堀	I - 26	SRH01下層	口径20.8	長石・中・多・石英・中・少 色柱子・小・少	内外:10YR6/6に少い黒斑 内:10YR6/3に少い黒斑 外:10YR6/3に少い黒斑 内:10YR6/3に少い黒斑 外:10YR6/3に少い黒斑	指揮さえ・ナ・ナ ナ・ナ・ナ・ナ	指揮さえ・ナ・ナ ナ・ナ・ナ・ナ	口縁部小片	口:ヘ2/1(2m)		
724 沢・堀	I - 26	SRH01下層	-	長石・中・少・石英・中・少 色柱子・小・少	内外:10YR6/3に少い黒斑 内:10YR6/3に少い黒斑 外:10YR6/3に少い黒斑 内:10YR6/3に少い黒斑 外:10YR6/3に少い黒斑	ナ・ナ・ナ・ナ	ナ・ナ・ナ・ナ	口縁部小片	口:ヘ2/1(2m)		
725 沢・堀	I - 26	SRH01下層	-	長石・中・少・石英・中・少 色柱子・小・少	内外:10YR6/3に少い黒斑 内:10YR6/3に少い黒斑 外:10YR6/3に少い黒斑 内:10YR6/3に少い黒斑 外:10YR6/3に少い黒斑	ナ・ナ・ナ・ナ	ナ・ナ・ナ・ナ	口縁部小片	口:ヘ2/1(2m)		

図 版 番 号	地 名	総 面 積 (m <sup>2</sup> )	緑 地 率	施 土	色 調	外 面 面 積	内 面 面 積	残 存 量	形 態 上の特 徴	備 考
726	赤・黒	1 - 26	SRK01下層	口径8.4	長石・小・多、石英・小・多	内:10YR2/2底質明 外:2.5YR4/4にぶい黄 基盤石・多、石英・中・多、赤 色斑子・小・少	指揮さえ・ナデ	指揮さえ・マツツ ナデ・ハケメ・マツツ	口端部1/6 ナデ・指揮さえ後へラミ ナデ・ハケメ・ナデ・指 ナキ	口:カラリ(3本)(m) 口:カラリ(2本)(m)
727	赤・黒	1 - 26	SRK01下層	口径8.6	長石・中・多、石英・中・多、赤 色斑子・小・少	内:2.5YR2/2底質明 外:2.5YR6/3にぶい黄 基盤石・中・多、石英・中・少	ナデ・指揮さえ後へラミ ナデ・ハケメ・マツツ	口端部1/6 ナデ・指揮さえ後へラミ ナデ・ハケメ・ナデ・指 ナデ	口:カラリ(2本)(m) 口:カラリ(2本)(m)	
728	赤・黒	1 - 26	SRK01下層	-	長石・中・少、石英・中・少	内:2.5YR5/5底質 外:2.5YR6/3にぶい黄	ハケメ	ハケメ・ナデ・指 ナデ	口端部1/6 ナデ・指揮さえ後へラミ ナデ・ハケメ・ナデ・指 ナデ	口:カラリ(2本)(m) 口:カラリ(2本)(m)
729	赤・黒	1 - 26	SRK01下層	-	長石・中・少、石英・中・少	内:10YR6/3にぶい黄 基盤石・中・少、石英・中・少	ナデ・指揮さえ・ハケメ ナデ・指揮さえ	ナデ・指 ナデ	口端部1/6 ナデ・指 ナデ	口:カラリ(2本)(m) 口:カラリ(2本)(m)
730	赤・黒	1 - 26	SRK01下層	口径26.6	長石・小・多、石英・小・多、赤 色斑子・中・多	内:2.5YR6/3にぶい黄 外:10YR2/2にぶい黄 基盤石・中・多、石英・中・多、赤 色斑子・中・多	ナデ・指 ナデ・指 ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ・指 ナデ・指 ナデ・ハケメ	ナデ・指 ナデ・指 ナデ・ハケメ	口端部1/6 ナデ・指 ナデ・ハケメ
731	赤・黒	1 - 26	SRK01下層	口径23.6	長石・中・多、石英・中・多、赤 色斑子・小・少	内:2.5YR6/3にぶい黄 外:10YR4/4にぶい黄 基盤石・中・多、石英・中・多、赤 色斑子・小・少	ナデ・ハケメ ナデ・指 ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ・指 ナデ・指 ナデ・ハケメ	ナデ・指 ナデ・指 ナデ・ハケメ	口端部1/6 ナデ・指 ナデ・ハケメ
732	赤・黒	1 - 26	SRK01下層	口径26.6	長石・小・多、石英・小・少、赤 色斑子・小・少	内:10YR6/3にぶい黄 基盤石・中・少、石英・中・少、赤 色斑子・小・少	ナデ・ハケメ ナデ・指 ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ ナデ・指 ナデ・ハケメ	ナデ・指 ナデ・指 ナデ・ハケメ	口端部1/6 ナデ・指 ナデ・ハケメ
733	赤・黒	1 - 26	SRK01下層	-	長石・中・少、石英・中・少	内:10YR6/3にぶい黄 基盤石・中・少、石英・大・量、赤 色斑子・小・少	ナデ・ハケメ ナデ・指 ナデ・ハケメ	ナデ・指 ナデ・指 ナデ・ハケメ	ナデ・指 ナデ・指 ナデ・ハケメ	口端部1/6 ナデ・指 ナデ・ハケメ
734	赤・黒	1 - 26	SRK01下層	口径19.8	長石・中・多、石英・大・量、赤 色斑子・小・少	内:10YR6/3にぶい黄 外:2.5YR5/5底質 基盤石・中・多、石英・大・量、赤 色斑子・小・少	ナデ・マツツ・ハラミガ ナデ・指 ナデ・マツツ・ハラミガ	ナデ・指 ナデ・指 ナデ・ハラミガ	口端部1/6 ナデ・指 ナデ・ハラミガ	口端部1/6 ナデ・指 ナデ・ハラミガ
735	赤・黒	1 - 26	SRK01下層	口径21.0	長石・中・少、石英・中・少、赤 色斑子・小・少	内:10YR6/3にぶい黄 外:2.5YR5/5底質 基盤石・中・少、石英・中・少、赤 色斑子・小・少	ナデ・マツツ・ハラミガ ナデ・指 ナデ・マツツ・ハラミガ	ナデ・指 ナデ・指 ナデ・ハラミガ	口端部1/6 ナデ・指 ナデ・ハラミガ	口端部1/6 ナデ・指 ナデ・ハラミガ
736	赤・黒	1 - 26	SRK01下層	口径55.2	長石・中・多、石英・中・多、赤 色斑子・小・少	内:10YR2/2底質 外:2.5YR5/5底質 基盤石・中・多、石英・中・多、赤 色斑子・小・少	ナデ・マツツ・ハラミガ ナデ・指 ナデ・マツツ・ハラミガ	ナデ・指 ナデ・指 ナデ・ハラミガ	口端部1/6 ナデ・指 ナデ・ハラミガ	口端部1/6 ナデ・指 ナデ・ハラミガ
737	赤・黒	1 - 26	SRK01下層	口径16.4	長石・大・量、石英・大・量、赤 色斑子・中・少	内:2.5YR6/3にぶい黄 外:2.5YR7/7底質 基盤石・中・少、石英・大・量、赤 色斑子・中・少	ナデ・マツツ・ハラミガ ナデ・指 ナデ・マツツ・ハラミガ	ナデ・指 ナデ・指 ナデ・ハラミガ	口端部1/6 ナデ・指 ナデ・ハラミガ	口端部1/6 ナデ・指 ナデ・ハラミガ
738	赤・黒	1 - 26	SRK01下層	口径26.0	長石・小・少、石英・小・少、赤 色斑子・小・少	内:10YR6/3底質 外:2.5YR6/3底質 基盤石・中・少、石英・大・量、赤 色斑子・小・少	ナデ・指 ナデ・指 ナデ・ハケメ	ナデ・指 ナデ・指 ナデ・ハケメ	口端部1/6 ナデ・指 ナデ・指 ナデ・ハケメ	口端部1/6 ナデ・指 ナデ・指 ナデ・ハケメ
739	赤・黒	1 - 26	SRK01下層	口径21.0	長石・大・少、石英・大・少	内:2.5YR6/3にぶい黄 外:2.5YR6/3底質 基盤石・中・少、石英・大・少、赤 色斑子・中・少	ナデ・指 ナデ・指 ナデ・ハケメ	ナデ・指 ナデ・指 ナデ・ハケメ	口端部1/6 ナデ・指 ナデ・指 ナデ・ハケメ	口端部1/6 ナデ・指 ナデ・指 ナデ・ハケメ
740	赤・黒	1 - 26	SRK01下層	口径14.4	長石・中・量、石英・中・量 色斑子・小・少	内:10YR6/3にぶい黄 外:10YR6/3底質 基盤石・中・少、石英・大・量、赤 色斑子・小・少	ナデ・指 ナデ・指 ナデ・ハケメ	ナデ・指 ナデ・指 ナデ・ハケメ	口端部1/6 ナデ・指 ナデ・指 ナデ・ハケメ	口端部1/6 ナデ・指 ナデ・指 ナデ・ハケメ
741	赤・黒	1 - 26	SRK01下層	-	長石・大・多、石英・大・多、赤 色斑子・小・少	内:2.5YR4/4底質 外:2.5YR6/3底質 基盤石・中・少、石英・大・多、赤 色斑子・小・少	ナデ	ナデ・指 ナデ・指 ナデ	ナデ・指 ナデ・指 ナデ	口端部1/6 ナデ・指 ナデ・指 ナデ
742	赤・黒	1 - 26	SRK01下層	-	長石・中・量、石英・中・量、赤 色斑子・中・少	内:10YR2/2底質 外:10YR4/4底質 基盤石・中・少、石英・中・量、赤 色斑子・中・少	ナデ・指 ナデ・指 ナデ・ハケメ・ナデ後根 ナデ・指 ナデ・指 ナデ・ハケメ	ナデ・指 ナデ・指 ナデ・ハケメ・ナデ後根 ナデ・指 ナデ・指 ナデ・ハケメ	口端部1/6 ナデ・指 ナデ・指 ナデ・ハケメ・ナデ後根 ナデ・指 ナデ・指 ナデ・ハケメ	口端部1/6 ナデ・指 ナデ・指 ナデ・ハケメ・ナデ後根 ナデ・指 ナデ・指 ナデ・ハケメ
743	赤・黒	1 - 26	SRK01下層	-	長石・大・多、石英・大・多、赤 色斑子・中・量	内:2.5YR6/3にぶい黄 外:2.5YR7/7底質 基盤石・中・少、石英・大・多、赤 色斑子・中・量	ナデ	ナデ	ナデ・指 ナデ	口端部1/6 ナデ・指 ナデ・指 ナデ・ハラミガ
744	赤・黒	1 - 26	SRK01下層	口径20.6	長石・小・量、石英・小・量、赤 色斑子・中・少	内:2.5YR6/3底質 外:10YR4/4にぶい黄 基盤石・中・少、石英・小・量、赤 色斑子・中・少	ナデ・指 ナデ・指 ナデ	ナデ・指 ナデ・指 ナデ	口端部1/6 ナデ・指 ナデ・指 ナデ・ハラミガ	口端部1/6 ナデ・指 ナデ・指 ナデ・ハラミガ

地文 編 番 号	地 理 位 置	地 區 名	報告書番 号	法 量 (m)	地 土	色 調	外 面 形 態	内 面 形 態	深 度	形 狀 の 特 徴	備 考
745	赤堀	1 - 26	SRH01下層	-	長石・中・長・石英・大・基・赤 色斑子・小・少	内外: 2.5/7/25反対 外: 10/7R3に近い黄褐色	ナデ・ハクリ	口溶影小片 文へラ3(本/cm) + α			
746	赤堀	1 - 26	SRH01下層	口徑50.0	長石・中・長・石英・大・基・赤 色斑子・中・少	内外: 10/7R3に近い黄褐色 外: 10/7R3に近い黄褐色	ナデ・ハラ削り・マツ キアマツ	口溶影小片 文へラ4(本/cm)			
747	赤堀	1 - 26	SRH01下層	-	長石・中・長・石英・中・基	ナデ・ハラ削り・マツ キアマツ	指押さえ ナデ・ハラ削り・マツ	口溶影小片 文へラ4(本/cm)			
748	赤堀	1 - 26	SRH01下層	口徑18.5	長石・中・少・石英・中・少	内外: 2.5/7/25反対 外: 10/7R3に近い黄褐色	指押さえ・ハラミガキ ナデ・滑ナデ	口溶影小片 文へラ4(3本/cm)			
749	赤堀	1 - 26	SRH01下層	口徑18.2	長石・中・長・石英・中・基・そ の他の色斑子・小・少	内外: 10/7R3に近い黄褐色 外: 10/7R3に近い黄褐色	ナデ・ハラ削り・ハクス快 ハラミガキ	口溶影小片 文へラ5(2本/cm)			
750	赤堀	1 - 26	SRH01下層	口徑19.0	長石・中・長・石英・中・長・赤 色斑子・小・少	ナデ	ナデ	口溶影小片 文へラ7(3本/cm) + α			
751	赤堀	1 - 26	SRH01下層	口徑18.2	長石・中・長・石英・中・基	内外: 10/7R3に近い黄褐色 外: 10/7R3に近い黄褐色	指押さえ・マツメハク ナデ	口溶影小片 文へラ11(3本/cm)			
752	赤堀	1 - 26N	SRH01下層	口徑22.0	長石・中・長・石英・中・長・赤 色斑子・小・少	ナデ・マツ	ナデ・板ナデ	口溶影1/8 文へラ11(4本/cm)			
753	赤堀	1 - 26	SRH01下層	口徑25.5	長石・大・基・石英・大・基	内外: 2.5/7/25反対 外: 10/7R3に近い黄褐色	ナデ・ハラ削り・マツ キアキ	口溶影小片 文へラ11(3本/cm)			
754	赤堀	1 - 26	SRH01下層	口徑16.8	長石・中・少・石英・中・少・基 色斑子・小・少	内外: 2.5/7/25反対 外: 10/7R3に近い黄褐色	ナデ・ハラ削り・ハラミ ガキ	口溶影1/8 文へラ14(4本/cm) + α			
755	赤堀	1 - 26	SRH01下層	口徑20.0	長石・中・少・石英・中・少・基 色斑子・中・少・石英・中・少・基	ナデ・ハラ削り・マツ キアキ	ナデ・滑押さえ・板ナデ	口溶影小片 文へラ9(3本/cm)			
756	赤堀	1 - 26	SRH01下層	口徑16.4	長石・中・少・石英・大・基 色斑子・小・少	内外: 2.5/7/25反対 外: 10/7R3に近い黄褐色	ヨコナデ・板ナデ	口溶影小片 文へラ14(4本/cm)			
757	赤堀	1 - 26	SRH01下層	-	長石・大・基・石英・大・基	ナデ・ハラ削り・マツ キアキ	ナデ・滑押さえ ナデ・マツ	口溶影小片 文へラ14(4本/cm) + α ナデ・滑押さえ・板ナデ ナデ・マツ			
758	赤堀	1 - 26	SRH01下層	口徑26.3	長石・中・長・石英・中・基	内外: 2.5/7/25反対 外: 2.5/7/25反対	ハクリ	口溶影小片 文へラ14(4本/cm)			
759	赤堀	1 - 26	SRH01下層	口徑22.0	長石・中・少・石英・中・少・基 色斑子・小・少	内外: 10/7R3に近い黄褐色 外: 10/7R3に近い黄褐色	ナデ・滑押さえ ナデ・ハラ削り・板ナデ	口溶影小片 文へラ4(5本/cm) + α			
760	赤堀	1 - 26	SRH01下層	口徑26.0	長石・中・基・石英・中・基	ナデ・マツ	ナデ・マツ	口溶影小片 文へラ14(4本/cm) + α			
761	赤堀	1 - 26	SRH01下層	-	長石・中・基・石英・中・基	ナデ・滑押さえ・板ナデ	口溶影小片 文へラ14(4本/cm) + α				

固有文書番号	地名	地区名	報告標識番号	法量(m)	地土	色調	外観調整	内面調整	残存量	形態上の特徴	備考
762	赤堀	I - 26	SR001下層	口径19.9 口径17.7	長石・中・普 長石・中・多	外:2.57m/底板 外:2.57m/底板	ナデ	ナデ・ヘラミガキ	口端部1/8 口端部1/8	口:泡立形 文:幅11.5cm(2cm) + e	
763	赤堀	I - 26	SR001下層	口径16.6 口径17.7	長石・中・多 長石・小・普	内:10YR7/3に少い黒斑 内:10YR7/2に少い黒斑	ナデ	ナデ・板ナデ	口端部小片	口:泡立形 文:幅12(4本)cm + e	
764	赤堀	I - 26	SR001下層	口径17.6 口径17.8	長石・小・普 長石・小・普	内:2.57m/底板 内:10YR7/2に少い黒斑	削除され、ナデ	ナデ・ヘラミガキ	口端部小片	泡立形 文:幅11.5cm(2cm) + e	
765	赤堀	I - 26	SR001下層	-	長石・小・普 長石・小・普	内外:10YR6/5に少い黒斑 外:10YR6/5に少い黒斑	ナデ	相押さえ・ヘラミガキ	体割り8	文:幅2(5本)cm(8cm) + e	
766	赤堀	I - 26	SR001下層	底径10.0 底径7.7	長石・小・少 長石・小・少	内:2.57m/底板 内:2.57m/底板	ナデ・メ・ナデ	ナデ・相押さえ・メツ	体割り8	文:円形平	
767	赤堀	I - 26	SR001下層	底径11.9 底径11.9	長石・大・普 長石・大・普	内外:2.57m/底板 外:2.57m/底板	ナデ・板ナデ	ナデ・ヘラミガキ・相押 さえ	体割り8	文:円形平	
768	赤堀	I - 26	SR001下層	底径15.0 底径15.0	長石・大・少 長石・大・少	内:10YR6/5に少い黒斑 内:10YR6/5に少い黒斑	ナデ・ヘラミガキ・ナデ	ナデ	底面38		
769	赤堀	I - 26	SR001下層	底径9.3 底径8.6	長石・中・多 長石・中・少	内:2.57m/底板 外:2.57m/底板	ナデ・ヘラミガキ・相押さえ (マツツ)	ナデナデ(マ ツツ)	底面38		
770	赤堀	I - 26	SR001下層	底径8.6 底径8.6	長石・大・多 長石・大・少	内:10YR6/5に少い黒斑 内:2.57m/底板	ナデ・ヘラミガキ	板ナデ	底面38		
771	赤堀	I - 26	SR001下層	底径8.0 底径8.6	長石・大・少 長石・中・少	内外:2.57m/底板 外:2.57m/底板	ナデ・ヘラミガキ・ナデ	ナデ・ヘラミガキ	底面38		
772	赤堀	I - 26	SR001下層	底径8.6 底径8.6	長石・中・少 長石・中・少	内:2.57m/底板 外:2.57m/底板	ナデ・メ・相押さえ	ナデ・相押さえ	底面48		
773	赤堀	I - 26	SR001下層	底径8.6 底径8.6	長石・中・少 長石・中・少	内:10YR6/5に少い黒斑 内:10YR7/3に少い黒斑	ナデ・メ・ナデ	相押さえ・ハケメ	底面38		
774	赤堀	I - 26	SR001下層	底径6.0 底径10.1	長石・小・少 長石・中・少	内:2.57m/底板 内:10YR7/3に少い黒斑	板ナデ	板ナデ	底面38		
775	赤堀	I - 26	SR001下層	底径10.1 底径10.6	長石・大・多 長石・大・少	内:10YR7/3に少い黒斑 内:10YR7/4に少い黒斑	ナデナデ・アツナナ	マツツ	底面38		
776	赤堀	I - 26	SR001下層	底径10.4 底径7.1	長石・中・普 長石・中・普	内外:2.57m/底板 外:2.57m/底板	ナデ・ヘラミガキ・ナ ナ	ナデ・ヘラミガキ・板ナデ	底面38		
777	赤堀	I - 26	SR001下層	底径10.5 底径10.0	長石・大・普 長石・中・少	内:2.57m/底板 外:2.57m/底板	ナデナデ・ナデ	ナデ・ヘラミガキ	底面38		
778	赤堀	I - 26	SR001下層	底径10.0 底径10.6	長石・中・普 長石・中・少	内:10YR6/5に少い黒斑 外:10YR6/5に少い黒斑	ナデ・ヘラミガキ・ナ・デ・マ メ	板ナデ・相押さえ	底面48		
779	赤堀	I - 26	SR001下層	底径7.1 底径7.1	長石・中・普 長石・中・普	内:2.57m/底板 外:2.57m/底板	ナデ・相押さえ・ナ・デ	相押さえ・板ナデ	底面38		
780	赤堀	I - 26	SR001下層	-	-	内:2.57m/底板 外:2.57m/底板	相押さえ	相押さえ	底面38		

地文 等 級	地名	地区名	編年地質番号	法面(m)	露土	色調	外面露頭	内面露頭	洗浄量	形態上の特徴	備考
761	赤・黒部	I - 26	SPR01下層	底標高9.0	長石+大・中・小・細 色鉱子・小・少	赤・石英・大・中・細 色鉱子・中・少・石英・その他・岩 塊	内: 10YR7/3-5-3-5-3-5-3-5 外: 10YR7/4-5-5-5-5-5-5-5-5 の黄褐色 長石+中・少・石英・その他・岩 塊	板ナデ・板押さえ マツツ	底標高8.6		
762	赤・黒部	I - 26	SPR01下層	底標高7.0	長石+大・中・少・石英・その他・岩 塊	赤・石英・中・少・石英・その他・岩 塊	内: 10YR7/4-5-5-5-5-5-5-5-5 外: 10YR7/3-5-5-5-5-5-5-5-5 の黄褐色 長石+大・中・少・石英・その他・岩 塊	板ナデ・板押さえ マツツ	底標高8.6		
763	赤・黒部	I - 26	SPR01下層	底標高6.9	長石+大・中・少	赤・石英・中・少・石英・その他・岩 塊	内: 10YR7/5-5-5-5-5-5-5-5-5 外: 10YR7/3-5-5-5-5-5-5-5-5 の黄褐色 長石+中・少・石英・中・少・そ の他	板ナデ・板押さえ マツツ	底標高8.6		
764	赤・黒部	I - 26	SPR01下層	底標高6.3	長石+中・少・石英・中・少・そ の他	赤・石英・中・少・石英・大・中 色鉱子・大・中・少	内: 2.5Y6/5-5-5 外: 2.5Y7/5-5-5-5-5-5-5-5-5 の黄褐色 長石+大・中・少・石英・大・中	板ナデ・板押さえ マツツ	底標高8.6		
765	赤・黒部	I - 26	SPR01下層	底標高6.9	長石+中・少・石英・中・少・岩 塊	赤・石英・中・少・石英・大・中 色鉱子・大・中・少	内: 2.5Y6/5-5-5 外: 2.5Y7/5-5-5-5-5-5-5-5-5 の黄褐色 長石+大・中・少・石英・大・中	板ナデ・板押さえ マツツ	底標高8.6		
766	赤・黒部	I - 26	SPR01下層	底標高7.4	長石+中・少・石英・中・少・岩 塊	赤・石英・中・少・石英・大・中 色鉱子・大・中・少	内: 10YR7/5-5-5-5-5-5-5-5 外: 10YR7/3-5-5-5-5-5-5-5-5 の黄褐色 長石+中・少・石英・大・中	板ナデ・板押さえ マツツ	底標高8.6		
767	赤・黒部	I - 26	SPR01下層	底標高7.9	長石+中・少・石英・大・中 色鉱子・大・中・少	赤・石英・中・少・石英・大・中 色鉱子・大・中・少	内: 2.5Y6/5-5-5-5 外: 2.5Y7/5-5-5-5-5-5-5-5-5 の黄褐色 長石+中・少・石英・大・中	板ナデ・板押さえ マツツ	底標高8.6		
768	赤・黒部	I - 26	SPR01下層	底標高6.6	長石+中・少・石英・大・中 色鉱子・大・中・少	赤・石英・中・少・石英・大・中 色鉱子・大・中・少	内: 2.5Y7/3-5-5-5-5-5-5-5 外: 2.5Y7/4-5-5-5-5-5-5-5-5 の黄褐色 長石+中・少・石英・大・中	板ナデ・板押さえ マツツ	底標高8.6		
769	赤・黒部	I - 26	SPR01下層	底標高6.6	長石+中・少・石英・大・中 色鉱子・大・中・少	赤・石英・中・少・石英・大・中 色鉱子・大・中・少	内: 2.5Y7/2-5-5-5-5-5-5-5 外: 2.5Y7/3-5-5-5-5-5-5-5-5 の黄褐色 長石+中・少・石英・大・中	板ナデ・板押さえ マツツ	底標高8.6		
770	赤・黒部	I - 26	SPR01下層	底標高6.5	長石+中・少・石英・大・中 色鉱子・大・中・少	赤・石英・中・少・石英・大・中 色鉱子・大・中・少	内: 2.5Y7/3-5-5-5-5-5-5-5 外: 2.5Y7/4-5-5-5-5-5-5-5-5 の黄褐色 長石+中・少・石英・大・中	板ナデ・板押さえ マツツ	底標高8.6		
771	赤・黒部	I - 26	SPR01下層	底標高7.7	長石+中・少	赤・石英・中・少	内: 2.5Y7/2-5-5-5-5-5-5-5 外: 2.5Y7/3-5-5-5-5-5-5-5-5 の黄褐色 長石+中・少	板ナデ・板押さえ マツツ	底標高8.6		
772	赤・黒部	I - 26	SPR01下層	底標高6.2	長石+中・少・石英・中・少	赤・石英・中・少・石英・大・中 色鉱子・中・少	内: 10YR7/3-5-5-5-5-5-5-5 外: 10YR7/2-5-5-5-5-5-5-5-5 の黄褐色 長石+中・少・石英・大・中	板ナデ・板押さえ・ハク マツツ	底標高8.6		
773	赤・黒部	I - 26	SPR01下層	底標高6.4	長石+中・少・石英・中・少	赤・石英・中・少・石英・大・中 色鉱子・中・少	内: 10YR7/3-5-5-5-5-5-5-5 外: 10YR7/2-5-5-5-5-5-5-5-5 の黄褐色 長石+中・少・石英・大・中	板ナデ・板押さえ・ハク マツツ	底標高8.6		
774	赤・黒部	I - 26	SPR01下層	底標高6.5	長石+中・少・石英・中・少	赤・石英・中・少・石英・大・中 色鉱子・中・少	内: 10YR7/3-5-5-5-5-5-5-5 外: 10YR7/2-5-5-5-5-5-5-5-5 の黄褐色 長石+中・少・石英・大・中	板ナデ・板押さえ・ハク マツツ	底標高8.6		
775	赤・黒部	I - 26	SPR01下層	底標高6.9	長石+中・少・石英・中・少	赤・石英・中・少・石英・大・中 色鉱子・中・少	内: 10YR7/3-5-5-5-5-5-5-5 外: 10YR7/2-5-5-5-5-5-5-5-5 の黄褐色 長石+中・少・石英・大・中	板ナデ・板押さえ・ハク マツツ	底標高8.6		
776	赤・黒部	I - 26	SPR01下層	底標高6.2	長石+中・少・石英・大・中 色鉱子・中・少	赤・石英・中・少・石英・大・中 色鉱子・中・少	内: 10YR7/3-5-5-5-5-5-5-5 外: 10YR7/2-5-5-5-5-5-5-5-5 の黄褐色 長石+中・少・石英・大・中	板ナデ・板押さえ・ハク マツツ	底標高8.6		
777	赤・黒部	I - 26	SPR01下層	底標高6.4	長石+中・少・石英・中・少	赤・石英・中・少・石英・大・中 色鉱子・中・少	内: 2.5Y7/2-5-5-5-5-5-5-5 外: 2.5Y7/3-5-5-5-5-5-5-5-5-5 の黄褐色 長石+中・少・石英・大・中	板ナデ	天井部4.8		
778	赤・黒部	I - 26	SPR01下層	-	長石+大・中・少	長石+中・大・中・少	内: 10YR7/3-5-5-5-5-5-5-5 外: 10YR7/3-5-5-5-5-5-5-5-5-5 の黄褐色 長石+中・大・中・少	マツツ	天井部7.8		
779	赤・黒部	I - 26	SPR01下層	底標高6.4	長石+中・少・石英・中・少	長石+中・少・石英・大・中 色鉱子・中・少・石英・大・中	内: 10YR7/3-5-5-5-5-5-5-5 外: 10YR7/3-5-5-5-5-5-5-5-5-5 の黄褐色 長石+中・少・石英・大・中	マツツ	天井部7.8	ヘミガキ えき	
780	赤・黒部	I - 26	SPR01下層	底標高6.4	長石+中・少	長石+中・少・石英・大・中 色鉱子・中・少	内: 2.5Y7/2-5-5-5-5-5-5-5 外: 2.5Y7/3-5-5-5-5-5-5-5-5-5-5 の黄褐色 長石+中・少	板押さえ・板ナデ	天井部8.6		

管文版 番号	地名	報告者番号	法量(m)	地土	色調	外観風景	内面風景	既存量	形地上の特徴	備考
801 47 東・西	I - 26	SR01その他	天井舟/4	長石・中・多・石英・中・多 長石・小・多・石英・小・少 長石・小・多・石英・小・少	内:10YR8/3に多い黄緑 内外:2.5Y6/2灰黒	マツ・ハミガキ・板 滑押さえ・板ナダ	天井舟/2面4ヶ所	天井舟/2面4ヶ所	天井舟/2面4ヶ所	
802 東・西	I - 26	SR01その他	口壁3.2	-	-	滑押さえ・板ナダ	マツ	滑押さえ	天井舟/2面4ヶ所	
803 47 東・西・新幹	I - 26	SR01その他	-	長石・中・普・石英・中・普 長石・小・中・その他の少 長石・中・普・石英・中・普 長石・中・少・石英・中・普 長石・中・少・石英・中・普	内:4.5Y7/3灰黒 外:10YR4/2灰黒 内:2.5Y7/3灰黒	マツ	滑押さえ・板ナダ	マツ	滑押さえ	天井舟/2面4ヶ所
804 東・西	I - 26	SR01その他	口壁24.4	-	-	滑押さえ・板ナダ	マツ	滑押さえ	天井舟/2面4ヶ所	
805 東・西	I - 26	SR01その他	口壁17.2	長石・大・多・石英・大・多 長石・中・少・石英・中・普	内:10YR4/2灰黒 外:10YR3/2灰黒	滑押さえ・板ナダ	マツ	滑押さえ	天井舟/2面4ヶ所	
806 東・西	I - 26	SR01その他	口壁13.8	長石・中・普・石英・中・普 長石・中・少・石英・中・普	内:10YR8/3に多い黄緑 外:10YR7/3灰黒	マツ・ハミガキ・板ナダ	マツ	滑押さえ	天井舟/2面4ヶ所	
807 47 東・西	I - 26	SR01その他	口壁23.4	長石・中・普・石英・中・普 長石・中・少・石英・中・普	内:2.5Y7/3灰黒	マツ・ハミガキ	マツ	滑押さえ	天井舟/2面4ヶ所	
808 東・西	I - 26	SR01その他	口壁13.4	長石・中・多・石英・中・多 長石・中・少・石英・中・普	内:10YR8/3に多い黄緑 内:10YR7/3灰黒	板ナダ・滑押さえ・板ナダ	マツ	滑押さえ	天井舟/2面4ヶ所	
809 47 管ミニト 基	I - 26	SR01その他	口壁5.9 進深2.4	長石・中・普・石英・大・普 長石・中・普・石英・大・普	内:1.5Y5/2灰黒 内:10YR7/3灰黒	マツ・滑押さえ マツ・滑押さえ	マツ	滑押さえ	天・ヘラ	
810 東・西	I - 25	SR01その他	口壁13.8	長石・中・普・石英・中・普	内:10YR7/3に多い黄緑	マツ・滑押さえ	マツ	滑押さえ	天・ヘラ	
811 東・西	I - 25	SR01その他	口壁2.4	長石・中・少・石英・大・普 長石・中・少・石英・大・普	内:10YR7/3に多い黄緑	マツ・滑押さえ	マツ	滑押さえ	天・ヘラ	
812 東・西	I - 25	SR01その他	-	長石・中・少・石英・中・普 長石・中・少・石英・中・普	内:10YR7/3に多い黄緑	マツ・滑押さえ	マツ	滑押さえ	天・ヘラ	
813 東・西	I - 25	SR01その他	口壁12.2	長石・中・少・石英・大・普 長石・中・少・石英・大・普	内:10YR7/3に多い黄緑	マツ・滑押さえ	マツ	滑押さえ	天・ヘラ	
814 東・西	I - 25	SR01その他	口壁21.0	長石・大・多・石英・中・普 長石・中・少・石英・中・普	内:SYR7/4に多い 外:SYR7/4に多い	マツ・滑押さえ	マツ	滑押さえ	天・ヘラ	
815 東・西	I - 25	SR01その他	-	長石・中・普・石英・中・普 長石・中・少・石英・中・普	内:10YR8/3に多い黄緑 内:10YR7/4に多い 外:10YR7/4に多い	マツ・滑押さえ	マツ	滑押さえ	天・ヘラ	
816 東・西	I - 25	SR01その他	口壁13.8	長石・中・少・石英・大・普 長石・中・少・石英・大・普	内:10YR7/3に多い黄緑	マツ・滑押さえ	マツ	滑押さえ	天・ヘラ	
817 48 東・西	I - 25	SR01その他	口壁21.0	長石・大・多・石英・中・普 長石・中・少・石英・中・普	内:SYR7/4に多い 外:SYR7/4に多い	マツ・滑押さえ	マツ	滑押さえ	天・ヘラ	
818 東・西	I - 25	SR01その他	-	長石・中・普・石英・中・普 長石・中・少・石英・中・普	内:10YR8/3に多い黄緑 内:10YR7/4に多い 外:10YR7/4に多い	マツ・滑押さえ	マツ	滑押さえ	天・ヘラ	
819 東・西	I - 25	SR01その他	口壁26.3	長石・中・普・石英・中・普 長石・中・少・石英・大・多・そ の他の少・石英・大・多・普	内:10YR8/3に多い 外:10YR7/4に多い 内:10YR7/4に多い 外:10YR7/4に多い	マツ・滑押さえ	マツ	滑押さえ	天・ヘラ	
820 49 東・西	I - 25	SR01その他	-	長石・大・多・石英・大・多・そ の他の少・石英・大・多・普	内:10YR7/4に多い 外:10YR7/4に多い	マツ・滑押さえ	マツ	滑押さえ	天・ヘラ	
821 東・西	I - 25	SR01その他	口壁26.2	長石・中・少・石英・中・普 長石・中・少・石英・中・普	内:10YR8/3に多い黄緑 内:10YR7/4に多い 外:10YR7/4に多い	マツ・滑押さえ	マツ	滑押さえ	天・ヘラ	
822 東・西	I - 25	SR01その他	-	長石・中・普・石英・中・普 長石・中・少・石英・中・普	内:N/A 外:10YR7/4に多い 内:10YR7/4に多い	マツ・滑押さえ	マツ	滑押さえ	天・ヘラ	
823 東・西	I - 25	SR01その他	-	長石・大・普・石英・大・普	内:10YR7/4に多い 外:10YR7/4に多い	ハケメ	板ナダ	板ナダ	天・ヘラ	
824 49 東・西	I - 25	SR01その他	-	長石・小・普・石英・小・普 長石・中・少・石英・中・普	内:10YR7/4に多い黄緑	板ナダ・ハケメ	板ナダ	板ナダ	天・ヘラ	

固有 番号	認定 登録	地区名	報告者番号	法量(cm)	陸上	色調	外画面影	内画面影	保存量	形態上の特徴	備考
825	赤・黒	I - 25	SRH01その他	-	長石・中・紫、石英・中・青 長石・中・多、石英・中・多、赤 長石・中・多、石英・中・青	内: 10YR4/4に近い黄褐色 外: 10YR3/3に近い黄褐色	ナチュラルミヘミガキ キヤマダ	ヘラミガキ、便ナデ・ハ メツ	新・點状斑(角目) 點状斑3条(斜目) + 円		
826	赤・黒	I - 25	SRH01その他	-	長石・中・紫、石英・中・青 長石・中・多、石英・中・青	内: 10YR7/3に近い黄褐色 外: 10YR7/3に近い黄褐色	ナデ・指押さえ強ナデ	指押さえ後ヘラミガキ ナデ	細部小片		
827	赤・黒	I - 25	SRH01その他	口径21.8	長石・中・紫、石英・中・青	内: 7.5YR5/2底場 外: 10YR2/2底場			口縁部小片	口:如意形	
828	赤・黒	I - 25	SRH02	口径7.7	長石・中・多、石英・中・多	内: 10YR5/2底場 外: 10YR3/2底場			口縁部小片	口:如意形	
829	赤・黒	I - 25	SRH01その他	口径19.2	長石・大・多、石英・大・多	内: 10YR3/2底場 外: 10YR3/2底場			口縁部1/8	口:如意形 文:粗(0.3cm) + a	
830	赤・黒	I - 25	SRH01その他	-	長石・小・紫、石英・小・青	内: 10YR4/4に近い黄褐色 外: 10YR4/4に近い黄褐色	指押さえ	指押さえ ナデ・マツ	細部小片	口:如意形 文:粗(0.3cm) + b 斜	
831	赤・黒	I - 25	SRH01その他	口径19.8	長石・大・多、セ 長石・中・少、石英・大・少、セ	内: 10YR4/4に近い黄褐色 外: 10YR2/2底場	ヨコナデ・ハケメ	指押さえ・板ナデ	口縁部1/8	口:逆字形	
832	赤・黒	I - 25	SRH01その他	口径24.6	長石・多、石英・少、砂	内: 10YR3/3に近い黄褐色 外: 10YR2/2底場	ナデ・ハケメ	指押さえ・板ナデ後ヘラ ミガキ	口縁部1/8	口:逆字形	外面上半部斜材
833	赤・黒	I - 25	SRH01その他	口径20.0	長石・中・少、石英・中・少	内: 10YR3/3に近い黄褐色 外: 10YR4/4底場	ナデ・ハケメ	板ナデ	体部2/8	口:逆字形	
834	赤・黒	I - 25	SRH01その他	口径23.8	長石・中・紫、石英・中・青	内: 10YR2/2底場 外: 10YR1/4底場	ナデ・指押さえ強ナデ ナデ・指押さえ強ナデ	指押さえ後板ナデナデ	口縁部小片	口:逆字形 斜	外面口縫道下端付 蓋
835	赤・黒	I - 25	SRH01その他	口径22.4	長石・中・紫、石英・中・青	内: 10YR7/3に近い黄褐色 外: 2.5YR3/3底場	ナデ・指押さえ・ハケメ ナデ・指押さえ後ヨコナデ	ナデ・指押さえ後ヨコナデ	口縁部1/8	口:逆字形	
836	赤・黒	I - 25	SRH01その他	口径23.4	長石・中・紫、石英・中・青 長石・子・小・少	内: 10YR3/3に近い黄褐色 外: 2.5YR3/3底場	ナデ・指押さえ板ナデ	指押さえ後板ナデ	口縁部小片	口:逆字形	
837	赤・黒	I - 25	SRH01その他	口径21.8	長石・中・少、石英・中・少 長石・子・小・少、石英・中・少	内: 10YR3/3に近い黄褐色 外: 10YR2/2底場	指押さえ・板ナデ	指押さえ・板ナデ ナデ	口縁部1/8	口:逆字形 斜	外面上半部斜材
838	赤・黒	I - 25	SRH01その他	-	長石・中・紫、石英・中・青 長石・子・小・少	内: 2.5YR3/3底場 外: 2.5YR3/3底場		指押さえ・板ナデ	口縁部小片	口:逆字形	
839	赤・黒	I - 25	SRH01その他	-	長石・小・少、石英・小・少 長石・子・小・少	内: 10YR3/3に近い黄褐色 外: 10YR3/3に近い黄褐色	ナデ・指押さえ・ハケメ	指押さえ・ナデ	口縁部小片	口:逆字形	
840	赤・黒	I - 25	SRH01その他	口径28.0	長石・中・多、石英・中・多	内: 10YR3/3に近い黄褐色 外: 10YR3/3に近い黄褐色	ヨコナデ・ハケメ・マツ ヨコナデ・ハケメ・マツ	ナデ・指押さえ・マツメツ	口縁部1/8	文:粗(0.2cm)	
841	赤・黒	I - 25	SRH01その他	口径20.0	長石・中・多、石英・中・多	内: 10YR4/4に近い黄褐色 外: 10YR2/2底場	ナデ・ハケメ・マツ	ナデ・板ナデ	口縁部1/8	口:逆字形 文:ヘラ(0.3cm)	
842	赤・黒	I - 25	SRH01その他	口径20.6	長石・中・紫、石英・中・青 長石・子・小・少、石英・中・青	内: 10YR2/2底場 外: 10YR3/3底場	ナデ・ハクリ	口縁部1/8	口:逆字形 文:ヘラ(0.3cm)		
843	赤・黒	I - 25	SRH01その他	口径7.8	長石・中・紫、石英・中・青	内: 10YR2/2に近い黄褐色 外: 10YR3/3底場	マツメツ・ハミガキ	体部1/8	口:逆字形 文:ヘラ(0.5cm) + 3cm		
844	赤・黒	I - 25	SRH01その他	口径18.6	長石・中・紫、石英・中・青	内: 7.5YR4/4に近い黄褐色 外: 7.5YR4/4底場	ナデ・板ナデ	口縁部1/8	口:逆字形 文:ヘラ(1.3cm)		

国 名 規 格 番 号	地 区 名	総生産機器号	法量(m)	鉱土	色 調	外 面 形 状	内 面 形 状	操作費	形態上の特徴	備考
845 49 無・無 1 - 25 SRM01その他 口径16.9 長石・大・多、石英・大・多 外:10YR4/3にぶい黄緑 マメツ マツツ 指揮さえ後板ナード・ナデ 口端部1/8 口:逆・手形 文:ヘラ(3本/cm)										
846 49 無・無 1 - 25 SRM01その他 口径19.2 長石・中・多、石英・中・多、赤色粒子・小・少 外:10YR4/2黒褐色 内:10YR4/2黒褐色 ナデ・ハケメ ナデ・ハケメ 指揮さえ後板ナード・ナデ 口端部1/8 口:逆・手形 文:ヘラ(2本/cm)										
847 49 無・無 1 - 25 SRM01その他 口径24.2 長石・中・多、石英・中・多 外:7.5YR2/2灰褐色 内:7.5YR1/2黒褐色 ナデ・ハケメ ナデ・ハケメ 指揮さえ後板ナード・ナデ 口端部1/8 口:逆・手形 文:ヘラ(2本/cm)										
848 49 無・無 1 - 25 SRM01その他 口径21.0 長石・中・多、石英・中・多 外:7.5YR4/2黒褐色 内:7.5YR4/2黒褐色 ナデ・ハケメ ナデ・ハケメ 指揮さえ後板ナード・ナデ 口端部1/8 口:逆・手形 文:ヘラ(1本/cm)										
849 49 無・無 1 - 25 SRM01その他 口径21.9 長石・中・多、石英・中・多 外:2.5YR7/3黒褐色 内:2.5YR7/3黒褐色 ナデ ハクリ ハクリ 指揮さえ後板ナード・ナデ 口端部1/8 口:逆・手形 文:ヘラ(1本/cm) + α										
850 49 無・無 1 - 25 SRM01その他 口径19.4 長石・大・多、石英・大・多 外:2.5YR7/3黒褐色 内:2.5YR7/3黒褐色 ナデ ナデ 指揮さえ後板ナード・ナデ 口端部1/8 口:逆・手形 文:ヘラ(1本/cm) + α										
851 49 無・無 1 - 25 SRM01その他 口径14.7 長石・大・多、石英・大・多 外:10YR7/3にぶい黄緑 ナデ・ハクリ ハクリ・ハミガキ 指揮さえ後板ナード・ナデ 口端部1/8 口:逆・手形 文:ヘラ(1本/cm)										
852 49 無・無 1 - 25 SRM01その他 - 長石・中・多、石英・中・多、赤色粒子・小・少 外:10YR4/2灰褐色 ナデ・ハクリ ナデ 指揮さえ後板ナード・ナデ 口端部1/8 口:逆・手形 文:ヘラ(1.0cm) + α										
853 49 無・無 1 - 25 SRM01その他 - 長石・中・多、石英・中・多、赤色粒子・小・少 外:10YR7/3にぶい黄緑 ナデ・ハクリ・指揮さえ後板ナード・ナデ 口端部1/8 口:逆・手形 文:ヘラ(1.0cm)										
854 49 無・無 1 - 25 SRM01その他 - 長石・中・多、石英・中・多、赤色粒子・小・少 外:10YR7/3にぶい黄緑 ナデ ナデ 指揮さえ後板ナード・ナデ 口端部1/8 口:逆・手形 文:ヘラ(2本/cm) + α										
855 49 無・無 1 - 25 SRM01その他 - 長石・中・多、石英・中・多、赤色粒子・小・少 外:10YR4/2黒褐色 ナデ・板ナデ ナデ・板ナデ 指揮さえ後板ナード・ナデ 口端部1/8 口:逆・手形 文:ヘラ(4cm)										
856 49 無・無 1 - 25 SRM01その他 口径21.0 長石・中・少 外:10YR7/2にぶい黄緑 ナデ 指揮さえ・板ナデ 指揮さえ・板ナデ 口端部1/8 口:逆・手形 文:ヘラ(1.1cm)										
857 49 無・無 1 - 25 SRM01その他 口径24.4 長石・中・多、石英・大・多 外:10YR4/2黒褐色 指揮さえ後板ナード・ナデ 口端部1/8 口:逆・手形 文:ヘラ(1.5cm)										
858 49 無・無 1 - 25 SRM01その他 口径24.6 長石・中・多、石英・中・多 外:10YR7/3にぶい黄緑 ナデ ナデ・板ナデ 指揮さえ・板ナデ 口端部1/8 口:逆・手形 文:ヘラ(1.1cm) + α										
859 49 無・無 1 - 25 SRM01その他 口径19.0 長石・中・少、石英・中・少 外:10YR4/1にぶい黄緑 ナデ・ハミガキ ナデ・ハミガキ 指揮さえ後板ナード・ナデ 口端部1/8 口:逆・手形 文:ヘラ(1.5cm) + α										
860 49 無・無 1 - 25 SRM01その他 口径27.2 長石・中・多、石英・大・多、赤色粒子・小・少 外:10YR5/2黒褐色 ナデ・ハクリ ナデ・ハクリ 指揮さえ後板ナード・ナデ 口端部1/8 口:逆・手形 文:ヘラ(3cm) + α										
861 49 無・無 1 - 25 SRM01その他 - 長石・中・多、石英・中・多、赤色粒子・小・少 外:2.5YR7/2黒褐色 ハクリ・板ナデ・ハラミ 指揮さえ後板ナード・ナデ 口端部1/8 口:逆・手形 文:ヘラ(0.9cm) + α										

剖面 番号	名前	地区名	報告書番号	法量 (m)	地質	色調	外観調整	内面調整	操作量	形態上の特徴	備考
862	赤、黒	I - 25	SRH01その他	-	長石・中・少、石英・中・少	内: 10YR5/3に多い黄 外: 2.5Y6/2灰岩	ナデ・ハラミガキ	ナデ・ハラミガキ	全体1/8	口(遮)子(形) 文(遮)子(形)+三葉脚 文(遮)子(形)+三葉脚 文(遮)子(形)+三葉脚	
863	赤、黒	I - 25	SRH01その他	-	長石・中・少、石英・中・少	内: 10YR5/3に多い黄 外: 10YR5/3に多い黄 外: SYR5/1に多い黄 外: SYR5/2灰岩	ナデ・マツメ・ナデ	ナデ・マツメ・ナデ	全体4/8	工事用(本)1個のもの の4組位置する	
864	赤、黒	I - 25	SRH01その他	底緑16.0	長石・大、石英・大、粉、砂、 色斑子・小・少	内: 10YR5/3に多い黄 外: SYR5/1に多い黄 外: SYR5/2灰岩	指押さえ・板ナデ	指押さえ・板ナデ	全体1/8	口(遮)子(形)	
865	赤、黒	I - 25	SRH01その他	底緑12.4	長石・大・少、石英・大・多、粉 色斑子・小・少	内: 10YR5/3に多い黄 外: SYR5/1に多い黄 外: SYR5/2灰岩	カキメ・アツメ・ハラミ ナデ・ハラミ	ナデ・ハラミ	全体6/8	口(遮)子(形)	
866	赤、黒	I - 25	SRH01その他	底緑10.1	長石・中・多、石英・中・多、粉 色斑子・小・少	内: 10YR5/3に多い黄 外: SYR5/1に多い黄 外: SYR5/2灰岩	ナデ・ハラミ	ナデ・ハラミ	全体4/8	外側4/8	
867	赤、黒	I - 25	SRH01その他	底緑20.0	長石・大・少、石英・大・多、粉 色斑子・小・少	内: 10YR5/3に多い黄 外: SYR5/1に多い黄 外: SYR5/2灰岩	マツメ	マツメ	全体5/8	外側4/8	
868	赤、黒	I - 25	SRH01その他	底緑9.9	長石・大・少、石英・大・多、粉 色斑子・中・少	内: 2.5Y7/3灰岩	ハラミガキ・板ナデ・ナ ナデ・指押さえ	ナデ・指押さえ	底部実存	外側4/8	
869	赤、黒	I - 25	SRH01その他	底緑9.4	長石・中・少、石英・中・少	内: 10YR5/3に多い黄 外: 2.5Y6/2灰岩	ハケメ・板ナデ・ナ ナデ・指押さえ	ナデ・指押さえ	底部実存	外側3/8	
870	赤、黒	I - 25	SRH01その他	底緑7.2	長石・中・少、石英・中・少	内: 10YR5/3灰岩 外: 10YR5/6灰岩	ナデ・指押さえ・板ナデ	ナデ・指押さえ・板ナデ	底部実存	外側4/8	
871	赤、黒	I - 25	SRH01その他	底緑8.4	長石・大・多、石英・大・多 色斑子・中・少	内: 10YR5/3灰岩 外: SYR5/1灰岩	ツバメ・指押さえ・板ナデ ツバメ・指押さえ・板ナデ	ツバメ・指押さえ・板ナデ	底部実存	外側4/8	
872	赤、黒	I - 25	SRH01その他	底緑8.5	長石・中・少、石英・中・少	内: 2.5Y7/3灰岩 外: SYR5/4に多い黄	指押さえ・板ナデ	指押さえ・板ナデ	底部実存	外側4/8	
873	赤、黒	I - 25	SRH01その他	底緑9.2	長石・大・多、石英・大・多、粉 色斑子・小・少	内: 10YR5/3灰岩 外: SYR5/4に多い黄	ツバメ	ツバメ	底部実存	外側4/8	
874	赤、黒	I - 25	SRH01その他	底緑10.2	長石・中・少、石英・中・少 色斑子・小・少	内: 10YR5/3灰岩 外: SYR5/4に多い黄	ナデ・指押さえ	ナデ・指押さえ	底部3/8	底・穿孔2回(複数) マツメが響く	
875	赤、黒	I - 25	SRH01その他	底緑6.2	長石・中・少、石英・中・少	内: 7.5Y7/4灰岩 外: 2.5Y6/2灰岩	ハラミガキ・ハケメ・指 ナデ・ナデ	ナデ・ナデ	底部5/8	内側5/8の粘土で底 面を洗している (底面ハクリ)	
876	赤、黒	I - 25	SRH01その他	底緑5.4	長石・中・多、石英・中・多 色斑子・小・少	内: 10YR5/2に多い黄 外: 10YR5/3に多い黄 外: 10YR5/6灰岩	マツメ・板ナデ	指押さえ・板ナデ	底部2/8	外: 10YR5/3に多い黄 外: 10YR5/6灰岩	
877	赤、黒	I - 25	SRH01その他	底緑7.1	長石・中・少	内: 10YR5/6灰岩 外: 10YR5/6灰岩	ツバメ・マツメ	ツバメ・マツメ	底部実存	外: 10YR5/6灰岩	
878	赤、黒	I - 25	SRH01その他	底緑6.2	長石・大・少、石英・大・多 色斑子・中・少、石英・中・少	内: 10YR5/6灰岩	板ナデ・マツメ	指押さえ・板ナデ・ハ ク	底部実存	外: 10YR5/6灰岩	
879	赤、黒	I - 25	SRH01その他	底緑7.8	長石・中・少、石英・中・少 色斑子・小・少	内: 10YR5/6灰岩	ハラミガキ・指押さえ ハラミガキ	指押さえ	底部実存	外: 10YR5/6灰岩	
880	赤、黒	I - 25	SRH01その他	底緑5.4	長石・中・少、石英・中・少 色斑子・小・少	内: 10YR5/6灰岩	板ナデ	板ナデ	底部1/8	外: 10YR5/6灰岩	

国	都道府県	地区名	報告書番号	注意(m)	施工	色調	外観調整	内面調整	操作量	形態上の特徴	備考
881	東京都	I - 25	SR01その他	基盤7.8 色板子・中・少	基盤・中・普・石英・中・普・普 基盤7.9	内:5/31オリーブ黒 外:12/5/7/28黄	ハクリ・板ナデ	板ナデ	板ナデ4/3		
882	東京都	I - 26	SR01その他	底盤7.9	基盤・中・普・石英・中・普	内:2/5/7/28黒 外:2/5/7/28黄	ナデ・板ナデ・板押さえ ナデ・板ナデ	板ナデ	底盤5/3		
883	東京都	I - 25	SR01その他	底盤7.3	基盤7.3 基盤・大・多・石英・大・多	内:10/10/31黒 外:10/10/31黒	ハケメ・指押さえ・ナデ ハケメ・指押さえ・ナデ	マツツ・指押さえ マツツ・指押さえ	底盤3/8		
884	東京都	I - 25	SR01その他	底盤7.2	基盤7.2 基盤・大・普・石英・大・普	内:10/10/31黒 外:10/10/31黒	ハケメ・指押さえ ハケメ・指押さえ	マツツ・指押さえ マツツ・指押さえ	底盤4/3		
885	東京都	I - 25	SR01その他	口壁8.4	基盤7.6・大・多 色板子・小・少	内:10/10/31黒 外:10/10/31黒	アメツ・ハクメ・指押さえ アメツ・ハクメ・指押さえ	アメツ	底盤完存		
886	東京都	I - 25	SR01その他	底盤7.3	基盤7.3 基盤・中・多・石英・中・普・中・少・チ	内:10/10/31黒 外:10/10/31黒	指押さえ・後板ナデ 指押さえ・後板ナデ	指押さえ・後板ナデ	底盤6/8	底盤完存 後板完存	
887	東京都	I - 25	SR01その他	底盤6.1	基盤7.1 基盤・大・普・石英・大・普	内:10/10/31黒 外:10/10/31黒	指押さえ・ハケメ・ナデ 指押さえ・ハケメ・ナデ	指押さえ・ハケメ・ナデ	底盤4/8		
888	東京都	I - 25	SR01その他	天井部7.4	基盤7.4 基盤・中・少・普・石英・大・普・普	内:10/10/31黒 外:10/10/31黒	ナデ・マメツ・指押さえ ナデ・マメツ・指押さえ	指押さえ 指押さえ	天井部4/8		
889	東京都	I - 25	SR01その他	天井部3.3	基盤7.3 色板子・小・少	内:10/10/31黒 外:10/10/31黒	マツツ マツツ	天井部3/8			
890	東京都	I - 25	SR01その他	底盤4.9	基盤7.8 基盤・中・少・石英・中・少・チ	内:2/5/7/28黒 外:2/5/7/28黒	指押さえ・ナデ	指押さえ	口盤板3/8		
891	東京都	I - 27	SR01その他	底盤4.9	基盤7.8 基盤・中・普・石英・中・普	内:2/5/7/28黒 外:2/5/7/28黒	ナデ・ハラミガキ ナデ・ハラミガキ	体部小片	脚・足凸縫(列目) + a		
892	東京都	I - 27	SR01その他	底盤15.6	基盤7.8 色板子・小・少	内:10/10/31黒 外:10/10/31黒	マツツ マツツ	ヘラミガキ	頭・枕・2/3脚 + a		
900	50系・東	I - 27	SR01その他	底盤6.4	基盤7.8 色板子・小・少	内:10/10/31黒 外:10/10/31黒	指押さえ・後板ナデ 指押さえ・後板ナデ	指押さえ・後板ナデ	底盤4/8		
901	東京都	I - 27	SR01その他	底盤9.9	基盤7.8 色板子・小・少	内:2/5/7/28黒 外:2/5/7/28黒	ナデ・ハクメ ナデ・ハクメ	ナデ	底盤7/8		
902	東京都	I - 27	SR01その他	底盤11.2	基盤7.8・大・多・石英・大・多・普 色板子・小・少	内:2/5/7/28黒 外:2/5/7/28黒	ハケメ・ナデ	板ナデ	底盤4/8		
903	50系・東	I - 27	SR01その他	底盤13.3	基盤7.8 基盤・中・少・石英・中・少・普	内:10/10/31黒 外:10/10/31黒	ナデ・板ナデ・指押さえ ナデ・板ナデ・指押さえ	ミガキ ミガキ	底盤完存		
905	東京都	I - 26	SR01その他	口壁15.2	基盤7.8 色板子・小・少	内:10/10/31黒 外:10/10/31黒	指押さえ・板ナデ 指押さえ・板ナデ	口盤部ナデ	口盤部7/8		
906	50系・東	I - 26	SR01その他	口壁36.8	基盤7.8 色板子・小・少	内:10/10/31黒 外:10/10/31黒	ヘラミガキ・マツツ マツツ	口盤部3/8	口盤部(内側) 口盤部(外側) 口盤部(内側) 口盤部(外側)		
907	東京都	I - 26	SR01その他	口壁26.1	基盤7.8 基盤・中・少・石英・中・少・普	内:2/5/7/28黒 外:2/5/7/28黒	指押さえ・板ナデ・ハラミ ガキ・ハラミ	口・盤部小片	口・盤部小片		

国 籍 番 号	地 理 形 態	地 区 名	耕 作 運 轉 機 器 号	流 量 (m)	施 土	色 調	外 觀 特 徴	内 面 特 徴	所 存 量	形 態 上 の 特 徴	備 考
908	水・鹽	I - 26	SHR01その他	口径26.8 長石・中・多 石英・中・少	内:10YR6/4に近い黄緑 外:10YR7/2底紅葉	ナデ ナデ・ハケメ	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8
909	水・鹽	I - 26	SHR01その他	口径21.2 長石・中・多 石英・中・中・普	内:2.5Y3/2底黒 外:2.5Y3/2底黒	ナデ ナデ・ハケメ	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8
910	水・鹽	I - 26	SHR01その他	-	長石・中・多 石英・中・中・少	内:10YR7/3に近い黄緑 外:10YR7/3に近い黄緑 内:10YR6/3に近い黄緑 外:10YR6/3に近い黄緑	ナデ ナデ・ハケメ ナデ・板ナデ ナデ・板ナデ	口耕型/8 口耕型/8 口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8 口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8 口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8 口耕型/8 口耕型/8
911	水・鹽	I - 26	SHR01その他	-	長石・中・多 石英・中・中・普	内:10YR6/3に近い黄緑 外:10YR6/3に近い黄緑	ナデ ナデ・ハケメ ナデ・板ナデ	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8
912	水・鹽	I - 26	SHR01その他	口径23.0 長石・中・少 石英・中・少	内:10YR6/2底紅葉 外:10YR6/2底紅葉	ナデ	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8
913	水・底泥	I - 26	SHR01その他	底泥2.0 長石・中・中・少 石英・中・少	内:10YR6/3に近い黄緑 外:10YR7/3に近い黄緑 内:10YR6/3に近い黄緑 外:10YR6/3に近い黄緑	ナデ ナデ・ハケメ ナデ・板ナデ	マツツ マツツ	底泥/8 底泥/8	底泥/8 底泥/8	底泥/8 底泥/8	底泥/8 底泥/8
914	水・底泥	I - 26	SHR01その他	底泥4.6 長石・中・中・少 石英・中・中・普	内:10YR6/4に近い黄緑 外:10YR6/4に近い黄緑	ハケメ ナデ	ハクリ ハクリ	底泥/8 底泥/8	底泥/8 底泥/8	底泥/8 底泥/8	底泥/8 底泥/8
915	水・底泥	I - 25	SHR02	底泥2.2 長石・中・中・普	内:10YR6/3に近い黄緑 外:10YR6/3に近い黄緑	ナミガキ ナミガキ・板ナデ	マツツ	底泥/8 底泥/8	底泥/8 底泥/8	底泥/8 底泥/8	底泥/8 底泥/8
916	水・鹽	I - 23	SHR02	口径23.7 長石・中・少 石英・中・少	内:10YR6/3に近い黄緑 外:10YR6/3に近い黄緑	ヨコナデ ヨコナデ・指耕さえ・ナ ヨコナデ・指耕さえ・マツツ	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8
917	水・鹽	I - 23	SHR02	口径26.2 長石・中・少 石英・中・少	内:10YR6/3に近い黄緑 外:10YR6/3に近い黄緑	ナデ	板ナデ ナデ	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8
918	水・鹽	I - 23	SHR02	口径22.0 長石・中・少 石英・中・少	内:10YR6/3に近い黄緑 外:10YR6/3に近い黄緑	ナデ ナデ・指耕さえ・マツツ	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8
919	水・鹽	I - 23	SHR02	口径22.8 長石・中・少 石英・中・少	内:10YR6/3に近い黄緑 外:10YR6/3に近い黄緑	ナデ ナデ・指耕さえ・マツツ	マツツ	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8
920	水・底泥	I - 23	SHR02	底泥2.8 長石・中・中・少 石英・中・中・普	内:2.5Y7/3底紅葉 外:2.5Y7/3底紅葉	ハケメ ナデ	ナツ ナツ	底泥/8 底泥/8	底泥/8 底泥/8	底泥/8 底泥/8	底泥/8 底泥/8
921	水・鹽	I - 26	SHR02	口径25.2 長石・小・少 石英・小・少	内:10YR6/5に近い黄緑 外:10YR6/5に近い黄緑	ナデ ナデ・板ナデ	ナデ ナデ・板ナデ	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8
922	水・鹽	I - 26 S	SHR02	口径16.9 長石・中・少 石英・中・少	内:2.5Y3/2底紅葉 外:2.5Y3/2底紅葉	ナデ・ハカリ ナデ・ハカリ	ナデ ナデ	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8
923	水・鹽	I - 26 S	SHR02	口径12.2 長石・中・少 石英・中・少	内:2.5Y4/2底紅葉 外:2.5Y4/2底紅葉	ナデ・指耕さえ・ハケメ ナデ・指耕さえ・ハケメ	ナデ ナデ	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8
924	水・鹽	I - 26 S	SHR02	口径19.8 長石・中・少 石英・中・少	内:2.5Y5/2底紅葉 外:2.5Y5/2底紅葉	ナデ	ナツ	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8
925	水・鹽	I - 26 S	SHR02	口径19.1 長石・中・少 石英・中・少	内:2.5Y4/2底紅葉 外:2.5Y4/2底紅葉	ナデ・指耕さえ・ハケメ ナデ・指耕さえ・ハケメ	ナデ ナデ	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8	口耕型/8 口耕型/8
926	水・鹽	I - 26 S	SHR02	口径18.2 長石・中・少 石英・中・少	内:2.5Y7/2底紅葉 外:2.5Y7/2底紅葉	ナデ・ハカリ ナデ・ハカリ	ハクリ ハクリ	底泥/8 底泥/8	底泥/8 底泥/8	底泥/8 底泥/8	底泥/8 底泥/8
927	水・底泥	I - 26	SHR02	底泥8.7 長石・小・少 石英・小・少	内:10YR6/3に近い黄緑 外:2.5YR6/3に近い黄緑	指耕さえ・板ナデ 指耕さえ・板ナデ	マツツ マツツ	底泥/8 底泥/8	底泥/8 底泥/8	底泥/8 底泥/8	底泥/8 底泥/8

地文 監 番号	地区名	岩手県地図番号	法面(m)	地土	色調	外観特徴	内部構造	斑字量	形態上の特徴	備考
928	赤、底、赤	I - 26 S	SR02	底径5.7	基石中・普・石英・中・普	内:10YR4/4にぶい黄 外:2.5YR2/4底黄	板ナガ・ナシ・ナシ	ナシ	底板平行	
929	赤、普	I - 25	SR02	-	長石・中・普・石英・中・普・そ 長石・大・少	内:10YR4/3にぶい黄 外:10YR4/2底黄	板ナガ・マツ・指押せ 入	指押せ	底板平行	
930	赤、普	I - 25	SR02	口徑14.9	長石・中・普・石英・中・普	内:2.5Y7/2底黄 外:2.5Y5/2底黄	マツ	ナシ・指押さえ	口:指押 底板小片	口:如意形
931	赤、普	I - 25	SR02	-	長石・中・普・石英・中・普・普	内:10YR4/3にぶい黄 外:10YR4/2底黄	指押さえ・ナシ	マツ・指押さえ	口:指押 底板小片	半圆形竹による沈 積
932	赤、普	I - 25	SR02	口徑24.0	長石・大・普・石英・大・普・非 色粒子・小・少	内:10YR2/2にぶい黄 外:10YR2/2底黄	指押さえ・ナシ・ラミガキ 指押さえ	指押さえ・ラミガキ	口:指押小片	口:逆子形
933	赤、普	I - 25	SR02	口徑21.4	長石・中・少・石英・中・少・普	内:10YR4/3にぶい黄 外:10YR2/2底黄	ナシ	指押さえ	口:指押小片	口:逆子形 文:ヘチ目(本1cm)+α
934	赤、普	I - 25	SR02	口徑23.1	長石・大・少・石英・大・多・そ 色粒子・小・少	内:10YR4/2にぶい黄 外:10YR2/2底黄	ヨコナガ・マツ	ナシ・マツ	口:指押小片	口:逆子形 文:ヘチ目(本1cm)
935	赤、普	I - 25	SR02	口徑19.5	長石・中・多・石英・中・多・そ	内:10YR4/3にぶい黄 外:10YR2/2底黄	マツ	板ナガ・マツ	口:指押小片	口:逆子形 文:ヘチ目(本1cm)+α
936	赤、普	I - 25	SR02	口徑20.9	長石・中・多・石英・中・多・そ	内:10YR4/4にぶい黄 外:10YR2/2底黄	マツ	ナシ	口:指押小片	口:逆子形 文:ヘチ目(本1cm)
937	赤、底、赤	I - 25	SR02	-	長石・中・少・石英・中・少・普 色粒子・小・少	内:10YR4/4にぶい黄 外:10YR2/3にぶい黄	ハケメ・ヘ・ラミガキ 指押さえ・ラミガキ	ハラミガキ 指押さえ	口:指押小片	文:ヘチ目(本1cm)+α
938	赤、普	I - 25	SR02	口徑22.2	長石・中・少・石英・中・少	内:10YR4/4にぶい黄 外:10YR2/2底黄	ナシ	板ナシ	口:指押小片	口:逆子形 文:ヘチ目(本1cm)
939	赤、普	I - 25	SR02	-	長石・大・普・石英・大・普・赤 色粒子・小・少	内:10YR4/3にぶい黄 外:10YR2/3にぶい黄	マツ	ナシ	口:指押小片	口:逆子形 文:ヘチ目(本1cm)+α
940	赤、底、赤	I - 25	SR02	底径10.4	長石・大・普・石英・大・普・角 色粒子・小・普	内:10YR4/4にぶい黄 外:10YR2/2底黄	板ナシ	板ナシ	底板2/6	
941	赤、底、赤	I - 25	SR02	底径6.0	長石・中・少・石英・中・少	内:10YR4/2底黄 外:2.5Y7/2底黄	ラミガキ・指押せ	指ナガ後・ラミガキ	底板はげ穴存 底板2/6	底板はげ穴存 底板2/6
942	赤、底、赤	I - 25	SR02	底径7.6	長石・大・普・石英・大・普	内:10YR4/3にぶい黄 外:10YR2/3にぶい黄	ハケメ・ナシ	ナシ	底板2/6	底板はげ穴存 底板2/6
943	赤、普	I - 26	SR03上層	口徑17.0	長石・中・普・石英・中・普・赤 色粒子・小・少	内:2.5YR6/3にぶい黄 外:2.5YR6/2にぶい黄	マツ	マツ	口:指押小片	口:指押小片
944	赤、普	I - 23	SR03上層	口徑14.0	長石・小・普・石英・小・普	内:10YR4/4にぶい黄 外:10YR3/4にぶい黄	ハクリ	ハクリ	口:指押小片	口:指押小片
945	赤、普	I - 23	SR03上層	口徑14.2	長石・中・多・石英・中・多	内:10YR4/3にぶい黄 外:10YR3/4にぶい黄	マツ	マツ	口:指押小片	口:指押小片

固有 番号	基準 地区名	報告連絡番号	法量(cm)	地上	色調	外観特徴	内部構造	残存量	形態上の特徴	備考
946	赤堀	I - 23	SR03上層	-	灰白・小・多 石英・小・岩・角・少	内外:10YR5/4にぶい黄青	ハクリ・ナヂ	ナヂ	口縁部小片	
947	赤堀	I - 26	SR03上層	口径14.0	灰白・小・少 石英・少・少	内外:7.5YR4/6にぶい暗	マツ	指揮さえ・マツ	口縁部小片	口・如意形
948	赤堀	I - 23	SR03上層	口径13.4	灰白・中・少 石英・少・少	内外:7.5YR6/6暗	マツ・ハクリ	マツ・ハクリ	口縁部小片	口・如意形
949	赤堀	I - 23	SR03上層	口径15.6	灰白・少・岩・大・岩・少	内:2.5Y6/2C黒 外:10YR4/6にぶい暗	マツ	マツ	口縁部小片	口・如意形
950	赤堀	I - 26	SR03上層	底径4.0	灰白・小・岩・小・岩・小・岩	内:10YR4/6白 外:10YR4/6にぶい黄青	板ナヂ	板ナヂ	底部完存	
951	赤堀	I - 23	SR03上層	底径8.0	灰白・大・石英・大・多	内:10YR5/4にぶい黄青	板ナヂ・マツ	板ナヂ・マツ	底盤4.6	
952	赤堀	I - 23	SR03上層	底径6.5	灰白・中・多・石英・中・多・岩	内:10YR4/6にぶい黄青	マツ	マツ	底部完存	
953	赤堀	I - 23	SR03上層	-	灰白・小・少 石英・少・少	内:10YR4/6にぶい黄青 間分母子	マツ・ハラミ・ギ(4.7) ヘラ・ガキ	マツ・ハラミ・ギ(4.7) ヘラ・ガキ	体盤2.6	
954	赤・高所	I - 23	SR03上層	-	灰白・中・少 石英・中・少	内:10YR4/6にぶい黄青 間分母子	マツ・ハラミ・ギ(2方向分割) ヘラ・ガキ	マツ・ハラミ・ギ(2方向分割) ヘラ・ガキ	体盤3.6	
955	赤・高所	I - 23	SR03上層	口径21.8	灰白・少・少 石英・小・少	内:7.5YR6/6にぶい暗	圓板ナヂ	圓板ナヂ	口縁部2.6	
956	赤・高所	I - 28	SR03上層	口径24.2	灰白・小・少 石英・少・少	内:2.5Y6/2C黒	マツ・ナヂ・ヘラ・ミガ	マツ・ナヂ	口縁部1.6	
957	赤林	I - 23	SR03上層	口径30.1	灰白・中・少 石英・中・少	内:10YR4/6にぶい黄青	ハケ・板ナ・ヘラ・ミガキ	ハケ・板ナ・ヘラ・ミガキ	口・円形深・斜様子	
958	東洋(赤)	I - 23	SR03上層	口径11.0	灰白・少・少 石英・小・少	内:2.5Y6/2C黒	圓板ナヂ・回板ヘラ割り	圓板ナヂ	口縁部2.6	
959	赤堀	I - 23	SR03中層	口径10.1	灰白・小・岩・石英・小・岩	内:10YR4/6にぶい黄青	ナヂ・板ナ・透壁性ナヂ・ 指揮さえ・マツ	ナヂ・板ナ・透壁性ナヂ・ 指揮さえ・マツ	周(4.6×0.5cm)×4 深(4.6×0.5cm)×4 透壁性(5.2cm)×4 指揮(5.5cm)×2	
960	赤堀	I - 23	SR03中層	-	灰白・少・岩・小・少	内:5Y6/1白	ナヂ	ナヂ	口縁部1.6	
961	赤堀	I - 23	SR03中層	口径12.4	灰白・小・少 石英・小・少	内:10YR4/6にぶい黄青	ハクリ・ハケ・メ	ナヂ・指揮さえ・マツ	口・如意形	
962	赤・堀	I - 23	SR03中層	口径22.6	灰白・少・岩・石英・大・岩・岩・少	内:10YR4/6にぶい暗	ナヂ・指揮さえ・マツ	ナヂ・指揮さえ・マツ	口・如意形	
963	赤堀	I - 23	SR03中層	口径21.2	灰白・大・多・石英・大・多	内:2.5Y7/3黒 外:10YR4/6にぶい黄青	マツ	マツ	口・透手形	
964	赤堀	I - 23	SR03中層	口径23.0	灰白・中・多・石英・中・多	内:10YR4/6にぶい黄青	マツ	マツ・マツ	口・透手形	
965	赤堀	I - 23	SR03中層	口径20.0	灰白・中・岩・岩・少	内:10YR4/6にぶい黄青	ナヂ・板ナヂ	ナヂ・板ナヂ	口・透手形	
966	赤堀	I - 23	SR03中層	口径43.4	灰白・中・岩・石英・中・岩	内:2.5Y7/3黒 外:10YR4/6にぶい黄青	マツ	マツ	口・透手形	
967	赤堀	I - 23	SR03中層	口径22.0	灰白・岩・石英・大・岩	内:10YR4/6にぶい暗 外:7.5YR3/6にぶい暗	マツ・指揮さえ	マツ	口・透手形 文:透9.2(3.8×0.6cm)+α	

国	都道府県	地区名	報告書番号	法量(cm)	出土	色調	外面装飾	内部装飾	残存量	形態上の特徴	備考
968	赤堀	1 - 23	SR01中層	口径22.0 高さ2.0	無石・大・普・石表・大き	内: 10YR4/8 外: 10YR4/8	横縞	ナデ・マメツ	口: 滲9(34cm) *斜突 文: 滲9(34cm) *斜突		
969	赤堀	1 - 23	SR01中層	口径25.6 高さ2.0	無石・大・普・石表・大き	内: 10YR4/8 外: 10YR3/3に少い黄緑	マメツ・横縞	ナデ・マメツ	口: 滲9(34cm) *斜突 文: 滲9(34cm) *斜突		
970	赤堀	1 - 23	SR01中層	口径32.0 高さ2.0	無石・大・多・石表・大き	内: 2.5YR3/8 外: 10YR2/2に少い黄緑	ヨコナデ・マメツ	マメツ	口: 滲9(34cm) *斜突 文: 滲9(34cm) *斜突		
971	赤堀	1 - 23	SR01中層	口径25.6 高さ2.0	無石・小・普・石表・小さ	内: 10YR2/2に少い黄緑 外: 10YR5/5	ナデ・マメツ	ナデ・板ナデ	口: 滲9(34cm) *斜突 文: 滲9(34cm) *斜突		
972	赤堀	1 - 23	SR01中層	口径30.0 高さ2.0	無石・中・普・石表・中・普	内: 10YR3/3に少い黄緑	マメツ	マメツ	口: 滲9(34cm) *斜突 文: 滲9(34cm) *斜突		
973	赤堀	1 - 23	SR01中層	底径9.7 高さ2.0	無石・中・少・石表・中・少	内: 2.5YR3/8 外: 10YR5/5	ナデ・横縞	ナデ・横縞	口: 滲9(34cm) *斜突 文: 滲9(34cm) *斜突		
974	赤堀	1 - 23	SR01中層	底径9.6 高さ2.0	無石・中・普・石表・中・普	内: 10YR3/8 外: 10YR5/5	横縞	ナデ・マメツ・板ナ	ナデ・板ナデ	口: 滲9(34cm) *斜突 文: 滲9(34cm) *斜突	
975	赤堀	1 - 23	SR01中層	底径9.6 高さ2.0	無石・中・普・石表・中・普	内: 2.5YR3/8 外: 10YR5/5	横縞	ナデ・マメツ・ナデ	ナデ・マメツ・ナデ	口: 滲9(34cm) *斜突 文: 滲9(34cm) *斜突	
976	赤堀	1 - 23	SR01中層	底径9.5 高さ2.0	無石・中・普・石表・中・普	内: 10YR3/8 外: 10YR5/5	横縞	ナデ・マメツ	ナデ・マメツ	口: 滲9(34cm) *斜突 文: 滲9(34cm) *斜突	
977	赤堀	1 - 23	SR01中層	底径10.3 高さ2.0	無石・中・普・石表・中・普	内: 10YR6/6に少い黄 外: 10YR6/6に少い黄	横縞	ナデ・マメツ	ナデ・マメツ	口: 滲9(34cm) *斜突 文: 滲9(34cm) *斜突	
978	赤堀	1 - 23	SR01中層	底径9.0 高さ2.0	無石・中・普・石表・小・普	内: 2.5YR3/8に少い黄 外: 10YR5/5	横縞	ナデ・ハゲ・メ	ナデ・ハゲ・メ	口: 滲9(34cm) *斜突 文: 滲9(34cm) *斜突	
979	赤堀	1 - 23	SR01中層	底径7.5 高さ2.0	無石・大・多・石表・大・手	内: 5YR2/2	横縞	マメツ・ハクリ	ナデ・ナ	口: 滲9(34cm) *斜突 文: 滲9(34cm) *斜突	
980	赤堀	1 - 23	SR01中層	天井断面	無石・中・多・石表・中・多	内: 10YR1/8 外: 10YR1/8に少い黄緑	横縞	マメツ	マメツ	口: 滲9(34cm) *斜突 文: 滲9(34cm) *斜突	
981	赤堀	1 - 23	SR01中層	-	無石・小・石表・小・少	内: 7.5YR6/6に少い黄 外: 10YR6/6に少い黄	横縞	マメツ・ナデ	マメツ・ナデ	口: 滲9(34cm) *斜突 文: 滲9(34cm) *斜突	
982	赤堀	1 - 23	SR01中層	口径32.0 高さ2.0	無石・中・普・石表・中・普	内: 10YR1/8 外: 5YR2/2	横縞	マメツ	マメツ	口: 滲9(34cm) *斜突 文: 滲9(34cm) *斜突	
983	赤堀	1 - 23	SR01下層	口径13.8 高さ2.0	無石・中・多・石表・中・多	内: 10YR2/2 外: 10YR2/2	横縞	ナデ・板ナデ・マメツ	マメツ	口: 滲9(34cm) *斜突 文: 滲9(34cm) *斜突	
984	赤堀	1 - 23	SR01下層	口径19.0 高さ2.0	無石・中・多・石表・中・多	内: 2.5YR6/6に少い黄 外: 10YR6/6に少い黄	横縞	マメツ	マメツ	口: 滲9(34cm) *斜突 文: 滲9(34cm) *斜突	
985	赤堀	1 - 23	SR01下層	口径14.6 高さ2.0	無石・中・普・石表・中・普	内: 10YR3/8 外: 10YR3/8	横縞	ナデ・板ナデ	ナデ・板ナデ	口: 滲9(34cm) *斜突 文: 滲9(34cm) *斜突	
986	赤堀	1 - 23	SR01下層	口径17.4 高さ2.0	無石・大・多・石表・大・手	内: 2.5YR2/2	横縞	マメツ	マメツ	口: 滲9(34cm) *斜突 文: 滲9(34cm) *斜突	
987	赤堀	1 - 23	SR01下層	-	無石・中・普・石表・中・普	内: 10YR2/2	横縞	ナデ・ハクリ・ヘラキ	ナデ・板ナデ・ヘラミガ	口: 滲9(34cm) *斜突 文: 滲9(34cm) *斜突	
988	赤堀	1 - 23	SR01下層	-	無石・中・普・石表・中・普	内: 10YR2/2	横縞	マメツ	マメツ	口: 滲9(34cm) *斜突 文: 滲9(34cm) *斜突	
989	赤堀	1 - 23	SR01下層	-	無石・中・普・石表・中・普	内: 10YR2/2	横縞	ナデ・マメツ	ナデ・マメツ	口: 滲9(34cm) *斜突 文: 滲9(34cm) *斜突	

国 名 通 用 番 号	地 理 形 態	地 区 名	報告書番号	法量(cm)	地 土	色 調	外觀調查	内觀深度	残存量	形態上の特徴	備考
994 53 烟・煙	I - 23	SRH03下層	-	長石中・多・石英・中・粉・赤色組合せ・小・少	内外:10YR6/3に多い黄緑	マメツ	相ナデ・指押さえ	相動部8	厚:2(2本)(m) + 厚:透氣		
995 烟・煙	I - 23	SRH03下層	-	長石小・多・石英・中・粉・赤色組合せ・小・少	内外:10YR6/3に多い黄緑	マメツ	相ナデ・指押さえ	相動部8	厚:2(2本)(m) + 厚:透氣		
996 53 烟・無煙	I - 23	SRH03下層	-	口幅2.4 高さ14.6 底径1.0	長石中・多・石英・中・多	内:10YR6/3に多い黄緑 外:2.5Y7/3に多い黄緑	マメツ	相ナデ・指押さえ・相ナデ	相動部8	厚:2(2本)(m) + 厚:透氣	
997 烟・煙	I - 23	SRH03下層	-	口幅2.5 高さ14.6 底径1.0	長石中・多・石英・中・粉・赤色組合せ・小・少	内:10YR6/3に多い黄緑 外:2.5Y7/3に多い黄緑	マメツ・ナメツ	相ナデ・指押さえ・相ナデ	相動部8	厚:2(2本)(m) + 厚:透氣	
998 烟・煙	I - 23	SRH03下層	-	口幅2.5 高さ14.6 底径1.0	長石中・多・石英・中・粉・赤色組合せ・小・少	内:2.5Y6/3に多い黄 外:2.5Y6/2に多い黄	マメツ・指押さえ	マメツ	相動部8	厚:2(2本)(m) + 厚:透氣	
999 烟・煙	I - 23	SRH03下層	-	口幅2.6 高さ14.7 底径1.0	長石小・多・石英・中・粉・赤色組合せ・少	内:2.5Y6/3に多い黄 外:2.5Y7/2に多い黄	マメツ・指押さえ	マメツ	相動部8	厚:2(2本)(m) + 厚:透氣	
1000 烟・煙	I - 23	SRH03下層	-	口幅2.6 高さ14.7 底径1.0	長石中・多・石英・中・粉・赤色組合せ・少	内:2.5Y6/3に多い黄 外:2.5Y7/2に多い黄	マメツ・指押さえ	マメツ	相動部8	厚:2(2本)(m) + 厚:透氣	
1001 烟・煙	I - 23	SRH03下層	-	口幅2.4 高さ14.6 底径1.0	長石中・多・石英・中・粉・赤色組合せ・少	内:2.5Y6/3に多い黄 外:2.5Y7/2に多い黄	マメツ	マメツ	相動部8	厚:2(2本)(m) + 厚:透氣	
1002 烟・煙	I - 23	SRH03下層	-	口幅2.4 高さ14.6 底径1.0	長石中・多・石英・中・粉・赤色組合せ・少	内:2.5Y6/3に多い黄 外:2.5Y7/2に多い黄	マメツ	相ナデ・マメツ・相押 さえ・相ナデ・ナデ・マメツ	相動部8	厚:2(2本)(m) + 厚:透氣	
1003 53 烟・煙	I - 23	SRH03下層	-	口幅2.4 高さ14.6 底径1.0	長石中・多・石英・中・粉・赤色組合せ・少	内:10YR7/2に多い黄 外:2.5Y6/3に多い黄	ヨコナデ・マメツ・相押 さえ・相ナデ・ナデ・マメツ	相動部8	厚:2(2本)(m) + 厚:透氣		
1004 烟・煙	I - 23	SRH03下層	-	口幅1.9 高さ14.6 底径1.0	長石中・多・石英・中・粉・赤色組合せ・少	内:10YR4/2に灰黄 外:2.5Y7/3に灰黄	マメツ	相動部8	厚:2(2本)(m) + 厚:透氣		
1005 烟・煙	I - 23	SRH03下層	-	口幅1.9 高さ14.6 底径1.0	長石・大・多・石英・大・粉	内:10YR4/2に灰黄 外:2.5Y7/3に灰黄	相押さえ・マメツ	マメツ	相動部8	厚:2(2本)(m) + 厚:透氣	
1006 烟・煙	I - 23	SRH03下層	-	口幅2.4 高さ14.6 底径1.0	長石中・少・石英・中・少・そ の他・小・少	内:10YR4/3に多い黄 外:2.5Y7/1に多い黄	ナデ・板ナデ・相ナデ・相 押さえ	マメツ	相動部8	厚:2(2本)(m) + 厚:透氣	
1007 烟・煙	I - 23	SRH03下層	-	口幅3.0 高さ14.6 底径1.0	長石中・多・石英・中・粉・赤色組合せ	内:10YR4/2に灰黄 外:2.5Y7/3に灰黄	ナデ・板ナデ・ヘリミガ キ・マメツ	ナデ・板ナデ・ヘリミガ ナデ・板ナデ後根ナデ ナキ	相動部8	厚:2(2本)(m) + 厚:透氣	
1008 烟・煙	I - 23	SRH03下層	-	口幅1.7 高さ14.6 底径1.0	長石小・少・石英・小・粉・赤色組合せ	内:10YR4/3に多い黄 外:2.5Y7/4に多い黄	ナデ・ハリ・板ナデ	ナデ・ハリ・板ナデ ナキ	相動部8	厚:2(2本)(m) + 厚:透氣	
1009 烟・煙	I - 23	SRH03下層	-	口幅1.5 高さ14.6 底径1.0	長石中・少・石英・中・粉・赤色組合せ	内:10YR4/4に多い黄 外:2.5Y7/5に多い黄	ナデ・ハリ・板ナデ	ナデ・ハリ・板ナデ ナキ	相動部8	厚:2(2本)(m) + 厚:透氣	
1010 烟・煙	I - 23	SRH03下層	-	口幅1.5 高さ14.6 底径1.0	長石中・多・石英・中・粉・赤色組合せ	内:10YR4/4に多い黄 外:10YR7/3に多い黄	ナデ・マメツ・相押さえ	ナデ・マメツ・相押さえ	相動部8	厚:2(2本)(m) + 厚:透氣	
1011 烟・煙	I - 23	SRH03下層	-	口幅1.5 高さ14.6 底径1.0	長石小・少・石英・大・粉・赤色組合せ	内:10YR7/3に多い黄 外:10YR4/1に灰黄	マメツ	マメツ	相動部8	厚:2(2本)(m) + 厚:透氣	
1012 烟・煙	I - 23	SRH03下層	-	口幅1.5 高さ14.6 底径1.0	長石中・多・石英・中・粉・赤色組合せ	内:10YR4/1に灰黄 外:10YR4/1に灰黄	ヨコナデ・マメツ	ヨコナデ・マメツ	相動部8	厚:2(2本)(m) + 厚:透氣	

国 内 通 用 番 号	地 理 形 態	地区名	海抜標高(m)	流量(cm)	底土	色調	外觀特徴	内面調整	操作量	形態上の特徴	備考
1013 係・堀 1 - 23	SPH03下層	-	基盤石中・少 色斑子・少	内外:10YR5/2に近い黄緑 外:10YR4/7褐色	ナデ・マツリ	板ナデ・マツリ	口縫部小片 文:ヘラ(2本/cm)+α	口縫部小片 文:ヘラ(2本/cm)	口縫部小片 文:ヘラ(2本/cm)	口縫部小片 文:ヘラ(2本/cm)	
1014 係・堀 1 - 23	SPH03下層	口径19.6	基盤石中・多 色斑子・少	内外:2.5YR5/3に近い黄緑 外:10YR4/7褐色	ナデ・マツリ	板ナデ	口縫部小片 文:ヘラ(2本/cm)	口縫部小片 文:ヘラ(2本/cm)	口縫部小片 文:ヘラ(2本/cm)	口縫部小片 文:ヘラ(2本/cm)	
1015 係・堀 1 - 23	SPH03下層	口径20.4	基盤石小・青 色斑子・少	内外:2.5YR5/3に近い黄緑 外:10YR4/7褐色	ナデ・マツリ	ナデ・操作さえ	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)+α	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)+α	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)+α	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)+α	
1016 53 係・堀 1 - 23	SPH03下層	口径21.8	基盤石中・少 色斑子・少	内外:10YR5/3に近い黄緑 外:10YR4/7褐色	マツリ・ハラミガキ	マツリ・操作さえ	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)+α	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)+α	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)+α	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)+α	
1017 53 係・堀 1 - 23	SPH03下層	-	長石大・少 色斑子・少	内外:10YR5/3に近い黄緑 外:10YR4/7褐色	ナデ・ハラミガキ・マツ リ	ナデ・ハラミガキ・マツ リ	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)+α	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)+α	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)+α	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)+α	
1018 係・堀 1 - 23	SPH03下層	口径17.2	長石大・少 色斑子・少	内外:10YR5/3に近い黄緑 外:10YR4/7褐色	ナデ・マツリ	ナデ・操作さえ操作板ナデ	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)+α	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)+α	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)+α	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)+α	
1019 係・堀 1 - 23	SPH03下層	口径17.2	長石中・青 色斑子・少	内外:10YR5/3に近い黄緑 外:10YR4/7褐色	ナデ・マツリ	ナデ・操作さえ操作板ナデ	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)+α	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)+α	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)+α	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)+α	
1020 係・堀 1 - 23	SPH03下層	口径15.1	長石中・青 色斑子・少	内外:10YR5/3に近い黄緑 外:10YR4/7褐色	ナデ・マツリ	板ナデ	口縫部小片 文:ヘラ(2本/cm)+α	口縫部小片 文:ヘラ(2本/cm)+α	口縫部小片 文:ヘラ(2本/cm)+α	口縫部小片 文:ヘラ(2本/cm)+α	
1021 53 係・堀 1 - 23	SPH03下層	口径18.6	長石大・青 色斑子・少	内外:10YR5/3に近い黄緑 外:10YR4/7褐色	ナデ・マツリ	ナデ・マツリ	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)	
1022 53 係・堀 1 - 23	SPH03下層	口径21.2	長石中・少 色斑子・少	内外:10YR5/3に近い黄緑 外:10YR4/7褐色	ナデ・マツリ	ナデ・操作さえ操作板ナデ	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)+三 角鉗	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)+三 角鉗	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)+三 角鉗	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)+三 角鉗	
1023 係・堀 1 - 23	SPH03下層	-	長石中・少 色斑子・少	内外:10YR5/3に近い黄緑 外:10YR4/7褐色	ナデ・マツリ	板ナデ	口縫部小片 文:ヘラ(2本/cm)+α	口縫部小片 文:ヘラ(2本/cm)+α	口縫部小片 文:ヘラ(2本/cm)+α	口縫部小片 文:ヘラ(2本/cm)+α	
1024 係・堀 1 - 23	SPH03下層	口径16.0	長石中・少 色斑子・少	内外:10YR5/3に近い黄緑 外:10YR4/7褐色	ナデ・マツリ	ナデ・操作さえ操作板ナデ	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)+α	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)+α	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)+α	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)+α	
1025 53 係・堀 1 - 23	SPH03下層	口径16.0	長石中・少 色斑子・少	内外:10YR5/3に近い黄緑 外:10YR4/7褐色	ナデ・マツリ	ナデ・操作さえ操作板ナデ	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)+α	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)+α	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)+α	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)+α	
1026 53 係・堀 1 - 23	SPH03下層	-	長石大・青 色斑子・少	内外:10YR5/3に近い黄緑 外:10YR4/7褐色	ナデ・マツリ	ナデ・マツリ	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)+α	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)+α	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)+α	口縫部/8 文:ヘラ(2本/cm)+α	
1027 係・堀 1 - 23	SPH03下層	底径15.6	長石中・少 色斑子・少	内外:2.5YR5/3に近い黄緑 外:10YR4/7褐色	ナデ	ナデ	底部2/8	底部2/8	底部2/8	底部2/8	
1028 係・堀 1 - 23	SPH03下層	底径1.1	長石大・多 色斑子・少	内外:2.5YR5/3に近い黄緑 外:10YR4/7褐色	マツリ・ミガキ	マツリ・操作さえ操作板ナデ	底部2/8	底部2/8	底部2/8	底部2/8	
1029 係・堀 1 - 23	SPH03下層	底径6.6	長石大・少 色斑子・少	内外:10YR5/3に近い黄緑 外:10YR4/7褐色	マツリ・ハラミガキ	マツリ・ハラミガキ	底部2/8	底部2/8	底部2/8	底部2/8	
1030 53 係・堀 1 - 23	SPH03下層	底径7.7	長石大・青 色斑子・少	内外:10YR5/3に近い黄緑 外:10YR4/7褐色	ナデ・マツリ	ナデ・操作ハイケーメ・ナデ	底部2/8	底部2/8	底部2/8	底部2/8	
1031 係・堀 1 - 23	SPH03下層	底径10.4	長石大・多 色斑子・少	内外:2.5YR5/3に近い黄緑 外:10YR4/7褐色	ナデ・マツリ	ナデ・マツリ	底部2/8	底部2/8	底部2/8	底部2/8	

固有 番号	品種	地区名	報告者番号	法量(cm)	株土	色調	外面特徴	内面特徴	根存量	形態上の特徴	備考
1032	赤、紫	1 - 23	SRH03下層	底径7.5	真石中・普・石英中・普	内外: 10YR5/4に近い黄緑	板ナデ状根附きえ・マツツ	直根68			
1033	赤、紫	1 - 23	SRH03下層	底径6.0	真石中・普・石英中・普	内外: 10YR5/3Cに近い黄緑	板ナデ・板ナデ・根附きえ・板ナデ	直根28			
1034	赤、紫	1 - 23	SRH03下層	底径6.0	真石中・普・石英中・普	内外: 10YR4/4に近い黄緑	板ナデ・板ナデ・根附きえ・マツツ	直根48			
1035	赤、紫	1 - 23	SRH03下層	底径6.0	真石中・少・石英中・少・普	内外: 10YR5/6に近い黄緑	板ナデ・板ナデ・根附きえ・マツツ	直根38			
1036	赤、紫	1 - 23	SRH03下層	底径6.0	真石中・少・石英中・少・普	内外: 10YR5/6に近い黄緑	板ナデ・板ナデ・根附きえ・マツツ	直根28			
1037	赤、紫	1 - 23	SRH03下層	底径8.0	真石中・少・石英中・少・普	内外: 10YR4/2Eに近い黄緑	板ナデ・板ナデ・根附きえ・マツツ	直根28			
1038	赤、紫	1 - 23	SRH03下層	底径7.4	真石中・少・石英中・少・多	内外: 10YR5/2Eに近い黄緑	板ナデ・板ナデ・根附きえ・マツツ	直根48			
1039	赤、紫	1 - 23	SRH03下層	底径9.0	真石中・少・石英中・少・多	内外: 10YR5/3Cに近い黄緑	板ナデ・板ナデ・根附きえ・ナ・マツツ	直根48			
1040	赤、紫	1 - 23	SRH03下層	底径7.0	真石中・多・石英中・大・多	内外: 10YR5/2Eに近い黄緑	板ナデ・板ナデ・根附きえ・マツツ	直根48			
1041	赤、紫	1 - 23	SRH03下層	-	真石中・中・普・石英中・普	内外: 10YR5/3Eに近い黄緑	板ナデ・ハクリ	直根小片			
1042	赤、紫	1 - 23	SRH03下層	底径11.6	真石中・少・石英中・少	内外: 10YR5/2Eに近い黄緑	板ナデ・ハクリ	直根28			
1043	赤、紫	1 - 23	SRH03下層	底径9.0	真石中・少・石英中・普	内外: 10YR5/3Cに近い黄緑	板ナデ・板ナデ・根附きえ・マツツ	直根38			
1044	赤、紫	1 - 23	SRH03下層	底径8.0	真石中・少・石英中・多・普	内外: 10YR5/3Cに近い黄緑	板ナデ・ハクリ	直根48			
1045	赤、紫	1 - 23	SRH03下層	底径6.8	真石中・多・石英中・多	内外: 10YR5/3Eに近い黄緑	板ナデ・板ナデ	直根48			
1046	赤、紫	1 - 23	SRH03下層	底径5.5	真石中・普・石英中・少・普	内外: 10YR5/3Cに近い黄緑	板ナデ・ハクリ・根附きえ・根附きえ・ナ・マツツ	直根28			
1047	赤、紫	1 - 23	SRH03下層	口徑30.2	真石中・少・石英中・少・普	内外: 10YR5/6に近い黄緑	マツツ	口脚小片			
1048	赤、紫	1 - 23	SRH03下層	口徑24.0	真石中・普・石英中・普	内外: 10YR5/6に近い黄緑	マツツ	口脚小片			
1049	赤、紫	1 - 23	SRH03下層	底径4.7	真石中・少・石英中・少・普	内外: 10YR5/2Eに近い黄緑	板ナデ・板ナデ	直根48			
1050	赤、紫	1 - 23	SRH03下層	底径2.6	真石中・普・石英中・普	内外: 10YR5/2Eに近い黄緑	ハクリ	直根48			
1051	赤、紫	1 - 23	SRH03下層	底径4.7	真石中・普・石英中・少・普	内外: 10YR5/2E白	板ナデ・マツツ	直根48			
1052	赤、紫	1 - 23	SRH03下層	底径2.6	真石中・少・石英中・少・普	内外: 10YR5/6に近い黄緑	板ナデ	直根48			

固有 種子 番号	固有 種子 番号	地区名	報告測量番号	法量(cm)	施土	色調	外観測定	内部測定	精度量	形態上の特徴	備考
1063	赤堀	I - 26	SRK037下層	口径14.0	長石・中・少・石英・小・少・青	内外:2.57/25無鉄 内:2.57/25無鉄	西班ナデ	回転ナデ	ヘラミガキ	口輪郭1/8	
1064	赤堀	I - 26	SRK037下層	口径14.8	長石・大・青・石英・大・青	内:2.57/25無鉄 外:2.57/25無鉄	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	口輪郭1/8	
1065	赤堀	I - 26	SRK037下層	口径22.0	長石・中・少・石英・中・少・青	内:2.57/25無鉄 外:2.57/25無鉄	ナデ	マツリ相ナデ	指揮されねばケメ・板ナ	口輪郭小片	口唇・糸目
1066	赤堀	I - 26	SRK037下層	口径14.8	長石・中・少・石英・中・少・青	内:2.57/25無鉄 外:2.57/25無鉄	ナデ・輪郭もえらへケメ・板ナ 指へラミガキ	指揮されねばケメ・板ナ	指揮されねばケメ・板ナ	口輪郭1/8	頭へラミ(3.3cm)
1067	赤堀	I - 26	SRK037下層	-	長石・大・少・石英・大・少・青	内:2.57/25にぶい黄 外:10YR5/25にぶい黄	ハケメ・マツリ	マツリ	頭・脚(4本)0.7cm)+α	頭・脚(4本)0.7cm)+α	
1068	赤堀	I - 26	SRK037下層	口径25.4	長石・中・少・石英・大・青・赤	内:2.57/25にぶい黄 外:2.57/25無鉄	ハクリ・ハケメ	ハクリ	口唇(凹面)先凸面+α	口唇(凹面)先凸面+α	
1069, 55	赤堀	I - 26	SRK037下層	-	長石・大・青・石英・大・青	内:2.57/25無鉄 外:10YR5/25黄褐	マツリ	マツリ	頭・脚(4本)0.7cm)+α・腹方向	頭・脚(4本)0.7cm)+α・腹方向	
1070, 55	赤堀	I - 26	SRK037下層	-	長石・中・多・石英・中・多	内:2.57/25にぶい黄 外:10YR5/25にぶい黄	ハクリ・ハケメ板ナデ・ ナデ・マツリ	ナデ・マツリ	頭・脚(2本)腹方向點凸	頭・脚(2本)腹方向點凸	
1071	赤堀	I - 26	SRK037下層	-	長石・中・少・石英・中・少	内:2.57/25無鉄 外:2.57/25無鉄	ナデ・マツリ	ナデ・マツリ	口輪郭小片	口輪郭小片	
1072, 55	赤堀	I - 26	SRK037下層	-	長石・中・少・石英・中・少	内:2.57/25にぶい黄 外:10YR5/25黄褐	ナデ・ハクメ	ナデ・板ナデ	口唇(凹面)3本(0.3cm)+波	口唇(凹面)3本(0.3cm)+波	
1073	赤堀	I - 26	SRK037下層	-	長石・中・少・石英・中・少	内:2.57/25無鉄 外:2.57/25無鉄	マツリ	マツリ	体部1/8	口・如意形	
1074	赤堀	I - 26	SRK037下層	口径34.7	長石・中・多・石英・中・少・青	内:2.57/25無鉄 外:2.57/25無鉄	マツリ	マツリ	口・如意形	口・如意形	
1075,	赤堀	I - 26	SRK037下層	口径30.6	長石・中・少・石英・中・少・青	内:10YR5/3にぶい黄 外:10YR5/3にぶい黄	マツリ・ハクリ	マツリ	口輪郭1/8	口・如意形	
1076	赤堀	I - 26	SRK037下層	口径21.6	長石・中・少・石英・中・少	内:2.57/25にぶい黄 外:2.57/25無鉄	ナデ・指揮されえ・ハケメ	ナデ・指揮されえ・ハケメ	口輪郭1/8	口・如意形	
1077	赤堀	I - 26	SRK037下層	口径17.2	長石・小・青・石英・中・青	内:10YR5/1にぶい黄 外:10YR5/1にぶい黄	ナデ・指揮されえ	ナデ・指揮されえ	指揮されえ板ナデ	口輪郭1/8	口・如意形
1078	赤堀	I - 26	SRK037下層	口径17.6	長石・大・青・石英・大・青	内:2.57/25無鉄 外:2.57/25無鉄	ナデ・ハクリ	ナデ・ハクリ	口輪郭1/8	口・如意形	
1079	赤堀	I - 26	SRK037下層	-	長石・中・多・石英・中・多	内:2.57/25にぶい黄 外:2.57/25無鉄	マツリ・指揮されえ	マツリ・指揮されえ	口輪郭小片	口・如意形	
1080	赤堀	I - 26	SRK037下層	口径29.1	長石・中・青・石英・中・青	内:2.57/25無鉄 外:10YR5/1にぶい黄	ナデ	ナデ	口輪郭小片	口・如意形	
1081, 55	赤堀	I - 26	SRK037下層	口径22.9	長石・中・青・石英・中・青	内:2.57/25にぶい黄 外:10YR5/1にぶい黄	ナデ・ハケメ・マツリ	ナデ・ハケメ・マツリ	口輪郭小片	口・如意形	
1082	赤堀	I - 26	SRK037下層	-	長石・中・青・石英・中・青 の他・中・少	内:2.57/25無鉄 外:2.57/25無鉄	マツリ	マツリ	口輪郭小片	口・如意形	
1083	赤堀	I - 26	SRK037下層	-	長石・中・青・石英・小・青	内:2.57/25にぶい黄 外:10YR5/3にぶい黄	ナデ・マツリ・板ナデ	ナデ・マツリ・板ナデ	口輪郭小片	口・如意形	外面輪付輪

国 別文 書等 番号	種類	地区名	管轄港務局番号	法量(m)	施土	色調	外観特徴	被存量	形態上の特徴	備考
1084 55	先・要	I - 26	SR03下層	口径21.4	長石・小・少、石英・中・少	外:10YR5/3にぶい黄 内:SY2/1黒	ナデ・ハケメ	ナデ・指揮さえ、 ヘラミガキ	ロ・泡・手形 口・泡・手形 文・ヘラ(3本・cm)+e	
1085 55	先・要	I - 26	SR03下層	-	長石・中・少、石英・中・少	外:10YR2/4灰黄 内:10YR7/3にぶい黄青	ナデ・ハケメ	ロ・ミガキ	ロ・泡・手形 口・泡・手形 文・ヘラ(4本・cm)+e	
1086	赤・要	I - 26	SR03下層	-	長石・大・多、石英・大・多	内:10YR5/3にぶい黄青	ナメツ	ナメツ	ロ・泡・手形 口・泡・手形 文・ヘラ(1本・0.5cm)+e	
1087	赤・要	I - 26	SR03下層	口径15.0	長石・小・少、石英・小・少	内:2.5Y3/2黒 外:10YR7/3にぶい黄青	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ・板ナチ後	ロ・泡・手形 口・泡・手形 文・ヘラ	
1088	赤・要	I - 26	SR03下層	直径12.6	長石・大・多、石英・大・多	内:10YR7/3にぶい黄青 外:10YR7/3にぶい黄青	ナシ・メタリックナデ	指揮さえ、板ナデ・マメ ツ	ロ・泡・手形 口・泡・手形 文・ヘラ	
1089	赤・要	I - 26	SR03下層	底径7.6	長石・大・多、石英・大・多	内:10YR1/1黒 外:2.5Y4/1黒灰	マメツ・銀 ナデ	アツ・グ・指揮さえ入枠板ナ デ	ロ・泡・手形 口・泡・手形 文・ヘラ	
1090	赤・要	I - 26	SR03下層	底径6.2	長石・小・多、石英・小・多	内:2.5Y4/1黒灰 外:2.5Y5/2黒灰	ナシ・メタリックナデ	ナデ・指揮さえ、 板ナチ後指揮さえ	ロ・泡・手形 口・泡・手形 文・ヘラ	
1091	赤・要	I - 26	SR03下層	底径7.1	長石・中・多、石英・中・多	内:10YR1/1黒 外:10YR2/2灰黄	ナシ・メタリックナデ	指揮さえ、板ナチ・マメ ツ	ロ・泡・手形 口・泡・手形 文・ヘラ	
1092	赤・要	I - 26	SR03下層	底径10.0	長石・中・多、石英・中・多	内:2.5Y4/1黒灰 外:10YR1/1黒灰	マメツ・銀 ナデ	アツ・グ・指揮さえ入枠板ナ デ	ロ・泡・手形 口・泡・手形 文・ヘラ	
1093	赤・要	I - 26	SR03下層	-	長石・小・少、石英・小・少	内:10YR1/1黒灰 外:2.5Y4/1黒灰	ナシ・メタリックナデ	ナシ・メタリックナデ	ロ・泡・手形 口・泡・手形 文・ヘラ	
1094	赤・要	I - 26	SR03下層	直径6.0	長石・小・少、石英・小・少	内:10YR2/2灰黄 外:10YR1/1黒	板ナチ	指揮さえ、 板ナチ後指揮さえ	ロ・泡・手形 口・泡・手形 文・ヘラ	
1095	赤・要	I - 26	SR03下層	底径8.2	長石・中・多、石英・中・多	内:10YR4/1黒 外:10YR5/1黒	マメツ・ナデ・ハケメ	指揮さえ、板ナチ	ロ・泡・手形 口・泡・手形 文・ヘラ	
1096	赤・要	I - 26	SR03下層	底径6.7	長石・大・多、石英・大・多	内:2.5Y4/1黒灰 外:2.5Y5/1黒灰	マメツ	マメツ	天井・壁・手孔	
1097	赤・要	I - 26	SR03下層	-	長石・中・多、石英・中・多	内:2.5Y4/2黒灰 外:2.5Y5/1黒灰	マクリ・ハケメ ミガキ	マメツ・ナデ	天井・壁・手孔	
1098	赤・体	I - 26	SR03下層	-	長石・中・多、石英・中・多	内:10YR2/2灰黄 外:10YR1/1黒	指揮さえ、マメツ・ハラ ミガキ	指揮さえ、マメ ツ	ロ・泡・手形 口・泡・手形 文・ヘラ	
1101	赤・要	I - 28	SR03下層	口径14.6	長石・小・少、石英・少・少 内:10YR5/1黒	内:10YR5/3にぶい黄 外:10YR5/1黒	ナデ・ハケメ	ナデ・指揮さえ、 ヘラミガキ	ロ・泡・手形 口・泡・手形 文・ヘラ(2本・cm)	
1102	赤・要	I - 28	SR03下層	底径7.2	長石・大・多、石英・大・多 内:10YR5/1黒	内:2.5Y5/2黒灰 外:10YR5/1黒	ナシ・メタリックナデ	指揮さえ、マメツ ミガキ	ロ・泡・手形 口・泡・手形 文・ヘラ	
1103	赤・要	I - 28	SR03下層	-	長石・小・少、石英・少・少 内:10YR5/1黒	内:10YR5/3にぶい黄 外:10YR5/1黒	ナシ・メタリックナデ	ナシ・メタリックナデ	ロ・泡・手形 口・泡・手形 文・ヘラ	
1104	赤・底部	I - 28	SR03下層	底径9.1	長石・中・多、石英・中・多	内:2.5Y4/1黒灰 外:10YR5/1黒	ナシ・メタリックナデ	ナシ・メタリックナデ	ロ・泡・手形 口・泡・手形 文・ヘラ	
1105	赤・要	I - 28	SR03下層	底径5.8	長石・中・少、石英・中・少	内:2.5Y5/2黒灰 外:10YR5/1黒	マメツ	マメツ	天井・壁・手孔	
1106	赤・要	I - 28	SR03下層	底径6.3	長石・中・少、石英・中・少	内:10YR5/2黒灰 外:10YR5/3にぶい黄	マメツ	マメツ	天井・壁・手孔	

部文 部名 番号	地名	地区名	標高(m)	法量(m)	削土	色調	外表面性	内面性質	操作量	形態上の特徴	備考
1110 東、西 I - 23	SHR03その他	長石・大・多、石英・大・多	内:2.57YR3/1にぶい黄 外:10YR5/2淡黄褐	ナデ・マツツ 指押さえハラミガキ	マメシ	黒板1/6	跡・丸み3種。				
1111 東、西 I - 26	SHR03その他	長石・小・多、石英・小・多	内:10YR4/2にぶい黄 外:10YR5/2淡黄褐	指押さえナデ・指ナデ 口撮能元件	ナデ・指押さえ	黒板1/6	口:逆手形 文:ヘラ5(2本/cm)+α				
1112 東、西 I - 26	SHR03その他	長石・大・少、石英・大・少	内:2.57YR3/1にぶい黄 外:10YR4/2淡黄褐	ナデ・指押さえ ヘラミガキ・マツツ・指 押さえ	ナデ・指押さえ	黒板1/6	口撮能元件				
1113 東、西 I - 23	SHR03その他	長石・大・多、赤色粒子・中・少	内:10YR4/2淡黄褐 外:5YR5/2	指押さえナデ・マツ ツ	指押さえ入荷板ナデ・マツ ツ	黒板1/6	口撮能元件				
1114 東、西 I - 23	SHR03その他	長石・中・普、石英・中・普	内:10YR4/2淡黄褐 外:10YR3/1にぶい黄 外:10YR3/2淡黄褐	ナデ・ハクメ 指押さえ	ナデ・ハクメ 指押さえ	黒板1/6	口撮能元件				
1115 東、西 I - 26	SHR03その他	長石7.5 長石子・中・少	内:10YR3/1にぶい黄 外:10YR3/2淡黄褐	ナデ・カキ・マツツ 指押さえナデ	ナデ・カキ・マツツ 指押さえ	黒板2/8	直角2/8				
1120 57 土・小皿 I - 24	トレチ2	口壁8.4 長石6.4 長石子・小・普	内:10YR3/1にぶい黄 外:10YR3/2淡黄褐	黒板ナデ・直板へ切り 黒板ナデ	黒板ナデ・直板へ切り 黒板ナデ	黒板2/8	口撮能4/8				
1121 57 土・小皿 I - 24	トレチ2	口壁8.0 長石6.9 色粒子・小・少	内:2.57YR3/1にぶい黄 外:2.57YR3/2白	直板ナデ・直板へ切り 直板ナデ	直板ナデ・直板へ切り 直板ナデ	黒板2/8	直角2/8				
1122 土・小皿 I - 24	トレチ2	口壁8.4 長石6.2 色粒子・小・少	内:2.57YR3/1にぶい黄 外:2.57YR3/2白	ナデ・直板へ切り	ナデ	黒板2/8	口撮能2/8				
1123 土・坪 I - 24	トレチ2	底板7.2 色粒子・小・少	内:10YR3/1にぶい黄 外:10YR3/2白	黒板ナデ・マツツ・直板 黒板ナデ・マツツ	黒板ナデ・マツツ	黒板2/8	直角2/8				
1124 土・坪 I - 24	トレチ2	底板7.2 長石・少・少	内:2.57YR3/2白 外:2.57YR3/2白	直板ナデ・直板へ 直板ナデ	直板ナデ・直板へ 直板ナデ	黒板2/8	直角2/8				
1125 土・坪 I - 24	トレチ2	口壁12.6 色粒子・小・少	内:10YR3/1にぶい黄 外:10YR3/2淡黄褐	直板ナデ・マツツ	直板ナデ	黒板2/8	口撮能1/8				
1126 土・砂 I - 24	トレチ2	底板6.4 色粒子・小・普	内:2.57YR3/2白 外:10YR3/2淡黄褐	直板ナデ・直板へ切り	直板ナデ・マツツ	黒板2/8	直角2/8				
1127 土・足道 I - 24	トレチ2	口壁22.4 色粒子・小・少	内:10YR3/1にぶい黄 外:10YR3/2白	直板ナデ・マツツ 指押さえ直板ナデ	直板ナデ・マツツ 指押さえ直板ナデ	黒板2/8	口撮能小片				
1128 57 保構 I - 24	トレチ2	底板5.5 底板5.5 底板5.5	内:2.57YR3/1にぶい黄 外:10YR3/2白 内:2.57YR3/1にぶい黄 外:10YR3/2白 内:2.57YR3/1にぶい黄 外:10YR3/2白	(凹面)薄カタキ目 (凹面)薄カタキ目 (凹面)薄カタキ目	(凹面)薄カタキ目 (凹面)薄カタキ目 (凹面)薄カタキ目	黒板5/3	-				
1129 57 平瓦 I - 24	トレチ2	底板5.5 底板5.5 底板5.5	内:2.57YR3/1にぶい黄 外:10YR3/2白 内:2.57YR3/1にぶい黄 外:10YR3/2白 内:2.57YR3/1にぶい黄 外:10YR3/2白	マツツ マツツ マツツ	マツツ マツツ マツツ	黒板1/8	口撮能手形				
1130 57 (新丸屋) I - 24	トレチ2	底板5.3 底板5.3 底板5.3	内:2.57YR3/1にぶい黄 外:10YR3/2白 内:2.57YR3/1にぶい黄 外:10YR3/2白 内:2.57YR3/1にぶい黄 外:10YR3/2白	マツツ マツツ マツツ	マツツ マツツ マツツ	黒板1/8	口撮能手形				
1132 東、西 I - 27	旧水槽	口壁26 色粒子・小・少	内:10YR3/1にぶい黄 外:10YR3/2白	マツツ	マツツ	黒板1/8	口撮能手形				
1133 東、西 I - 27	旧水槽	-	長石・大・多、石英・大・多	マツツ	マツツ	黒板小片	口撮能手形				

層名 番号	標識 地区名	報告者番号	法度(cm)	土	色調	外因特徴	内因特徴	残存量	形態上の特徴	備考
四 層	新・老 1 - 27	旧水路	天井50.4 底盤7.6	基岩 赤褐色土・泥灰土	外:10YR4/2に赤 内:2.5YR5/2灰黄	滑落せんれい・マツ 固結・うつり・風化	押界せん板ナード・マテ 板ナード・風化	天井部存 底合部無		
1134	新・老 1 - 27	旧水路	底盤10.5 高さ4.7	粘土	内:2.5YR5/2灰黄	固結・うつり・風化	板ナード・風化	底面ナード・風化	底面無	
1135	階級・林 1 - 27	旧水路	底盤10.5 高さ4.7	粘土	内:2.5YR5/2灰黄	固結・うつり・風化	板ナード・風化	底面ナード・風化	底面無	
1136	階級・林 1 - 27	旧水路	底盤10.5 高さ4.7	粘土	内:2.5YR5/2灰黄	固結・うつり・風化	板ナード・風化	底面ナード・風化	底面無	
1137	新・老部 1 - 27	包含層	底盤3.2 高さ3.2	基岩中・多・石英中・少・赤 色粒子中・少・赤	内:10YR4/2に赤 外:10YR4/4に赤	滑落せんれい・マツ 固結・うつり・風化	板ナード・ナード 板ナード	底面無		
1138	土・小屋 1 - 27	包含層	底盤5.0 高さ3.0	長石・小石・赤 色粒子・少・赤	内:10YR4/2灰黄	固結・ナード・回転・うつり	固結ナード	口縁部3.8 底盤9		
1139	土・足室 1 - 27	包含層	底盤5.0 高さ3.0	長石・中・多・石英中・多・赤 色粒子・少・赤	内:10YR4/3に赤 外:10YR4/3に赤	滑落せんれい・マツ ナード・マツ・滑落せん れい	板ナード・ナード・マツ ナード	口縁部・少・小片		
1140	土・足室 1 - 27	包含層	底盤3.2 高さ3.2	長石・中・多・石英中・多・赤 色粒子・中・赤	内:2.5YR5/6	滑落せんれい・マツ・滑 落せんれい・マツ・マ ツ	板ナード・マツ・マツ・滑 落せんれい・マツ・マ ツ	側壁6.6		
1141	土・足室 1 - 27	包含層	底盤2.8 高さ2.8	長石・大・少・石英大・多・赤 色粒子・大・少・赤	内:10YR4/3に赤 外:10YR4/4に赤	滑落せんれい・マツ・滑 落せんれい・マツ・マツ・滑 落せんれい・マツ・マツ	板ナード・マツ・マツ・滑 落せんれい・マツ・マツ・滑 落せんれい・マツ・マツ	側壁5.8		
1142	土・足室 1 - 27	包含層	底盤2.6 高さ2.6	長石・小・少・石英・少・多・赤 色粒子・小・少・赤	内:10YR4/4に赤	滑落せんれい・マツ・滑 落せんれい・マツ・マツ	板ナード	側壁小片		
1143	土・足室 1 - 27	包含層	底盤3.2 高さ3.2	長石・中・多・石英中・多・赤 色粒子・中・赤	内:10YR4/2灰黄	滑落せんれい・マツ・滑 落せんれい・マツ・マツ	板ナード	側壁小片		
1144	角・折 1 - 27	包含層	底盤8.0 高さ8.0	長石・小・少・石英・小・少 色粒子・小・少・赤	内:NE灰	固結・ナード・回転・うつり	固結ナード	底面ナード		
1145	須・盛合 付付B	1 - 27	包含層	底盤13.0 高さ8.0	長石・小・少・石英・小・少 色粒子・小・少・赤	内:NE灰白	固結ナード	底面ナード	底面ナード	
1146	須・盛合 1 - 27	包含層	底盤19.8 高さ8.0	長石・小・少・石英・小・少 色粒子・小・少・赤	内:10YR5/2 外:10YR5/2	固結ナード	固結ナード	側壁6.6		
1147	須・盛合 1 - 27	包含層	底盤2.2 高さ2.2	砂粒・微・少	内:2.5YR6/1黄灰	滑落せんれい・片口部分・ヨ ココナド	板ナード	口縁部6.0		
1148	須・盛 1 - 27	包含層	底盤10.8 高さ10.8	砂粒・あまり含まない 色粒子・小・少	外:2.5YR6/1灰 外:2.5YR6/1灰	滑落せんれい・マツ・リード	板ナード	側壁6.6		
1149	須・盛合 1 - 27	包含層	底盤10.8 高さ10.8	長石・小・少・石英・小・少 色粒子・小・少	内:2.5YR7/2灰	固結ナード	固結ナード	底面ナード		
1150	須・盛 1 - 27	包含層	底盤8.0 高さ8.0	長石・小・少・石英・小・少 色粒子・小・少・赤	内:2.5YR7/1灰白	平行タラキ・間隙カキ目	滑落せん れい	側壁小片		
1151	須・盛合 1 - 27	包含層	底盤8.0 高さ8.0	長石・小・少・石英・小・少 色粒子・小・少・赤	内:2.5YR7/1灰 外:2.5YR7/1灰	滑落せんれい・マツ・ ナード・滑落せん れい・マツ・ナード	板ナード	口縁部小片 側壁無	口縁部小片 側壁無	
1152	須・盛合 1 - 27	包含層	底盤24.0 高さ24.0	長石・小・少・石英・小・少 色粒子・小・少・赤	内:2.5YR6/2灰 外:2.5YR6/2灰	固結ナード	固結ナード	側壁小片	口縁部小片 側壁無	
1153	須・盛合 1 - 27	包含層	底盤8.0 高さ8.0	長石・中・少・石英・中・少 色粒子・中・少・赤	内:10YR4/2灰 外:10YR4/2灰	滑落せんれい・マツ ナード・滑落せん れい・マツ・ナード	板ナード	側壁ナード	口縁部小片 側壁無	
1154	須・盛合 1 - 23	包含層	底盤8.0 高さ8.0	長石・中・少・石英・中・少 色粒子・中・少・赤	内:10YR4/2灰 外:10YR4/2灰	滑落せんれい・マツ ナード・滑落せん れい・マツ・ナード	板ナード・マツ ナード	底面4.6		

地文 地名 番号	種類	地区名	緯度経度番号	法量(cm)	地土	色調	外観特徴	内面特徴	被覆量	形態上の特徴	備考
1155 土・砂D 1 - 23 包含層	底径8.4	長石・中・少 石英・小・多	内外:SY07/6底白	圓板ナデ(圓板へラ切り)	圓板ナデ	底径5.8					底部:網状模
1156 土・砂A 1 - 23 包含層	底径11.0	長石・小・少 石英・小・少	内外:2.5/7/1底白	圓板ナデ	圓板ナデ	底径2.8					
1157 付托B 1 - 23 包含層	底径9.8	鈍色粘子・小・少 砂・細	内外:2.5/7/1底白	圓板ナデ	圓板ナデ	底径1.8					
1158 土・砂 1 - 23 包含層	口径27.8	長石・小・少 石英・小・少	内外:N6底	圓板ナデ	圓板ナデ	口径2.8					
1159 土・底層 1 - 23 包含層	底径19.9	長石・小・少 石英・小・少・黒 色粘子・小・少	内外:SP86/1底白 生糞:SY7/2底白	ヘラ削りナデ	細削えへテ削り	底径1.8					
1160 白雲・純 1 - 23 包含層	口径19.2	堅綿	内外:2.5/7/1明オーブ灰	圓板ナデ・施相	圓板ナデ・施相	口径2.8					
1161 57 白雲・純 1 - 23 包含層	底径6.0	堅綿	内外:2.5/7/1明オーブ灰	施相	施相	底径3.8	外:ヘラ2				
1162 灰瓦 1 - 23 包含層	底径6.4	長石・中・少 石英・中・少 色粘子・小・少	合:2.5/7/2底白 白:2.5/7/2底白	(凸面)へラ削り	(凹面)も目直減	一					土質層
1163 土・砂D 1 - 23 包含層	底径6.4	長石・中・少 石英・中・少 色粘子・中・少	内外:10/7/6底白	圓板ナデ・圓板へラ切り	圓板ナデ	底径3.8					
1164 土・灰 1 - 23 包含層	底径5.9	長石・小・少 石英・小・少・黒 色粘子・中・少	内外:10/7/6底白	圓板ナデ・圓板へラ切り	圓板ナデ	底径3.8					表面はばら穴
1165 57 黄・灰 1 - 23 包含層	口径11.5	長石・小・少 石英・小・少・黒 色粘子・小・少	内外:SY7/1底白	圓板ナデ・圓板へラ切り	圓板ナデ	底径4.8					内部自然構
1166 灰瓦 1 - 23 包含層	底径10.6	砂粒・あまり含まない	内外:N6底	圓板ナデ・圓板へラ切り	圓板ナデ	底径3.8					
1167 土・砂A 1 - 23 包含層	底径8.0	長石・中・少 石英・小・少	内外:N6底	圓板ナデ・圓板へラ切り	圓板ナデ	底径1.8					内外通火輝
1168 58 付托B 1 - 23 包含層	口径15.0	長石・小・少 石英・小・少・黒 色粘子・小・少	内外:N7/7底白	圓板ナデ・ナデ	圓板ナデ	底径2.8					
1169 灰・高・台 1 - 23 包含層	底径10.2	長石・小・少 石英・小・少	内外:N7/7底白	圓板ナデ	圓板ナデ	底径3.8					
1170 朱・純 1 - 23 包含層	底径3.3	長石・中・少 石英・中・少	内外:N8底白	マツミナナデ	マツミ	底径1.8					マツミ青い
1171 瓦礫・純 1 - 23 包含層	底径5.2	砂粒・あまり含まない	内外:N4底	ナデ	ヘラミガキ	底径2.8					
1172 白雲・純 1 - 23 包含層	底径6.2	堅綿	内外:2.5/7/1底白	削り出しつら	削相	底径2.8					
1173 白雲・純 1 - 23 包含層	口径17.0	堅綿	内外:10/7/6底白	施相	施相	口径2.8					
1180 土・灰 1 - 26 包含層	口径9.6	長石・小・少 石英・小・少 色粘子・少	内外:2.5/7/1底白	圓板ナデ・圓板へラ切り	圓板ナデ	底径2.8					
1181 土・灰 1 - 26 包含層	口径5.6	長石・小・少 石英・小・少 色粘子・少	内外:7.5/7/4底白	圓板ナデ・圓板へラ切り	圓板ナデ	底径2.8					

標文 番号	概要	地区名	報告者番号	法面(m)	胎土	色調	外面調査	内面調査	保存量	形態上の特徴	参考
1182 56 丸瓦	1 - 25	包含層	男賀義2	長石・中・基、石英・中・基 厚さ1.5	凸:15cm 凹:14cm	(凸面)ハラ解りナデ (凹面)布目压痕	指揮され・繊ナデ・マメ ツ	-			
1186 59 东・西	1 - 25	包含層	口径13.6	長石・中・基、石英・中・基 色子・中・少	内外:10YR8/3に近い黄 外:7.5YR8/4に近い黄	ナデ・マメツ	口:指揮され・繊ナデ・マメ ツ	口:透子5(3本:0.6cm)+三 文:側突			
1187 59 东・西	1 - 25	包含層	口径21.4	長石・大・多、石英・大・多	内:7.5YR8/4に近い黄 外:7.5YR8/4に近い黄	マメツ	体幅4.8				
1188 东・西・北	1 - 25	包含層	底径6.4	長石・小・基、石英・小・基、セ 色子・中・基	内外:10YR7/4に近い黄 外:10YR7/4に近い黄	板ナデ・ナデ	指揮され・繊ナデ・ナデ	底突起			
1189 旗・斜井	1 - 25	包含層	口径23.6	長石・小・少、石英・小・少	内外:5BS8/2灰	圓盤ナデ	圓盤ナデ・板ナデ	口:圓盤小片	裏側系		
1190 旗・斜井	1 - 27	包含層	口径6.0	長石・小・少、石英・小・少	内外:7.5YR8/4に淡黃紅	ナデ・指揮され ナデ・斜面	ナデ・指揮され・板ナデ	口:圓盤	煙付管		
1191 旗・斜井	1 - 27	包含層	口径15.6	長石・小・少、石英・小・少	内外: N6灰	圓盤ナデ	圓盤ナデ	口:圓盤	口:圓盤		
1192 丸瓦	1 - 27	包含層	深字4.9	長石・小・少、石英・小・少	凸:2.5YR8/2E白 凹:2.5YR8/2E白	ヨコ方向・複数のハラ層 タテ方向へ凹削り	ナデ・指揮され・板ナデ	布目压痕	-		
1193 旗・斜井	1 - 23	包含層	口径16.0	長石・小・多、石英・小・多、非 色子・小・少	内外:7.5YR8/6明輪	マメツ	圓盤ナデ	口:圓盤	口:圓盤		
1194 旗・斜井	1 - 23	包含層	口径18.2	長石・小・少、石英・小・少	内外: N6灰 外: N4灰	圓盤ナデ・指揮され	圓盤ナデ	口:圓盤	口:圓盤		
1195 59 旗・斜井	1 - 23	包含層	口径2.0	長石・小・少、石英・小・少	内外:5YR7/1灰白 生地: N7灰白	圓盤ナデ	圓盤ナデ	口:圓盤	口:圓盤		
1196 平瓦	1 - 23	包含層	底径5.5	基盤	17.5YR8/1灰 凹:15YR8/1灰 凸:15YR8/1灰	圓盤ナデ・指揮	圓盤ナデ・指揮	底突起	底突起		
1197 平瓦	1 - 23	包含層	頂径6.0	長石・小・少、石英・小・少	凸:15YR8/1灰 凹:15YR8/1灰	(凸面)薄タキ目 (凹面)薄タキ目	(凸面)布目压痕 (凹面)布目压痕	(凸面)布目压痕 (凹面)布目压痕	-		
1198 平瓦	1 - 23	包含層	頂径6.0	長石・中・基、石英・中・基 色子・大・少	凸:15YR8/1灰 凹:15YR8/1灰	(凸面)薄タキ目 (凹面)薄タキ目	(凸面)薄タキ目 (凹面)薄タキ目	(凸面)薄タキ目 (凹面)薄タキ目	-		
1199 平瓦	1 - 23	包含層	頂径6.5	長石・大・基、石英・大・基 色子・大・少	凸:10YR8/4淡黃 凹:15YR7/0灰	新:三日文 裏:丸窓あり付け脚ナデ 上:ヨコナガナデ	指揮され・指揮され・大後板 ナデ・指揮され・指揮され	-			
1200 59 旗丸瓦	1 - 23	包含層	頂径6.9	長石・小・少、石英・小・少、非 色子・中・少	内外:7.5YR7/0灰	指揮され・指揮され・指揮され	指揮され・指揮され・指揮され	指揮され・指揮され・指揮され	口:如意歩 文:ヘラ型(2本:cm)		
1201 59 东・西	1 - 26	包含層	口径39.0	長石・小・少、石英・小・少、非 色子・中・少	内外:10YR7/3に近い黄 外:10YR7/3に近い黄	指揮され・指揮され・指揮され	指揮され・指揮され・指揮され	口:圓盤小片	口:圓盤小片		

国 別文 書号 番号	地図 番号	地区名	報告者番号	法量(m)	砂土	色調	外表面性	内面性質	保存量	形態上の特徴	備考
1202 59 佐・瀬	I - 23	包含層	口径22.6	長石・大・粉 石英・大・粉・赤 色斑子・小・少	内:10YR7/3に近い黄 外:10YR7/2灰黄褐	ナデ・マメツ・横裂きえ ハケツ	砂地1/8	口逆・半形 口縫部斜面 文ヘラ4(2cm)×a			
1203 59 佐・瀬	I - 26	包含層	-	長石 中・粉 石英 中・粉	内:外:10YR6/3に近い黄 外:2.5YR7/2灰黃 色斑子・小・少	ナデ	短ナデ後斜押さえ	口縫部小片	口逆・半形 文ヘラ4(3cm)		
1204 59 佐・瀬	I - 26	包含層	口径17.4	長石・小・少 石英・小・少・赤 色斑子・小・少	内:外:2.5YR7/2灰黃 色斑子・小・少	ナデ	ナデ・横押さえ	口縫部1/8	口逆・半形 文ヘラ4(3cm)		
1205 59 佐・瀬	I - 26	包含層	口径21.6	長石 中・粉 石英 中・粉	内:外:2.5YR7/3灰黃	ナデ・マメツ	ナデ・マメツ・横ナデ	口縫部小片	口逆・半形 文ヘラ4(1.5cm)×三 角斜め		
1206 佐・瀬	I - 26	包含層	底径6.3	長石・小・粉 石英・小・粉 色斑子・小・少	内:10YR7/2灰黃 外:10YR7/2灰黃 色斑子・小・少	ナデ	押さえ	底地4/8			
1207 59 佐・林	I - 26	包含層	底径5.3	長石 中・粉 石英 中・粉 色斑子・小・少	内:外:2.5YR7/2灰黃 色斑子・小・少	ナデ・マメツ	ナデ・地ナデ	底地平行			
1208 土・山田	I - 26	包含層	口徑8.6 底径6.4	長石・小・粉 石英・小・粉 色斑子・小・少	内:外:2.5YR8/3灰黃 色斑子・小・少	圓板ナデ・マメツ・圓板 ヘラ切り	圓板ナデ	口縫部2/8			
1209 土・瀬	I - 26	包含層	-	長石 中・粉 石英 中・粉	内:外:10YR7/2灰白	ナデ	底地小片				
1210 土・瀬	I - 26	包含層	口徑23.0	長石・小・少 石英・小・少 色斑子・小・少	内:外:10YR7/1灰白 色斑子・小・少	圓板ナデ・カキ目	圓板ナデ	口縫部小片	口縫部(内面・外面) (外面):一直自然 縫		
1211 土・瀬	I - 26	包含層	口徑33.8	長石・小・粉 石英・小・粉 色斑子・小・少	内:外:10YR6/3に近い黄 外:10YR4/4灰	アメツ	ヘラミガキ・アメツ	口縫部小片	口縫部 文部(5本/cm)+α 刺		
1212 土・山	I - 26	包含層	口径7.6 底径7.5	長石・小・少 石英・小・少・赤 色斑子・小・少	内:外:10YR7/1灰 色斑子・小・少	圓板ナデ・ヘラ切り	圓板ナデ	口縫部2/8			
1213 土・糞・灰	I - 26	包含層	口径7.4	砂粒・細	内外:NB灰白	ヘラ削り・圓板ナデ	圓板ナデ	口縫部1/8			

調査番号	開拓番号	地区名	事件選択番号	特徴	高さ(cm)	幅(米)	奥行き(cm)	重さ(g)	石材	形態・手法の特徴
89	231	I - 28	SDK05	打製石鏡	2.0	1.5	0.4	0.9	サヌカイト	凹基式
90	231	I - 28	SDK05	打製石鏡	3.5	2.0	0.5	3.2	サヌカイト	凹基式
91	231	I - 28	SDK05	打製楔形石器	3.2	2.3	0.6	4.5	サヌカイト	
92	231	I - 28	SDK05	打製石斧	6.4	4.2	0.8	34.5	サヌカイト	
118	241	I - 28	SDK06	打製スクレイパー	6.0	5.5	0.9	32.5	サヌカイト	
119	241	I - 28	SDK06	打製楔形石器	4.4	3.4	0.9	17.4	サヌカイト	
190	261	I - 28	SDK12	打製石鏡	2.5	1.3	0.4	0.9	サヌカイト	
191	261	I - 28	SDK12	打製石鏡	3.1	1.5	0.4	1.6	サヌカイト	凹基式
192	261	I - 28	SDK12	打製石鏡	3.4	1.9	0.5	2.8	サヌカイト	凹基式
193	261	I - 28	SDK12	打製石鏡	2.9	2.4	0.6	3.2	サヌカイト	未製品(凹基式)
194	261	I - 28	SDK12	打製石鏡	3.3	1.6	0.4	2.3	サヌカイト	有基式
195	261	I - 28	SDK12	打製石鏡	3.3	1.8	0.6	2.4	サヌカイト	有基式
196	261	I - 28	SDK12	打製スクレイパー	3.1	4.8	0.5	10.5	サヌカイト	
197	261	I - 28	SDK12	打製石磨丁	8.7	5.2	1.4	58.0	サヌカイト	
198	261	I - 28	SDK12	打製楔形石器	2.3	3.6	1.4	14.1	サヌカイト	
199	261	I - 28	SDK12	打製楔形石器	2.6	2.3	0.9	6.9	サヌカイト	
200	261	I - 28	SDK12	打製刮片	1.6	2.3	0.5	2.1	サヌカイト	
201	261	I - 28	SDK12	打製刮片	1.7	1.8	0.4	0.9	サヌカイト	
202	261	I - 28	SDK12	勾玉	4.3	1.7	1.1	15.9	碧玉	
278	291	I - 27	SKK11	打製スクレイパー	4.6	5.4	0.7	15.0	サヌカイト	
292	301	I - 23	SKX11	不明	5.9	3.7	1.9	62.6		
391	331	I - 27	SRK01上層	打製石鏡	1.9	2.3	0.4	1.5	サヌカイト	平基式
392	341	I - 27	SRK01上層	打製石磨丁	4.5	4.0	1.0	17.0	サヌカイト	金山産?
393	331	I - 27	SRK01上層	打製楔形石器	3.6	3.9	1.1	17.7	サヌカイト	
394	341	I - 27	SRK01上層	打製楔形石磨丁	5.5	4.4	0.7	15.7	千枚岩	未製品
602	381	I - 25	SRK01下層	打製スクラバー→石斧	10.4	7.2	1.7	109.4	サヌカイト	敲打痕
603	391	I - 25	SRK01下層	打製スクレイパー	5.7	3.9	1.1	17.1	サヌカイト	
604	391	I - 25	SRK01下層	打製スクレイパー	3.4	2.7	0.5	4.7	サヌカイト	
605	391	I - 25	SRK01下層	打製スクレイパー	10.5	5.4	0.9	58.4	サヌカイト	
606	391	I - 25	SRK01下層	打製打製石斧の断面	5.0	4.4	1.3	26.3	サヌカイト	
607	391	I - 25	SRK01下層	打製石鏡	7.2	6.1	2.5	119.1	サヌカイト	
608	391	I - 25	SRK01下層	打製楔形石器	3.0	4.8	1.0	16.7	サヌカイト	
609	391	I - 25	SRK01下層	磨耗石磨丁	6.0	5.1	0.8	36.4	滑板石	
610	391	I - 25	SRK01下層	磨耗石磨丁	4.7	5.2	0.7	15.0	安山岩	未製品
611	401	I - 25	SRK01下層	磨耗石磨丁(石斧に転用)	11.6	7.0	3.2	337.4	千枚岩	
612	401	I - 25	SRK01下層	磨耗石磨丁	5.3	3.7	3.0	51.5	千枚岩	
634	441	I - 27	SRK01下層	打製スクレイパー	7.3	5.6	0.9	27.3	サヌカイト	未製品
695	441	I - 27	SRK01下層	磨耗石磨丁	6.6	5.2	0.8	41.2	安山岩	
910	471	I - 26	SRK01中層	打製スクレイパー	3.7	6.6	0.9	12.4	サヌカイト	
911	471	I - 26	SRK01中層	打製スクレイパー	3.8	3.8	0.8	13.7	サヌカイト	
912	391	I - 26	SRK01下層	打製スクレイパー	5.4	3.2	0.8	11.0	サヌカイト	
913	471	I - 26	SRK01下層	磨耗石鏡	4.2	3.1	1.5	28.2	緑色片岩	
911	471	I - 26	SRK01その他	打製石鏡	2.5	1.2	0.2	0.5	サヌカイト	四基式
902	481	I - 26	SRK01その他	打製石鏡	4.8	0.8	0.4	1.8	サヌカイト	
993	491	I - 26	SRK01その他	打製石鏡	8.0	4.8	0.5	22.5	サヌカイト	
994	491	I - 26	SRK01その他	打製スクレイパー	4.5	3.2	0.7	10.6	サヌカイト	
995	491	I - 26	SRK01その他	打製スクレイパー	4.4	4.8	0.5	12.8	サヌカイト	
996	491	I - 26	SRK01その他	打製石磨丁	4.4	3.4	0.7	8.2	サヌカイト	
997	491	I - 26	SRK01その他	打製石磨丁→楔形石器	6.1	4.3	0.9	23.2	サヌカイト	
904	501	I - 27	SRK01その他	打製石磨丁	8.4	5.0	0.9	51.2	流紋岩	2孔目あけかけ?
959	521	I - 23	SRK03上層	打製石磨丁	11.3	5.2	1.2	58.5	サヌカイト	
963	521	I - 23	SRK03中層	打製石鏡	2.1	1.5	0.4	0.6	サヌカイト	凹基式
964	521	I - 23	SRK03中層	打製打製石斧	3.5	4.8	1.1	21.0	サヌカイト	
985	521	I - 23	SRK03中層	打製スクレイパー	8.5	5.1	1.6	59.0	サヌカイト	
996	521	I - 23	SRK03中層	磨耗片刃石斧	4.6	3.4	1.2	37.5	緑色片岩	
987	521	I - 23	SRK03中層	大型片刃石斧	12.4	5.7	4.5	534.9	緑色片岩	
1053	541	I - 23	SRK03下層	打製スクレイパー	4.8	3.0	0.7	10.1	サヌカイト	
1054	541	I - 23	SRK03下層	打製スクレイパー	5.1	3.9	0.6	11.1	サヌカイト	
1055	541	I - 23	SRK03下層	打製石斧	4.0	4.0	1.5	23.3	サヌカイト	
1056	541	I - 23	SRK03下層	打製石斧	5.9	5.1	1.4	50.5	サヌカイト	
1057	541	I - 23	SRK03下層	打製石斧	9.5	6.4	1.6	132.8	サヌカイト	
1058	541	I - 23	SRK03下層	打製石鏡	7.0	5.3	1.2	77.8	サヌカイト	
1059	551	I - 23	SRK03下層	打製石鏡	5.9	3.3	1.5	28.2	サヌカイト	
1060	551	I - 23	SRK03下層	打製石鏡	4.3	3.5	1.2	21.3	サヌカイト	
1061	541	I - 23	SRK03下層	打製楔形石器	5.1	4.9	1.4	26.3	サヌカイト	
1062	541	I - 23	SRK03下層	打製石磨丁	6.5	3.2	0.7	15.5	石英片岩	
1099	551	I - 26	SRK03下層	打製石鏡	2.9	2.1	0.5	2.7	サヌカイト	平基式
1100	551	I - 26	SRK03下層	打製石斧	7.0	5.7	1.4	69.7	サヌカイト	
1107	561	I - 26	SRK03下層	打製スクレイパー	3.2	2.2	0.8	4.5	サヌカイト	
1108	561	I - 26	SRK03下層	打製スクレイパー	7.9	4.9	1.0	35.1	サヌカイト	
1109	561	I - 26	SRK03下層	不明	7.6	6.3	0.7	29.3	安山岩	地質多様、磨製石器の未製品か?3面ワレ
1116	561	I - 23	SRK03その他	打製石鏡	3.1	1.4	0.4	1.7	サヌカイト	凹基式
1117	561	I - 23	SRK03その他	打製スクレイパー	7.7	4.5	0.9	30.5	サヌカイト	
1118	561	I - 23	SRK03その他	打製スクレイパー	2.0	4.2	0.6	7.3	サヌカイト	
1119	561	I - 28	SRK03その他	打製石磨丁	6.2	3.5	1.2	37.1	粘土片岩	
1131	1	- 24	合倉層(2/2)	打製楔形石器	3.4	2.7	1.2	12.9	サヌカイト	
1175	1	- 23	合倉層(2/2)	打製石鏡	1.8	1.8	0.4	1.2	サヌカイト	凹基式
1176	1	- 23	合倉層(2/2)	打製楔形石器	2.9	2.3	0.8	5.2	サヌカイト	
1177	1	- 23	合倉層(2/2)	打製石鏡	5.1	4.2	0.8	25.2	サヌカイト	
1178	581	I - 23	合倉層(2/2)	打製石磨丁	6.0	1.4	0.4	4.3	石英片岩	
1179	581	I - 23	合倉層(2/2)	摩耗石磨丁未製品	7.0	6.3	0.8	53.6	安山岩	
1183	581	I - 26	合倉層	打製スクレイパー	2.1	1.7	0.5	1.7	サヌカイト	
1184	581	I - 26	合倉層	打製スクレイパー	6.3	4.7	0.8	28.6	サヌカイト	
1185	581	I - 26	合倉層	打製石鏡	3.4	5.0	0.5	10.3	サヌカイト	平基式

報文番号	出版番号	地区名	報告遺構番号	種類	樹種	木取り	全長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	備考
4	19	I-26	SKK05	加工木	コナラ属クヌギ筋	34.2	4.9	2.8		
5	19	I-26	SKK05	なすび型施術又称 柱目	コナラ属アカガシ亞属	38.2	3.7	1.0		
279	29	I-27	SKK11	板状不製品 ツガ		23.2	8.1	0.6		表面に浅い擦痕が多く残る

報文番号	出版番号	地区名	報告遺構番号	種類	材質	直徑(cm)	孔径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
1174	58	I-23	包含層	水素透質	鋼鉄	2.5	0.6	0.1	2.8	

# **写 真 図 版**



遺跡より北を臨む



遺跡より西を臨む



I-23 航測写真（上が北）

図版2



I -25・27 航測写真（左が北）

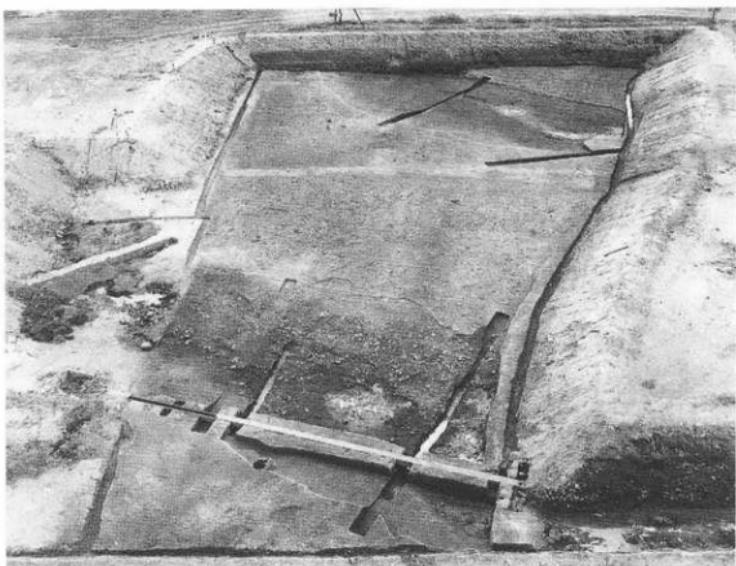


I-26 航測写真（上が北）

図版4



I-28 航測写真（上が北）



I-23 全景（北から）



I-25 全景（北から）

図版6



I-26 北部全景（東から）



I-26 南部全景（南から）



I-27 全景（西から）



I-28 全景（東から）

図版8



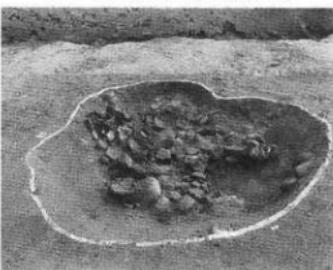
I -26 SKk04遺物出土状況（西から）



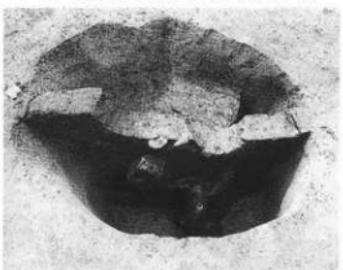
I -23 SKk01土層断面（西から）



I -26 SKk05遺物出土状況（北東から）



I -23 SKk01遺物出土状況（西から）



I -28 SKk06土層断面（北西から）



I -23 SKk02土層断面（西から）



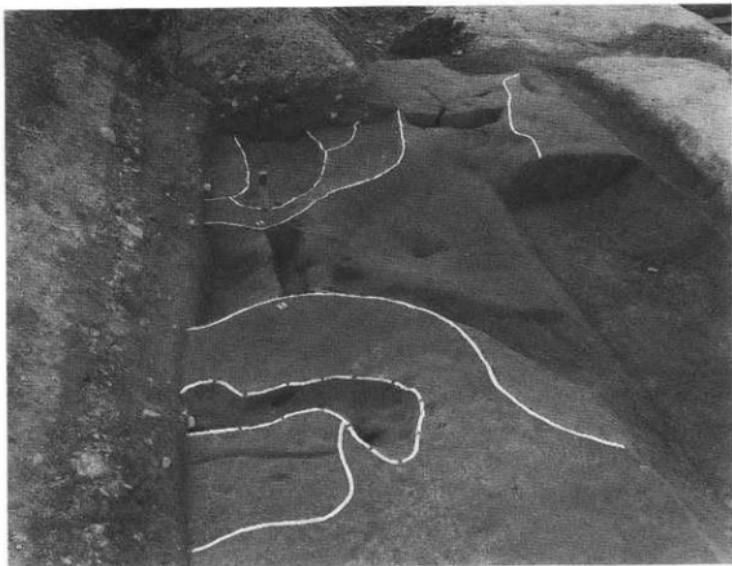
I -28 SKk06遺物出土状況（北西から）



I -23 SDk04遺物出土状況（北から）



I -23 SDk03遺物出土状況（東から）



I -23 SDk03完掘（東から）